

賁(ひ・津田)	→ 賁(かざる・津田、儒者)	L 1 5 6 8
賁(ひ・渡部)	→ 琴溪(きんけい・渡部/渡辺、藩士/儒者)	Q 1 6 8 3
賁(ひ・竹内)	→ 東白(とうはく・竹内たけうち、蘭医/兵学)	G 3 1 9 2
斐(ひ・土田/平山)	→ 斐(たすけ・平山/土田、藩士/地誌)	P 2 6 0 4
斐(ひ/たすく・宇和屋/遠近)	→ 鶴鳴(かくめい・遠近とおちか、商家/儒者)	K 1 5 4 9
斐(ひ・江口/高楊)	→ 浦里(ほり・高楊たかやなぎ/江口、儒者/詩)	E 3 9 8 0
斐(ひ・若山)	→ 滋古(しげふる・若山わかやま、国学/歌人)	a 2 1 1 2
斐(ひ/あやる・神代/熊代)	→ 繡江(しゅうこう・熊代/神代くましろ、通事/絵師)	H 2 1 3 6
斐(ひ・木村/小泉)	→ 檀山(だんざん・小泉/木村、神職/儒/画)	I 2 6 7 9
斐(ひ・本城)	→ 素堂(そどう・本城、藩士/勤王派/処刑)	K 2 5 2 6
斐(ひ・武田)	→ 成章(しげあや・武田たけだ、幕臣/兵学者)	Q 2 1 5 7
斐(ひ・大島)	→ 斐(あきら・大島おおしま、武士/歌人)	H 1 0 2 4
飛(ひ・植木)	→ 玉厓(ぎょくがい・植木うえき、幕臣/詩/狂詩)	C 1 6 9 8
飛(ひ・山田)	→ 三川(さんせん・山田やまだ、儒者/詩人)	G 2 0 1 7
毘(ひ・佐治)	→ 竹暉(ちくき・佐治さじ、儒者/彰考館総裁)	C 2 8 8 1
費(ひ・羽栗/吉雄)	→ 南臯(なんこう・吉雄よしお、蘭学、蘭方医)	I 3 2 9 6
美(び・武田/龍)	→ 公美(きんえ・龍たつりゅう、儒者/詩人)	E 1 6 8 7
斐彝(ひい・古川/工藤)	→ 他山(たざん・工藤/古川、藩士/儒者)	E 2 6 6 0
美意(びい・村田)	→ 延年(のぶとし・村田むらた、藩士/国学/歌)	K 3 5 1 5
匪夷閣主人(ひいかくしゅじん)	→ 崑崙(こんろん・山井やまのい/大神、儒者)	G 1 9 9 1

C3775 秀(ひいず・青江あおえ、幼名;慎、安治郎男)1834-9057 阿波の和漢学者/1853徳島藩士、
維新後新政府官吏;紙幣発行・海軍雑誌編集参画、「中古外交史」「駆退志稿」「薩摩煙草録」著

美一(びいち・季羽)	→ 美一(よしかず・季羽、藩士/国学)	K 4 7 4 5
比々羅木園(ひらぎえん)	→ 訓昶(のりひさ・西尾にしお、藩士、国学者)	J 3 5 4 8
柘の舎(ひらぎのや)	→ 重与(しげとも・原はら/井原、国学/歌)	O 2 1 4 7
榎陰(ひいん・賀屋)	→ 澹園(たんえん・賀屋かや、藩士/医者)	T 2 6 1 9
美蔭(びいん・荒木)	→ 美蔭(よしかげ・荒木あらかき、神職/歌)	C 4 7 4 5
美蔭(びいん・園)	→ 美蔭(よしかげ・園その、歌人)	N 4 7 6 3
美蔭(びいん・高谷)	→ 美蔭(よしかげ・高谷たかたに/奥野、代官/儒/歌)	N 4 7 7 0
美允(びいん・赤塚)	→ 美允(よしまさ・赤塚あかつか、和学)	L 4 7 1 1
微雨窓(びうそう)	→ 山海(さんかい・稲村いなむら、俳人)	L 2 0 9 0
尾雨亭(びうてい)	→ 果然(かぜん、俳人)	C 1 5 2 7
微雨舎(びうのや)	→ 夜来(やらい・林はやし、俳人)	E 4 5 3 6
微雨楼(びうろう)	→ 百池((ひやくち・寺村、商家/俳人)	E 3 7 6 6

3700 披雲(ひうん・別号;画瓢坊/俗仙庵)?-1800 江中期筑前博多の俳人:太宰府付近に住、
美濃派無耳庵連、俗仙庵を営む、1789「梅の朝日」91「名所大概」編、
1799「太宰府略記并参詣道案内」著、一周忌追善集「松の霜」

披雲房(ひうんぼう)	→ 頼尊(らいそん;法諱・披雲房、天台僧)	4 8 7 9
美英(びえい・西田)	→ 美英(よしひで・西田にしだ、郷土史家/俳)	G 4 7 3 8
美英(びえい・新村)	→ 美英(よしひで・新村にいむら、医者/歌人)	O 4 7 3 1
美影(びえい・小林)	→ 美影(よしかげ・小林こばやし、国学者)	M 4 7 7 8
弥益(びえき・宮道)	→ 弥益(いやす・宮道みやじ、廷臣)	I 1 1 9 5
稗田阿礼(ひいだのあれ)	→ 阿礼(あれ・稗田、旧辞口承者)	G 1 0 3 7
稗田の真人(ひいだのまひと)	→ 詮海(せんかい;法諱、融通念仏僧)	I 2 4 7 0
稗田の和上(ひいだのわじょう)	→ 詮海(せんかい;法諱、融通念仏僧)	I 2 4 7 0
日吉廻翁(日枝の屋ひえのや)	→ 照信(てるのぶ;法諱・天台僧/狂歌)	C 3 0 8 4

- 檜園(ひえん) → 玉江(ぎよくこう・行徳ぎょうとく、絵師/篆刻) O 1 6 9 2
 榎園(ひえん/かやぞの) → 武香(たけか・根岸ねざし、国学者) O 2 6 3 0
 披園(ひえん/すぎぞの) → 守貞(もりさだ・真野まの、商家/詩人) L 4 4 2 8
 美篤舎(びえんしゃ) → 豊綱(とよつな・碓田うすだ、名主/歌人) U 3 1 3 4
 檜園詩老(ひえんしろう:諡) → 子琴(しきん・葛かつ/橋本/葛城、医/詩) B 2 1 6 9
 未央(びおう) → 未央(びよう、俳人) F 3 7 0 0
 備翁白水(びおうはくすい) → 定安(さだやす・布施ふせ、藩士/文筆家) K 2 0 0 3
 美屋(びおく・伊達) → 恒子(つねこ・伊達だて/山本、藩主側室) F 2 9 9 4
 3740 飛霞(ひか・賀来かく、名;睦之/弘之、有軒男) 1816-9479 豊前宇佐郡佐田村の医者;帆足万里門、
 本草学:十市石谷門/京の山本亡羊門、本草の三大家の1、島原藩医/維新後小石川植物園勤務、
 「高千穂採薬記」/1840「油布嶽採薬記」43「島原採薬記」45「日州採薬記」51「救荒本草略説」著、
 [飛霞(;号)の字/通称/別号]字;季和すえかず、通称;睦三郎、別号;百花山荘、法号;得生院
 檜垣(ひがき・歌人) → 檜垣の姫(ひがきのおうな)
 3741 檜垣の姫(ひがきのおうな) ? - ? 平安前期筑紫(九州)の白河(肥後)に住む伝説的の歌人、
 檜垣のある家にすむ巫女説あり?/風流美貌で都の人々にも知られていた:
 しかし常に老女として911-15頃藤原興範/小野好古/元輔に嘆老す(後撰/大和/袋草紙)、
 美女落魄説話として伝わっていた(袋草紙;肥後国遊君檜垣姫老後落魄者也)、
 家集「檜垣姫集」、後撰1219、
 [年ふれば我が黒髪も白河の水は汲むまで老いにける哉](後撰;1219、
 大式藤原興範(844-917/902大式)が飲水を求め出て詠/水は汲むに瑞齒みづはぐむを掛る)
 檜垣の御(ひがきのご) → 檜垣の姫(ひがきのおうな・歌人) 3 7 4 1
 檜垣大長官(ひがきのだいちょうかん) → 常良(つねよし・檜垣/度会、神職/歌人) E 2 9 2 0
 3742 備角(びかく) ? - ? 備前岡山の俳人:不角門、
 1703(元禄16)紀行俳文「蠅袋はえぶくろ」著;不角と江戸から上京時に紀行;伝説等も詳記、
 岡山藩主綱政と同一か? → 綱政(つなまさ・池田[1638-1714]、歌人) B 2 9 3 0
 3743 美角(びかく・岱月たげつ楼/岱月庵、姓;西村にしむら、定雅の兄)?-1779 京の縫針問屋みす屋主人、
 俳人:定雅と共に天明調俳諧、樗良を援助、1774「ゑほし桶」編;序(;暁台らと歌仙)、
 1779樗良と歌仙、76几董「続明鳥」道立「写経社集」樗良「月の夜」入/77江涯「仮日記」15句入、
 一周忌追善集「はなこのみ」(;定雅編)、
 [このごろは紅葉のための流れ哉](ゑほし桶;高尾山吟行)
 [すゝきより萩より弱し秋の風](誹諧月の夜;秋31)
 3744 日影土竜(ひかげのもぐら・榊原丈右衛門)?-? 江戸大久保住、狂歌、1785「後万載」87「才蔵集」入
 [今日はけふ明日はあすかの山近きその日暮しに遊ぶこそよき](後万載集;760)、
 (詞書;日暮らしの里にて/江戸の飛鳥山は日暮里の西北にある)
 飛花山人(ひかさんじん) → 文母(ぶんぼ・小林こばやし、俳人) G 3 8 4 2
 東三条院(ひがし/とうさんじょういん) → 詮子(せんし・東三条院、歌人) F 2 4 6 1
 東三条殿(ひがし/とうさんじょうどの) → 兼家(かねいえ・藤原) 1 5 5 9
 東三条左大臣(ひがし/とうさんじょうのさだいじん/-ひだりのおほいまちぎみ) → 常(ときわ・源、詩人) K 3 1 3 5
 東七条院(ひがし/とうしちじょういん) → 温子(おんし・藤原、宇多中宮/歌) B 1 4 2 5
 東七条后(ひがし/とうしちじょうのきさい) → 温子(おんし・藤原、宇多中宮/歌) B 1 4 2 5
 東二条院(ひがしにじょういん) → 公子(こうし・東二条院、後深草天皇皇后) J 1 9 4 0
 東二条院半物河浪(ひがしにじょういんのはしたものかわなみ) → 河浪(川浪かわなみ、琵琶/歌人) G 1 5 9 0
 東二条院兵衛佐(ひがしにじょういんのひょうえのすけ) → 兵衛佐(ひょうえのすけ・東二条院/女房歌人)
 東市正(ひがしのいちのかみ・小槻) → 秀芳(ひでよし・小槻おつき、官人/衣紋術) I 3 7 6 9
 東御方(ひがしのおんかた) → 西華門院(せいかもんいん、後二条天皇母) H 2 4 8 1
 H3786 東菊麿(ひがしのきくまる) ? - ? 江戸の狂歌;1785「徳和歌後万載集」入(1首);
 [四方; 煩惱はみなみのあだと北面ほくめんをすてゝあづまの富士見西行](後万載;793)
 東山隠士(ひがしやまいんし) → 円雅(えんが、歌僧) 1 3 9 1
 東山覚晏(ひがしやまかくあん) → 覚晏(かくあん、天台/臨濟僧) J 1 5 4 1
 東山左府(ひがしやまさふ) → 実熙(さねひろ・洞院とういん/藤原、廷臣/故実) D 2 0 5 5

- 東山進士(ひがしやましんし) → 関雄(せきお・藤原ふじわら、廷臣/詩歌人) 2 4 1 6
 東山殿(ひがしやまどの) → 義政(よしまさ・足利/源、8代将軍/東山文化) G 4 7 9 7
- 3745 **東山天皇**(ひがしやまてんのう、幼称;五宮/名;朝仁ともひと、靈元天皇皇子) 1675-1709 母;敬法門院宗子、
 1682儲君;親王宣下/83立太子/在位22年;1687-1709、朝廷幕府間の融和が進行、
 歌:「享保千首」「古今集句題和歌」「東山天皇御詠草」著、御会和歌多数;公宴御会和歌など
 飛花窓(ひかせう) → 文母(ぶんぼ・小林こばやし、俳人) G 3 8 4 2
 被褐翁(ひかつおう) → 懐(かい・豊浦とよら、漢学/老子研究) I 1 5 3 1
- 3702 **氷上大刀自**(ひがみのおおとし:氷上娘子ひがみのおとめ、藤原夫人、藤原鎌足女)?-682 天武天皇夫人、
 五百重娘の姉(共に藤原夫人ふじわらのぶにん)、不比等の妹/但馬皇女の母、
 万葉集二期歌人;廿4479(:大原今城の伝誦歌)
 [朝夕あさよひに音ねのみし泣けば焼き太刀の利心とどころも我あはれは思ひかねつも](万葉;4479)
 (焼き太刀の利心;何度も火入れして鍛えた太刀のように鋭く研ぎすました心)
- 3746 **兼光**(ひかり・齋藤さいとう) 1811-1893 幕臣;江戸四谷に住/父を継嗣;15俵1人扶持/1828幕府賄方、
 本草家:栗本丹州門/小石川百白園(のち一白園/白花植物収集)を経営栽培/各地に採集、
 維新後は静岡へ移住;1878掛川農学社設立に尽力/上京し小石川で植物栽培を続行、
 「一白花譜」「一白圃艸木画譜」「一白圃躑躅譜」「皂莢之縁起」著、
 歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [旅衣わけ行く袖に霜さえて明がたさむし木曾の山道](大江戸倭歌;冬1353/雑1828)
- 3701 **光**(ひかる・頭つむりの/つぶりの、姓;岸さし、名;誠之) 1727-96 江戸日本橋亀井町の町代;家主、
 画;文調門、狂歌;南畝門、四天王の1、雅望(飯盛)らと伯楽連結成、
 「狂歌才蔵集」共編、「桑楊茶話」「狂歌浅草集」「狂歌桑の弓」著、徳和歌後万載集入、
 「ほととぎす自由自在にきく里は酒屋へ三里豆腐やへ二里」
 [頭光(;号)の通称/別号]通称;宇右衛門、画号:一筆斎文笑、別号;2世巴人亭/桑楊庵
- 3747 **光**(ひかる・有雅亭ゆうがてい) ? - ? 名古屋の洒落本作者、
 1800大野屋惣八編「軽世界けいせいかい四十八手」の「切れる手、端出な手」著
 芟(ひかる・長) → 三洲(さんしゅう・長ちよう/長谷、儒者/尊攘) F 2 0 8 6
 黜(ひかる・林) → 櫻宇(ていう・林はやし、幕府儒官) 3 0 3 1
- 3748 **備寛**(びかん・高田たかた) ? - ? 江中期佐渡奉行広間役、
 1756佐渡奉行石谷清昌の命で「佐渡四民風俗」編、
 [備寛(;名)の通称] 久左衛門/廬作
 悲喜笑道人(ひきしょうどうじん) → 弦雄(つるお・木村きむら、藩士/国学者) F 2 9 6 0
 貳牛山人(ひきぎゅうさんじん) → 仰誓(ごうせい;法諱、真宗本願寺派僧) B 1 9 5 2
 眉丘子(びきゅうし) → 艶士(えんし・横田、壺谷軒、医者/俳人) C 1 3 2 3
 美喬(びきょう・人見) → 璣岳(ききょう・人見ひとみ、藩士/随筆/歌) G 1 6 3 0
 美郷(びきょう・柳田) → 美郷(よしさと・柳田やなぎだ、歌人) D 4 7 4 6
 美教(びきょう・鳥谷) → 美教(よしのり・鳥谷からすや、神職/歌人) M 4 7 3 1
 美堯(びぎょう・内田) → 美堯(よししたか・内田うちだ、歌人) L 4 7 7 5
 斐恭先生(ひきぎょうせんせい) → 蘆汀(ろてい・伊藤/川越、藩儒者) C 5 2 1 7
 非虚陳人(ひきよちんじん) → 亀文(きぶん・大河原、商家/和漢学/戯作) G 1 6 2 1
 匹竜(ひきりゅう・藤重) → 匹竜(ひつりゅう・藤重ふじしげ、文筆家) C 3 7 7 4
- H3795 **引割御膳**(ひきわりごぜん) ? - ? 江戸狂歌;1785「徳和歌後万載集」入(1首)、
 [ふき自在ならぬ女子の身の上に男みやうがのあらせ給へや](後万載;十660)、
 (富貴自在徳ありて冥加あらせ給へやの歌詞/露と茗荷を入れる洒落)
 披襟舎(ひきんしゃ) → 五明(ごめい・吉川/那波、俳人) D 1 9 9 3
 美矩(びく・小林) → 美影(よしかげ・小林こばやし、国学者) M 4 7 7 8
 樋口関月(ひぐちかんげつ) → 関月(かんげつ・樋口、狂歌) G 1 5 2 4
 樋口大納言(ひぐちのだいなごん) → 定能(さだよし・藤原、廷臣/神楽) C 2 0 6 4
 罷(ひぐま・河野) → 鉄兜(てつとう・河野、医/儒/詩歌) C 3 0 5 7
- 3749 **比隈満**(ひくまろ・杉浦さぎうら、松平源七郎男) 1813-65 三河宝飯郡の生、
 遠江浜松諏訪神社大祝の杉浦菅満すがるの養嗣子、葛満(かつらまろ/菅満男)を継嗣;

遠州浜松諏訪神社の神職大祝を継承、国学；平田篤胤門、1840「古学始祖年譜」著、養子；甘露寺大学(尊攘運動家)、

[比隈満(；名)の別名/通称/号]別名；親敦(；初名)/信平/義孝/義音、

通称；大炊介おおいのすけ/壱岐守いきのかみ/甲斐守/大学(代々の称)、号；常盤舎

比隈満(ひくまろ・杉浦) → 菅満(すがまろ・杉浦すざうら、国満男/神職) L 2 3 0 9

日暮小太夫(ひぐらしこたゆう) → 小太夫(こたゆう・日暮ひぐらし、歌念仏；説経節) F 1 9 7 7

3750 非群(ひぐん・松本まつもと) 1661- 1734 74 江前中期伊賀上野の商人/俳人；芭蕉門、

1691「猿蓑」入、浪化「有磯海」入/1695支考「笈日記」98「続猿蓑」2句入、

[鶴鶴や走り失せたる白川原しらがはら](続猿蓑；卷下/白川原は洪水のため押流された場所)、

[非群(；号)の通称/別号]通称；長右衛門、初号；氷固ひょうこ

尾卦(びげ・陽泉主人) → 陽泉主人(ようせんしゅじん、実録作者) B 4 7 4 0

飛卿(ひけい・佐藤) → 栢堂(はくどう・佐藤、儒者/詩人) D 3 6 7 4

飛卿(ひけい・油井) → 牧山(ぼくざん・油井ゆい、藩儒/詩人) D 3 9 2 8

飛卿(ひけい・原) → 狂斎(きやうさい・原はら、儒/折衷学) C 1 6 4 9

飛卿(ひけい・志筑) → 忠雄(ただお・志筑しづき/中野、蘭学者) E 2 6 8 5

美卿(びけい・富田) → 鷗波(おうは・富田とみた、儒者) C 1 4 6 2

美卿(びけい・唐橋) → 君山(くんざん・唐橋からはし、儒医/狂詩) B 1 7 2 3

美卿(びけい・溝口) → 幽軒(ゆうけん・溝口みぞぐち、藩士/儒/詩歌) B 4 6 4 4

美卿(びけい・成田) → 秋佩(しゅうはい・成田なりた、藩士/儒者) I 2 1 2 1

美景(びけい・島崎) → 春景(はるかげ・島崎しまさき、国学/歌人) K 3 6 2 5

美敬(びけい・佐伯) → 美敬(よしとか・佐伯ささき、神職/歌人) M 4 7 9 4

美啓(びけい・山口) → 厚菴(こうあん・山口やまぐち、儒者/医/歌) H 1 9 2 4

美啓(びけい・梅沢/柴野) → 美啓(よしひろ・柴野しばの/梅沢、地誌/和算) G 4 7 6 7

美啓(びけい・上柳) → 四明(しめい・上柳うわやなぎ/柳、儒者/詩) F 2 1 8 1

美啓(びけい・矢富) → 美啓(よしひろ・矢富やとみ、庄屋/歌人) P 4 7 7 3

眉卿(ひけい・祝しゆく/岩井) → 玉洲(ぎょくしゅう・岩井、商家/儒者) P 1 6 0 6

飛桂院(ひけいいん) → 喜鶴(きかく・原はら、将棋士) J 1 6 8 1

備溪斎(びけいさい；号) → 等楊(とうよう・雪舟、臨濟僧/水墨画) H 3 1 7 1

美景舎(びけいしゃ) → 正樹(まさき・政樹まさき・浅島あさじま/源、藩士/国学) N 4 0 1 2

髭和尚(ひげおしょう) → 有文(ありふみ・千種ちぐさ/源、廷臣/歌) F 1 0 7 8

飛月亭(ひげつてい) → 正令(まさのり・戸沢、藩主/歌人) G 4 0 2 4

鬚玄蔵(ひげのげんぞう) → 命朝(のぶとし・金子かねこ、薬商/歌人) B 3 5 1 2

丕頭(ひげん・永島) → 安竜(あんりゅう・永島、医者/引水工事) D 1 0 1 6

備彦(びげん・松木) → 備彦(ともひこ・松木、神官/連歌) Q 3 1 3 2

備源(びげん・小島) → 保成(やすなり・小島こじま、藩士/国学者) F 4 5 8 8

眉元(びげん・長橋) → 栞園道間戸(かえんみちまど、長橋、狂歌) P 1 5 9 8

美彦(びげん・よしひこ?・笹山) → 東明(とうめい・度会わたらい、藩絵師) T 3 1 4 4

美彦(びげん・佐々木) → 美彦(うま彦うまひこ・佐々木ささき、神職) E 1 2 7 1

避喧叟(ひげんそう) → 玄斎(げんさい・池田いけだ、藩士/歌人) J 1 8 0 5

3751 肥後(ひご・京極前関白家きょうごくのさきのかんぱくけ、藤原定成女)?1041前-? 1116存(76歳) 肥後守実宗の妻、

藤原師実(京極前関白)家に出仕(30余年)・前斎院二条太皇太后宮令子内親王家女房、

歌人、1102堀河院艶書合/05堀河百首/16永久百首(常陸名)等に入、家集「肥後集」、

寂超「後集集」・清輔[続詞花集]・雲葉集入、郁芳門院大進と姉妹、

勅撰50首；金葉(8首4/189/227以下/Ⅲ4首/解1首)詞花(47/373)千(8首)新古(6首)以下、

[京極前関白家肥後(；女房名)の別称]殿肥後とのひご/前斎院さきのさいいんの肥後/皇后宮肥後/

太皇太后宮たいこうたいごうぐうの肥後/二条太皇太后宮肥後/常陸

[つらゝみし細谷川のとけゆくは水上みなかみよりや春は立つらん](金葉集；春4)

父 → 定成(さだなり・藤原、廷臣/肥前守/歌) C 2 0 2 2

H3776 肥後(ひご、源時綱女) ? - ? 平安期女房歌人；「二条太皇太后宮大式集」入、

[しるべする人にもあはで敷島の古き道にはまどひこそすれ](大式集/大式への反歌)

肥後(ひご・中院) → 中院肥後(なかのいんのひご、童/歌人) P 3 2 5 4
 肥後(ひご・荒木田) → 久守(ひさもり・荒木田、神職/国学) C 3 7 0 7
 肥後(ひご・井上) → 頼圀(よりくに・井上、国学者/歌人) I 4 7 6 0
 肥後(ひご・福島) → 末済(すえなり・福島/度会、神職/漢学) F 2 3 5 4
 彦一(ひこいち・桜井) → 英輔(ひですけ・桜井さくらい、国学/歌人) J 3 7 7 4
 彦一(ひこいち・葛城) → 経成(つねなり・竹内たけうち/葛城/日野、藩士/勤王) F 2 9 9 7
 彦市(ひこいち・井上) → 鴨脚(おうきやく・井上のうえ、儒者/紀行) C 1 4 3 5
 彦市(ひこいち・竹内) → 元之(もとゆき・竹内たけうち、商家/国学) I 4 4 7 6
 彦市(ひこいち・竹内) → 直道(なおみち・竹内、元之男/国学者) N 3 2 7 6
 彦市(彦一ひこいち・中野) → 清溪(せいけい・中野なかの、藩士/漢学者) H 2 4 9 6
 彦一郎(ひこいちろう/げんいちろう・鶴嶺) → 戊申(しげのぶ・鶴嶺つるみね、国学/歌) C 2 1 7
 彦一郎(ひこいちろう/げんいちろう・萩野) → 信童(しんりゅう・萩野/平/孔平、藩士/儒者) Q 2 2 0 8
 彦一郎(ひこいちろう/げんいちろう・出口) → 利純(としずみ・出口でぐち/吉田、歌人) M 3 1 6 4
 彦一郎(ひこいちろう/げんいちろう・松原) → 佐久(すけひさ・松原まつばら/佐藤、家老/故実) P 2 3 4 3
 美行(びこう・青木) → 峯行(みねゆき・青木あおき、藩医/国学) H 4 1 9 9
 美孝(びこう・小倉) → 美孝(よしたか・小倉おぐら/望月、藩士/国学) L 4 7 8 2
 美香(びこう・林) → 美香(よしか・林はやし/栗田、神職/国学) O 4 7 6 2
 美香(びこう・押上) → 美香(よしか・押上おしあげ、役人/国学者) M 4 7 0 9
 美香(びこう・村瀬) → 美香(よしか・村瀬むらせ、藩士/詩歌/篆刻/陶芸) P 4 7 5 4
 美綱(びこう→よしのな・佐々木) → 春夫(はるお・佐々木、商人/国学) G 3 6 0 5
 眉公(びこう・祝しゆく/岩井) → 玉洲(ぎよくしゅう・岩井、商家/儒者) P 1 6 0 6
 備晃院(びこういん) → 備子(ともこ・伊達だて/鷹司、藩主正室/歌) V 3 1 6 0

3752 彦右衛門(ひこえもん・下村しもむら、名;正啓、法号;永昌院、兼誠男) 1688-1748⁶¹ 呉服業大丸屋の初代、
 1717伏見京町に古手・呉服卸売を開業/26大阪心齋橋筋に呉服店開業/名古屋店を開業、
 京に本店を築き店舗網拡大;1738江戸日本橋開店、「遺訓諸録」著、
 先祖は武士;大坂陣後商人

彦右衛門(ひこえもん・鳥居) → 元忠(もとただ・鳥居とりい、武将) 4 4 1 4
 彦右衛門(ひこえもん・天王寺屋) → 宗久(そうきゅう・今井、堺納屋衆/茶人) B 2 5 0 1
 彦右衛門(ひこえもん・恩田) → 直高(なおたか・恩田おんだ、藩士) B 3 2 4 8
 彦右衛門(ひこえもん・恩田) → 周直(ちかなお・恩田、直高男/藩士/記録) B 2 8 3 7
 彦右衛門(ひこえもん・山田) → 正重(まさしげ・山田やまだ、和算家) C 4 0 7 3
 彦右衛門(ひこえもん・石山) → 正盈(まさみつ・石山、藩士/和算家) H 4 0 6 8
 彦右衛門(ひこえもん・三木) → 通資(みちもと・三木みき、郷土史家) C 4 1 6 7
 彦右衛門(ひこえもん・斎藤) → 貞宜(さだよし・斎藤、藩士/故実) K 2 0 3 1
 彦右衛門(ひこえもん・連むらじ) → 巴扇堂(2世はせんだう、筆常持、狂歌師) E 3 6 7 5
 彦右衛門(ひこえもん・森) → 東郭(とうかく・森もり、儒者/宋学) C 3 1 1 2
 彦右衛門(ひこえもん・綿屋) → 希因(きいん・大越/和田、酒造業/俳人) 1 6 7 6
 彦右衛門(ひこえもん・茨木) → 素因(そいん・茨木いばらき、藩士/俳人) F 2 5 8 3
 彦右衛門(ひこえもん・佐藤) → 吟山(ぎんざん・佐藤さとう、郷土/俳人) E 1 6 0 7
 彦右衛門(ひこえもん・石川) → 清純(きよずみ・石川いしかわ、歌人) P 1 6 7 2
 彦右衛門(ひこえもん・尾形) → 洞簫(どうしょう・尾形おがた、儒者) F 3 1 4 8
 彦右衛門(ひこえもん・今井) → 墨芳(ぼくほう・羽田、俳人) D 3 9 9 0
 彦右衛門(ひこえもん・北沢) → 久興(ひさおき・北沢きたざわ/喜多沢、幕臣/歌人) J 3 7 2 8
 彦右衛門(ひこえもん・真勢) → 中洲(ちゅうしゅう・真勢/真瀬ませ、易占家) G 2 8 2 0
 彦右衛門(ひこえもん・中沢) → 常春(つねはる・中沢なかざわ、歌人) G 2 9 0 8
 彦右衛門(ひこえもん・中西) → 政恭(まさゆき・中西なかにし、国学者) R 4 0 1 5
 彦右衛門(ひこえもん・中村) → 広秋(ひろあき・中村なかむら、藩士/歌人) K 3 7 3 7
 彦右衛門(ひこえもん・川瀬屋) → 知十(ちじゅう・川瀬/河瀬、商家/俳人) E 2 8 3 4
 彦右衛門(ひこえもん・下泉屋) → 次章(つぎあき・黒田くろだ、庄屋/国学/歌) F 2 9 6 5
 彦右衛門(ひこえもん・福沢) → 孝治(たかはる・福沢ふくざわ、国学者/歌) Z 2 6 2 9

- 彦右衛門(ひこえもん・小柳津)→ 忠民(ただみ・小柳津おやなづ/朝倉、養蚕研究)W 2 6 0 3
彦右衛門(ひこえもん・瀬見)→ 善隣(よしちか・瀬見せみ、国学) N 4 7 5 3
彦右衛門(ひこえもん・水間)→ 大洲(おおくに・水間みづま、国学/歌) E 1 4 1 6
肥後右衛門(ひこえもん・富岡)→ 光賢(こうけん・富岡、藩士/砲術家) I 1 9 5 8
彦雄(ひこお・日置) → 風水(ふうすい・日置へき/島、神職/俳人) 3 8 8 4
彦吉(ひこきち・西井) → 出諏訪耳彦(でずわみみひこ、狂歌作者) C 3 0 1 1
彦吉(ひこきち・井本) → 免孔(めんこう・井本いもと、藩士/俳人) 4 3 0 4
彦吉(ひこきち・佐藤) → 蕉廬(しょうろ・佐藤、幕吏/国学/詩歌) M 2 2 0 7
- 3753 彦公(ひこきみ・錦部にしごり/高橋朝臣、錦部美造男)?-? 828存 平安前期廷臣;備前掾/正六上、
嵯峨上皇に五経を侍読、828高橋朝臣に改姓、詩人;本朝文粹/経国集格1首入、
高橋文屋麻呂の父
- 3754 尾谷(初世びく・千足ちあし) 1678-174871 江戸三河町の俳人;盤谷・のち沾州門、寥和と親交、
1741「園圃録」51「誹諧飛鳥山」、「松のすかた」編、1726貞佐「代々蚕よかこ」入、
追善集「冬至梅」(栖鶴編)、
[海原をいづち行ゆくらん秋の蝶](園圃録)、
[初世尾谷(;号)の別号] 雪香斎/北蓮塘/梅堂/双蓮/盤谷2世
- 3755 尾谷(2世びく、2世北蓮塘)?- ? 江中期江戸の俳人;初世門、1761尾谷号を継承、
1761「歌濃父うたのちち」著
- 美国(びく・北尾) → 美国(よしくに・北尾きたお、絵師) D 4 7 2 4
美国(びく・中津) → 美国(よしくに・中津なかつ、歌人/神職) O 4 7 1 9
美国画史(びくがし) → 九華(きゅうか・池田いけだ、医者/絵師) M 1 6 3 6
- M3737 彦九郎(ひこくろう・渡辺わたなべ/本姓;源、) 1804-7471 周防岩国の生/豊後岡藩士渡辺氏の養子、
岡藩士/藩儒;古田重剛じゅうごう門、小河おごう一敏らと勤王の志士、
[彦九郎(;名)の通称/号]通称;彦左衛門、号;神民/赤膚せきぶ
- 彦九郎(ひこくろう・高山) → 正之(まさゆき・高山、勤王/寛政3奇人) I 4 0 2 7
彦九郎(ひこくろう・深田) → 九阜(きゅうこう・深田ふかだ、藩士/儒者) I 1 6 7 2
彦九郎(ひこくろう・畠山/新納) → 久仰(ひさのり・新納にいり、藩家老) B 3 7 7 7
彦九郎(ひこくろう・武田/跡部) → 正生(まさなり・武田耕雲斎、藩士/天狗党) 4 0 1 6
- 3756 彦五郎(ひこくろう・太田屋おたや)?- ? 幕末期越中伏木の船問屋/肝煎、ロシア・イギリス船応対、
1858「伏木浦異船渡来一件」著
- 彦五郎(ひこくろう・今川) → 氏親(うじちか・今川、武将/歌人/連歌) 1 2 3 7
彦五郎(ひこくろう・小笠原) → 貞宗(さだむね・小笠原、武将/武芸) J 2 0 8 4
彦五郎(ひこくろう・齋藤) → 基名(もとな・齋藤/藤原、武家/歌人) D 4 4 3 9
彦五郎(ひこくろう・戸枝) → 惟一(これかず・桃沢もさわ/戸枝、藩士) R 1 9 4 1
彦五郎(ひこくろう・岡崎) → 鶴亭(こくてい・岡崎おかざき、儒者/詩文) F 1 9 5 7
彦五郎(ひこくろう・真鍋) → 祐雄(ゆうゆう;名・真鍋まなべ、藩士) D 4 6 9 1
彦五郎(ひこくろう・壺井) → 長泰(ながやす・壺井つばい、幕臣/国学) N 3 2 9 1
彦五郎(ひこくろう・加藤) → 良斎(こんさい/ごん・加藤/伊丹、里正/儒) G 1 9 1 4
彦五郎(ひこくろう・中村) → 浩然斎(こうぜんか・中村、藩士/儒者) K 1 9 2 8
彦五郎(ひこくろう・矢部) → 定令(さだのり・矢部やべ/原田、幕臣/奉行/歌) P 2 0 6 3
彦五郎(ひこくろう・矢部) → 定謙(さだかた・矢部、定令男/幕臣/奉行/歌) P 2 0 6 2
彦五郎(ひこくろう・鈴木) → 秀成(ひでなり・鈴木すずき、歌人) L 3 7 6 4
彦五郎(ひこくろう・加藤) → 敬和(たかかず・加藤かとう、里正/歌人) W 2 6 4 0
彦五郎(ひこくろう・細貝) → 清直(きよなお・細貝ほそがい、国学/藩学校) V 1 6 1 5
彦三(ひこざ・岩瀬/小野) → 清春(きよはる・菱川、役者/絵師) Q 1 6 1 7
彦三(ひこざ・不破) → 為貞(ためさだ・不破ふわ、藩士) T 2 6 7 7
彦三(ひこざ・不破) → 為章(ためあき/ためあきら・不破ふわ、藩士) T 2 6 7 6
彦佐(ひこざ・後藤) → 夷臣(ひなおみ・後藤ごとう、農家/国学者) E 3 7 2 7
- 3757 彦左衛門(ひこざえもん・佐保山さほやま)?-? 江中期1704-36頃歌舞伎役者/作者、1709嵐座の立役、
1715大坂の岩井半四郎座で「幸持丸長者」を創作;以後作者に転向、世話物が得意、

大坂北の新地芝居・中芝居なども勤める；1717頃まで活動、1715「楠正成軍配図扇」著、
1716「浅間嶽後面影」「撰州佐井寺開帳」/17「和州久米寺開帳」著

3758 彦左衛門 (ひこざえもん・原はら) ?- ? 江前期天明1781-89頃土佐藩士/文筆家、
1788「池川用居非常大要記録」著

- 彦左衛門 (ひこざえもん・大久保) → 忠教(ただたか・大久保、武将/幕臣) F 2 6 2 2
彦左衛門 (ひこざえもん・大久保) → 忠順(ただより・大久保、旗本/歌) U 2 6 2 2
彦左衛門 (ひこざえもん・新国/杉原) → 親清(ちかきよ・杉原、武将/合戦記) 2 8 7 8
彦左衛門 (ひこざえもん・帖佐) → 宗光(むねみつ・帖佐ちよう、武将/日記) C 4 2 5 6
彦左衛門 (ひこざえもん・南部) → 重信(しげのぶ・南部・花輪/七戸、藩主/歌) C 2 1 7 0
彦左衛門 (ひこざえもん・生駒) → 魯斎(ろさい・生駒いこま/岡野、藩家老/詩歌/兵学) B 5 2 5 2
彦左衛門 (ひこざえもん・大和屋) → 宗好(そうこう・窪田、酒造業/俳人) B 2 5 5 0
彦左衛門 (ひこざえもん・天野屋) → 元矩(もとりの・服部/南郭父、歌/連歌) D 4 4 8 0
彦左衛門 (ひこざえもん・富田) → 春郭(しゅんかく・富田とだ、藩士/詩人) M 2 1 6 2
彦左衛門 (ひこざえもん・栗田) → 宜貞(のぶさだ・栗田、幕臣/和算家) B 3 5 5 2
彦左衛門 (ひこざえもん・実川) → 定賢(さだかた・実川さねかわ、和算家) H 2 0 9 9
彦左衛門 (ひこざえもん・入江) → 是清(これかげ・入江いりえ、国学/歌人) Q 1 9 3 5
彦左衛門 (ひこざえもん・酒泉さかいずみ) → 竹軒(ちくけん・酒泉、儒者/国史編纂) C 2 8 9 3
彦左衛門 (ひこざえもん・小池/野崎) → 巴明(はめい・野崎/小池、俳人) F 3 6 6 9
彦左衛門 (ひこざえもん・上倉) → 老梅(ろうばい・上倉かみくら、幕臣/歌人) 5 2 4 4
彦左衛門 (ひこざえもん・竹中) → 和順(かずより・竹中、藩士/文筆家) M 1 5 5 9
彦左衛門 (ひこざえもん・南合) → 蘭室(らんしつ・南合なんごう、藩士/儒者) C 4 8 4 8
彦左衛門 (ひこざえもん・南合) → 果堂(かどう・南合、蘭室男/藩士/儒) H 1 5 5 1
彦左衛門 (ひこざえもん・岡田) → 新川(しんせん、岡田、儒者/詩人) 2 2 4 4
彦左衛門 (ひこざえもん・尾形) → 洞簾(どうしやう・尾形おがた、儒者) F 3 1 4 8
彦左衛門 (ひこざえもん・岡田) → 兼山(けんざん・岡田、儒者/藩家老) J 1 8 2 1
彦左衛門 (ひこざえもん・松本) → 魯堂(ろどう・松本/源、藩儒/城代) C 5 2 2 7
彦左衛門 (ひこざえもん・竹川) → 政壽(まさほぎ・竹川たけがわ、商家/国学) H 4 0 3 1
彦左衛門 (ひこざえもん・山下) → 政彦(まさひこ・山下やました、庄屋/歌) L 4 0 7 7
彦左衛門 (ひこざえもん・喜多村屋) → 恵乗(えじやう・北村、歌/連歌) T 1 3 9 4
彦左衛門 (ひこざえもん・竹川) → 竹斎(ちくさい・竹川、政壽弟/商家/殖産家) D 2 8 0 6
彦左衛門 (ひこざえもん・村上) → 仏山(ぶつざん・村上むらかみ、庄屋/詩人) D 3 8 3 5
彦左衛門 (ひこざえもん・瀬見) → 善水(よしみ・瀬見せみ、大庄屋/歌人) H 4 7 2 8
彦左衛門 (ひこざえもん・得能) → 通古(みちふる・得能とくのう、藩士/教授) C 4 1 4 9
彦左衛門 (ひこざえもん・佐藤) → 泰郷(やすさと・佐藤さとう、国学・歌) F 4 5 5 2
彦左衛門 (ひこざえもん・太田) → 秋満(あきみつ・太田おた、神職/国学) H 1 0 3 1
彦左衛門 (ひこざえもん・黒田) → 清兼(きよかね・黒田くろだ/源、神職/国学) U 1 6 2 6
彦左衛門 (ひこざえもん・清水) → 晴国(はるくに・清水しみず、藩士/歌人) K 3 6 2 6
彦左衛門 (ひこざえもん・渡辺) → 彦九郎(ひこくろう・渡辺わたなべ/源、藩士/儒/勤王) M 3 7 3 7
彦作 (ひこさく・伊能) → 桐雨(とうう・伊能いゆう、俳人) U 3 1 1 2
彦作 (ひこさく・尾崎) → 良暢(よしお・尾崎おさき、神職/国学) L 4 7 8 9

3759 彦三郎 (ひこさぶろう・坂東ばんどう、薪水3世) 1693-1751 歌舞伎役者；

1737「敵討巖流島」武蔵之助役

- 彦三郎 (ひこさぶろう・南部/波木井) → 実長(さねなが・波木井はきい、日円、武将/日蓮僧) L 2 0 1 2
彦三郎 (ひこさぶろう・吉見) → 頼武(よりたけ・吉見よしみ/源、武将/歌人) I 4 7 9 2
彦三郎 (ひこさぶろう・細川) → 頼益(よります・細川ほそかわ/源、武将/歌) J 4 7 7 7
彦三郎 (ひこさぶろう・陸奥) → 久時(ひさとき・北条/赤橋/平、幕臣/歌) B 3 7 4 8
彦三郎 (ひこさぶろう・宗) → 義智(よしとし・宗そう、藩主/対朝鮮貿易) F 4 7 4 6
彦三郎 (ひこさぶろう・小谷/久野) → 鳳湫(ほうしゅう・久野/；藤原/膝、儒者) B 3 9 3 8
彦三郎 (ひこさぶろう・浅野) → 良雄(よしお・浅野あさの、歌人) L 4 7 1 6
彦三郎 (ひこさぶろう・研屋) → 牧童(ぼくどう・立花たちばな、研刀業/俳人) D 3 9 8 0

彦三郎(ひこさぶろう・吉村)→ 光甫(みつとし/みつよし・吉村、国学者/画) E 4 1 0 2
彦三郎(ひこさぶろう・井狩)→ 雪溪(せつげい・井狩いかり、儒者) E 2 4 1 7
彦三郎(ひこさぶろう・山口)→ 高彦(たかひこ・山道やまみち、狂歌) D 2 6 5 2
彦三郎(ひこさぶろう・堀田)→ 燕斎(えんさい・堀田、旗本/川柳作者) B 1 3 7 5
彦三郎(ひこさぶろう・山脇)→ 元貞(もとさだ・山脇、藩士/国学・歌人) C 4 4 4 8
彦三郎(ひこさぶろう・白石)→ 桃花洞(とうかどう・白石、医/道学) C 3 1 2 5
彦三郎(ひこさぶろう・三輪)→ 千秋(ちあき・田所、国学/尊攘家) 2 8 0 0
彦三郎(ひこさぶろう・富永)→ 直政(なおまさ・富永、伝承記録編纂) C 3 2 4 2
彦三郎(ひこさぶろう・中村)→ 文輔(ふみすけ・中村なかむら、藩儒/故実) I 3 8 5 4
彦三郎(ひこさぶろう・本多)→ 助賢(すけとし・本多・藤原/戸田、藩主/歌) G 2 3 6 4
彦三郎(ひこさぶろう・曾我部)→ 則温(のりあつ・曾我部そがべ/安田、庄屋/歌) I 3 5 8 5
彦三郎(ひこさぶろう・近藤)→ 浩斎(こうさい・近藤こんどう、藩士/儒者) I 1 9 9 2
彦三郎(ひこさぶろう・桑原/井上)→ 婆束(ばそく・桑原、五流斎2世/俳人) E 3 6 7 8
彦三郎(ひこさぶろう・岩瀬/小野)→ 清春(きよはる・菱川、役者/絵師) Q 1 6 1 7
彦三郎(ひこさぶろう・日野屋/速水)→ 春曉斎(初世しゅんぎょうさい・速水はやみ、商家/読本) J 2 1 4 0
彦三郎(ひこさぶろう・佐伯/国分)→ 高広(たかひろ・国分こくぶん、和算家) N 2 6 1 0
彦三郎(ひこさぶろう・竹川)→ 竹斎(ちくさい・竹川たけがわ、商家/殖産家) D 2 8 0 6
彦三郎(ひこさぶろう・安田)→ 吉苗(よしなえ・安田やすだ/藤本、国学者) P 4 7 7 8
比古重(ひこしげ・中川) → 恭重(ゆきしげ・中川なかがわ、医者/歌人) H 4 6 0 3
彦七(ひこしち・宗) → 義智(よしとし・宗そう、藩主/対朝鮮貿易) F 4 7 4 6
彦七(ひこしち・赤名) → 汀柳(ていりゅう・赤名、俳人) B 3 0 8 1
彦七(ひこしち・森戸) → 定岑(さだとき・森戸もりと、国学者) P 2 0 5 9
彦七(ひこしち・石川) → 信栄(のぶひで・石川いしかわ、国学者) H 3 5 3 4
彦七郎(ひこしちろう・瀬尾屋)→ 承基(つぐもと・藤井ふじい、商家/国学) G 2 9 2 7

3760 彦十郎(ひこじゅうろう・小島/小嶋(こじま)?) 江前期1681-1704頃大阪の歌舞伎役者/作者、
初め小島妻之丞名で役者/1681立役;彦十郎に改名、竹島幸左衛門座付作者;役者を兼任、
能・狂言を入れた作風で有名、1692「日本眉間尺」93「好色伝授」95「日本番匠飛驒内匠」、
1696「大雑書伊勢白粉」98「代々の御神楽」著、
[小島彦十郎(;号)の別号]初号;小島妻之丞、立花

H3797 彦十郎(ひこじゅうろう・久隅くすみ、号;胖幽、守景男/雪信の弟) 絵師;狩野探幽門、
佐渡配流/放免後も佐渡住、佐渡の寺院の屏風絵など制作

彦十郎(ひこじゅうろう・岸) → 汝裕(じょゆう・岸まし/吉田、幕臣/詩文) M 2 2 8 6
彦十郎(ひこじゅうろう・岡本)→ 為成(ためなり・岡本おかもと、藩士/歌人) W 2 6 3 2
彦十郎(ひこじゅうろう・丁野)→ 南洋(なんよう・丁/丁野ちやうの、売薬/儒者) 3 2 4 6
彦十郎(ひこじゅうろう・山本)→ 亨斎(こうさい・山本/有馬、藩士/儒者) I 1 9 9 3
彦十郎(ひこじゅうろう・太田)→ 資寧(すけやす・太田おおた、旗本/幕臣/歌) H 2 3 8 9
彦十郎(ひこじゅうろう・岡部)→ 長常(ながつね・岡部、幕臣/奉行/歌) E 3 2 5 7
彦十郎(ひこじゅうろう・瀬尾屋)→ 承基(つぐもと・藤井ふじい、商家/国学) G 2 9 2 7
彦重郎(ひこじゅうろう・伴)→ 蒿蹊(こうけい・伴ばん、商家/歌人/和文) 1 9 0 8
彦四郎(ひこしろう・細川) → 氏春(うじはる・細川、武将/歌人) 1 2 4 7
彦四郎(ひこしろう・比志島)→ 国貞(くにさだ・比志島ひじま、藩家老) E 1 7 4 5
彦四郎(ひこしろう・新田/佐久間)→ 洞巖(とうがん・佐久間、儒/画/書家) C 3 1 3 1
彦四郎(ひこしろう・立石) → 垂穎(たるひで・立石/藤原、庄屋/国学) T 2 6 0 3
彦四郎(ひこしろう・福沢) → 憲治(のりはる・福沢ふくざわ、農業/歌人) F 3 5 4 4
彦四郎(ひこしろう・大原) → 楚諾(そだく・大原おおはら、郡代/俳人) C 2 5 3 0
彦四郎(ひこしろう・小田島)→ 松翁(しょうおう・小田島おたじま、書肆/地誌) H 2 2 3 8
彦四郎(ひこしろう・佐竹) → 噲噲(噲会かいかい・佐竹、絵師/篆刻) I 1 5 4 9
彦四郎(ひこしろう・大原/望月)→ 千春(ちはる・望月もちづき/大原、俳人) F 2 8 1 7
彦四郎(ひこしろう・乙骨) → 耐軒(たいけん・乙骨おつ/鳥羽、儒/詩) B 2 6 3 0

彦四郎(ひこしろう・荒巻) → 春星(しゅんせい・荒巻あらまき、俳人) L 2 1 2 8
 彦四郎(ひこしろう・新井) → 滄洲(そうしゅう・新井/佐久間、藩儒/詩) B 2 5 8 1
 彦四郎(ひこしろう・徳永) → 一信(かずのぶ・徳永とくなが、国学者) V 1 5 1 2
 彦四郎(ひこしろう・沢井) → 若木(しもと・沢井さわい、歌人) N 2 1 2 3
 彦四郎(ひこしろう・荒木) → 村英(むらひで・荒木あらまき、和算家) D 4 2 1 9
 彦四郎(ひこしろう・福沢) → 孝治(たかはる・福沢ふくざわ、国学者/歌) Z 2 6 2 9
 彦四郎(ひこしろう・森田) → 道成(みちなり・森田もりた/湯口、大庄屋/歌) K 4 1 8 2
 彦四郎(ひこしろう・生田) → 珍満(うずまる・生田いくた/井上、藩士/歌) E 1 2 5 0
 彦四郎(ひこしろう・檜林) → 鎮山(ちんざん・檜林ならばやし、通詞/蘭医者) K 2 8 7 2

3761 彦次郎(ひこしろう・内山うちやま、名;之昌、法号;大機院)1797-1864暗殺68 幕臣;大阪西町奉行書与力、
 1842諸色値段引下方の献策を幕府に提出;新撰組に恨まれ殺害、「内山彦次郎勤功書」著

彦二郎(ひこじろう・武田) → 元光(もとみつ・武田、武将/伝統保護) E 4 4 3 8
 彦二郎(ひこじろう・武田) → 信豊(のぶとよ・武田、元光男/武将/故実) C 3 5 4 3
 彦二郎(ひこじろう・荒木) → 梅秀樹(うめひでき;通称、狂歌) D 1 2 4 1
 彦二郎(ひこじろう・武田/龍) → 公美(きんえ・龍たつりゅう、儒者/詩歌) E 1 6 8 7
 彦次郎(ひこじろう・武田) → 元信(もとのぶ・武田/源、武将/幕臣/故実) D 4 4 6 7
 彦次郎(ひこじろう・前田) → 雲洞(うんどう・前田まえた、藩士/儒者) E 1 2 0 2
 彦次郎(ひこじろう・前田) → 梅洞(ばいどう・前田まえた、藩士/儒者) B 3 6 9 1
 彦次郎(ひこじろう・田付) → 直久(なおひさ・田付たつけ/岡部、幕臣/砲術) N 3 2 6 2
 彦次郎(ひこじろう・宅間) → 憲連(のりつら・宅間たくま/西村、幕臣) I 3 5 9 8
 彦次郎(ひこじろう・吉村) → 光甫(みつとし/みつよし・吉村、国学者/画) E 4 1 0 2
 彦次郎(ひこじろう・立石) → 垂穎(たるひで・立石/藤原、庄屋/国学) T 2 6 0 3
 彦次郎(ひこじろう・徳田) → 巖興(むらおき・徳田、藩士/兵法家) D 4 2 1 0
 彦次郎(ひこじろう・村松) → 眞船(まふね・村松むらまつ、商家/国学) K 4 0 0 9
 彦次郎(ひこじろう・建部) → 賢弘(かたひろ・建部たけべ、幕臣/暦算家) C 1 5 3 4
 彦次郎(ひこじろう・豊田) → 松岡(しょうこう・豊田、藩儒/史書編纂) S 2 2 1 5
 彦次郎(ひこじろう・青柳) → 種春(たねはる・青柳あおやぎ、藩士/国学) R 2 6 9 8
 彦次郎(ひこじろう・田代/長川) → 東洲(とうしゅう・長川、儒者/教育) E 3 1 9 8
 彦次郎(ひこじろう・後醍院) → 真柱(みはしら・後醍院ごだいいん/大河平、国学者) F 4 1 7 1
 彦次郎(ひこじろう・小森) → 玄明(はるあき・河上かわかみ、剣術/攘夷論) K 3 6 0 0
 彦次郎(ひこじろう・中野) → 宗知(むねとも・中野なかの/高木、大庄屋/歌人) E 4 2 0 9
 彦次郎(ひこじろう・矢田部) → 弘佳(ひろよし・矢田部やたべ、国学/神職) M 3 7 1 0
 彦治郎(ひこじろう・竹川) → 政恕(まさひろ・竹川たけがわ、国学/歌人) M 4 0 5 3
 肥後進士(ひごしんし) → 能因(のういん・法師、歌人) 3 5 0 2

3762 彦弼(ひこすけ・宮田みやた) ? - ? 江後期播州の文筆家、大阪に寓居、
 1846「播磨国細見絵図」を刊行、49「万代節用集」編、読本の宮田南北(南木)と同一か?
 → 南北(なんぼく・宮田、読本作者) J 3 2 5 2

3763 彦介(彦助ひこすけ・玉木たまき、文之進男)1841-65早世25 父は長門萩藩士で松下村塾の創設者、
 母;国司六郎右衛門女の辰、学問;父門・吉田松陰門、1855元服/萩藩士;父に従い浦賀警衛、
 1863世子毛利定広の近侍/64御楯隊入隊、藩政府軍と戦い負傷し没、「玉木彦介日記」著、
 [彦介(;通称)の名/字/別通称]名;正弘、字;毀甫/毅甫まほ、別通称:直之進

彦介(ひこすけ・飯田) → 蓬室(ほうしつ・飯田、藩士/国学者) B 3 9 2 6
 彦相(ひこすけ・高橋) → 光寛(みつひろ・高橋たかはし/尾張連、神職) J 4 1 6 4
 彦助(ひこすけ・蜂屋) → 可敬(よしり・蜂屋はちや/源、藩士/詩) F 4 7 8 0
 彦助(ひこすけ・片山) → 長好(ながよし・片山、藩士/和算) G 3 2 4 5
 彦助(ひこすけ・曲淵) → 正満(まさみつ・曲淵まがりぶち、幕臣/和学) S 4 0 5 3
 彦助(ひこすけ・久米) → 博高(ひろたか・久米くめ、藩士/国学者) G 3 7 2 1
 彦助(ひこすけ・妻木) → 貞彦(さだひこ・妻木つまき、国学・神道家) J 2 0 3 9
 彦助(ひこすけ・成田) → 蒼虬(そうきゅう・成田なりた、藩士/俳人) 2 5 0 7
 彦助(ひこすけ・喜多村) → 筠庭(いんてい・喜多村、国学/随筆) C 1 1 0

彦助(ひこすけ・佐野) → 正修(まさなが・佐野さの、藩士/歌人) P 4 0 9 0
 彦助(ひこすけ・鈴木、幕臣) → 安明(やすあき・会田あいだ、和算家) 4 5 8 0
 彦助(ひこすけ・今村) → 正文(まさぶみ・今村いまむら、藩士/歌人) N 4 0 8 3
 彦助(ひこすけ・今村) → 正文(まさぶみ・今村いまむら、藩士/歌人) N 4 0 8 3
 彦助(ひこすけ・南部) → 広矛(ひろぼこ・南部なんぶ、藩士/歌人) K 3 7 5 2
 彦助(ひこすけ・宮城) → 御楯(みたて・宮城みやぎ、藩士/国学/歌) K 4 1 7 1
 彦助(ひこすけ・田本) → 安丸(やすまる・田本たもと、歌人) G 4 5 1 8
 彦輔(ひこすけ・大江) → 松隣(しょうりん・大江、儒者) L 2 2 9 7
 彦輔(ひこすけ・柴野/柴) → 栗山(りつざん・柴野、幕府儒官/異学の禁) 4 9 0 3
 彦輔(ひこすけ・片岡) → 春及(しゅんきゆう・片岡、農業/文筆/歌) Z 2 1 6 1
 彦輔(ひこすけ・並河) → 尚美(ひさよし・並河なみかわ/平、医者/歌) K 3 7 4 8
 彦輔(ひこすけ・三輪) → 義方(よしかた・三輪みわ、国学者) C 4 7 7 7
 彦輔(ひこすけ・大沢) → 稻彦(いなひこ・大沢おおさわ/松尾、庄屋/歌) K 1 1 0 4
 彦輔(比古介ひこすけ・桜井) → 春樹(はるき・桜井さくらい、歌人) K 3 6 0 4

3764 彦蔵(ひこぞう・浜田はまだ) 1837- 1897 61 播州加古郡古宮村の農家の生/父没後母再婚;
 本庄村浜田の船頭の家/船員;1850遠州灘で遭難;漂流中米国船に救助/51サンフランシスコ着、
 メーランド州ボルチモアで教育、カトリック受洗(洗礼名;ジョセフ)/1858アメリカ市民権取得、
 1859ホルル・香港・上海経由で帰国/神奈川領事館通訳;日米交渉で活躍、60領事館致仕、
 横浜・長崎で貿易に従事、岸田吟香と邦字新聞「海外新聞」発行/72大蔵省出仕、
 1863「漂流記」/96英文自伝「The Narrative of a Japanese」、「開国の滴続篇」、
 [彦蔵(;通称)の幼名/別通称]幼名;彦太郎、別通称;アメリカ彦蔵/播州彦蔵、
 (アメリカ帰化後;) Joseph Heco ジョセフ=ヒコ・浄世夫彦、法号;高智院

彦蔵(ひこぞう・勝野) → 延年(のぶとし・勝野/大沢、藩士/故実) C 3 5 3 3
 彦蔵(ひこぞう・堀尾) → 生津麿(ふつまろ・堀尾ほりお、国学者) D 3 8 4 1
 彦蔵(ひこぞう・西野) → 時敏(ときとし・西野にし/中村、藩士/国学) W 3 1 0 1
 彦三(ひこぞう・岩瀬/小野) → 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7
 彦造(ひこぞう・小野) → 利泰(としやす・小野おの、国学者) U 3 1 4 4
 肥後大進(ひごだいじん) → 忠兼(ただかね・藤原、廷臣/歌人) E 2 6 9 6

3765 彦玉(ひこたま) ? - ? 江後期大阪天満の滑稽本作者、
 1807「旅枕浦青海」-24「浦青海」著

彦太夫(ひこだゆう・川目) → 直(ただし・川目かわめ、漢学者) P 2 6 5 5
 彦太夫(ひこだゆう・池村) → 雪柴(せつさい・由比ゆい/小坂井/池村、俳人) E 2 4 3 1
 彦太夫(ひこだゆう・梅津/福原) → 資央(もとなか・福原/梅津、藩士/兵法) D 4 4 4 5
 彦太夫(ひこだゆう・酒泉さかいずみ) → 竹軒(ちくけん・酒泉、儒者/国史編纂) C 2 8 9 3
 彦太夫(ひこだゆう・鳥居) → 重栄(しげよし・鳥居とりい/波多野、神職) Z 2 1 5 1
 彦太夫(ひこだゆう・竹川) → 政信(まさのぶ・竹川たけがわ、商家/国学者) F 4 0 7 5
 彦太夫(ひこだゆう・藤田) → 定資(貞資さだすけ・藤田/藤/本田、和算家) B 2 0 9 1

3766 彦太郎(ひこたろう・菊屋さくや、姓;柴田しばた、名;繁脩)?-1790 上州高崎の目薬商、歌人、
 1788(天明8)「世わたり草」著、

[菊屋彦太郎(;通称)の別通称/号]別通称;市右衛門、号;幽泉齋
 彦太郎(ひこたろう・岡崎) → 鶴亭(こくてい・岡崎おかざき、儒者/詩文) F 1 9 5 7
 彦太郎(ひこたろう・笹本) → 大和大掾(やまとのだいじょう・歌沢、歌沢節) I 4 5 6 9
 彦太郎(ひこたろう・道工) → 彦文(ひこぶみ・道工どうく、歌人/紀行) 3 7 7 0
 彦太郎(ひこたろう・石黒) → 惟清(これきよ・石黒いしぐろ、幕臣) O 1 9 2 7
 彦太郎(ひこたろう・竹川) → 政信(まさのぶ・竹川たけがわ、商家/国学者) F 4 0 7 5
 彦太郎(ひこたろう・竹川) → 政壽(まさほぎ・竹川、政信男/商家/国学) H 4 0 3 1
 彦太郎(ひこたろう・竹川) → 正柱(まさはし・竹川たけがわ、商家/国学) Q 4 0 7 8
 彦太郎(ひこたろう・升屋/渋川) → 大梁(だいらょう・増谷ますや/増舎、書肆/浮世草子) C 2 6 3 4
 彦太郎(ひこたろう・安藤/中井) → 酔亭(すいてい・中井、心学者) E 2 3 8 6
 彦太郎(ひこたろう・南/楠) → 楚満人(そまひと・南仙笑、戯作者) 2 5 2 8

彦太郎(ひこたろう・加藤) → 雪潭(せつたん・加藤かとう、藩士/絵師) L 2 4 2 1
彦太郎(ひこたろう・志村) → 昌義(まさよし・志村しむら、和算家) I 4 0 6 3
彦太郎(ひこたろう・家崎) → 善之(よしゆき・家崎いささき、商家/和算家) H 4 7 9 4
彦太郎(ひこたろう・八田) → 知紀(ともり・八田はつた、藩士/歌人) Q 3 1 2 6
彦太郎(ひこたろう・大村) → 光枝(みつえ・大村/藤原、国学者/歌人) D 4 1 1 1
彦太郎(ひこたろう・八幡屋) → 留兵衛(るへえ・田口たぐち、養蚕家) 5 0 0 1
彦太郎(ひこたろう・二階堂) → 藤到(ふじゆき・二階堂にかいどう、藩士/歌) I 3 8 5 6
彦太郎(ひこたろう・跡部/武田) → 正生(まさなり・武田耕雲斎、藩士/天狗党) 4 0 1 6
彦太郎(ひこたろう・大山;変名) → 慎太郎(しんたろう・中岡、勤王) 2 2 5 9
彦太郎(ひこたろう・有賀) → 豊秋(とよあき・有賀あが/菅原、国学/歌/俳) U 3 1 0 2
彦太郎(ひこたろう・大橋) → 昌尚(まさなお・大橋おおはし/平、藩士/国学) O 4 0 4 0
彦太郎(ひこたろう・初代白木屋) → 可全(よしあき・大村おおむら、商家/国学) M 4 7 0 1
彦太郎(ひこたろう・林) → 麿甫(みかとし・林はやし、庄屋/国学者) K 4 1 1 3
彦太郎(ひこたろう・白木屋) → 邦全(くにあき・大村おおむら/矢田部、歌人) E 1 7 0 6
彦貫(ひこつら・清水) → 彦貫(げんかん・清水しみず、俳人) I 1 8 3 4
日古主(ひこぬし・千家) → 俊信(としさね・千家せんげ、国学者) M 3 1 5 6
彦根大夫(ひこねたゆう) → 朝成(ともなり・庵原/廬原いおはら、史学者) P 3 1 5 5
彦根大夫(ひこねたゆう) → 朝明(ともあき・庵原いほら/:源、家老/歌) U 3 1 1 4
肥後阿闍梨(ひごのあじやり) → 皇円(こうえん;法諱、天台叡山僧) 1 9 7 6
肥後阿闍梨(ひごのあじやり) → 尋海(じんかい;法諱、真言僧) N 2 2 6 5
肥後阿闍梨(ひごのあじやり) → 日像(にちぞう;法諱、竜華寿院、日蓮僧) C 3 3 7 0
肥後阿闍梨(ひごのあじやり) → 日暲(にっしゅう;法諱・立正院、日蓮僧) E 3 3 0 8
肥後守(ひごのかみ・草鹿砥) → 宣隆(のぶたか・草鹿砥くさかど、儒/国学) B 3 5 7 4
肥後守(ひごのかみ・飯田) → 秀臣(ひでおみ・飯田いいた、神職) C 3 7 8 8
肥後守(ひごのかみ・森田) → 光尋(みつね・森田もりた、神職/歌人) D 4 1 9 1
肥後守(ひごのかみ・安倍) → 季有(すえあり・安倍あべ/山井、楽人) L 2 3 1 7
肥後守(ひごのかみ・赤塚) → 正賢(まさかた・赤塚あかつか/春原、廷臣/歌) N 4 0 0 6
肥後守(ひごのかみ・朝原) → 宗乗(むねのり・朝原あさはら、神職/歌人) D 4 2 6 3
肥後守(ひごのかみ・安元) → 真満(まさみつ・安元やすもと、神職/歌人) O 4 0 1 9
肥後守(ひごのかみ・岡本) → 保考(やすたか・賀茂/岡本、神職/書家) B 4 5 8 5
肥後守(ひごのかみ・片岡) → 東親(はるちか・片岡りかたおか/萩川、神職/国学) J 3 6 9 2
肥後守(ひごのかみ・木下) → 利徳(としのり・木下きのした/藤堂、藩主) U 3 1 9 1
肥後守(ひごのかみ・小串) → 重穂(しげほ・小串おぐし、神職/国学) N 2 1 6 2
肥後守(ひごのかみ・小串) → 重郷(しげさと・小串おぐし、神職/国学) N 2 1 6 1
肥後守(ひごのかみ・大森) → 隆公(たかきみ・大森おおもり/藤原、神職/国学) W 2 6 2 0
肥後守(ひごのかみ・松平) → 容保(かたもり・松平まつだいら、藩主/朝政) V 1 5 7 7

L3763 彦之丞(ひこのじょう・千葉ちば、名;氏重うじしげ) ?-? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[伊勢志摩や涼みがてらに海士あまの子が手に取る玉は螢なりけり]、
(大江戸倭歌;夏580/海辺螢)

彦之丞(ひこのじょう・小浦) → 朝通(ともみち・小浦こうら、藩士/歌人) Q 3 1 6 5
彦之丞(ひこのじょう・斎藤) → 真蔭(まかげ・斎藤、庄屋/国学/歌人) 4 0 4 6
肥後掾(ひごのじょう・松浦) → 星洲(せいしゅう・松浦まつうら、星占家) B 2 4 9 9
彦之進(ひこのしん・神代/熊代) → 繡江(しゅうこう・熊代/神代くましろ、通事/絵師) H 2 1 3 6
彦之進(ひこのしん・近松) → 茂矩(しげのり・近松/松、藩士/兵法/俳人) C 2 1 8 2
彦之進(ひこのしん・栗田) → 宜貞(のぶさだ・栗田、幕臣/和算家) B 3 5 5 2
彦之進(ひこのしん・野田) → 成勝(しげかつ・野田のだ、幕臣/歌) Q 2 1 8 1
彦之進(ひこのしん・江村) → 厚(あつし・江村えむら、藩士/勤王/斬首) B 1 0 3 0
彦之進(ひこのしん・相川) → 景見(かげみ・相川あいかわ、国学/歌人) B 1 5 9 6
彦之進(ひこのしん・杉) → 盛倫(しげとも・杉すぎ、藩士/国学) O 2 1 6 3

- 彦之允(ひこのすけ・桜井) → 竜淵(りゅうえん・桜井さくらい、儒者/詩歌) D 4 9 0 2
- 3767 肥後内侍(ひごのないし、高階基子、高階基実女)?-? 堀河院女房、
- 3768 彦八(初世ひこはち・米沢よねざわ、号;豊笑堂)?-1714 大阪生?の落語家:生玉社境内を中心の辻咄、初め歌舞伎役者の物真似・当世風俗の物真似・落ちを重視した咄へと発展;大阪落語の祖、評判となり「彦八」は落語家の異称となる/名古屋で客死、1684「軽口男」、1703「軽口御前男」、「軽口大矢数」著
- 3769 彦八(2世ひこはち・米沢よねざわ、豊笑堂)?-1767? 江中期享保明和1716-72頃京の落語家:祇園・北野・四条河原などで初世彦八同様に軽口咄/物真似に長ず、江戸万歳も演ず、「軽口はる袋」「軽口ふくおかし」「軽口耳過宝」著
- 彦八(ひこはち・日比野/林) → 南涯(なんがい・林はやし、藩士/儒者) I 3 2 6 9
- 彦八(ひこはち・榎島) → 昭武(あきたけ・榎島まさしま、国学/軍記) C 1 0 5 3
- 彦八(ひこはち・島屋/橋本) → 直香(ただか/なおか・橋本、国学/歌人) E 2 6 8 7
- 彦八(ひこはち・藤木) → 面堂安久楽(めんどうあくら、職人/狂歌師) 4 3 4 8
- 彦八(ひこはち・青柳) → 惟雄(ただお・青柳あおやぎ、藩士) V 2 6 0 6
- 彦八(ひこはち・県) → 正豊(まさとよ・県あがた/藤原、神職/国学) N 4 0 0 8
- 彦八(ひこはち・山田) → 明遠(あきとお・山田やまだ、家老/詩歌) I 1 0 6 8
- 彦八(ひこはち・川口) → 清常(きよつね・川口いかぐち、藩士/歌人) T 1 6 9 7
- 彦八郎(ひこはちろう・今井/天王寺屋) → 宗久(そうきゅう・今井、納屋衆/茶人) B 2 5 0 1
- 彦八郎(ひこはちろう・南部) → 直政(なおまさ・南部なんぶ、藩主/詩人) P 3 2 7 1
- 彦八郎(ひこはちろう・太田) → 翠陰(すいん・太田おた、儒者/藩士) 2 3 2 5
- 彦八郎(ひこはちろう・岡山) → 正興(まさおき・岡山おかやま、国学者) B 4 0 5 3
- 彦八郎(ひこはちろう・南部) → 晴屋(はるいえ・南部なんぶ、家老/歌人) K 3 6 5 2
- 彦八郎(ひこはちろう・古岩井) → 義寛(よしひろ・古岩井こい、国学者) M 4 7 8 4
- J3792 彦治(ひこはち・杉本すぎもと、号;涵養斎) 1843-1900⁵⁸ 肥後山本郡の国学者;杉谷文明門、教育者;私塾涵養斎の創設、1890(明治23)「彝徳論」著
- 彦仁親王(ひこひとしんのう) → 後花園天皇(ごはなそのてんのう、学門/詩歌) D 1 9 5 8
- 比古姫(ひこひめ) → 小町(こまち・小野、歌人) 1 9 4 3
- 彦博(ひこひろ・猪飼) → 敬所(けいしよ・猪飼いかい、儒者) 1 8 7 3
- 3770 彦文(ひこぶみ・道工どうく、初名;正央、宗右衛門男) 1694-1735⁴² 安藝竹原の歌人;京の有賀長伯門、京と竹原を往来、阿波藩主蜂須賀綱矩に招聘;長伯に従い阿波滞在/有馬・長崎・巖島紀行、「彦文家集」「有賀以敬斎長伯阿波日記」著、[彦文(;名)の通称/号]通称;喜太郎/彦太郎、号;文明/以敬斎/竹戸/竹廼戸/行留舎
- 3771 彦兵衛(ひこべえ・村瀬むらせ/本姓;源、名;珍辰)?-? 江前期伊勢神道家;極秘書を写し小島氏に授与、「五部書之辨」著
- 3772 彦兵衛(ひこべえ・白石しらい)?- ? 元録1688-1704頃京の歌舞伎作者、山下半左衛門付作者;京万太夫座・早雲座で活動、1695「市守長者柏の大黒」96「福寿丸」、1697「面向不背玉」、「万歳丸」「入鹿大臣れんぼの巻」著
- 3773 彦兵衛(ひこべえ・田辺たなべ)?- ? 江中期京東山大仏前の種樹家/本草家、1713刊「秋意古新集」著
- 3774 彦兵衛(ひこべえ・梅本うめもと)?- ? 江後期江戸の歌舞伎作者;1853如臯3世「与話情浮名横櫛[お富与三郎]」の番付作者
- K3767 彦兵衛(7代目ひこべえ・林はやし、6代彦兵衛男) 1831-1904⁷⁴ 下総香取郡の農業:伍長/什長、漢学;平山正義門/国学;伊能穎則門/歌;鈴木雅之・神山魚貫門/書;正木竜眠門、教育者;寺子屋開設/1875新治県万力小学校設立支援/のち校長、1904(明治37)没、狂歌/歌人;1851(安政4)神山魚貫[麻葉集]入/1866狂歌会主催/69雅之[清風集]入、[陽発吟社]結成;歌の指導/1902「美濃尾張家苞くらべ」著(宣長・石原正明の比較論)、1903「国語活語早まなび伝授書」著、遺稿「竹廼屋遺藻」(息子の建治編刊)、[彦兵衛(;通称)の名/号]名;重義(じげよし(歌号)、号;龍見
- 彦兵衛(ひこべえ・鹿取) → 幸雄(ゆきお・鹿取、歌人) E 4 6 3 5
- 彦兵衛(ひこべえ・新見) → 正朝(まさとも・新見しんみ/源/小栗、幕臣/随筆) E 4 0 6 9

彦兵衛(ひこべえ・後藤) → 良山(こんざん・後藤ごとう、医者) P 1 9 2 4
彦兵衛(ひこべえ・竹川) → 馬陵(ばりょう・竹川たけがわ、儒/詩人) F 3 6 9 0
彦兵衛(ひこべえ・服部) → 嵐雪(らんせつ・服部はつとり、俳人) 4 8 0 6
彦兵衛(ひこべえ・吉田) → 秀元(ひでもと・吉田、藩士/藩主系譜) D 3 7 9 9
彦兵衛(ひこべえ・吉田) → 茂育(しげなる・吉田よしだ、弓術家) C 2 1 6 4
彦兵衛(ひこべえ・黒田) → 順民(じゅんみん・黒田/増田、易卜家) K 2 1 5 0
彦兵衛(ひこべえ・小倉) → 尚斎(しょうさい・小倉おぐら、藩儒/詩文) S 2 2 3 0
彦兵衛(ひこべえ・立石) → 垂穎(たるひで・立石/藤原、庄屋/国学) T 2 6 0 3
彦兵衛(ひこべえ・木地屋) → 風律(ふうりつ・木地屋きちや、商家/俳人) B 3 8 0 9
彦兵衛(ひこべえ・金井) → 万戸(ばんこ・金井かない、俳人) H 3 6 5 7
彦兵衛(ひこべえ・米屋よねや) → 米山人(べいさんじん・岡田おかだ、文人画家) 2 7 4 6
彦兵衛(ひこべえ・根本) → 一峨(いちが・根本ねもと、俳人) G 1 1 1 0
彦兵衛(ひこべえ・喜多村) → 筠庭(いんてい・喜多村、国学/随筆) C 1 1 0
彦兵衛(ひこべえ・小川) → 雨橋(うきつ・小川おがわ、俳人) B 1 2 2 7
彦兵衛(ひこべえ・金井) → 烏洲(うしゅう・金井かない、儒者/絵師) B 1 2 7 5
彦兵衛(ひこべえ・鈴木) → 麴丸(きくまる・五葉堂、川柳作者) S 1 6 5 1
彦兵衛(ひこべえ・高井) → 墨巢(ぼくそう・高井たかい、俳人) D 3 9 6 9
彦兵衛(ひこべえ・本間/小泉) → 其明(きめい・小泉/本間/小柳、測量/画) M 1 6 0 9
彦兵衛(ひこべえ・竹川) → 政恕(まさひろ・竹川たけがわ、国学/歌人) M 4 0 5 3
彦兵衛(ひこべえ・大阪屋) → 江鱒(こうげき・森もり、商家/俳人) I 1 9 4 7
彦兵衛(ひこべえ・長野) → 祐喬(すけたか・長野ながの、藩士/歌人) G 2 3 3 7
彦兵衛(ひこべえ・鹿取) → 幸雄(ゆきお・鹿取かとり、歌人) E 4 6 3 5
彦兵衛(ひこべえ・玉木) → 勝良(かつら・玉木たまき/田巻、問屋/歌) V 1 5 0 6
彦兵衛(ひこべえ・大原) → 利明(理明としあき・大原/会田、和算家) L 3 1 9 5
彦兵衛(ひこべえ・平内) → 廷臣(まさおみ・平内へのうち/福田、幕臣;工匠) B 4 0 6 1
彦兵衛(ひこべえ・雨宮) → 義正(よしまさ・雨宮あめのみや/源、国学者) L 4 7 2 9
彦兵衛(ひこべえ・珠城) → 葛良(くずよし・珠城たまき、陪臣/国学) E 1 7 3 3
彦兵衛(ひこべえ・荒井) → 尚雅(なおまさ・荒井あらい、歌人) K 3 2 8 5
彦兵衛(ひこべえ・伊東) → 祐之(すけゆき・伊東いとう/牛島、藩士/歌) L 2 3 3 4
彦兵衛(ひこべえ・久松) → 長世(ながよ・久松ひさまつ/菅原、藩執政/歌) O 3 2 4 9
彦兵衛尉(ひこべえのじょう・西脇) → 重永(しげなが・西脇にしわき、故実家) R 2 1 8 2
彦兵衛尉(ひこべえのじょう・大沢) → 政勝(まさかつ・大沢おおさわ、国学者) C 4 0 0 6
肥後房(ひごぼう) → 日像(にちぞう;法諱、竜華寿院、日蓮僧) C 3 3 7 0
彦火火出見尊(ひこほほでみのみこと) → 火遠理命(ほりのみこと、山幸彦) C 3 9 7 9

3775 彦馬(ひこま・上野うえの、常足男) 1838-1904 67 長崎の洋学者、1852広瀬淡窓門/56帰郷;
蘭語;名村八右衛門門/ボンペの舎密試験所で化学修学/写真術;フランス人写真師ロッシュ門、
湿板写真法修得/1862(文久2)長崎で日本初の写真館開業;晋作・龍馬・隆盛らを撮影、
西南戦争記録写真を撮影、1862「舎密局必携前編」訳、
[彦馬(;名)の字/号]字;土修、号;李溪

彦馬(ひこま・井本) → 常蔭(つねかげ・井本いもと、藩士/国学/歌) F 2 9 1 8
彦松(ひこまつ・伊東) → 祐相(すけとも・伊東いとう、藩主/詩歌) G 2 3 6 8

3703 彦麿(ひこまる・斎藤さいとう/本姓;藤原、別名;智明、荻野信邦男) 1768-1854 87 三河岡崎の生、
国学/歌;1780江戸で賀茂季鷹門、故実家;伊勢貞丈門、国学;本居大平門、
齋藤正綱の養嗣子;1795家督、石見浜田藩士、山東京伝一派の人々と交際、
宣長の学問を信奉し「玉のゆくへ」「竹箒たかはき」を著し村田春海を攻撃、
松平家に出仕;陸奥棚倉・武蔵川越の転封に従い移住;川越で病没、
家集;「葦仮庵あしのかりお集」1829「蓬蘽ほうのう集」、1789「座論梅」1801「勢語図説抄」14「神道問答」、
1837「雅俗対覧」「源氏爪印つまじるし」39「朝日影」、「傍廂かたびさし」「諸国名義考」「神代余波なごり」、
1848「ひめはしめ」49「不死靈薬記」51「出家論」52「食製奇方」53「叙爵問答」「遠耳論」外著多、
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、

[氷りぬし水もぬるみてすみだ川のどかなるせにかへる波かな](大江戸倭歌;27初春氷)、
[彦麿の字/通称/号]字;可怜、通称;庄[荘]九郎/小太郎/彦六郎、号;宮川舎/葦仮庵あしのかりお
法号;義岳了忠信士

K3778 彦麿(ひこまる・広田ひろた、変名;筑紫速雄、広田速見男)1830or28-189667or69 筑後山門郡の神職家、
父の広田八幡宮祠官を継嗣、国学・歌;西原晁樹あさき門、1857上京;諸藩の志士と交流、
有栖川宮熾仁親王に親近/1863遠島の西郷隆盛救出を計画;天草出航;波荒く断念、
幕吏に追れ甲斐都留郡上吉田村へ潜伏;御師の子弟に勤王を鼓吹/1868上京;
有栖川宮の命で伊勢神宮・熱田神宮代拝;東北平定を祈願/駿府で蒼竜隊隊長;江戸警護、
1871参議広沢真臣暗殺の嫌疑で投獄;76無罪、妻;鶴代子つよこ(歌人)、
1888「明治慷慨詩歌集前編」著

彦光(ひこみつ・矢田部) → 弘佳(ひろよし・矢田部やたべ、国学/神職) M 3 7 1 0

彦宮(ひこみや) → 讓仁親王(じょうにんしのう、閑院宮) Q 2 2 9 8

3776 彦良(ひこよし・源みなもと、忠房親王男)1321-? 母;藤原実教女、南北期廷臣;左近中将、
1349参議/従二位、1377出家、歌人;新千載1335/新拾遺1875、藤葉集入、
連歌作者;菟玖波集5句入、
[むすびおく契も深し妹背山中なる河の滝の白糸](新千載;十三恋1335)

3777 彦富(ひこよし・吉川よしかわ) ? - ? 江中期国学者・富士谷成章なりあきら門、
師の著作を編刊、1767「挿頭かざし抄」編、73「脚結あゆみ抄」「脚結抄小鈴」編

3778 彦六(ひころく・谷田部やたべ、名;通寿/胤寿)?-? 江中期常陸水戸の彫工;軍司与五郎・奈良利寿門、
「谷田部氏筆記」著、門人多数、
[彦六(;通称)の号] 常陽水

彦六(ひころく・稲葉) → 貞通(さだみち・稲葉いなば、武将/藩主/歌) C 2 0 4 7

彦六(ひころく・萩野) → 降雪(こうせつ・萩野はぎの、絵師) K 1 9 1 7

彦六(ひころく・御糸屋) → 木尻(もくじ・伊藤いとう、俳人) 4 4 9 0

彦六(ひころく・柘植) → 宗辰(むねとき・柘植つげ、藩士/旧記集録) B 4 2 7 8

彦六(ひころく・野沢) → 酔石(すいせき・野沢のざわ、幕臣/詩人) 2 3 7 5

彦六(ひころく・岩沢) → 幸年(ゆきとし・岩沢いわさわ、藩士/歌人) G 4 6 5 8

彦六(ひころく・栗田) → 恭徳(たかのり・栗田くりた、商家/歌人) M 2 6 8 6

彦六(ひころく・半井) → 瑞直(みずなお・半井なからい、医者/歌俳人) J 4 1 9 9

彦六(ひころく・山田) → 流霞窓広住(りゅうかそうひろずみ、狂歌/読本) D 4 9 2 4

彦六(ひころく・小崎) → 長流(ちよりゅう・下河辺しもこうべ、国学/歌) 2 8 2 8

彦六(ひころく・稲葉) → 恒通(つねみち・稲葉いなば、藩主/記録) D 2 9 8 6

彦六(ひころく・荒川) → 敦本(あつもと・荒川あらかわ、藩士/歌人) G 1 0 8 8

彦六(ひころく・鹿野) → 昌信(まさのぶ・鹿野しかの、庄屋/国学) Q 4 0 1 1

彦六左衛門(ひころくざえもん・飯尾) → 常房(つねふさ・飯尾いのお/三善、歌人/書家) D 2 9 5 8

彦六郎(ひころくろう・南部) → 重信(しげのぶ・南部・花輪/七戸、藩主/歌) C 2 1 7 0

彦六郎(ひころくろう・吉田) → 澹軒(たんけん・吉田よしだ、藩家老/財政) T 2 6 3 7

彦六郎(ひころくろう・萩野/斎藤) → 彦麿(ひこまる・斎藤/藤原、藩士/国学) 3 7 0 3

彦六郎(ひころくろう・藤/遠藤) → 広則(ひろのり・藤とう/藤原、暦算家) G 3 7 8 8

彦六郎(ひころくろう・佐藤) → 泰郷(やすさと・佐藤さとう、国学・歌) F 4 5 5 2

日比の正広(ひごろのしょうこう) → 正広(しょうこう;法諱、歌僧) S 2 2 0 9

美根(ひこん・古海) → 美根(よしね・古海ふるみ、神職/歌人) O 4 7 9 5

J3766 久(ひさ・座光寺ざこうじ、初名;親ちか、為忠女)1743-1765早世23 信濃伊那郡の旗本(伊那衆)の家、
堀為明(1738-65/飯田藩主堀親蔵3男)を婿とす/ハナの母、歌人;澄月門(夫と同門)、
為明は家督を嗣ぐ前に没;久も4ヶ月後に没

久(ひさ・矢部) → 正子(まさこ・矢部やべ/大平、歌/書) C 4 0 4 6

ひさ(・五十川) → 久女(ひさじよ・五十川いそかわ、俳人) B 3 7 1 4

ひさ(・森) → 知乘尼(ちりょうに・智乗尼ちじょうに、浄土僧/歌) E 2 8 4 4

ひさ(・那波/三輪) → 翠羽(すいいう・三輪みわ/那波、俳人/教育) E 2 3 0 4

3779 尚頭(ひさあき・勸修寺かじゅうじ、政頭男/本姓;藤原)1478-155982 戦国期廷臣;1508参議、

従三位/右大弁、1523権大納言/26正二位/賀茂伝奏を長く務める、
加賀に下向/1532能登で出家、
「尚頭卿記」「御経供養記」、1522「県召除目略次第」著、
[尚頭(；名)の号](出家号；)泰竜/栄空/宗空、法号；泰竜宗空

- K3754 **久詮**(ひさあき・新納にいろ、) 1592-1675 84 薩摩鹿兒島藩士、伯父新納久饒ひさあつの養嗣子、
家督嗣；川辺領240石、和学者、妻；川上久利女(新納久饒の孫)、後妻；三原備中女、久品の父、
[久詮(；名)の通称/号]通称；右衛門佐うえものすけ、号；遊山
- 3780 **久明**(ひさあき・小野おの、通称；徳岡、久視男) 1775-1830 56 廷臣；代々大膳の家、大膳大進/大炊大允、
1816伊豆守/26大膳亮/30正五下、有職故実の精通、「釈奠図」著
- I3735 **久秋**(ひさあき・山田やまだ/本姓源、旧姓；岡本、通称；雄次郎) 1776-1835 60 紀伊和歌山藩士、
国学；本居大平門、大平撰「八十浦の玉」下巻；長歌入、
[わがやどに 来鳴く鶯をとつひも なきし鳥かも きのみも なきし鳥かも
朝な朝な 鳴く鶯の 声のよろしさ](八十浦；704鶯)
- 3781 **久顕**(ひさあき・佐藤さとう/本姓；藤原、通称；斎宮)?-? 江後期神道家；木川山城守門、
1812「神武玉日止人祭」「神国童子訓」著
- K3793 **尚知**(ひさあき・蓬萊ほうらい、磯辺親愛次2男) 1791-1835 45 伊勢度会郡の神職；蓬萊尚陽ひさあきの養子、
内宮権禰宜、尚広ひさひろの父、
[尚知(；名)の初名/通称]初名；尚古、通称；八百吉/少典しょうてん/右兵衛
- J3710 **寿明**(ひさあき・亀山かめやま、) 1819-1892 74 母；蝶ちょう、美濃武儀郡の国学者；
富樫広蔭門(母と同門)のち鹿取幸雄門、
[寿明(；名)の通称/号]通称；広五郎、号；春園
- 3782 **久昭**(ひさあき・中川なががわ、藤堂高兌たかさむ2男) 1820-89 70 伊勢津の生、津藩主高猷たかゆきの弟、
1840豊後岡藩主中川久教の婿養子；家督嗣/豊後岡藩12代藩主；従五位下/修理大夫、
従四位下、藩政窮乏のなかで節儉・文武一致を奨励、1841尊王派を排斥(岡藩七人衆変)、
幕末の動乱は静観/藩内の大火・風雨の被害相次ぎ財政は困窮、1869駿府派兵の遅れ；謹慎、
1869版籍奉還後知藩事に就任；致仕/長男久成が家督嗣、没後；従三位、
正室；加藤泰濟女の栄子(中川久教の養女、歌人；大江戸倭歌集入)、
久成・板倉久知・武夫・稲葉正善正室・細川行真正室らの父、「中川久昭覚書」著、
[久昭(；名)の幼名/初名/通称]幼名；茂丸/大蔵、初名；高亮、通称；修理大夫
- 3783 **寿章**(ひさあき・城井しろい) 1840- 1887 48 江戸浅草生の神職；1877上総一之宮玉前神社宮司、
「赤穂義人逸事」編、「煉金敲玉」「近世烈士伝序」著
- K3739 **久章**(ひさあき・中山なかやま) 1846-1917 72 伊予の歌人；浅井政達まさみち(月丸)門、
国学・歌；星野久樹・西村清臣門、
[久章(；名)の通称/号]通称；松之助、号；蘭石
- | | | | |
|-------------|---|------------------------|-----------|
| 久章(ひさあき・山田) | → | 東海(とうかい・山田、儒者) | B 3 1 9 5 |
| 久章(ひさあき・山崎) | → | 久章(ひさあき・山崎/弓削、神職/国学) | B 3 7 8 8 |
| 久顕(ひさあき・山崎) | → | 半蔵(はんぞう・山崎やまさき、藩士/日記) | I 3 6 8 2 |
| 久明(ひさあき・山本) | → | 一釣(いちぢょう・山本やまもと、俳人) | H 1 1 6 1 |
| 久明(ひさあき・柴田) | → | 千町(ちまち・柴田しばた、神職/歌人) | M 2 8 6 8 |
| 久明(ひさあき・町田) | → | 松和(しょうわ・町田まちだ、製紙業/俳人) | M 2 2 1 3 |
| 尚明(ひさあき・小津) | → | 信厚(のぶあつ・小津おづ/長井/大泉、国学) | H 3 5 5 9 |
- L3776 **久昭室**(ひさあきのしつ・中川なががわ、名；栄子、加藤泰濟女)?-? 江後期；豊後藩主中川久教の養女、
1840婿養子中川(藤堂)久昭[1820-89]の正室；夫は豊後岡藩12代藩主となる、
歌人；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[みがきなば玉の光も出でつべき世にあらはれぬ身をいかにせん]、
(大江戸倭歌；雑1875/寄玉述懐)
- 3704 **久明親王**(ひさあきらしんのう、後深草天皇皇子) 1276?-1328 53? 母；三条公親の女房子(御匣殿)、
鎌倉幕府8代将軍；1289将軍宣下、一品式部卿、1308廃され帰京、歌；二条為世・冷泉為相門、
和歌所を設置、1303千首歌会ほか多くの歌会主催、
室；維康親王女(守邦親王母)/後室；冷泉為相女(久良親王母)、

拾遺風体抄・柳風和歌抄(8首)・拾遺現藻集入集、
勅撰22首;新後撰(306/450)玉葉(5首236/820以下)続千(5首508/1100以下)続後拾以下、
[鳴く鹿の涙をそへて小萩原花にもいとど露ぞあまれる](新後撰集;四秋306)、
[久明親王(;名)の法名/通称]法名;素円、通称;**式部卿親王**しきぶきょうのみこ/嗟峨入道將軍宮
☆女房に式部卿親王家一条・式部卿親王家藤大納言(歌人;柳風和歌抄入)

- I3772 **古厚**(ひさあや・小野おの/旧姓;松平/本姓;源、) **1778-184164** 松平家の生/近江彦根藩老小野家を嗣、
彦根藩老;但し故あつて謹慎;実家永預りとなる/歌人、
[古厚(;名)の通称]外記
- L3792 **久綾**(ひさあや・為貞ためさだ、通称;和泉)?-? 江後期;美作久米郡桑村の倭文しとり神社神主、
歌人;平賀元義の楯之舎塾入門、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入、兄久・弟久の一族
- 3784 **久有**(ひさあり・多おの、久明男) **1646?-168944?** 江前期楽人;右兵衛大尉/豊後守/1688従四下、
1673「八幡之留」著
- M3709 **久有**(ひさあり・森脇もりわき、) **1711-179383** 江中期;周防岩国の国学者/歌人、
[久有(;名)の通称]孫右衛門/長左衛門
- K3716 **久在**(ひさあり・竹内たけうち、) **1815-1908長寿94歳** 美作久米郡の柔道家、国学・歌;小原千座ちくら門、
美作津山藩の柔道師範
[久在(;名)の初名/通称]初名;正一、通称;正右衛門
- | | | | |
|--------------|---|------------------------|-----------|
| 久有(ひさあり・林) | → | 砂兄(さけい・魚うおの屋2世、林/狂歌) | H 2 0 3 3 |
| 旧蟻(ひさあり・永岡) | → | 久宜(ひさよし・永岡ながおか、神職/歌) | C 3 7 1 8 |
| 非際(ひさい;号) | → | 豪寛(ごうかん;法諱、天台僧/狂句) | E 1 9 9 3 |
| 未斎(ひさい・重野) | → | 成斎(せいさい・重野しげの、藩士/儒/史学) | B 2 4 6 5 |
| 尾斎(ひさい・佐竹) | → | 義根(よしね・佐竹/源/長倉、天文家) | F 4 7 4 8 |
| 眉斎(ひさい;剃髪後号) | → | 田女(でんじょ・谷口、俳人) | D 3 0 8 1 |
| 美斎(ひさい・中口) | → | 孟行(たけゆき・中口なかぐち、蘭学者) | O 2 6 8 7 |
| 美材(ひさい・小野) | → | 美材(よしき・小野) | 4 7 1 0 |
| 美在(ひさい・人見) | → | 雪江(せつこう・人見、幕臣/儒者/詩) | K 2 4 8 8 |
- 3785 **長稻**(ひさいな・久米くめ) **1667 - 174983** 尾張知多郡大高村の氷上姉子社の祠官、
「氷上山神記」著、
[長稻(;名)の神号] 尾僖津彦神霊/長照院法雲慈船社土神儀
- M3702 **久敬**(ひさいや・荒木田あらかた/家名;宇治、久老ひさおゆ長男) **1774-181744** 伊勢度会郡の神職、
伊勢内宮権禰宜/従四上、上京;歌学;芝山持豊門、著述は不詳、
[久敬(;名)の通称] 七郎次郎
- 3786 **故巖**(ひさいわ・渋谷しぶや、通称;酒之丞)?-? 越前松岡藩士;藩主松平昌勝の家臣、のち島寺村閑居、
歌人:「隣女百首」著
久磐(ひさいわ・大友) → 親久(ちかひさ・大友おとも/藤原、神職・国学) L 2 8 3 5
- E3742 **尚氏**(ひさうじ・大館おおだち、教氏男/本姓;源) **1454-1546長寿93** 武将/室町幕臣;兵庫頭/弾正少弼、
左衛門佐、治部少輔/伊予守/陸奥守/正五下/將軍義尚の御供衆、
1477申次:奉公衆五番頭兼務、1487六角高頼追討の五番頭、
1489義尚没;偏諱を受け尚氏に改名、一時失脚;北陸の代官、
のち娘が將軍義晴の側室となり登用され申次衆・府内談衆、
故実家;武家故実精通、歌・連歌・書・蹴鞠に長ず、廷臣との交流を図る、三条西実隆と交流
歌;1482將軍家歌合・1484歌合・1503頃武家歌合参加、1509「大館尚氏記」「大館年中行事」著、
1530「武家礼節」/32?「大館常興書札抄」、1538-42「大館常興日記」40「大館伊予守一冊」著、
[春来てはなほぼはてなき朝な朝な霞にわくる武蔵野の原](武家歌合;冒頭歌一番左)、
[尚氏(;名)の初名/通称/号/法名]初名;重信、通称;伊予入道、号;宝秀軒、
法名;常興じょうこう
- J3794 **久江**(ひさえ・鈴木すずき、法名;清光院)?-**1803** 武蔵川越藩主松平直恒(1762-1810)の侍妾(側室)、
歌人;連阿・烏丸光榮(1689-1748)門、
- K3756 **久雄**(ひさお・西村にしむら/本姓;橘、通称;上総)?-? 江中後期;紀伊名草郡の日前宮社社家、
国学者;本居宣長(1730-1801)門

- 久雄(ひさお・大垣) → 市人(いちんど・初世浅草庵、商家/狂歌) 1 1 1 8
- 3787 尚興(ひさおき) ? - ? 連歌;1505守武・守直・氏秀と「賦何路連歌」
- J3728 久興(ひさおき・北沢きたざわ/喜多沢、)1753-1843長寿91歳 江戸の幕臣;御先手組与力、歌人;烏丸光胤・日野資枝・有栖川織仁門、[久興(;)名の通称/号]通称;彦右衛門、号;蘆水/兼水軒
- K3749 久臣(ひさおみ・檜原ならは、)1830-187041 備後三原の国学者、国学;景安正朔・平田鏡胤門、[久臣(;)名の初名/通称/号]初名;正明、通称;権四郎/貫兵衛/一郎平、号;松園
- 3705 久老(ひさおゆ・荒木田あらかた/家名;度会むらゐ、橋村正身男)1746-180459 伊勢度会郡の生、外祖父小田[宇治]秀世の養子;離縁/のち荒木田[宇治]久世の養嗣子(婿養子)、1774外宮権禰宜/従四下、内宮権禰宜、歌;芝山重豊門/国学;1765賀茂真淵門、古典・歌の指導・著述活動、万葉集の研究、晩年;伊勢の県門として本居宣長の学派と対立、1782「みちしるべ」83「槻のおちは心やり」88「万葉考槻落葉つきのおらば」99「万葉考槻乃落葉」、1800「五十槻園集」「槻の落葉播磨日記」、「槻の落葉歌集」「青丹吉考」「播磨漫録」外著多数、[久老(;)名の別名/通称/号]初名;正恭/正董まさただ、通称;弥三郎/典膳/主税ちから/主殿とのも、号;五十槻[槐]いつき/家号;五十槻園いつきのその、久敬ひさいや・久守・広田清魚きよなの父
- 3788 尚織(ひさおり・岩井田いかにだ/本姓;荒木田、通称;左京)?-? 室町後期伊勢神官の神官、連歌;宗長と親交、1516宗長と「何人百韻」
- J3783 久賀(ひさか/ひさよし・島津しまづ、朝久男)1582-164463 母;御屋地(島津義弘女)、安桃江前期の武将、薩摩鹿兒島藩士;1593(文禄2)父が朝鮮で病死;薩摩島津家分家豊州家7代当主、豊後守、1595(14歳)朝鮮に渡海/慶長の役にも参戦/1600(慶長5)千余石加増/1607帖佐の地頭、薩摩藩初代藩主島津家久の城代家老、1634(寛永11)黒木の領主、37島原乱に大将で参戦、家久没後は光久に出仕、豊前守、妻;川上忠辰女/久基・久守の父、[久賀(;)名の初名/通称/号]初名;久嘉ひさか、通称;藤次郎/豊後守/豊前守、神号;梅月宗寒庵主
- 3789 古香(ひさか・ふるか・江口えぐち/神方かみかた/小笹、名;竹子/ます/升子ます、鈴木正大女)?-? 1873存父;信濃松本藩士、松本藩士神方かみかた新五左衛門の養女/小田原藩士小笹玄庭の養女、越後新発田藩士江口家に嫁ぐ、江戸坂本町住/1803-75頃の歌人;菅沼斐雄門、1831香川景樹門/桂門3才女、幕府大奥に出仕;古典講義、能書、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(古香女名)、江戸神田佐藤元萇宅で没(70余歳)、「秋園古香あきそのひさか家集」(1910正宗敦夫編刊)、1860鋤柄助之「現存百人一首」入(秋園名)、[大井川汀のいかださしのけよそここうつろふ花の影みん](大江戸倭歌;春295)、[雁鳴きて月さすなべに來ませるは常世の国の仙人かそも](現存百人一首;48)[古香(;)号の別号] 秋園/秋園古香あきそのひさか/あきそのふるか
- K3724 久郁(ひさか・土岐とき、通称;求見)?-1881 但馬出石郡の和学者
- 3790 久景(ひさかげ・多おの、久経[1280-1348]男)?-? 鎌倉末南北期の楽人/対馬守、久彦の父、「春日社七ヶ夜御神楽記」著
- L3782 久景(ひさかげ・足立あだち、通称;荘左衛門)?-? 江後期文化1804-18頃;美濃安八郡の歌人、歌;富樫広蔭門
- L3761 久蔭(ひさかげ・蘆谷あしや/本姓;源、通称;昇兵衛)?-? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[谷川のみどりは夏の色ながら岩間に淀む花もありけり](大江戸倭歌;夏381/首夏川)
- L3769 久蔭(ひさかげ・広瀬ひろせ) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[清見瀉関路吹き越す汐風によこばしりして千鳥鳴くなり](大江戸倭歌;冬1212)
- L3765 久蔭(ひさかげ・杉山すぎやま) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入/1860鋤柄助之「現存百人一首」入、[身におもる賤がとしぎのとしどしにこりてもをしきけふのくれかな]、(大江戸倭歌;冬1364/山家歳暮、年木;新春の用意に年末に切り出しておくたきぎ)、[花にうけ名のみは風のおはじとや梢が枝にあはれみすらん](現存百人一首;6)
- M3716 久陰(ひさかげ・山崎まさき、旧姓;弓削)1820-9475 遠江佐野郡掛川の雨桜神社祠官、国学;石川依平門/尊攘を主唱、1868(慶応4)大久保春野らと遠州報国隊を結成、息子の一郎・豊も参加し新政府に随う、

[久陰(；名)の通称/号]通称；石見、号；八峰やつお

古蔭(ひさかげ・小谷) → 古蔭(ふるかげ/ひさかげ・小谷こたに/おたに、歌人) E 3 8 6 5

久蔭(ひさかげ・細木) → 瑞枝(みずえ・細木ほそぎ、庄屋/農政/歌) 4 1 9 0

古香女(ひさかじよ) → 古香(ひさか・江口えぐち/神方/小笹、歌人) 3 7 8 9

L3724 尚一(ひさかず・一文字いちもんじ/旧姓；鷹羽)?-1818 伊勢宇治の神職；内宮権禰宜、国学；本居宣長門、
[尚一(；名)の通称] 靱負ゆげひ

J3719 久品(ひさかず・木部きべ、) 1775- 1841 67 上野群馬郡倉賀野の旅籠屋経営；藤浪屋、
歌人；原久胤門、
[久品(；名)の通称/号]通称；直右衛門、号；白満、屋号；藤浪屋

M3707 尚員(ひさかず・森もり、) 1782 - 1852 71 美濃安八郡の国学者；本居春庭・富樫広蔭門、
[尚員(；名)の通称] 保三/補三/安三郎

3791 古風(ひさかぜ・加藤かとう) 1766- 1848 83 武蔵忍藩士；日記役/江戸下谷住、和漢学・歌；成島和鼎門、
冷泉為則と交流、名声高く門人多数、加賀藩主前田家より招聘があったが応じなかった、
1830「類題和歌補闕」撰、「染古和歌集」「忍の道の記」「和歌自選抄」「和歌十体抄」著、
蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、

[わがかたによるべもなみの浮草はたが誘ふ水有りてなるらん](大江戸倭歌；恋1569)

[古風(；名)の通称/号]通称；十左衛門、号；染古楼/冷泉古風

3792 古風(ひさかぜ・冷泉れいぜい、藩医莊原[庄原]養安男) 1801-54 54 周防三田尻の医者；父門、
萩藩士冷泉豊古の養嗣子/萩藩医、歌学を修得；藩主毛利敬親に進講、妻；君子(歌人)、
「石竹集なでしこのしゅう」「石竹文集」「喫茶養神論」「奈泥志古廼屋日記」「羽賀台御狩の記」著、
[ふる雨に風もしめりて橘のにはひは軒をはなれざりけり]([萩の歌人]入)、
[古風(名；)の通称/号]通称；護一/捨吉/丙吉/少輔七/新左衛門、

号；奈泥志古廼屋なでしこのや/石竹舎

3793 尚賢(ひさかた・蓬萊ほうらい、尚喜男/本姓；荒木田) 1739-88 50 伊勢度会の神職；1773伊勢内宮禰宜、
国学；1760頃谷川土清門；土清女八十子の婿、真淵・宣長門、82林崎文庫再興；中興の祖、
「古謠集」「擬古歌集」編、「慶光院由緒書」「書齋見聞録」著、1762「神府緊要集」編、
[尚賢(；名)の別名/字/通称/号]別名；瓢形ひさかた/瓢形/礪介麿、字；履卿、通称；雅楽うた、
号；琢斎/洞屋、

[瑞垣の古きためしをかしこくも五十鈴の宮に今とりよろふ]、

(本居大平「八十浦の玉」上巻；195/興玉御占の神熊に仕奉りて)

3794 尚賢(ひさかた・柳やなぎ/千野せんの、初名；乾弘かたひろ、千野邦浩男) 1740-76 37 讃岐高松儒者；菊池黄山門、
兵法・暦算・医薬に通ず、1768上京/医者；畑柳庵門/柳と改姓/堺町で開業、医・算学の著書、
算は千野算とし好評、1767「籌算指南」68「籌算開平立方法」69「捷徑算法」、「解毒方集驗」著
[尚賢の字/号]字；玄長、号；籟溪じやくけい/雲巢主人、千野元琳の弟/良岱りょうたい(医者)の兄

3795 尚賢(ひさかた・井上いのうえ、通称；悟平)?-? 江後期加賀藩士横山蔵人の家臣(禄高40石)、
1828「御定紋之考」著

尚方(ひさかた・利根川) → 尚方(なおかた・利根川とねがわ、医者/詩) N 3 2 9 5

瓢形(ひさかた・荒木田) → 尚賢(ひさかた・蓬萊ほうらい、神職/国学者) 3 7 9 3

久方(ひさかた・島津) → 重豪(しげひで・島津/松平、藩主/諸学) C 2 1 9 0

久堅(ひさかた・吉川) → 天浦(てんぼ・吉川よしかわ、神職) E 3 0 2 7

3796 久勝(ひさかつ・小野おの、通称；徳岡、義久男) 1641-91 51 廷臣；代々大膳家、1684大膳大進/87従六上、
「大膳職家記録」編/1683「立后節会図」「立后節会本宮饗之図」「立后節会公卿饗膳文書」著

L3794 久勝(ひさかつ・秋山あきやま、) 1790-? 近江彦根藩士/国学・歌；小原君雄門、博覧の人、
塩谷寿弓すみ(歌人)と結婚、

[久勝(；名)の通称/号]通称；武一/総司、号；泉舎いづみのや

久勝(ひさかつ・林) → 定親(さだちか・林はやし、号；器水、俳人) C 2 0 0 2

尚勝(ひさかつ・山本) → 泰順(たいじゆん・山本、儒者) K 2 6 2 6

尚雄(ひさかつ・蓬萊) → 尚広(ひさひろ・蓬萊/荒木田、神職/日記) B 3 7 8 7

M3717 久城(ひさき・山崎やまさき、通称；出雲守)?-? 江中期遠江佐野郡垂木の雨桜天王社祠官、
国学者/神道；杉浦国頭くにあきら(1678-1740)門、久章ひさふみ(1711-86)の父

- 3797 久樹(ひさき・荒木田あきだ/家名;宇治)1694-1750⁵⁷ 伊勢度会郡の神職;内宮禰宜/歌:冷泉為村門、「荒木田久樹神主集」「為村卿より受冷泉家歌会略式」著
- L3756 久樹(ひさき・三輪みわ/本姓;源、通称;十左衛門)?-? 江後期;幕臣?、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[桜花手折るも人のなさけとは夜半の嵐の後にこそ知れ](大江戸倭歌;春251/折花)
- I3776 久樹(ひさき・星野はし/本姓;藤原、)1812-1871⁶⁰ 伊予松山藩士/歌人;石井義郷・海野遊翁門、宇佐美正篤・尾崎政信・矢部直記の師、歌;[ひなのてぶり]に9首入、国学/絵画にも通ず、
[山の端の花に暮らして山の端の花より出づる月を見るかな]、
[久樹(;名)の通称/号]通称;次郎左衛門、号;蔦生/蘿生(つたふ?)/伝/翠斎/翠の舎/星の舎
- 久吉(ひさき・佐々原) → 梅操(ばいそう・佐々原ささはら、儒者) B 3 6 7 5
久吉(ひさき・早田) → 簫山(しょうざん・早田はいだ、藩士/儒者) J 2 2 3 1
久吉(ひさき・猪股) → 繁永(しげなが・猪股いのまた、国学者) N 2 1 3 5
久吉(ひさき・貝塚) → 清直(きよなお・貝塚かいつか/平、国学/歌) T 1 6 9 0
久樹舎(ひさきのや) → 清音(きよね・小出こいで/大江、国学歌) U 1 6 3 1
- I3700 久清(ひさきよ・島しま) ? - ? 摂津の狂歌作者、1666行風「古今夷曲集」41首入、
[心には思ひますれど馬子の身で君落ちよとはえ申さず候そろ](古今夷曲集;七恋)
- 3798 尚清(ひさきよ・並河なみかわ/なびかわ、尚綱ひさあや男)?-? 江戸期歌人、歌文集「桜田歌集」編、
父尚綱の歌「清隠佳楼歌集」編
- 3799 尚国(ひさくに・荒木田あきだ)?- ? 鎌倉期伊勢神宮の神職;
1293公卿勅使参宮時の伊勢内宮祠官(権禰宜)とし奉仕、「正応六年公卿勅使参官次第」著
- B3700 久国(ひさくに・川上かわかみ、久辰男)1581-1663⁸³ 母;穎娃い兼堅女、鹿児島藩士/朝鮮の役に従軍、1630家老職/49致仕、儒学:臨濟僧文之ぶんし玄昌門、剣術示現流;東郷重位門、「久国談話」、「川上久国雑話」「川上久国雑記」「刑罰治国慮理撫民武用記」「朝鮮南原城古図」著、
[久国(;名)の幼名/別名/通称/号]幼名;亀寿丸、別名;久首/久好、
通称;源三郎/式部大輔/左近将監/因幡守、入道号;高山てきざん、法号;天真院
- 久邦(ひさくに・疋田) → 進修(しんしゅう・疋田ひきだ/松平、藩士/儒者) V 2 2 4 4
寿郷(ひさくに・岡) → 雀汀(つばきり/鶴汀かくてい・岡おか、儒/国学/詩) K 1 5 2 2
久首(ひさくび・川上) → 久国(ひさくに・川上かわかみ、藩家老/儒者) B 3 7 0 0
- J3785 寿子(ひさこ・進藤しんどう、法号;慶寿院)1748-? 京の国学・歌人;澄月(1714-98)門
- K3769 久子(ひさこ・原はら、旧姓;丸山)?-1839 信濃伊那郡の歌人
- B3701 久子(比佐子ひさこ・桑原くわばら、木原儀平女)1791-1853⁶³ 筑前遠賀郡海老津村の生、
筑前芦屋の桑原宗信の妻;2男3女を儲く/1830(40歳)夫没;子の養育と家格の保持に尽力、
歌人;伊藤常足門、1831二荒山に参詣;「二荒詣日記」著
- M3712 久子(ひさこ・安原やすはら、号;玉樹、旧姓中原)1806-76⁷¹ 備中浅口郡の歌人;千種有功・近藤芳樹門、
備中賀陽郡清水村(総社)の醸造業安原正常の妻、養子河本正敏(1818-76)の継母、
歌;[類題吉備国歌集]4首入
- I3741 久子(ひさこ・丹羽にわ、別号;都や子、戸田雄氏正女)?-? 二本松藩主丹羽長国[1834-1904]の妻、
歌人、1868戊辰戦争に敗れ一家で米沢に逃れのち二本松(ふたもと)帰国;「道の記」著、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(夫長国と共に入集)、
[春立つともろこし人もあふぐらんのどかに明るる日の本の空](大江戸倭歌;8元日)、
[安達太良あたらの山の錦も及びなきからくれなゐの木々ももみぢ葉](道の記;米沢領)
[今日はまた我住み馴れしふたもとに帰り行く身もあはれなりけり](道の記;帰国)
- 夫長国 → 長国(ながくに・丹羽にわ、藩主/歌) K 3 2 2 5
- I3744 ひさ子(ひさこ・酒井さかい、酒井忠蓋女?)?-? 敦賀(鞠山)藩主酒井壱岐守忠謙ただなおの妻、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」(夫とともに)入、
[鶯の鳴く声すれば我が宿の軒端の梅もほほゑみにけり](大江戸倭歌;春120)
- L3751 寿子(ひさこ・朽木くつき) ? - ? 江戸後期歌人;旗本朽木之綱ゆきのな(1830-1900)の妻、
継室or側室か?、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(夫主計助と共に入集)、
[秋の夜の月の光にさそはれてねぐら定めぬ村がらすかな](大江戸倭歌;秋900月前鳥)

- K3730 **久子**(ひさこ・徳富とくとみ、郷土矢島忠左エ門直明4女)1829-1919**長寿91** 母;鶴子(三村和兵衛女)、肥後益城郡杉堂村の生、1848(嘉永元/20歳)漢学者徳富一敬と結婚;3男5女を出産、国学者/歌人;佐々木信綱・井上通泰・池袋清風きよかぜ・小山川蔭かげ(多乎理)門、徳富蘇峯・蘆花・湯浅初子らの母、後年東京移住;妹矢嶋楫子の日本基督教婦人矯風会を支援、1919(大正8)没
- I3748 **久子**(ひさこ・鶴つる、蜂屋光世の妻)1830-1900**71歳** 幕臣蜂屋光世みつよと結婚、歌人;山田常典門、夫没後;夫の号鶴園に因み鶴と改姓、宮内省皇后付御用掛に出仕、本所松井町住;下町の子に歌を指導、1858夫の蜂屋光世編「大江戸倭歌集」入、[空蟬の世のうきことは聞えこぬ巖のなかも秋風の吹く](向島百花園句碑)、[待ちわびてひとりふすまの袖枕つらき涙にぬれもこそすれ](大江戸倭歌;恋1622)
- L3786 **寿子**(ひさこ・久山ひさやま) ? - ? 江戸後期;備前和気郡矢田村延岡の生、美作広井郷田殿村の医者久山芳武[宗碩]の妻、夫と共に平賀元義門、万葉調の長歌(母の六十賀の詠):1857大沢深臣「巨勢総社千首」妻と共に入
- 久子(ひさこ・矢部) → 正子(まさこ・矢部やべ/大平、歌/書) C 4 0 4 6
 久子(ひさこ・松平) → 雅子(まさこ・松平まつだいら/酒井、藩主妻/歌人) P 4 0 1 5
 寿子(ひさこ・森) → 冬子(ふゆこ・野田のだ/森、庄屋妻/歌人) I 3 8 6 0
 寿子(ひさこ・華園) → 福子(としこ/とみこ・華園はなぞの/西園寺、歌) W 3 1 1 1
 尚子(ひさこ) → 尚子(なおこ/ひさこ;女房名?、歌人) K 3 2 1 2
- B3702 **瓢空酒**(ひさごのからさげ/初号;酒上熟寐さげのうえのじゅくね、島田左内友直)1724-84**61** 天明狂歌初期の人、1773「宝合」のメンバー(世話人)、万載・後万載集2首(231/687)入
[飯はみな食ひつくしたる蓮葉はちすばに残れる粒や露とあざむく](後万載;秋231/蓮飯)
- 瓢ノ屋(ひさごのや・松木) → 直秀(なおひで・松木、国学/歌人) C 3 2 2 4
 瓢の屋(ひさごのや) → 荒陽(こうよう・渡辺、儒者/国学者) G 1 9 5 3
 瓢屋主人(ひさごのやしゅじん) → 中彦(なかひこ・太田おた/丸山、藩医/歌) L 3 2 4 5
 久五郎(ひさごろう・撰待) → 盛武(もりたけ・撰待せつたい、藩士/故実家) F 4 4 6 0
 久五郎(ひさごろう・宇佐美) → 蘋亭(ひんてい・宇佐美うさみ、藩士/儒/詩) 3 7 3 8
 久五郎(ひさごろう・荒木) → 美蔭(よしかげ・荒木あらき、神職/歌) C 4 7 4 5
 久五郎(ひさごろう・服部) → 常職(つねより・服部はつとり、幕臣/国学) G 2 9 1 8
 久五郎(ひさごろう・中村) → 重政(じゅうせい/ひげまさ・北尾きたお/中村、絵師) 2 1 1 5
 久五郎(ひさごろう・辻) → 久珍(きゅうちん・辻/源、歌人) T 1 6 1 1
- B3703 **久貞**(ひささだ・藤原ふじわら) ? - ? 平安前期廷臣;官人/勘解由使、「延喜交替式」著
- B3704 **久貞**(ひささだ・塩川しおかわ、2代目安左衛門男)1646-1733**88** 金沢藩士;父継承(禄6百石)、組頭並今石動等支配/1724致仕、「飛州境一件書面」「加越能御国絵図ニ関スル書類」著、[久貞(;名)の通称/号]通称;平八/安左衛門(3代目)、号;休安
- B3705 **久貞**(ひささだ・中川なかがわ、松平信祝のぶとき2男)1724-90**67** 三河吉田藩主家の生、母;永井家出身、1743(寛保3)豊後岡藩主中川久慶の養嗣子;岡藩8代藩主襲封/従五下修理大夫、1744(延享元)浪人中沢三郎左衛門を登用し藩政改革;不正取締・農業振興、1753天候不順の凶作;強訴/55大水害/56大火/69豪雨・地震被害、老中昇進運動で財政悪化、1786(天明6)井上並古を起用し藩政改革;助合設置・郷村再建・藩札発行等々;効果なし、文治教育;1776(安永5)藩校由学館開設/経武館・博濟館設立/1787(天明7)窮民養生所設立、「仄韻選」著、1790(寛政2)没、正室;中川久虎女の久
[久貞(;名)の通称/字/号]通称;祝之丞のじょう/修理大夫、字;子幹、号;大室/観山、法号;諦考院
- M3706 **久貞**(ひささだ・五十嵐いがらし/守本/恵川、)1733-99**67** 伊勢度会の神学・国学者;橋村正身まさのぶ門、1777(安永6)「伊勢国式内神社参詣案内記」著(自序あり)
[久貞(;名)の通称]通称;吉兵衛/市郎兵衛/寿太夫
- I3770 **久誠**(ひささね・小野おの、久敬男)1776-1820**45** 備中浅口郡の柳屋小野家6代目/郡奉行を務める、国学者/歌人;木下幸文と交流、妻;村田富左衛門永盛女、小野松寿久富の父、[久誠(;名)の通称/号]通称;五三郎、号;二水楼、屋号;柳屋、法名;昌興院
- B3706 **仙**(ひさし・橋たちばな) ? - ? 下総葛飾住の国学者/歌;斎藤彦磨[1768-1854]門、

1841「隅田川百首」著

- I3771 寿(ひさし・小野おの、誠の長男) 1797-1855⁵⁹ 備中浅口郡長尾村の生/長尾村庄屋を務める、詩文;菅茶山・頼山陽・森田節斎・西山拙齋門/国学・歌;木下幸文・小野務門、画も能くす、[寿(;名)の字/通称/号]字;公静、通称;寿太郎/樹太郎、号;有芳亭/菊莊/長水
- B3707 寿(ひさし・渡辺わたなべ、) 1803 - 1875⁷³ 甲斐八代郡市川の国学者/歌:黒川春村門、漢学にも精通、日新館を開塾、凶荒救済・殖産に尽力、「続日本紀問答」問、「桃屋歌集」著 [寿(;名)の通称/号]通称;権右衛門、号;桃廼舎/桃屋もものや
- J3725 寿(ひさし・菊池さくち、号;寿庵じゅあん) 1807-68⁶² 佐渡雑太郡沢根の医者、歌人、述懐の歌[我はもよ遠山畑の老茄子なびなりてはあれどとる人ぞなき]
- B3708 寿(ひさし・手島てじま) 1832 - 1872⁴¹ 安藝豊田郡生口村の代々農業/里正、詩文:森田節斎門/能書家、1864「維月帖」、「閑居帖」著、[寿(;名)の通称/号]通称;田助、号;芝弘じょう
- K3795 旧(ひさし・堀池ほりいけ、通称;貞蔵)?-1871 近江膳所藩士、歌人;[鳩のうみ]入
- M3738 尚(ひさし・渡辺わたなべ、) 1833 - 1902⁷⁰ 紀伊田部藩校修道館総裁、国学;野代繁里門、[尚(;名)の通称/号]通称;雅楽之助うたのすけ/内記、号;鉄心/南陽
- K3794 恒(ひさし・星野ほしの、嘉之助長男) 1839-1917⁷⁹ 越後蒲原郡白根町の農家、幼時より漢籍修学、1859(安政6)江戸の儒者塩谷宕陰門、維新後;1869越後水原町の弘業館で教鞭、1875東京の太政官修史館(のち修史局)出仕;[大日本編年史]編纂に参加、1888修史局が帝国大学に移設;文科大学臨時編年史編纂係/大学教授を兼任/91文学博士、久米邦事件後;史良編纂掛として田中義成と「大日本史料」「大日本古文書」刊行の基礎、1906年帝国学士院会員、[恒(;名)の初名/字/通称/号]初名;世恒、字;徳夫、通称;七五三蔵/恒太郎、号;豊城久(ひさし・高) → 充国(みつくに・高こう、医者) D 4 1 3 3
久治(ひさし・吉川) → 忠行(ただゆき・吉川きつかわ/よしかわ、藩士/国学/兵法) G 2 6 0 0
- B3709 尚重(ひさしげ・岩井田いかにだ/本姓;荒木田、岩井田尚常の養子) 1432-?1500頃没^{70?} 伊勢宇治の神職、1450内宮権禰宜/従五下;神宮記録の蒐集保存、1497「尚重解除鈔」編、「内宮子良館記」著
- B3710 久重(ひさしげ・松屋まつや/家名;土門、土門久好男) 1567-1652⁸⁶ 大和奈良の富商、土門久政ひさまの孫、茶人;利久・織部・遠州と交流、茶道具の名品を伝える、1604-50「茶会記」著、「松屋筆記」「土門筆記」「通認記」著、「松屋会記」編、[久重(;名)の通称/屋号]通称;漆屋源三郎、屋号;松屋
- C3705 久重(ひさしげ・東) ? - ? 江前期備後福山俳人;貞門系、1672種寛「続詞友俳諧集」入、1676常辰「柎木葛」入
- I3721 久重(ひさしげ・小野おの、宗恵)?- ? 江前期京の俳人、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、[育てゝは杖とも頼む桑子哉](手鑑/養蚕)
- B3711 久重(ひさしげ・江馬なま、通称;弥七郎)?-? 江中期和算家;岡井茂兵衛門、広瀬備重ともしげと同門、1718「通俗平かな天元」、93「算法智恵海大全」著
- B3712 尚茂(ひさしげ・玉虫たまむし、暢茂のぶしげ男) 1745-1801⁵⁷ 仙台藩士;郡奉行/町奉行、兵学;信玄流・東条流、新陰正田流槍術・今支流居合術の奥義を究める、林子平と兵学問答「兵策問答」(共著)、「伊達世臣家譜」編纂に参加、1775「晋斎先生伝」88「尚風録」著、「仁政篇」「東藩事物紀源」「玉虫十蔵上書」著、[尚茂(;名)の字/通称/号]字;子一、通称;軍治/平蔵/十蔵、号;荒牧子
- I3762 久苞(ひさしげ・内田うちだ、通称;愨内せきない) 1774-1823⁵⁰ 近江彦根の歌人、
- B3713 久重(ひさしげ・田中たなか、弥右衛門男/本姓;源) 1799-1881⁸³ 筑後久留米通町の鼈甲細工師、1822地元神社祭礼で水からくり人形を製作;[からくり儀右衛門]と称される、鼠灯・無尽灯・懐中燭台・消防ポンプ・万年時計等を開発、1834家督を弟に譲渡/大阪移住、天文暦学;土御門家入門、蘭学;広瀬元恭門、関白鷹司政通より[日本第一細工師]と激賞、佐賀藩・久留米藩に招聘;大砲・汽缶・汽船等の製作従事、維新後;上京して工場を開き晩年は電信機械製作に没頭、のちの東芝の礎を築く、1850「重宝無尽灯用法記」著、金子大吉の養父、

[久重(；名)の通称]岩次郎/儀右衛門/近江大掾

- I3760 **久林**(ひさしげ・上柳うえやなぎ、関島良致2男)1836-1912⁷⁷ 信濃伊那郡下川路村の生/上柳安善の養子、
信濃飯田に住/国学;1867平田鉄胤門、国事に奔走、維新後;大区長などの公職、久嗣の兄、
[久林(；名)の通称/号]通称;喜右衛門/喜一、号;松籙/松蘿

久重(ひさしげ・内海) → 宗恵(そうけい・内海うつみ、商家/俳・歌人) B 2 5 1 8
久重(ひさしげ・山田) → 大円(だいえん・山田やまだ、蘭医者) J 2 6 2 8
久重(ひさしげ・春日) → 延重(のぶしげ・春日かすが、神職/国学) H 3 5 9 0
尚茂(ひさしげ・日野) → 文車(ぶんしゃ・日野ひの、藩家老/俳人) F 3 8 6 7
久成(ひさしげ・大塚) → 退野(たいや・大塚、儒者) C 2 6 2 4
久成(ひさしげ・津島) → 恒之進(つねのしん・津島、本草学) C 2 9 9 7

- B3714 **久女**(ひさじよ/ひさによ・五十川いそかわ)?-? 江前期山城宇治の俳人、母は寺子屋の師匠か、
1674安静「如意宝珠」入、684西鶴「俳諧女哥仙によかせん」入、
[香炉峯でききたき物やにほひ鳥](如意宝珠)、

[名月の夜よるかと思へば朝日山](女哥仙;29/朝日山は山城宇治の興聖寺東の山;歌枕)

久女(ひさじよ・蜂屋) → 久子(ひさこ・鶴つる、蜂屋光世の妻/歌人) I 3 7 4 8
久四郎(ひさじろう・茶屋) → 久人(ひさと・高浜たかはま/南条、商家/歌) K 3 7 1 3
久次郎(ひさじろう・半沢) → 二丘(にきゅう・半沢はんざわ、豪農/俳人) G 3 8 8
久次郎(ひさじろう・亀岡) → 久次郎(きゅうじろう・亀岡かめおか) T 1 6 3 2
久次郎(ひさじろう・浜田/本居) → 内遠(うちとお・本居もとお、国学者) 1 2 7 4
久次郎(ひさじろう・磯田) → 春英(しゅんえい・勝川かつかわ、絵師) J 2 1 2 4
久次郎(ひさじろう・渥美) → 忠直(ただなお・高山/渥美、幕臣/和算) Q 2 6 2 4
久次郎(ひさじろう・山路) → 之徽(ゆきよし・山路やまぢ/平、幕臣/天文) F 4 6 9 4
久次郎(ひさじろう・篠田) → 仙果(2世せんか・笠亭りゅうてい、戯作者) F 2 4 0 0

- B3715 **尚季**(ひさすえ・今出川いまでがわ、実種男/本姓;藤原)1782-1810²⁹ 廷臣;1792従三位/1803正二位、
1804大歌所別当/05権大納言、「尚季卿記」著、
[尚季(；名)の通称]通称;菊亭、法号;亨徳院

- M3756 **久資**(ひさすけ・多おのお、久行男/祖父久節の猶子)1214-95⁸² 京の楽人;神楽・人長舞の家、
父は神楽を受けず祖父より直接受ける(系図神楽血脈)、1223右兵衛尉/39右近将監、
1239(建長元)厳島神社で採桑老を舞う、周防守/正五下(；初例)、
鳥羽院殿への朝覲行幸で胡飲酒を舞う、1281一者;14年、徒然草225段;白拍子起源を語る、
久光・久世・久春・久茂の父、1295(永仁3)没

- B3716 **古祐**(ひさすけ・曾我そが、尚祐男/本姓;平)1586-1658⁷³ 母;滝川秀利女、幕臣;1591(6歳)徳川秀忠臣、
御書院番/大坂両陣に従軍;抜駆けの咎で一時間閉門、1626家督;千石/32御目付/33長崎奉行、
1634大坂町奉行;3千石/58致仕、父尚祐なおすけは足利家右筆の末裔で曾我流書札礼の大成者、
徳川家光の命で曾我流書札礼を久保正元に伝授、1626「書札法式」54「書札百首」著、丹波守、
[古祐(；名)の通称/法号]通称;忠三郎/喜太郎/又左衛門、法号;是聖、近祐ちかすけの父
父 → 尚祐(なおすけ・曾我、幕臣/故実家) B 3 2 3 3

- B3717 **尚輔**(ひさすけ/なおすけ・中村なかむら、惟孝男)1809-79⁷¹ 讃岐高松藩士、地位流槍術;矢野東門、
山鹿流兵法;深井象山門、国学者;友安三冬門、1869皇學寮教授/70督学兼任、
「雅言摘要解」「蘚の露」「郭公三百首」「拾遺和歌集遠鏡」「玉の緒縫添」著、安西惟明の師、
[尚輔(；名)の幼名/別名/通称/号]幼名;覚之助、別名;珠城/尚孝、
通称;興三/興之助、新名珠城(；変名)、号;黙堂もくどう/蘚舎こけのや

- J3795 **久亮**(ひさすけ・鈴木すずき、)1837-1908⁷² 尾張名古屋の商家;豪商井桁屋、
国学・歌;植松茂岳しげおか門/歌;松波資之すけゆき門、長男鑿蔵に家督を譲渡;弥富山中に隠居、
茶事・歌を嗜む、1895(明治28)歌御会始に詠進;預選、
[はひのほるあまたの亀の萬代をいはほのうへにかさねてそ見る](厳上亀/歌御会始)、
[久亮(；名)の別名/通称/号]別名;邦信、通称;久助、号;可巻、屋号;井桁屋
法名;可巻斎秋屋自鳴居士

久輔(ひさすけ・内海) → 克清(かつきよ・内海うつみ/田村/中臣、国学) T 1 5 7 8

- B3718 **尚純**(ひさすけ・新田につた/岩松いわまつ、新田明純男/本姓;源)?-? 母;蜷川親当[智蘊]女、家純の孫、

室町中期上州新田郡岩松の豪族/武将、1458將軍義政の命で関東管領足利成氏と戦闘、父と祖父と不和・兄親子早世のため;1496家督継嗣;上州金山城主、文亀1501-04頃家督を息昌純に譲渡/岩松に隠棲、連歌;宗祇兼載を迎え連歌会興行、1509「永正六年八月廿九日静喜宗長両吟何色百韻」、作法書「連歌会席式」著、「新編抄」編(1526?同族新田芳純が上下二巻に完成;散佚)、新撰菟玖波集9句入[尚純(;名)の通称/号]通称;土用松丸/次郎/治部大輔、号;静喜/浄喜、法号;貞松院

B3719 久住(ひさずみ・麻田あさだ、瀬戸直温男)1782-185776 麻田久固の養嗣子/高知藩士;江戸留守居役、御馬廻組頭/1839致仕、歌人;宮地仲枝門、小谷正風・鹿持雅澄と詠歌研究、「御家伝雑集」著、[久住(;名)の通称]為平

B3720 久澄(ひさずみ・泉/和泉いづみ、別名;静、円まどし男)1801-7070 越後蒲原郡五泉の酒造業、歌人;海野遊翁門、加納諸平・石川依平に書翰で教えを受ける、儒;加藤松齋門、「泉田長歌稿本」編、「氷壺集」「大総督兵部卿宮御立寄記」著、佳逸の父、雛田松溪と交流、[久澄(;名)の幼名/通称/号]幼名;峯吉、通称;新平、号;氷壺/迎月堂

久純(ひさずみ・宇津木) → 昆岳(崑岳こんがく・宇津木うつき、藩士/儒者)G 1 9 5 7

久成(ひさずみ・町田) → 久成(ひさなり・町田まちだ/藤原、藩士/官僚/儒/僧)L 3 7 0 1

J3708 久高(ひさたか・樺山かばやま、大野、樺山忠助2男)1560-163475 母;村田経定女、武将;島津家家臣、重臣大野忠宗の婿養子;大野七郎忠高、薩摩藩士;1576高原白攻略参加/84沖田暉に従軍、1586勝尾・岩屋城攻略に戦功/島津義弘陣に属す、秀吉九州攻めに肥後から薩摩へ帰国、秀吉に降伏後は小田原征伐に参戦、1591義父忠宗が島津義久の命で誅殺;加世田に蟄居、文禄役に参戦の命が下り離婚し樺山権左衛門久高と改名;2百石加増;家老に就任、2度朝鮮へ渡海し参戦;甥の樺山忠正と共に功、1599忠正没後樺山家を継嗣;家老継続、治部大輔/美濃守、1607出水の地頭/09琉球侵攻に首里城を落す、1628(寛永5)伊作の地頭:同年出家;玄屑と号す、領地加増を訴えるも無視される、息子にも先立たれ失意の晩年を送る、歌人/蹴鞠、正室;忠宗女(離縁)/継室;上原尚張女、久守・久盈の父、[久高(;名)の通称/号]幼名;亀千代丸、通称;七郎忠高(;大野)/権左衛門(樺山)/美濃守、法号;玄屑、神号;正森忠栄庵主

I3720 久隆(ひさたか・喜多川きたがわ)?- ? 江前期上方の俳人、1678西鶴「物種集」入、[神鳴や又引かへし落ち給ふ](物種集/前句;松原さして白雨ゆふだちの雲、謡曲「兼平」;兼平に諫められ又引返し落ち給ふ)

B3721 久敬(ひさたか・ひさのり・浅加/浅香、左平太男)1657-172771歳 加賀金沢藩士、伯父作左衛門が浅香を浅加に改姓、1695家督/御近習番/番外組頭、国史・国学・歌文に精通、1688(元禄元)「徒然草諸抄大成」編、96「三日月の日記」97「ひなの道づれ」98「都の手ぶり」、1709「能登浦伝」11「北陸道中記」16「四不語録」、「大原道の記」「下通道之記」著、「越の家つと」「武家耳底記」「列国雑記」著、友郷ともさとの父、[久敬(;名)の字/通称/号]字;通卿/山郷、通称;九之丞/九之助/万右衛門/謙益、号;山井さんせい/久敬軒きゅうけいけん

B3722 久敬(ひさたか・成瀬なるせ)1659-173779歳 肥後熊本藩士、成瀬小右衛門の弟、成瀬五助の養嗣子;1689(元禄2)養父の家督を継嗣/小姓組/郡奉行/穿鑿奉行/鉄砲頭、江戸留守居詰を歴任、1735(享和20)隠居、藩内の旧記を蒐集・古老から聴取;国誌編纂;「新編肥後国志」編、[久敬の通称/号]通称;平八/次郎左衛門、号;昨淵、法号;玄久院

B3723 久敬(ひさたか・大石おおいし/堤/高井、別名;勘治、藩士古賀貞房男)1725-9470 筑後久留米の人、1732(8歳)城島村の大庄屋大石家の嗣、1754久留米藩で一揆;藩の処置を不当として逃亡、上京後に流浪生活/1783上州高崎藩に農政家として出仕;88郡奉行、「金銀考」著、「増補田園類説」補填、1791-94藩命で「地方じかた凡例録」著述;献本後に没、[久敬(;名)の字/通称/号]字;士恭、通称;猪十郎、号;巖華

L2768 久敬(ひさたか・川井かわい)1725- 177551 江中期幕臣;小普請組頭/勘定吟味役、国学/歌;内山淳時なおとき門、1771(明和8)勘定奉行;従五位下/越前守、田沼意次の貨幣政策実現に向け尽力;明和五匁銀及び南鐮二朱銀の鑄造を言上、

1775(安永4)田安家家老を兼任;没、嫡男久道没のため孫の久徳(和算家)が家督継嗣、
死後に落書あり;[兼役(儉約)は、身を絶やす(田安)べき前表(千俵)か、
四十九(始終苦)にして死ぬは川井(可愛)や、

[久敬(;)名)の通称]久米之助/宮内/次郎兵衛/越前守

- B3724 **久敬**(ひさたか・篠沢しのぶ、常敬男)1742-1805⁶⁴ 岩代二本松藩士;1768郡山組代官/70本宮組代官、
1777郡奉行/81町奉行;天明大凶荒時能吏としての治績、94勤務中の獄舎から失火;
小普請入を命じられ致仕、和漢学を修得、「国語考」「富翁雑話」「富翁雑記」「武数雑考」著、
[久敬(;)名)の字/通称/号]字;子交、通称;嘉藤太、号;富訥翁、法号;訥言院
- L3798 **久敬**(ひさたか・多おの、久弘男)1772-1845⁷⁴ 京の廷臣;雅楽の家の生;雅楽寮に出仕、
歌人;香川景樹門、1782正六下・左近衛将曹/1790(寛政2)従五下/大和守、
1795(寛政7)父隠退;家督嗣/1796久敬に改名、1798従五上/1806正五下/16従四下、
1726従四上/36正四下/45(弘化2)正四上、養子;多久恭、
歌;1815(文化12)景樹「六十四番歌結うたむすび」参加入、
[久敬(;)名)の別号/通称]初名;久宣、通称;大和守
- J3716 **久隆**(ひさたか・木下きのした、)1792-1867⁷⁶ 伯耆日野郡日南町阿毘縁あびれの庄屋、国学者、
鑪たたら製鉄業;鉄山師/多くの鉄山を経営、のち備中哲多郡油野ゆの村に住;山田方谷と交流、
[久隆(;)名)の通称/号]通称;万作まんさく、号;鉄山師/科水堂
- B3725 **久敬**(ひさたか・瀬戸せと) ? - ? 江後期肥前島原藩士/江戸三田に住、
国学・歌人;片岡寛光[1778-1838]門、1849「もとかしは」編、小出繁つばらの師、
1844「十番歌合」参加(文雄らと)、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(師の片岡寛光と入集)、
1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[老いらくの寝覚めを捨てて郭公たがきぬぎぬに鳴く音そふらん](大江戸倭歌;夏447)、
[山窓やままでも羽蟻たつ日となりにけり麓の花は今か咲くらむ](現存百人一首;35)、
[久敬(;)名)の通称/号]通称;久太夫/四郎太夫、号;薊園けいん
- L3749 **久孝**(ひさたか・守安もりやす、通称;慎助)1802-67⁶⁶ 備中都宇郡の国学者/歌人、
歌;[類題吉備国歌集]5首入
- L3790 **久孝**(ひさたか・岡おか、通称;多門)1809-? 江後期備前上道郡宇治郷湊村の神主、
歌人;1850平賀元義の美作の楯の舎塾入、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入
- L3772 **久敬**(ひさたか・久保田くぼた)? - ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[いつまでもたのめぬ人をまつの戸に契らぬ月の影ぞとひくる](大江戸倭歌;恋1420)
- B3726 **尚高**(ひさたか・児玉こだま、尚房男/本姓;秦)1809-84⁷⁶ 伊勢の外宮神官、国学・歌;足代弘訓門、
久志本常伴と並称、儒学;河崎恪斎門、勤王思想;大塩の乱で大坂町奉行により取調を受く、
1827「万葉集一卷童謡」28「ねよとの鐘」、29「山田の落穂」編、「児玉叢書」「仮服童謡」著、
[尚高(;)名)の字/通称/号]字;積小、通称;左太夫、号;常陰/定居/常葉蔭
- I3789 **久孝**(ひさたか・太田おた、初名;孝)1833-98⁶⁶ 陸奥(陸中)盛岡南部藩士/国学者、のち東京住、
[久孝(;)名)の字/通称/号]字;子頭、通称;三平/平市、号;鶴舟/書廬屋ふみのや
- J3715 **久敬**(ひさたか・瀬崎せさき、通称;辰次郎)?-1887 江後期;備前岡山藩士/国学者;熊谷直好門、
維新後;東京住、武藤手束たつかの師
- K3761 **久敬**(ひさたか・萩原はぎわら、久訓ひさり男)1841-1924⁸⁴ 駿河府中の国学者;父(平田鍬胤門)門、
[久敬(;)名)の通称/号]通称;与次郎、号;石斎
久敬(ひさたか・六車) → 杏陰(きょういん・六車むぐるま、藩士/医者) N 1 6 1 9
久敬(ひさたか・林) → 得閑斎(3世とつかんさい・砂長さちよう、書肆/狂歌) O 3 1 4 3
- B3727 **久武**(ひさたけ・桂かつら/日置、日置領主島津久風男)1830-77^{戦死} 48 桂久敬の養子/薩摩藩士;
1857詰衆/62藩命で大島に赴任/大目附/大久保利通の討幕挙兵参加/1870権大参事;
病で致仕、1877西南戦争に西郷の求めで参戦し戦死、1862「桂久武大島渡海日記」著、
1863「桂久武大島滞在日誌」65「桂久武上京日記」著、
[久武(;)名)の別号/通称]別名;歳貞(;)初名)/歳充、通称;小吉郎/右衛門/四郎
- I3796 **尚質**(ひさただ・加藤かとう、)1716-1780⁶⁵ 京の儒者/信濃飯田藩儒臣、歌人、
[尚質(;)名)の字/通称/号]字;子文、通称;五郎作、号;鴨湊おうし

- B3728 **昔尹**(ひさただ・保井やすい/渋川しづか、保井[渋川]春海男) 1683-1715³³ 幕臣;幕府天文方、1701御目見、1711家督相続;父に先立ち没、1699「経星分位図」著、
[昔尹(;名)の通称/法号]通称;図書しよ、法号;元性
- B3729 **久忠**(ひさただ・永岡ながおか、久長男)?-1759 岩代会津藩士:大坪新流馬術家、「馭馬雑合集」、
[久忠(;名)の通称/法号]通称;勝兵衛、法号;西照院
- J3770 **尚品**(ひさただ・坂さか/本姓;荒木田、) 1752-1830⁷⁹ 伊勢度会郡の神職;内宮権禰宜、
国学・歌;本居宣長門、歌人;自邸で歌会催、
[尚品(;名)の通称] 常陸
- B3730 **尚忠**(ひさただ・九条くじょう/本姓;藤原、二条治孝男) 1798-1871⁷⁴ 母;樋口基康女信子、
九条輔嗣の養子、廷臣;1809住三位/21内大臣/24右大臣従一位/47左大臣、
1856関白・氏長者、公武合体派、和宮降嫁を推進;尊攘派に指弾され1862辞職;出家、
1867還俗/68准三后、
1830「練並執筆儀伝書」59「安政五年吟味書」60「親鸞上人六百回忌御勧進五十首和歌」著、
「尚忠公記」「東本願寺開山遠忌寄春懐旧和歌」著、外記録多数、
[尚忠(;名)の号] 陶化翁、円眞(;出家号)、法号;鶴台
- B3731 **尚忠**(ひさただ・山田やまだ) 1802- 1879⁷⁸ 紀伊和歌山藩士;広敷用人(用人格)、
国学・歌;本居大平・加納諸平門、1872日前国懸両神宮少宮司兼大講義/75致仕、狂文を嗜む、
歌集「垣のここに草」、1830-44頃滑稽本「擬古事記文」著、
[尚忠(;名)の通称/号]通称;莊蔵/莊左衛門、
号;真砂園まさごえん/脚長蝨麻呂あしながのいなごまる(;狂号)/紀伊殿人きいのとびと(;狂号)
- 久忠(ひさただ・野田) → 酔翁(すいおう・野田のだ、幕臣/茶人) E 2 3 1 6
尚忠(ひさただ・藤原) → 尚忠(なおただ・藤原、廷臣/歌人) B 3 2 5 5
尚忠(ひさただ・目黒めぐろ) → 道琢(どうたく・目黒めぐろ、医者) G 3 1 3 3
尚忠(ひさただ・谷川) → 尚忠(なおただ・谷川/谷河、儒者/詩文) B 3 2 5 8
寿忠(ひさただ・佐々) → 鶴城(たづき・佐々ささ、神職/国学) P 2 6 0 1
- B3732 **久胤**(ひさたね・原はら) 1792 - 1844^{53歳} 相模大住郡大槻の歌人;清原雄風・小川伴鹿門、
1824本居春庭門、晩年は帰郷、1824「音韻仮名」、「五十槻搔葉集」「万葉集卷十四の考」著、
「東歌地名考」「百首和歌」著、大久保一翁・福住正兄の師、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[山里の外面の垣のさし柳ことし小柴を抜け出でにけり](大江戸倭歌;春157/山家柳)、
[久胤(;名)の通称/号]通称;新左衛門/和輔、号;契月/桂月/五十槻舎いつきのや、法号;久遠院
- 久足(ひさたり・小津) → 桂窓(けいそう・小津おつ、商家/詩歌人) 1 8 8 2
久足(ひさたり・高浜) → 久人(ひさと・高浜たかはま/南条、商家/歌) K 3 7 1 3
久太郎(ひさたろう・堀田) → 正俊(まさとし・堀田/紀、藩主/大老/歌) E 4 0 4 3
久太郎(ひさたろう・勝田) → 国久(くにひさ・歌川うたがわ、絵師) D 1 7 1 3
久太郎(ひさたろう・渡辺) → 百済(ひやくさい・兼康かねやす、医/儒者) E 3 7 4 9
久太郎(ひさたろう・牧) → 詩牛(しぎゅう・牧まき、詩人) Q 2 1 1 3
久太郎(ひさたろう・河野) → 通義(みちよし・河野、藩士/暦算/武術) C 4 1 8 8
久太郎(ひさたろう・村井) → 政直(まさなお・村井むらい、国学者) P 4 0 7 0
久太郎(ひさたろう・西郷) → 暉隆(てるたか・西郷さいごう、藩士/歌人) C 3 0 7 8
久太郎(ひさたろう・荒川) → 秀種(ひでたね・荒川あらかわ、宿老/歌人) D 3 7 1 7
- B3733 **久近**(ひさちか・本間ほんま) ? - ? 鷺流狂言;1739「鷺流間狂言附」書写:124番
- B3734 **久周**(ひさちか・茂木もてぎ、半兵衛久隆男) 1790-1875⁸⁶ 下野足利学校代官(;祖父好文以来)、
1831足利学校火災;再建のため江戸増上寺で富籤興行、1865「足利学校古文書写」著、
[久周(;名)の通称/号]通称;善/善次、号;桜石
- B3736 **尚嗣**(ひさつぐ・なおつぐ・近衛このえ、関白左大臣信尋男/本姓;藤原) 1622-53³² 廷臣;左少将/左中将、
1633(寛永10)権中納言/従三位/34正三位権大納言/35従二位/右大将兼任/36踏歌内弁、
1637左大将/正二位/40(寛永17)内大臣/42右大臣/47(正保4)左大臣/49従一位、
1651関白・氏長者/53(承応2)関白辞任/没;法名大元、
「江戸道中之事」、「尚嗣公記」「承応第二試筆」著、歌;1638後鳥羽院四百年忌参加、
[紅葉ばは山路しぐるる夕日影くもるにそへて照りまさるらし](後鳥羽院忌;59/紅葉、

- 本歌;足引きの山かき曇りしぐるれど紅葉はいとどてりまさりけり[拾遺;215貫之])
 [尚嗣(;名)の幼名/法名/号]幼名;長君、法名;大元、道号;長山、法号;妙有真空院長山
- I3707 **久語**(ひさつぐ・古谷ふるや、通称清五郎/号;松隠軒)1720-9273 伊勢三重常磐村国学者;萱生由章門、蓬萊尚賢門、「伊勢風土記」「南朝略史」1772「勢陽雜記拾遺」79「背書国誌」88「古屋草紙」著
- B3737 **尚次**(ひさつぐ・長浜ながはま、直次男/本姓;藤原)1797-187882 母;三代子、山城の連歌作者、1811男山宮工司、28將軍家連歌衆に入、天文曆算に通ず、連歌;里村昌逸門、「男山考古録」「八幡染草考」著、
 [尚次(;名)の幼名/通称/号]幼名;新吾、通称;花城/越前、号;凌虚
- K3711 **壽世**(ひさつぐ・高橋たかはし、)1812-188170 江戸の幕臣/神奈川奉行所支配調役;横浜村住、国学者、
 [壽世(;名)の初名/通称/号]初名;登世平、通称;世平(つぐひら?)、号;蝸庵
- B3738 **久受**(ひさつぐ・中西なかにし/本姓;大中臣)1821-190080 代々京の平野神社祠官;1839権禰宜/従三位、大講義、国学者/歌人;1839香川景樹門、従八位、南みなみ佳貞よしただの師、維新後;水無瀬宮禰宜、「石影随筆」「百官補任」編、
 [久受(;名)の通称/号]通称;撰津守、号;石陰せきいん/杉園/薄墨社はくぼくしゃ/巖影
 久次(ひさつぐ) → 増阿弥(ぞうあみ、久次、田楽能役者) 2 5 4 3
 久継(ひさつぐ・百瀬) → 耕元(こうげん・百瀬ももせ、書家) I 1 9 6 7
 久継(ひさつぐ・山崎) → 一郎(いちろう・山崎やまざき、神職/国学) K 1 1 7 4
 久槌(ひさつち・井上) → 信友(のぶとも・井上いのうえ、藩士/国学) H 3 5 2 1
 尚綱(ひさつな・宇都宮) → 慎斎(しんさい・宇都宮、神職/詩歌) O 2 2 4 0
- B3739 **尚経**(ひさつね・九条くじょう、政基男/本姓;藤原)1468-153063 母;従三位智子、廷臣;1485従三位、1496家司唐橋在数殺害の科で父と共に勅勘/98赦免、1501右大臣/関白/氏長者/06左大臣、1514従一位、「後慈眼院殿記」「後慈眼院尚経公装束抄」「後慈眼院殿雜筆」著、
 [尚経(;名)の法号/法諱/道号]法号;後慈眼院のちのじげいん、法諱;行智、道号;花溪
- K3735 **久恒**(ひさつね・中川ながわ、岡藩3代藩主久清の長男)1641-9555 母;石川忠総女/江戸の生、和学者、1666(寛文6)父隠居;家督嗣;豊後岡藩4代藩主、従五下/佐渡守、1669軽犯罪者取締・87捨て子禁止令、関幸輔を招聘;文治教育に尽力、歌人、正室;左阿(池田光政女/1644-1705)、久通/佐都子の父、病弱;1695(元禄8)没;
 長男久通が家督嗣、1691了然尼撰[若むらさき]入、
 [たちまがふ雲もひとつにさくら花朝日色とかみよしの山](茂睡[鳥の迹]春96)、
 [咲きあまる庭の桜の木の間より漏り来る月も花にかすめる](若むらさき;19/月前花)、
 [久恒(;名)の通称/法号]通称;清蔵/佐渡守、法号;宝浄院
- B3740 **寿恒**(ひさつね・菊田きくた、通称;権之丞ごんのじょう)?-1837 仙台藩士/兵法家;大槻清連・山崎郷寧門、甲州流兵法;山崎郷義(郷寧男)より印可、1814「一騎伝口授秘決蘊奥抄」著
- B3741 **久恒**(ひさつね・尼子あまこ、別名;久持、久道男)1818-6346 母;内藤益利女、水戸藩士;1841床机廻、1841家督、国難に諸藩を奔走;1861長州藩と提携、1863小姓頭;諸卿に攘夷主唱中急死、1852・53「尼子長三郎内密覚書」「尼子文書内内密覚書補」著、
 [久恒(;名)の通称] 亀太郎/長三郎
 久常(ひさつね・田村) → 香山(かんだん・田村たむら、藩士/儒者) Q 1 5 8 3
- B3742 **久葛**(ひさつね・藤本ふじもと/本姓;度会わたらい、初名;久誠、小島久苗男)1765-182965 伊勢松阪の人、藤本方久の養子;度会郡に住し御師職、国学・歌;本居宣長・春庭門、書・乱舞に通ず、「記紀仮名格」「春庭と藤本久葛と論書」著、
 [久葛(;名)の字/通称/号]字;勇卿、通称;勇いさみ/伊佐美/五十狭美、号;無釈迦未仏
- B3743 **久連**(ひさつね・佐川さがわ、武兵衛忠久男)1830-7041 加賀金沢藩士、歌人、「佐川良助筆記」著、
 [久連(;名)の通称]良助/良作
- B3744 **久照**(ひさてる・仙石せんごく、俳号;玉芙ぎょくふ)?-? 江戸期旗本?、俳人;其角門、1701其角「焦尾琴しょうびきん」入
- M3740 **久輝女**(ひさてるのむすめ・島津しまづ、家名;永吉)?-? 江前中期;薩摩の歌人、父久輝(初名;久英)は薩摩島津家支流で1674薩摩藩家老(通称;中務);1710(宝永7)没、
 [迹とめぬ雲路わすれずかりがねのたどらで秋の空にきぬらん](茂睡[鳥の迹]秋388)

- I3775 **壽人**(ひさと・小野寺おのでら、) 1773-1841 69 陸奥一関藩士; 蘭医、儒; 佐瀬大道(主計かづえ)門、
[壽人(;)名]の別号/号]別名; 実之/実道、号; 壽仙/壽僊
- K3713 **久人**(ひさと・高浜たかはま、旧姓; 南条) ?-1849 撰津兵庫の商家/国学者/歌人、
南条御笠(利愛としちか)の弟、
[久人(;)名]の別号/通称]別名; 是足/久足、通称; 茶屋久四郎
寿人(ひさと・瀬脇) → 律蔵(りつぞう・手塚てつか、洋学者/訳書) C 4 9 1 0
- B3745 **久任**(ひさとう・西田にしだ、通称; 清兵衛) ?-? 大阪住の連歌作者/俳人; 初め貞門、
連歌; 西山宗因門、師に俳諧を薦めた、1657燕石「牛飼」66句入/66可玖「遠近をちこち集」入、
1673西鶴「哥仙大坂俳諧師」/73西鶴「生玉万句」第二若緑百韻の発句、81賀子「山海集」入、
1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、莪陵の祖父、莪陵「十載薦ととせから」(1777刊)入、
[老松も雨や滝水若緑](生玉万句; 若緑発句/養老の滝/謡曲「老松」; 名こそ老木の若緑)、
[雪下駄や雲にかけ橋富士の山](山海集; 右12/雪下駄; 滑り止金具を打った下駄、
雲に梯は諺; 思いも及ばぬ事/雪下駄で富士に登るとは)
孫 → 莪陵(がらよう・西田、云六斎、俳人) P 1 5 7 7
- B3746 **久任**(ひさとう・多おの、久長男) 1749-1788 40歳 江中期楽人/美濃守、「神楽秘争伝記」編
- L3783 **久任**(ひさとう・足立あだち) 1813- 1879 67 伊予松山藩士; 弓術師範/眞弓と称す、
歌; 石井義卿門、
[久任(;)名]の別号/通称]別名; 眞弓、通称; 武右衛門
久任(ひさとう・多おの) → 忠敬(ただたか・多おの、1686-1763/楽人) P 2 6 7 2
- B3747 **久啓**(ひさとお・春田はるた、根来ねごろ長春男) 1762-? 母; 小堀政良女、幕臣春田久伴の養子/幕臣;
1787家督/91大番/97西丸新番組頭、梅の栽培家、1809「韻勝園梅譜」著(育種の梅の記録)、
[久啓(;)名]の通称]吉五郎/七左衛門/四郎五郎しごろう
- B3748 **久時**(ひさととき・北条ほうじょう/赤橋、北条義宗男/本姓; 平) 1272-1307 36 赤橋家の祖、武将; 室町幕臣、
正五下/刑部少輔/越後・武蔵守/六波羅探題(北方)/幕府評定衆・引付頭人、
寄合衆兼官途奉行、1307出家; 没、歌; 拾遺風体集・柳風抄(2首)入、
勅撰7首; 新後撰(582/1033/1415)玉葉(2033)続千(372)風雅(1425/1835)
[草枕むすぶともなき夢をだになにと嵐のおどろかすらむ](新後撰; 羈旅582)、
(性助法親王しょうじよほしんのう家五十首歌に)、
[久時(;)名]の通称/法名]通称; 陸奥彦三郎、法名; 因憲(因恵)、
守時・英時・足利尊氏室の登子らの父
- B3749 **久時**(ひさととき・多おの、久主男) ?-? 1500 存 楽人/対馬守/1465従五下; 内侍所神楽等に奉仕、
連歌: 新撰菟玖波1句入
- B3750 **久辰**(ひさととき・川上かわかみ、久朗男) 1559-1628 70 武将; 鹿児島島津家の家臣、久国の父、
天正1573-92頃薩摩谷山の地頭/慶長1596-1615頃大隅串良・志布志の地頭職、
1578「川上久辰耳川日記」、「川上左近将監耳川日記」「川上久辰日帳」著、
[久辰(;)名]の幼名/通称/号]幼名; 徳三郎、通称; 源三郎、入道号; 意船、法号; 法雲院
- M3731 **久時**(ひさととき・横井よこい、) 1777-1858 82 尾張藩士; 大番頭、歌人; 冷泉家入門、
[久時(;)名]の字/通称/号]字; 子恒、通称; 平一郎/平太夫/源五兵衛/右衛門、
号; 怨斎/松下庵/佶翁きつおう/和楽
- I3727 **久壽**(ひさとし・柳生やぎゅう/本姓; 菅原) 1696-1781 86 江戸の幕臣; 西丸御小姓/寄合/御徒頭、
西丸御目付/西丸新番頭/同御鎗奉行/本丸にも勤務、従五下/播磨守、
歌; 石野広通「霞関集」入、
[山深き道のゆくてに風おちて涼しくきほふ蟬の声々](霞関; 331/山路蟬)、
[久寿(;)名]の通称]通称; 猪十郎/主水/播磨守、法号; 義静
- B3751 **壽俊**(ひさとし・近藤こんどう、玄寿男) 1704-84 81 幕臣; 馬術家; 馬事の記事に精通、
1734馬書・弓馬稽古了簡の書・流鏑馬の画を幕府に献上/1748家督相続/62致仕、
1738「元文流鏑馬記」56「安多武久路」、「厩坂物語」「毛馬考異」、84「早路乗様覚書」外著多数、
[寿俊(;)名]の通称/号]通称; 半輔/半助/又左衛門、号; 宗三(;)致仕後)
- B3752 **久利**(ひさとし・飯塚いづか) ? - ? 上州倉賀野の歌人、1843「篤葉末」、「越路日記」著、
飯塚久敏と同一? → 久敏(ひさとし・飯塚、歌人) B 3 7 5 3

- B3753 **久敏**(ひさとし・飯塚いづか) 1809-1864⁵⁶ 上州倉賀野の歌人/国学・歌;橘守部門、
守部男冬照とは対立、1839「松落葉」、49「さしもぐさ」(歌学書)/57「諏訪旧跡志」著、
1858「玉帚」著(冬照を非難)、「万葉草木考」「上野国古碑考」「上野国旧地考」「不思草」著、
「松の古葉」「三枝集」「言葉初草」、家集;「飯塚久敏歌稿」1855「かきつの松かさ」著、
1862「玉籠集」(歌人320人1838首入)外著多数、
[久敏(;名)の通称/号]通称;弥兵衛、号;松垣内/松廼舎/松蔭、 信州の門人多数
- B3754 **尚俊**(ひさとし・益頭まげ、通称;駿次郎、検校益頭尚房[芙蓉一]男) 1820-1900⁸¹ 江戸の吏;
1844普請役、1860遣米使節新見正興に随行/61遣欧使節の随員、1867勘定役、
「亞行航海日記」/1861-2「欧行記」著
- I3749 **久利**(ひさとし・仙石せんごく、5代藩主久道12男) 1820-1897⁷⁸ 母;積善院、1824(5歳)但馬出石7代藩主、
従五下/讃岐守/のち正四位、幼少のため父久道が後見役;家老仙石久寿(左京)が反論;
左京は免職、藩財政窮迫;左京再任;俟約強化策/藩士反発;仙石騒動/幕命で左京は獄門、
藩主久利も5万8千石から3万石を減/1839酒匂清兵衛登用し藩政改革;反発が起こる、
幕府は堀新九郎を家老に送りこみ藩を実質支配下に置く;1862左京を切腹させ藩論統一、
1868新政府に恭順/69出石藩知事;70甥政固まさたに家督譲り隠居;東京住、
正室;安藤信由女の正子(法蓮院)、
歌;千種有功ありと門、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[五月雨のふる江の水もこの頃は波立つまでに成りにけるかな](大江戸倭歌;夏518)、
[久利(;名)の幼名/通称]幼名;雅次郎、通称;道之助/讃岐守、法号;専光院
久年(ひさとし・島津/末川)→ 久救(ひさひら・末川/島津、歌人) B 3 7 7 2
久俊(ひさとし・橋本) → 頼胤(よりのね・葉室はむろ/藤原/橋本、廷臣/記録) I 4 7 9 8
久寿(ひさとし・佐善) → 月溪(げつけい・佐善さぜん、藩士/儒医) N 1 8 7 8
- B3755 **旧富**(ひさとし・園原そのはら/本姓;藤原) 1700-76⁷⁷ 信州木曾三留野の神職;天王祠神主、
上京し神道学;神祇管領長上吉田兼敬門;神道の秘訣を受、帰郷後子弟教育;
臼挽歌を作り教導/改変を嘆き木曾古道を踏査、1751「神国石臼歌」、「神国童謡歌」、
「木曾古道記」「美濃御坂越記」、1775「神心学問答鈔」著、
[旧富(;名)の通称/号]通称;耶麻登ままと、号;桂翁
- I3759 **久富**(ひさとし・上田うただ、) 1707-1779⁷³ 近江彦根藩士、歌人;彦根藩士石尾洋方ひろた門、
[久富(;名)の通称]通称;善右衛門
- M3711 **久富**(ひさとし・安田やすだ、旧姓;大島) 1740-1827⁸⁸ 播磨揖保郡(網干庄)余子浜の大庄屋、
国学;荒木田久老門、
[久富(;名)の通称/号]通称;弥九郎、号;休圃
- B3756 **久富**(ひさとし・大口おおぐち、大口端山たんだんの養子) ?-? 名古屋の歌人、1867「古事記万葉長歌集」編、
[久富(;名)の通称/号]通称;佐太郎、号;白櫃屋、鯛二たいの父
久福(ひさとし・田中) → 友鶴(ともつる・千歳軒、狂歌) P 3 1 8 9
久富(ひさとし・松平) → 久豊(ひさとし・松平、藩家老/日記) B 3 7 6 1
- B3757 **久知**(ひさとし・大田おおた) ? - 1672 鹿児島藩士;御納戸奉行/御記録奉行兼務、
1669「薩摩諸家大概」編(薩摩本藩24家の伝;河野通古と編纂)、
[久知(;名)の通称/法号]通称;小平次、法号;一無実性居士
- K3742 **久与**(ひさとし・永岡ながおか/本姓;平) ?-1710 出雲松江の神職;熊野権現社司、
[久与(;名)の通称] 宮内少輔くないしょう/くないせふ
- B3758 **尚友**(ひさとし・岩井田いかにだ、尚記男/本姓;荒木田) 1728-94⁶⁷ 伊勢度会郡宇治の神職;内宮権禰宜、
国学;1787本居宣長門、歌を嗜む、「神論記」「祇承勤方之覚」著、尚徳ひさのりの父
[尚友(;名)の幼名/通称]幼名;長之助、通称;内記
- B3759 **尚智**(ひさとし・沢さわ) ? - ? 江中期伊勢度会の和算家、
1787「暦法異術略記」、「秘開暦」編、「両食考記」「通暦雑式」著、
[尚智(;名)の通称]長五郎/吉右衛門/善八
- B3760 **久備**(ひさとし・北村きたむら/本姓;源) ?-? 江後期文化文政1804-30頃越後与板藩士/1807藩公用人、
1814用人、国学;1814平田篤胤門、篤胤の母の甥、「以呂波考」「百人一首手爾乎波略解」著、
1801「追遠録」05「弓爾遠波考」07「万葉集僻案」12「すみれ草」(;源氏物語注釈)14「勇魚鳥」著、

[久備(；名)の通称]順右衛門/須右衛門/一学

- I3784 **久儔**(ひさとも・大平おおだいら、久林男)1815-1902⁸⁸ 信濃伊那郡野池村の郷士、
国学；太田中彦・森広主門、古史伝上木に出資、
[久儔(；名)の通称/号]通称；新右衛門/慎吾、号；鶴巢じゃくそう
久儔(ひさとも・梧桐ごどう) → 五兵衛(ごへ・桐屋きりや、茶屋/俄興行)N 1 9 5 9
久儔(ひさとも・島津) → 久慶(ひさやす・島津しまう、藩士/日記) C 3 7 0 9
- B3761 **久豊**(ひさとよ・松平まつだいら、別名；久富/久義、久次男)1652-1720⁶⁹ 出羽庄内藩士；1658父没；分家、
3百石/1660番頭/76組頭/80家老；千4百石/14致仕、「武右衛門日記」著、
[久豊(；名)の通称] 武右衛門、
- L3780 **壽豊**(ひさとよ・田中、大秀[1777-1847]長男)?-1855 母；滝子、飛騨高山一之町の菓種商田中屋の生、
国学者/歌人；父門、1855父隠居；家督継嗣；間もなく没、
蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、
[あふみのや比良の高嶺に風さえてけさしも氷る志賀の海づら](大江戸倭歌；冬1164)
[壽豊(；名)の別名/通称]別名；秀町/御苗、通称；弥太郎/弥兵衛
- I3709 **尚豊**(ひさとよ・後藤ごどう、初名；豊尚、後藤熊太郎男)1839-1914⁷⁶ 後藤覺左衛門の養嗣子、
阿波名東郡早淵の国学者；小出直城門、1862早淵村外5村の与頭庄屋、67鮎喰川堤防の修理、
藩命で1868外堤新築完成、1871「続阿波風土記」編纂に参加、梅林牡丹園を経営、
歌・狂歌を嗜む、「阿波誌」「阿波国名東郡郷名略考」「藍方仕末書」著、
[尚豊(；名)の通称/号]通称；縫之助ぬいすけ/麻之丞/麻之丈あさのじょう、号；水薦野舎/堤下狂人
- J3787 **久直**(ひさなお・新庄しんじょう、)1827-1902⁷⁶ 豊前中津藩士/日田郡長、国学者、
[；名)の通称/号]通称；関衛、号；南塘
久中(ひさなか・島津/末川) → 久救(ひさひら・末川/島津、歌人) B 3 7 7 2
久中(ひさなか・本多) → 恒久(つねひさ・本多ほんだ、家老/国学) G 2 9 3 4
久仲(ひさなか・高橋) → 親宗(ちかむね・高橋たかはし/紀、廷臣/故実) B 2 8 9 9
- B3762 **久脩**(ひさなが・土御門つちみかど/本姓；安倍、賀茂在高男)1560-1625⁶⁶ 母；織田甲斐守女、
叔父土御門有脩の嗣(一説に有脩男)、廷臣；3代前の有宣の頃戦火を避け若狭名田荘に住、
1573(天正元)陰陽頭/80天文博士、1600(慶長5)出仕の命で上京；梅小路村に住；180余石、
1621従三位/家学の陰陽道・天文道・暦道で出仕、1590「泰山府君祭神前供物記」著、
泰重の父
- B3763 **故長**(ひさなが・河辺かわべ、精長きよなが男/本姓；大中臣)?-? 伊勢の神職、長春ながはるの兄弟、
中西信慶小田成近と伊勢両宮造宮について対談問答；1667「太神宮造制或問」著、
- B3764 **久長**(ひさなが・三俣みつまた、通称；八左衛門)?-? 江前期和算家；関孝和門、1674「発微算法」校
- B3765 **尚長**(ひさなが・甘露寺かんろじ、方長男/本姓；藤原)1685-1718³⁴ 兄輔長・康隆早世により家督継嗣、
廷臣；1714参議/正四上/左大弁/15従三位/18権中納言、
「尚長卿記」「条事定改元等私記草」、1710「諒闇終大祓留」著、
[尚長(；名)の法号]松巖院
- B3766 **久長**(ひさなが・松平まつだいら、久映ひさひで男)?-? 江中期出羽庄内藩士；組頭/1760家督相続、
1775「日光拝借割帳」、「江戸御用留抜書」著、
[久長(；名)の通称] 武之進/柚次郎そまじろう、 武右衛門久中の養父
- B3767 **久長**(ひさなが・多おおの、豊原数秋男)1708-87⁸⁰ 多久富の養子/左近将監/撰津守/1787正四上、
1765秘曲再興を賞される、1753「多久長朗詠墨譜」著
- B3768 **尚長**(ひさなが・東坊城ひがしほうじょう、益良男/本姓；菅原)1778-1805 母；小倉宜季女、廷臣；1794少納言、
1798大内記/1801文章博士/04従三位、「吟稿」「日記」著
- J3720 **尚長**(ひさなが・紀きの、俊和としかず男)1808-79⁷² 紀伊名草郡日前国縣宮76世宮司；紀国造家76世、
祖父三冬みつゆを継嗣、国学・歌人；本居大平・本居内遠門、
[尚長(；名)の通称] 八穂主
- B3769 **尚長**(ひさなが・山崎やまさき) ? - ? 江末期/対馬の実録作者；1831「天野源右衛門朝鮮軍物語」、
1856「朝鮮征討始末記」著
- B3770 **久命**(ひさなが・内田うちだ、丹蔵男)?-1868 近江彦根藩士；1809七十人歩行/小納戸方用向取調役、
1848病で致仕、和算家；仙台の長谷川善左衛門門、1856彦根藩校弘道館の算術指南、

1844「算法求積通考」編、「方陣之法并零約術」著、

[久命(；名)の通称/号]通称；半吾、号；岳湖

- B3771 **久徴**(ひさなが・島津しまづ、日置領主の久風男)1819-70⁵² 薩摩藩士/家老、斉興・斉彬・忠義3代に出仕、藩主斉彬なりあきらの代に城代家老島津久宝と対立；致仕/藩主忠義の代に再登用；主席家老、1861拳藩公武合体策に反対し罷免される、1852「島津久徴東行日記」著、

[久徴(；名)の通称]左衛門/下総

尚長(ひさなが・中御門) → 尚長(ひさよし・中御門、連歌/日記)

尚長(ひさなが・丹波) → 尚長(なおなが・丹波、医者/歌人) B 3 2 9 2

尚長(ひさなが・祝部) → 尚長(なおなが・祝部はふりべ、神職/歌人) B 3 2 9 3

尚長(ひさなが・永井) → 尚長(なおなが・永井、藩主/詩文) B 3 2 9 4

久徴(ひさなが→ひさなる・島津) → 天錫(てんしゃく・島津しまづ、領主/詩人) D 3 0 7 0

- J3733 **久成**(ひさなり・久保くぼ、)1804- 1881⁵⁸ 長門萩藩士/国学者/歌人、手習塾を開設；

親戚の玉木文之進の私塾[松下村塾](所在地の松本村に因む)の名称を継承する、のち1857吉田松陰が松下村塾を継嗣(久成は松陰の外叔父)、

[久成(；名)の通称]五郎左衛門/幾之進

- I3735 **久大**(ひさなり・辻つじ、別名；久太、成久男)1816-69^{54歳} 江後期楽人；1829(文政12；14歳)正六下、

土佐介、江戸住、久泰の兄弟、久臣・貫幸の父、歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[あくがれし吉野の里の春もややみぎはにうつる山吹の花](大江戸倭歌；330山吹)

- L3767 **久成**(ひさなり・渡辺わたなべ/本姓；源、通称；惣右衛門)?-? 江後期；歌人、幕臣？

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[葛の葉のうらむもあやなたなばたの年の一夜に限るあふせを](大江戸倭歌；秋714)

- L3774 **久大**(ひさなり・間瀬ませ) ? - ? 江後期；歌人、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[忘れ草たねもとめしや住の江のうらみよとてのすさびなるらん](大江戸倭歌；恋1485)

- L3701 **久成**(ひさなり/ひさすみ・町田まちだ/本姓；藤原、久長の長男)1838-97⁶⁰ 母；汲(吉利郷領主小松清穆女)、薩摩鹿兒島藩士；島津氏庶流、1856江戸の昌平坂学問所に修学/国学；平田鉄胤門、

1859帰郷；御小姓組番頭/63大目付、薩英戦争に本陣警護隊長で参戦；部下に東郷平八郎、

1864薩摩藩開成所設立に参加/禁門変に六郷隊隊長で参戦、65英国留学、67パリ万博参加、

隆盛らの武力討幕方針に反対/1868参与職外国事務掛/以後美術品流出を惜み収拾に尽力、

1869英国王子の接待責任者、天長節無断欠席で謹慎処分、70大学大丞/71物産会開催、

1873内山下町博物館開館/74フイテールフイア万博事務局長/82東京帝室博物館初代館長、

1883桜井敬徳より東大寺戒壇院で円頓菩薩戒を受；僧侶、85元老院議員、

1890園城寺子院の光浄院住職/93万国宗教会議に参加、97寛永寺明王院に没、

[久成(；名)の通称/号]五郎/太郎/助太郎/図書/民部、号；石谷

- L3712 **久成**(ひさなり・伊藤いとう、初姓；丸山まるやま/変姓；金井)1839or38-1902^{64or65} 信濃上田の生、

伊那の小監察、国学；成沢寛経・平田鉄胤門、相楽総三率いる赤報隊に参加；

変名金井清八郎、下諏訪の赤報隊[偽官軍]事件で同志が捕縛処刑の中；逃走、

のち伊藤久成を名乗り赤報隊の汚名を晴らすため奔走；下諏訪に石碑建立、

[久成(；名)の初名/通称/屋号/変名]初名；梅夫、通称；徳五郎/九右衛門、屋号；鼠屋、

変名；金井清八郎

- B3773 **久成**(ひさなり・佐野さの、徳太郎男)1840-1907⁶⁸ 常陸水戸藩士/1868藩命で奥羽征討に参加、

維新後；神職；京の豊国社権禰宜/禰宜兼権少講義/1881大阪生国魂社禰宜、国学者、

「栄華物語標註」著

久成(ひさなり・大塚) → 退野(たいや・大塚、儒者) C 2 6 2 4

久成(ひさなり・津島) → 恒之進(つねのしん・津島つしま、本草家) C 2 9 9 7

久救(ひさなり・末川) → 久救(ひさひら・末川/島津、藩士/歌人) B 3 7 7 2

久女(ひさによ・五十川) → 久女(ひさじよ・五十川いそかわ、俳人) B 3 7 1 4

久貫(ひさぬき・高島) → 祐庵(ゆうあん・高島、幕府奥医) 4 6 5 3

久主(ひさぬし・千家) → 尊晴(たかはる・千家せんげ、国学者/歌人) X 2 6 8 1

膝上胡椒(ひごのうえのこしょう) → 南畝(なんぼ・太田、四方赤良、狂歌) 3 2 3 3

- 久之丞(ひさのじょう・高橋)→ 僧樸(そうぼく:法諱、真宗本願寺派僧) I 2 5 9 2
 久之丞(ひさのじょう/きゅうのじょう・深見)→ 願齋(いさい・深見ふかみ/高、書家) E 1 1 2 4
 久之丞(ひさのじょう・井上)→ 正敦(まさあつ・井上いのうえ、藩主/歌) N 4 0 3 0
 久之丞(ひさのじょう・富沢)→ 盛阜(もりおか・富沢とみざわ/木村、藩士/歌) K 4 4 7 1
 久之進(ひさのしん/きゅうのしん・菊池)→ 東水(とうすい;号・菊池きくち、馬医) F 3 1 8 2
 久之進(ひさのしん/きゅうのしん・中島)→ 友文(ともぶみ・中島、国学/万葉研究) Q 3 1 5 2
 久之助(ひさのすけ・衣笠)→ 守由(もりよし・衣笠きぬがさ/東、絵師/歌) J 4 4 9 0
 久之助(ひさのすけ・伊達/岩城)→ 隆韶(たかつぐ・岩城いわき、藩主/学問/歌) V 2 6 7 2
 久之助(ひさのすけ・宇治)→ 延武(のぶたけ・宇治うじ、藩士/教育) H 3 5 4 6
- B3774 **久信**(ひさのぶ・松浦まつら、号;泰岳、平戸藩主鎮信しげのぶ男) 1571-1602³² 母;西郷純隆女、武将;
 豊臣秀吉の臣、1587秀吉の島津征討に祖父・父と出陣/1592父と朝鮮出兵/98帰国、
 1601平戸藩主(2代)、関ヶ原では大坂方;1602山城伏見で没、従五下/肥前守、
 「朝鮮陣覚書」著、法号;豊心院
 家系については → 静山(せいざん・松浦まつら) B 2 4 7 6 の平戸の松浦家参照
- B3775 **古信**(ひさのぶ・狩野かのう、周信男/本姓;藤原) 1696-1731³⁶ 絵師;木挽町狩野家4世、画法;父門、
 母;平井省庵正興女、妻;岡部忠平以誠女、1726家督継嗣;幕府に出仕/法眼、
 「鷹図」「鷹御下絵」「巻物地取」「鳥獸鷹象写生」「有徳院吉宗加筆鷹画草稿」著、
 [古信(;名)の通称/号]通称;庄三郎、号;栄川、法号;法性院
- J3763 **古信**(ひさのぶ・佐々木ささき、) 1826-1899⁷⁴ 長門萩藩士/歌人;近藤芳樹・仲田顕忠門、
 「梅屋歌集」「かしらの雪」著、
 [はたゝきのもろはに思ひかはしてもなど逢ふことの片しのぎなる]、
 (相思不逢恋/萩城三十六歌仙/萩の歌人入)
 [古信(;名)の通称/号]通称;勝次郎、号;梅屋
- B3776 **久舒**(ひさのぶ・樺山かばやま、雅楽男) 1831-1912⁸² 日向佐土原藩士;1853出仕/家老、
 藩の窮乏を救うために本藩薩摩藩に赴く、1863薩英戦争和議に参画/維新には各地転戦、
 藩の権参事/東京で検事・警部歴任、「薩英和睦談顛末」著、
 [久舒(;名)の通称/法号]通称;舍人/岩記、法号;高岳院
- K3702 **久宣**(ひさのぶ・関口せきぐち、通称;敬之丞) 1835-1908⁷⁴ 播磨竜野藩士;大目付、国学者、礼儀指南役、
 維新後;白鷺山の日山粒いぼ神社祠官となり神社再興、1874日山神社に改称;郷社となる、
 1879粒座天照いぼにますあまてらす神社と改称/1882県社となる;以後関口家が祠官を継嗣
 久信(ひさのぶ・伊集院) → 元巢(げんそう・伊集院いじゅういん、武将) K 1 8 7 5
 久信(ひさのぶ・松浦) → 東鶏(とうけい・松浦まつら、易占家) D 3 1 1 7
 久信(ひさのぶ・百齋;画号)→ 石上(せきじょう・樹下じゅげ、梶原、黄表紙) D 2 4 6 0
- B3777 **久仰**(ひさのり/ひさもち・新納にいろ、畠山義矩男) 1807-73⁶⁷ 母;新納久儔ひさとも女/新納久命の養子、
 薩摩藩士;1849大番頭/勘定奉行/1851島津斉彬襲封後に家老、斉彬の政策を補佐、
 斉彬没後は城代家老島津久宝と財政整理、1863家督を譲渡、1828「五代忠元譜参証」、
 1859「新納久仰雑譜」、「新納忠清譜」「新納忠堯譜」「新納忠秀譜」著、
 [久仰(;名)の通称] 亀之介/彦九郎/次郎四郎じろしろう/内蔵/駿河/義愈/葦洲
- B3778 **尚式**(ひさのり・三善) ? - ? 連歌、1356刊「菟玖波集」発句入、
 [花は風春は鐘聞く別れかな](菟玖波集;発句2078/三月尽日の連歌に)
- I3755 **尚徳**(ひさのり・岩井田いかいだ、尚友男/本姓;荒木田) 1757-1832⁶⁶ 伊勢度会郡宇治の神職;
 内宮権禰宜、国学:本居宣長門、歌を嗜む、
 [尚徳(;名)の幼名/通称]幼名;経徳、通称;三郎/奉膳
- J3703 **尚準**(ひさのり・数江かづえ、旧姓;脇坂) 1774-1828⁵⁵ 近江彦根の国学者/歌人;[彦根歌人伝・亀]入、
 [尚準(;名)の字/通称/号/法名]字;子博、通称;原丈、号;玉棧/逢原堂、法名;静喜
- B3777 **久仰**(ひさのり/ひさもち・新納にいろ、畠山義矩男) 1807-73⁶⁷ 母;新納久儔ひさとも女/新納久命の養子、
 薩摩藩士;1849大番頭/勘定奉行/1851島津斉彬襲封後に家老、斉彬の政策を補佐、
 斉彬没後は城代家老島津久宝と財政整理、1863家督を譲渡、1828「五代忠元譜参証」、
 1859「新納久仰雑譜」、「新納忠清譜」「新納忠堯譜」「新納忠秀譜」著、
 [久仰(;名)の通称] 亀之介/彦九郎/次郎四郎じろしろう/内蔵/駿河/義愈/葦洲

- B3779 **久範**(ひさのり・五弓ごきゅう、久直の嗣/本姓;藤原)?-? 備後芦田郡府中市村の八幡宮宮司、1835失明、先祖は石岡氏を称す、「小学割記」「神武天皇」著
- B3780 **尚教**(ひさのり・並河なみかわ・なびかわ/本姓;平) 1812-93⁸² 京室町錦小路北の内科医/御所滝口に出仕、左衛門大尉、「誠所せいし先生詩稿」「天民てんみん先生遺稿拾録」編、[尚教(;名)の字/通称/号]字;道夫、通称;左衛門大尉、号;立斎
- K3760 **久訓**(ひさのり・萩原はぎわら/本姓;源、) 1815-86⁷² 駿河府中の町頭役、国学者;平田鍊胤門、久敬の父、新庄道雄(三階屋仁右衛門)編「駿河国新風土記」の[井宮村妙見社の条]を執筆?、[久訓(;名)の初名/通称/号]初名;鶴夫、通称;四郎兵衛、号;堅石之舎
- B3781 **尚憲**(尚徳ひさのり・吉田よしだ、令世のりよ3男) 1831-67³⁷ 常陸水戸藩士/1857弘道館歌道掛、国学者/歌人、1851斉昭「明倫歌集」編纂参画、1864天狗党挙兵に連座入牢、城下赤沼の獄で病死、「齊州百首」「明倫二百首」「忍之緒」、1857「神璽考拾遺」61「ふもとのなげき」66「桜花百首」著、[尚憲(;名)の通称/号]通称;於菟三郎おとさぶろう、号;樸堂ぼくどう、
- J3796 **古式**(ひさのり・鈴木すずき、) ? - ? 江後期;紀伊和歌山藩士、国学;本居内遠(1792-1855)門、[古式(;名)の通称]三兵衛/芳右衛門
- | | | | |
|-------------|---|-----------------------|-----------|
| 久敬(ひさのり・浅加) | → | 久敬(ひさたか・浅加あさか、藩士/国学者) | B 3 7 2 1 |
| 久徳(ひさのり・森) | → | 忠義(ただよし・森もり、藩士/記録) | R 2 6 3 2 |
| 久徳(ひさのり・菊池) | → | 三馬(さんば・式亭しきてい、戯作者) | 2 0 5 5 |
| 久徳(ひさのり・遅塚) | → | 速叟(そくそう・遅塚ちづか、藩儒) | F 2 5 1 9 |
| 尚規(ひさのり・竹村) | → | 尚規(なおのり・竹村、国学/歌人) | C 3 2 0 8 |
| 久宣(ひさのり・山中) | → | 天水(てんすい・山中、儒者/詩文) | D 3 0 9 3 |
| 尚徳(ひさのり・山脇) | → | 東洋(とうよう・山脇、医者) | H 3 1 7 7 |
| 尚典(ひさのり・吉田) | → | 愚谷(ぐこく・吉田よしだ、儒者) | C 1 7 3 7 |
- J3709 **久初**(ひさはる・樺山かばやま、忠陽ただあき男) 1695-1750⁵⁶ 薩摩鹿兒島藩士/家老、国学者、歌人;父門、[久初(;名)の通称/号]通称;主計かづえ、号;久躬
- B3782 **久春**(ひさはる・多おの、久資男) 1256-1344⁸⁹ 楽人/右近将監、肥後守/正五下、「風俗譜序」著
- M3734 **久春**(ひさはる・吉田よしだ、) 1828-1903⁷⁶ 安藝広島藩士;大坂蔵屋敷詰/大坂住、国学者・歌人;高橋残夢門、[久春(;名)の通称/号]通称;健次郎、号;瞿麦くばく園/報春亭/如雲
- M3735 **久治**(ひさはる・吉村よしむら/本姓;藤原、) 1843-1918⁷⁶ 近江蒲生郡の比牟礼(日牟禮八幡)神社祠官、国学;平田鍊胤・丘義純門、歌;[鳩のうみ]入 [久治(;名)の通称]良造/主計かづえ
- | | | | |
|--------------|---|-----------------------|-----------|
| 久春(ひさはる・伊集院) | → | 元巢(げんそう・伊集院いじゅういん、武将) | K 1 8 7 5 |
|--------------|---|-----------------------|-----------|
- J3705 **尚彦**(ひさひこ・片山かたやま、) 1820?-1900?⁷⁰ 肥前平戸の絵師;父門;狩野派を修学、壹岐対馬神社禰宜、江戸;住吉弘貫ひろつら門、平戸藩に出仕、維新後東京に住、守住貫魚と共に弘貫門下の逸材と称される、1882日本最初の絵画共進会に「巨勢金岡賢聖障子を画く図」入選、[尚彦(;名)の通称/号]通称;忠助、号;竹屋/貫道かんどう
- H3799 **久秀**(ひさひで・松永まつなが) 1510-1577^{自刃} 68 室町末期堺の武将/三好長慶の家臣、弾正少弼、大和の諸城を攻略/信貴山・多聞山に築城、主家を滅し將軍義輝を自殺に追い込む、1567大仏殿焼討、73織田信長に敗北/信貴山に籠城;自刃、アルメイダ「日本通信」に城郭都市多聞城の見聞記入
- B3783 **久英**(ひさひで・磯谷いそがい、良哲男) 1657-1718⁶² 父は松江藩浪人/幼少時山鹿素行に従い兵法修学、素行の推挙で1677津軽藩主信政の近習/1681藩士;新地3百石/世子信義の読書指南、1695弘前に住/96大目付/1701用人;4百石/03致仕、1675「積徳堂書籍目録」著、「諸城変遷録」「百沢事類」「素行子先生御配流之一件」著、[久英(;名)の字/通称]字;義言よしとき、通称;権太夫/平介/十介/十助
- B3784 **尚秀**(ひさひで・錦小路にしきのこうじ/本姓;丹波、岡崎国久男) 1705-56⁵² 1720錦小路頼庸の養子/23元服、廷臣;典薬頭/国書頭/1756住二位、1725-50日記「錦小路尚秀卿記」著

- B3785 **久映**(ひさひで・松平まつだいら、久豊男)1711-6050 叔父松平源左衛門久寛の養嗣子、出羽庄内藩士、1719家督/38中老/46家老、在職中江戸で没、1735「羽州庄内領産物帳」著、久長の父、
[久映(；名)の通称] 武右衛門
久秀(ひさひで・今井) → 宗久(そうきゅう・今井、商家納屋衆/茶人) B 2 5 0 1
久仁(ひさひと；親王) → 後深草天皇(ごふかくさてんのう、持明院統祖) D 1 9 6 7
- B3772 **久救**(ひさひら・末川すえかわ、初名；久年/久中、島津貴儔たかとも男)1739-182789 母；山下秀明女、大隅垂水島津家の生/島津貴澄の継嗣；末川を称す、薩摩藩士；重豪・斉宣・斉興3代に出仕、1781大目付/若年寄、市川鶴鳴を垂水に招聘し領内改革を企図；容れられず1786辞職、1806鹿児島で隠棲、文武両道/詩文；吉田清純門/儒；向井友章門/歌；飛鳥井家門、書画・生花・茶・故実に通ず、1812「波の下草」撰(垂水島津家歌集)、
「薩摩守宗信之遺事」「砲術伝来」、妻；嘉代子、
[久救(；名)の字/通称/号]字；元善、通称；金之丞/織衛/将監/大学、号；周山/高雲堂
- L3799 **久弘**(ひさひろ・多おの、豊原直秋2男)1741-182484 多久雄の養嗣子；廷臣；楽人雅楽、1751(寛延4)正六下右近衛将監/59従五下/63豊後介/67従五上/75正五下豊後守/85従四下、1795(寛政7)病で辞任、久敬・忠吉の父、
- L3797 **古博**(ひさひろ・清水しみず、)1760-182768 出雲松江の国学・歌；芝山持豊/小豆沢良恭あざさわよしやけ門、
[古博(；名)の通称/号]通称；金太郎/加村屋市右衛門、号；松声軒/有慶、
朝山嘉路・小豆沢勝貞の師
- L3743 **久寛**(ひさひろ・宮坂みやさか、)? - 1859 江後期；信濃諏訪郡の金物商；白木屋、国学者、国学・歌；服部菅雄(1775-1837)・田中大秀(1777-1847)・本居内遠(1792-1855)門、
[久寛(；名)の通称/号]通称；周兵衛、号；梅屋いおく/白周、屋号；白木屋
- B3787 **尚広**(ひさひろ・蓬萊ほうらい、別名；尚雄、尚知男/本姓；荒木田)1816-6146 伊勢度会神職；内宮権禰宜、副大物忌兼務、神典・国学；足代弘訓門、正六位/大阪で没、「近例引留」編、1836「神事参勤日記」/33-51「蓬萊尚雄日次記」/51-61「蓬萊尚広日次記」、「戊戌書窗日録」、「荒木田尚雄詠草」著、「御裳濯河大橋大橋部類」編、「鶏犬居詠草」、「浅学備忘神宮之部」編、
[尚広(；名)の通称/号]通称；監物けんもつ/雅楽うた、号；遅月軒
- L3723 **久寛**(ひさひろ・泉いづみ、久澄の長男)1825-7248 越後蒲原郡の酒造業/国学・歌；雛田中清門、
[久寛(；名)の初名/通称/号]初名；寛、通称；佳一/新次郎、号；佳逸/白水
- M3714 **尚簡**(ひさひろ・柳やなぎ、別姓；梅谷/山本、)1830-9970 伊勢度会郡の伊勢神宮禰宜、国学者、広田神社祠官、
[尚簡(；名)の通称/号]通称；末加/縫之助、号；南亭/巢屋逸史
久寛(ひさひろ・川瀬) → 東井(とうせい・松葉軒、辞書著) F 3 1 9 0
- B3788 **久章**(ひさふみ・山崎やまさき、久城ひさき男/本姓；弓削)1711-8676 遠州佐野郡垂木の雨桜天王社祠官；父を継嗣、神道；1723杉浦国頭門/のち師の講義録を書写、国学；賀茂真淵門、荷田春満相伝の月並歌解式を記録、内山眞竜と交流、「百人一首講聞記」著、
[久章(；名)の通称] 千倉
- B3789 **修文**(ひさふみ・久間くま)1797 - 186165 福岡の和算家/関流算法；1827江戸の長谷川寛門、横川流算法；広羽修古門、福岡で開塾、1832「算法麓逕」40「久間氏新術」48「小器表并用例」、1857「神璧算法精解」、「開逕分積算法」編/「坦斎随筆」「麓逕」「麓逕表裏卷解」外著多数、
[修文(；名)の通称/号]通称；太六/宅平、号；坦斎/担斎
- I3750 **久文**(ひさふみ・春田はるた/本姓；源)?-? 江後期；書家、1842(天保13)連歌集「集連しゅうれん」(1554[天文23]編纂)を筆写す、歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[色深く咲きかかりたるあさがほに荒れし垣根もつくるひにけり](大江戸倭歌；秋752)
- K3722 **古史**(ひさふみ・寺尾てらお、)1825-189874 尾張名古屋の紙商、歌人；氷室長翁ながとし門
[古史(；名)の通称/号]通称；茂右衛門、号；櫛園おくえん
- K3728 **尚文**(ひさふみ・当麻とうま、)? - ?天保1830-44頃没 備前上道郡出身/岡山西大寺町の商家、屋号；片上屋/質商・諸問屋経営；藩の別改扶持人、国学者；藤井高尚・平田篤胤門、
[尚文(；名)の通称/号]通称；片上屋治郎兵衛、号；白禱屋かしのや
尚文(ひさふみ・今泉) → 千春(ちはる・今泉いまいづみ、歌人) F 2 8 1 8

- 久文(ひさぶみ・五弓) → 雪窓(せつそう・五弓ごきゆう、国学/儒学) E 2 4 5 1
 久文(ひさぶみ・武田) → 立斎(りつさい・武田たけだ、儒医/経学) B 4 9 8 7
 斐三郎(ひさぶろう・武田) → 成章(しげあや・武田たけだ、幕臣/兵学者) Q 2 1 5 7
- B3790 寿正(ひさまさ・池田いけだ/本姓;藤原、通称;民部丞)?-? 室町中期撰津池田の武家:細川家の臣、
 連歌:1495成立宗祇「新撰菟玖波集」1句入
- B3791 久政(ひさまさ・松屋まつや/土門) 1521?-1598 78? 戦国安桃期;奈良転害郷今小路の塗師(漆屋);富商、
 茶人;千利休・武野紹鷗らと交流、珠光流茶道を伝承、戦火を避け一時堺に避難、
 1533-96「松屋茶会記」著、久好の父、久重ひさしげの祖父、
 [久政(;名)の通称/屋号]通称;漆屋源三郎、屋号;松屋、
- J3722 久正(ひさまさ・喜入きいれ、川上久光長男) 1550-1632 83 戦国-江前期;武将/薩摩鹿児島藩士、国学者、
 藩主島津義久の命で喜入忠道の養嗣子、菱刈氏攻めに参戦;国分の地頭となる、
 1599(慶長4)伊集院忠真の庄内の乱に島津忠恒の命で上洛;家康に伊集院12城図を献上、
 忠恒が藩主となり老中に就任;久正は家老となる、忠恒へ「伊勢物語」を伝授、
 妻;北原兼親女、久供・久憲・川上久信の父、
 [久正(;名)の通称/号]通称;十郎次郎/大炊助、法号;紹嘉、戒名;岱叟善昌庵主
 尚昌(ひさまさ・永岡) → 久宜(ひさよし・永岡ながおか、神職/歌人) C 3 7 1 8
 尚雅(ひさまさ・荒井) → 尚雅(なおまさ・荒井あらい、歌人) K 3 2 8 5
- M3743 久将女(ひさまさのむすめ・川上かわかみ/本姓;島津、)?-? 江前中期;薩摩の歌人、
 1700茂睡[鳥の迹]3首入・[松操和歌集]入、
 父は川上(本姓;島津)将監久将(久国男/1618生)で薩摩島津家家老格、
 [早瀬川立ちちもかへらぬ年浪のしばしよどまんしがらみもがな](茂睡[鳥の迹]冬525)
- 久間次郎(ひさまじろう) → 忠友(忠儔ただとも・穂井田/大江/小原、歌人/考証) 2 6 2 7
- J3726 久加(ひさます・北郷きたごう、三久男) 1604-1680 77 薩摩鹿児島島津家支流の平佐北郷家、
 金山奉行/1666(寛文6)鹿児島藩城代家老、歌人;山本春正しゅんしょう・岡本宗好そうこう門、
 [久加(;名)の通称]千々鶴丸/次郎/佐渡守
- B3792 久丸(ひさまる) ? - ? 俳人;1670頭成「続境海草さかぐさ」入;季吟らと
 久丸(ひさまる・玉井) → 月照(げつしょう;字、法相僧/尊攘活動) B 1 8 0 6
- L3789 寿麿(ひさまる・岡本おかもと、通称;対馬) 1802-1879 78 美作勝田郡和気郷高比野神社神主、
 歌人;平賀元義門、俊嘉(俊義)とししの父、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入
- L3788 久麿(ひさまる・磯山いそやま、通称;出雲)?-? 母;茂登子、美作英多郡川会郷香合村の神社神主、
 歌人;1847平賀元義の楯の舎塾入門、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入;母と入集、
 [百年ももとせも千年ちとせも共にあそばむと思ひし君に立ち別れつゝ](巨勢総社千首、
 1857同門の熊野意宇麿の出雲に帰るに送る歌)
 久麿(ひさまる・小原/穂井田) → 忠友(忠儔ただとも・穂井田/大江/小原、歌人/考証) 2 6 2 7
 久躬(ひさみ・樺山) → 久初(ひさはつ・樺山かばやま、藩家老/歌) J 3 7 0 9
- B3793 久通(ひさみち・越智おち、通称;三島与五郎)?-? 伊予大三島社系の人、
 1500宗祇から「浅茅」(連歌書)を受領(奥書は芦田友興が代行)
- B3794 尚通(ひさみち・近衛このえ、政治家男) 1472-1544 73 母;北小路俊宣の養女、戦国期廷臣;1483従三位、
 1485権大納言/90右大臣/93関白;宇治長者/95従一位/96左大臣/1514太政大臣/19准三后、
 1533出家、歌人;父門/連歌/書、三条西実隆・公条・細川高国・大内義興・宗長・宗碩らと交流、
 自邸で屢々歌会・連歌会を催、「法華経歌」「日本紀和歌注」「尚通公記」著、新菟玖波22句入、
 1511「大内義興都の富士の詠贈卷和歌」12「永正九年水無瀬法楽」著、植家たねい・義俊の父、
 [尚通(;名)の通称/法名]通称;後法成寺関白のちのほうじょうじかんぱく、法名;大証[大勝]だいしょう
- B3795 久通(ひさみち・島津しまづ、別名;久慶ひさよし、元久男) 1604-74 71 母;新納にいら忠増女、薩摩宮之城領主、
 図書頭/儒;文之玄昌門・1627江戸の林羅山門/荒木流馬術皆伝、1643家督;45藩家老、
 殖産;金山開発・新田開発・紙漉業・茶栽培を推進/河川改修・用水路工事など藩財政改善、
 1644「貴久たかひさ記」、48「島津世祿記」編/71「征韓録」、「射礼犬追物記」「朝鮮記」「虎狩」著
- B3796 久通(ひさみち・中川なかがわ、久恒男) 1663-1710 48 豊後岡藩主;1695襲封、従五下/因幡守、
 1698「豊後一国図絵」1701「豊後国郷帳」を編し幕府寺社奉行に提出、母;池田光政女、
 [久通(;名)の通称/法号]通称;主膳、法号;天真院

- J3724 **久通**(ひさみち・喜多村きたぬら/津軽、政方男)1712-4837 母:大道寺友山女の衛子、陸奥弘前津軽藩士、弟;久域(のち**建部綾足**)、1729(享保14)父没;家督嗣/1730妻;そねと結婚、久敬の父、1738(元文3)妻と弟久域との密通が露呈/妻は離縁(翌年没)・弟は出奔、1739表書院番頭から用人兼帯/1742(寛保2)家老;津軽姓を許可、1745お役御免;蟄居、1746(延享3)蟄居赦免;家督200石は召上げ、歌人;風流人、[鳥追いしかかしの果や壁のへた](蟄居させられた際の句)、[久通(;名)の初名/通称/号]初名;長命、通称;監物、号;燕子(俳号)
弟 → 綾足(あやたり・建部たけべ、涼袋、俳/歌/戯作)1028
- B3797 **尚道**(ひさみち/なほみち・並河なみかわ、尚義男)1727-9064 江戸の歌人;加藤枝直えお門、「並河尚道詠草」「漏月窓歌集」著
- B3798 **尚迪**(ひさみち・陶山すやま)1758-184588 伯耆会見郡八幡村の農家、医;京の賀川家門;産科、後藤栗庵に師事、帰郷;医開業、頼山陽と交流、1818「人狐辨惑談」著、[尚迪(;名)の通称/号]通称;由記/大禄、号;簸南ひなん
- B3799 **久道**(ひさみち・堀池ほりいけ、敬久たかひさ男)1803-7876 伊勢亀山藩士;和算家;父門/父の研究を編述、1834家塾を開き子弟教育、1828「要妙算法」編/36「掲楣けいび算法」著、[久道(;名)の字/通称/号]字;子珍、通称;六太夫、号;北川/潜竜、法号;久道院
- C3700 **久通**(ひさみち・原田はらだ、通称;次郎右衛門)?-? 江後期佐渡の州吏/詩歌、佐渡奉行川路聖謨としあきらの命により1840高田備寛著「佐渡四民風俗」追補、「佐渡の夢」補填
- L3762 **久通**(ひさみち・兼松かねまつ、)?-? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[村雨の露もすずしな軒近き花橘のかをる朝風](大江戸倭歌;夏480/盧橋)
- J3780 **久遠**(ひさみち・島田しまだ、通称;但馬/掃部/文林)?-? 出雲出雲郡の国学者、神道・歌学;千家せんげ尊孫たかひこ(1796-1873)門/国学;本居内遠(1792-1855)門
久道(ひさみち・山寺) → 常山(じょうざん・山寺やまでら、藩士/儒/兵学)S2262
尚道(ひさみち・高須) → 葦根(あしね・高須たかす、商家/歌人)H1093
- M3745 **久光**(ひさみつ・太田おた、)?-? 江前期;上方の武士/歌人、1670下河辺長流[林葉累塵集]9首入、[笛竹の声にかよひてまさしくも人をこちくと鶯の鳴く](林葉累塵;春50)、[かくてなほ君耳梨の池ならばいひだにはなて思ひたゆべく](同集;恋806)
- C3701 **久光**(ひさみつ・島津しまづ、別名;忠教/邦行、斉興男)1817-8771 母;側室お由羅、種子島領主久輔の養子、本家に戻る;次に薩摩重富領主忠公の養嗣子;1839家督相続;重富領主、1859藩主斉彬なりあきらの遺命で息忠義が本藩を襲封;国父の尊称で藩政実権掌握、藩内の倒幕過激派を制し公武合体を推進;1863頃行詰/西郷隆盛・大久保利通の台頭、維新後は内閣顧問・左大臣/1876致仕;薩摩隠棲、文筆家;1833「日本名物剣集」著、1839「霧島温泉詩稿」51「八代集作者考」編、54「西の海蟹の轉」著、67「随手録」編、「歌集」編、「通俗国史」(86冊)外著多数、「皇朝世鑑」「旧邦秘録」「島津家国事鞅掌史料」編集を命ず、[久光(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;普之進、字;君輝、通称;又次郎/山城/周防/和泉/三郎、号;双松/大簡/玩古道人/無志翁
- I3757 **久岑**(ひさみね・宇津木うつき、別姓;西村)1833-9664 近江彦根藩士、国事を憂い農家の養子となる、神道;大講義、1894日吉神社宮司、[久岑(;名)の通称]為治郎/吉太郎
- C3702 **久宗**(ひさむね・賀茂かも、号;田向神主、久世男)?-? 鎌倉期神職;上賀茂神社神主、四位、惟久の父、歌人、新後撰1142/玉1920、[そのかみにたちかへりてや祈らまし又もあふひの名をたのみつつ](新後撰;恋1142)
- F3735 **久宗**(ひさむね) ?-? 室町期熱田神宮の神職、連歌;1423「応永三十年熱田法楽百韻連歌」連衆(1句)、[旅衣にや夜よをかさぬらん](熱田法楽;初裏10、前句;はるばるときても都は程遠し;範平)
- L3744 **曩宗**(ひさむね・宮崎みやざき、)1841-191373 信濃伊那郡の国学者;平田鍊胤門
[曩宗(;名)の通称]通称;伊右衛門/銀治みんじ

久棟(ひさむね・佐甲) → 芳介(よしすけ・近藤こんどう/佐甲、国学/歌) L 4 7 7 2
 尚宗(ひさむね・岩山いわやま) → 道堅(どうけん;号、武家/出家/歌人) D 3 1 5 4
 久域(ひさむら・喜多村) → 綾足(あやたり・建部たけべ、俳/歌/戯作) 1 0 2 8
 久村(ひさむら・伊達) → 宗村(むねむら・伊達だて、藩主/歌人) C 4 2 5 7
 ひさめ(・三輪) → 翠羽(すいいう・三輪みわ/那波、俳人/教育) E 2 3 0 4
 檜雨山房(ひさめさんぼう) → 済(せい・小野おの、国学・歌人/陶芸) O 2 4 0 2
 久仰(ひさもち・畠山/新納) → 久仰(ひさのり/ひさもち・新納にいろ、藩家老/系譜) B 3 7 7 7
 久持(ひさもち・尼子) → 久恒(ひさつね・尼子、藩士/国事奔走) B 3 7 4 1

C3703 尚基(ひさもと・二条にじょう、政嗣男/本姓;藤原) 1471-1497 早世 27 母;従三位兼子、廷臣;1483従三位、1485権中納言、86権大納言/91内大臣/95正二位/97関白;氏長者;没、歌人、尹房の父、歌:1489自邸で祖父持通と歌会催、「二条持通尚基書状」著、連歌:新撰菟玖波集3句入、[尚基(;名)の号] 後如法寿院

J3782 久元(ひさもと・島津しまづ/新納にいろ、島津忠長2男) 1581-1643 63 母;島津忠将2女、安桃江前期の武将、薩摩鹿兒島藩家老、初め新納四郎忠真の養子;新納近江守忠在と称す/1600関ヶ原従軍、1609(慶長14)兄忠倍没;父の願いで島津家を嗣;島津下野守久元と称す、1610馬越から宮之城へ移住/父没のため鹿兒島に移住、1618(元和4)家老、1621藩主家久の命で正室新納忠増女と離縁;継室に家久妹の御下(島津義弘2女)と結婚、1624家久嫡子の光久元服時に理髪役、1632肥後へ出兵/37島原乱に光久を支え出征、久通・佐多忠治正室・基多村久茂・久近の父、[久元(;名)の別名/通称]幼名;信童丸、初名;忠在、通称;新八郎/近江守/下野守法号;鉄心宗昆大居士

L3729 久氏(ひさもと・丸岡まるおか、通称;宗太夫) 1689-1760 72 伊勢度会郡の神職;外宮大内人、歌人;冷泉家入門

I3758 久徴(ひさもと・宇津木うつき/本姓;平、久就男) 1737-97 61 近江彦根藩士;家老職/宇津木家6代当主、歌人/書・文学に通ず、久純(昆岳)の父、[久徴(;名)の字/通称/号]字;明卿、通称;弥平太/兵庫、号;超山

K3719 久徴(ひさもと・佃つくだ/本姓;源、旧姓;黒田) 1776-1847 72 伊予松山の歌人;海野遊翁門、石井義郷よしさとと交流;義郷編「名もしらぬ巻」に歌入、[久徴(;名)の通称/号]通称;市郎右衛門、号;車翁

L3758 久徴(ひさもと・瀬戸せと) ? - ? 江後期;江戸の歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、国学者瀬戸久敬ひさたかとの関係?、[越えやらぬけしきをみせて関の名の霞によどむ春の夜の月](大江戸倭歌;春187)

K3775 久元(ひさもと・土方ひかた、久用長男) 1833-1915 84 土佐藩士、儒者;1857(安政4)江戸の大橋訥庵門、尊攘思想に傾倒/帰国後;武市瑞山らの土佐勤王党参加、1863藩命で上京;勤王志士と交流、三条実美の知遇;京追放の三条ら七卿落に随従し長州へ赴く、長州征討に大宰府に逃亡、中岡慎太郎・田中光頭・坂本龍馬らと連係;薩長同盟仲介に尽力、維新後;新政府に出仕、東京府判事/鎮将府弁事/宮内少輔/内務大輔/太政官内閣書記官長/侍補/宮中顧問官、元老院議官、皇権伸張(天皇親政)を主唱、1885伊藤内閣の農商務大臣、枢密顧問官、君権について伊藤と論争、憲法制定後;1894宮内大臣/98致仕、晩年は帝室制度調査局副総裁/皇典講究所長/国学院大学長/東京女学館長、日記「回天実記」著、「明治天皇紀」編纂に尽力、1818(大正7)没、[久元(;名)の通称/号]通称;楠左衛門/大一郎、号;秦山

久徴(ひさもと・石川) → 桃蹊斎(とうけいさい・石川、国学/儒者) D 3 1 1 3

久徴(ひさもと・島津) → 久徴(ひさなが・島津しまづ、藩士/家老) B 3 7 7 1

久徴(ひさもと→ひさなる・島津) → 天錫(てんしゃく・島津、錦水、領主/詩) D 3 0 7 0

尚幹(ひさもと・吉田) → 令世(のりよ・吉田、儒者/歌人) 3 5 2 6

膝元佐愚留(膝本-ひさもとさぐる) → 佐愚留(さぐる・膝元、狂歌) B 2 0 5 2

C3704 久盛(ひさもり・中川なかがわ、初名;秀征、秀成男) 1594-1653 60 豊後岡藩主;1612襲封、従五下/内膳正、藩の基本法制を整備;「御政事御定書」「御領分飛脚伝馬御足」制定、歌/連歌作者、妻;山城伏見藩主松平定勝女のまん(家康の斡旋)、

連歌;昌琢と1622元和八年十一月五日朝何百韻/26何路百韻、

[久盛(;名)の幼名/法号]幼名;清蔵、法号;法台院

参照

→ 久盛室(ひさもりのしつ・中川)

C 3 7 0 8

- C3706 久守(ひさもり・大沢おさわ、初名;重栄、重康男)1430-9869 廷臣;山科家の雑掌/従五下、内蔵寮目代、1467長門守/85山科言国の家司;家政を掌る、花道/歌に通ず、1456「教言教興卿記」編、「山礼記(山科家礼記)」の康正三1457-明応元1492の執筆、「久守記」著、[久守(;名)の通称/法号]通称;長門入道、法号;正栄
- C3707 久守(ひさもり・荒木田あさきだ/家名;橋村・宇治、久老ひさおゆ2男)1779-185375 伊勢度会郡の神職、従四上/内宮禰宜、国学・歌;父門(家学)、「真菅集」「石川集」「雅語俗解」「続日本紀考」著、1846久老「槻つきの落葉歌集」編(:橋守部序)、「吉野山歌集」「万葉集同字部類」外著多数、[久守(;名)の初名/通称/号]初名;正任/正睦/令睦、通称;図書ずしよ/主計かづえ/肥後/求馬/睦次郎、号;瓊鈴舎/五十槻園いつきのその2世
- J3786 尚盛(ひさもり・進藤しんどう、通称;中五郎)1832-9463 伊予松山藩士;御馬廻、歌人、国学/歌;石井義郷・西村清臣門、赤星順則よりの歌の師
- C3708 久盛室(ひさもりのしつ・中川なかかわ、名;まん姫、松平定勝女)?-1689 徳川家康の周旋で中川久盛と結婚、夫の没後剃髪、寛永1624-44頃「伊香保記」著
久弥(ひさや・鈴木) → 房政(ふさまさ・鈴木すずき、国学/歌人) I 3 8 3 7
- C3709 久慶(ひさやす・島津しまづ、別名;久壽ひさとも、藩主久柄[1805没]男)?-? 母;島津貴壽女、日向佐土原藩士、「島津久慶自記」著、[久慶(;名)の通称]剛次郎/能登
- C3710 久愷(ひさやす・尾崎おさき、名;寛信ひろのぶ、松山藩士金子度数男)1825-9268 尾崎久世の養嗣、伊予の儒者;奥平棲遅庵・三上是庵門/伊予松山藩校明倫館教授、「松山叢談」編、「久愷問目」「講習録」著、[久愷(;字)の通称/号]通称;万太郎、号;矯斎
- I3785 久寧(ひさやす・大平おだいら、彌太郎久親男)1815-7157 信濃伊那郡野池村の国学者;平田鉄胤門1863(文久3)石灰を焼き始める、[久寧(;名)の通称]通称;角次郎/所左衛門
久寧(ひさやす・島津) → 斉敏(なりとし・池田/島津、藩主/日記) H 3 2 7 4
- C3711 久行(ひさゆき・多おのおの、節近男)1181-126181 鎌倉期楽人/右近将監/1250従五上、1229「番舞目録」、「神楽秘説」著
- M3748 尚之(ひさゆき・福野ふくの) ? - ? 江前期;上方の武士/歌人、1670下河辺長流[林葉累塵集]入、[恋草は結ぶばかりにしげれただまどふ思ひのしるべともせん](林葉累塵;恋843)
- M3749 尚如(ひさゆき・玉井たまい) ? - ? 江前期;上方の武士/歌人、1670下河辺長流[林葉累塵集]入、[娘のやまひしける時我もやまひしてよめる、老いにける足弱くとも死出の山こよりさきにはたたんとぞ思ふ](林葉累塵;雑1090)
- I3723 尚之(ひさゆき・関せき、号;柳陰)?-? 江中期;商家;公儀御用達、歌;冷泉家入門、1798刊広通「霞関集」入、[我が齢かたぶく軒に咲く梅や盛りを今も花に見すらむ](霞関;春67/檐ひさし梅)[立居さへ身にはまかせぬ老らくの人に稀なるうきふしぞ添ふ]、(霞関;述懐/うきふし;辛い意/節々の痛みを重ねる)
- L3730 尚之(ひさゆき・三浦みうら)1803-187472 近江坂田郡の医者;彦根藩侍医、国学;長野義言門、若村貞彙さだげ(日枝神社祠官)の師、[尚之(;名)の通称]太仲/北庵
- M3713 尚之(ひさゆき・安原やすはら、通称;孫兵衛)1807-186963 播磨宍粟郡の詩歌人;小野務門
- C3712 尚行(ひさゆき・岩井田いかいだ、徳輝男/本姓;荒木田)1839-9658 伊勢宇治の神職;内宮権禰宜、大物忌父/従四上/維新後一時辞任/権禰宜復帰/正八位、殖産興業で養蚕業を企画、失敗したが養蚕業発展の礎となった、「公卿勅使御参向諸事引留」著、[尚行(;名)の通称] 曆丸/櫟丸/左馬/柳郊

- 久之(ひさゆき・細川) → 成之(しげゆき・細川/源、武将/歌・連歌) D 2 1 2 6
 久之(ひさゆき・三浦) → 庚妥(つぐやす・三浦、謡曲研究) 2 9 8 8
 久雪(ひさゆき・山本) → 童部友竹(笑陪-わらべのともたけ、坊主衆/狂歌) 5 3 6 6
 尚之(ひさゆき・熊谷) → 箕山(きざん・熊谷、儒者/詩人) I 1 6 5 6
 尚行(ひさゆき・辻) → 喜安(きあん・辻つじ、藩士/医者) J 1 6 5 2
- C3713 久世(ひさよ・賀茂かも、氏久うじひさ男) 1243-? 鎌倉期神職;大田社禰宜/1286上賀茂神社神主、
 四位/1293弟経久に神主を譲渡、久宗の父、歌人、
 勅撰8首:続拾(1424)新後撰(841/975/1410)玉(951)続千(1373)続後拾(1352)新千(1844)、
 [神垣に咲きそふ花をみてもまづ風をさまれと世を祈るかな](続拾遺集;神祇1424)
 [久世(;名)の号]中大路神主
- C3714 尚良(ひさよし・荒木田あらかだ、氏俊男)?-? 鎌倉期伊勢の神職;内宮一禰宜、
 歌;1295伊勢新名所絵歌合参加、「とはずがたり」入
- C3715 尚良(ひさよし・中御門なかみかど、資胤男/本姓;藤原) 1590-1641 52 母;中御門宣教女、廷臣;右大弁、
 藏人頭/1613参議/16権中納言/27権大納言/29後水尾院の執権/30正二位、
 1619「尚良卿記」著、連歌:1601「慶長十四年五月六日山何百韻」、
 [尚良(;名)の別名/法号]別名;宣隆(;初名)/宣衡/成良、法号;専順院寂阿乘空
- C3716 久好(ひさよし・松屋まつや/土門、久政男)?-1633 安桃江前期奈良の塗師;富商/茶人、
 千利休・古田織部・小堀遠州等と交流、茶道具の名品を伝承、1586-1626「松屋会記」著、
 [久政(;名)の通称/屋号]通称;漆屋源三郎、屋号;松屋、
- C3717 久好(ひさよし・福平ふくひら) ? - ? 江前期語学者/教育、
 1680「仮名使寄類かなづかいせりい」著(約3百首の歌で仮名遣の語類を記憶せよとの教育書)、
 [おほはら(大原)やはらは(小原)のをにてなぞへしれ 大小の字はどこに有共]、
 (仮名使寄類)
- J3727 久嘉(ひさよし・北郷きたごう、) 1675-1723 49 薩摩鹿兒島藩家老、国学;中村通茂・中院通躬門、
 北郷久加ひさますの孫、妻;島津久光19女、娘;薩摩藩士肝付兼達かねみちの正室、
 [久嘉(;名)の通称]惣次郎/作左衛門
- C3718 久宜(ひさよし・永岡ながおか、別名;旧蟻ひさあり、久与男)?-1784 出雲の神職;松江の須衛都久神社祠官、
 出雲八雲村熊野権現社祠官兼務、永岡久与ひさとも一族、歌人;小豆沢勝興門?、
 「中臣祓講述」「番匠記」著、
 [久宜(;名)の通称]主税ちから/尚昌/諸衛
- C3719 尚芳(ひさよし・なおよし・小本おもと) 1742-1814 73 陸中盛岡藩士/歌人;三輪秀奏門/1791日野資枝門、
 「裏白煙草記」著、
 [尚芳(;名)の初名/通称/法号]初名;正俊、通称;新右衛門、法号;春林尚芳居士
- K3748 尚美(ひさよし・並河なみかわ/本姓;平、2世天民男) 1750-1829 80 丹波桑田の生/京室町蛸薬師南に住、
 並河天民(儒医・神道家)の孫、官人;伏見宮家出仕/滝口/従六位下右衛門大志、
 正六位下丹波介、父天民(2世)没後医業に専念、国学・歌;西洞院時名(風月)門、茶を嗜む、
 自邸で中川宮朝彦親王を育成、
 [尚美(;名)の字/通称/号]字;彦輔、通称;主殿とも/丹波介、号;任齋
- C3720 久徳(ひさよし・川井かわい、久道男) 1766-1835 70 母:三上季良女、父が祖父に先立ち没;祖父の遺跡嗣、
 1775相続;幕臣530石/88御小姓組番士/越前守従五下/長門守/納戸頭/奈良奉行/作事奉行、
 和算家坂部広胖門/1823和田寧門;円理豁術を修学、1803「開式新法」07「雑解」、
 1808「側円周解」09「新弧円解」12「創製側円術并解」、「国字変数」「求側円周術」著、
 [久徳(;名)の通称]久米之助/次郎兵衛
- J3797 長温(ひさよし・鈴木すずき、富長男) 1774-1845 72 相模戸塚宿の商家;伊勢屋4代目、俳/歌/狂歌人
 歌;姻戚加藤千蔭(1735-1808)門・さらに村田春海門、蔵書家;大田南畝も借覧している、
 [長温(;名)の通称/号]通称;源七/宜白、号;文垣書屋ぶんえんしょおく/清世逸民、屋号;伊勢屋
- C3721 久徴(ひさよし・松平まつだいら、久中男)?-1867 出羽庄内藩士;1739家督/組頭、御旧記取調主任;
 「大泉紀年」編纂、 [久徴(;名)の通称] 武平/鶴翁
- L3760 久徴(ひさよし・本多ほんだ、通称;相模守)?-? 江後期;幕臣、歌人、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[今朝見れば霞もはれて山の端の緑涼しき色に成りぬる](大江戸倭歌;夏376/首夏)

- L3727 **尚嘉**(ひさよし・松園まつぞの、九条尚忠2男)1840-1903⁶⁴ 京の廷臣の生;1851(嘉永4)出家;
奈良興福寺事務職/薬師寺別当、1868(慶応4)僧籍離脱;春日神社神職、
丹生川上神社大宮司、京都御所殿掌
- K3757 **尚義**(ひさよし・西山にしやま、千村家侍医の西山春成男)1845-67^{討死}²³ 美濃可児郡久々利村の生、
1863(文久3)父と同じ旗本千村家に出仕;中小姓/側役、1866(慶応2)致仕;江戸へ、
剣術;斎藤弥九郎門/国学;平田鍊胤門、勤王派志士/1867西郷隆盛の薩摩藩邸集結、
関東擾乱に参画;竹内啓に従い下野で挙兵(出流山事件);使番/念仏橋で討死、
[尚義(;名)の通称]秀太郎/要人/謙之助^{けんのおけ}
- 久吉(ひさよし・ひさきち・佐々原)→梅操(ばいそう・佐々原ささはら、儒者) B 3 6 7 5
久吉(ひさよし・ひさきち・早田)→簾山(しやうざん・早田はいだ、藩士/儒者) J 2 2 3 1
久吉(ひさよし・ひさきち・猪股)→繁永(しげなが・猪股いのまた、国学者) N 2 1 3 5
久芳(ひさよし・丸岡) → 正善(まさよし・丸岡まるおか/久米、神職/国学) S 4 0 7 9
久好(ひさよし・川上) → 久国(ひさくに・川上かわかみ、藩家老/儒者) B 3 7 0 0
久賀(ひさよし・島津) → 久賀(ひさか・島津しまづ、武将/家老) J 3 7 8 3
久義(ひさよし・松平) → 久豊(ひさとよ・松平、藩家老/日記) B 3 7 6 1
久義(ひさよし・片島/大野)→ 武矩(たけのり・大野/片島、砲術家) E 2 6 4 8
久慶(ひさよし・島津) → 久通(ひさみち・島津、藩家老/財政改善) B 3 7 9 5
久慶(ひさよし・島津) → 久慶(ひさやす・島津しまづ、藩士/記録) C 3 7 0 9
古能(ひさよし・喜多) → 古能(このう・ひさよし・喜多きた、能楽師) N 1 9 3 5
尚義(ひさよし・植田) → 有年(ありとし・植田うえだ、医者/勤王) H 1 0 0 8
寿喜(ひさよし・入江) → 石亭(せきてい・入江いりえ、書家/鑑定家) K 2 4 4 0
- C3722 **久良親王**(ひさよししんのう、土御門宮、久明ひさあきら親王男)1310-?¹³³⁴存 母;冷泉為相女、1328源姓、
従三位/右近衛中将/1330親王に復す;出家、外祖父為相の7回忌に詠歌、
勅撰2首;風雅(1989)新千載(1063)、連歌;菟玖波集6句入、
[忘れぬ涙は同じ袂にてはや七とせの秋もきにけり](風雅集;1989/為相7回忌詠)
- C3723 **久頼**(ひさより・山本やまもと、通称;加兵衛、久濤男)?-? 江後期幕臣:代々山本無辺流の槍術師範、
1838將軍家慶面前で槍術を披露、1846致仕、「無辺無極流目錄鎗」著
久頼(ひさより・新岡) → 旭宇(きよくう・新岡いおか、書家) O 1 6 7 9
- C3724 **斐山**(ひざん・吉村よしむら、名;駿、中村儀七男)1822-82⁶¹ 安藝佐伯郡己斐い村の儒者;
初め山口西園門、広島藩家老三原浅野家の儒臣/吉村秋陽門;1840秋陽の養子、
1851江戸で佐藤一斎門、
1852帰郷途中で大阪の藤沢東暎・京の春日潜庵・但馬の池田草庵に入門、
1855養父秋陽の跡を受け浅野家広島邸内の朝陽館教授/63三原の郷校明善堂で教授、
1870広島藩修道館教授/のち家塾で教授、1865「遺言類記」、「入学志毅にく」著、
「半畝村園詩文」「半畝村園文稿」「読易反心録」著、墓;己斐茶臼山山麓
[斐山(;号)の字/通称]字;景崇、通称;隆蔵
養父吉村秋陽 → 秋陽(しゅうよう・吉村よしむら/小田、藩儒者) E 2 1 1 2
比山(ひざん・上野) → 在方(あしかた・上野うえの/大神、藩士/国学) H 1 0 0 7
非山(ひざん・酒井) → 忠徳(ただのり/ただあり・酒井、藩主/歌/俳) F 2 6 6 2
- I3702 **弥三**(ひさん) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」入
- 3706 **麿山**(びざん・谷たに、名;鸞、静斎男)1701-73⁷³ 阿波の儒者:伊藤東涯門、京住、詩人、
「太白詩選」、1754「論語玉振録」55「芙蓉詩集」、「芙蓉字府」「谷氏助字解」著、日本詩選入、
[麿山(;号)の字/通称/別号]字;子祥/冲天、通称;左仲/芙蓉先生、別号;眉山/芙蓉精社
- C3725 **眉山**(初世びざん・中山なかやま、大坂屋七右衛門男)?-1813 加賀金沢の商家/俳人:馬来・關更門、
北枝の鳥翠台を継承、金沢と京を往復/諸国行脚、關更と共に二条殿俳諧連中に参加、
のち金沢に帰り寺町理証院に北枝堂を営む、1789「家舟集」92「草のあるじ」編、
1799北枝追善「北枝会」編、1807「長月集」「花の兄」編/08「はるのもの」11「安宅集」編外多数、
[初世眉山(;号)の別号/通称]号;来雨(;初号)、鳥翠台[趙翠台]2世/翠台/鳥兔坊/北枝堂、
通称;大坂屋七右衛門/醍醐眉山(京の醍醐に住)

- C3726 **眉山** (2世びざん・邨田/村田むらた、名;千里) ?-? 加賀金沢の俳人:初世門、翠台を継承、画を嗜む、1818「貝寄集」、「百人一章」著、[2世眉山(;号)の字/通称/別号]字;万里、通称;良助/鉄平、別号;翠丈/芝園/寒余/翠台2世
- C3727 **眉山** (びざん・神河かみかわ、名;廷種/尭秀、彦平男) 1746-1822 77 阿波の医者:湯浅堯民門、京に遊学/帰郷後医業/仏書に通ず/詩賦を嗜む、「眉山一夕夜話」著、[眉山(;号)の字/通称]字;彭徳、通称;多文
- E3742 **尾山** (びざん・下村、通称;長兵衛) ?-? 江後期伊勢宇治山田の常明寺門前町住人、郷土史家、「神都長巖記」「雑話草」「よしなし草」著、1802「枕返物語」の著者茶酔軒と同一説あり、
→ 茶酔軒(ちやすいけん、別号;長峰野翁) F 2 8 5 6
- C3728 **眉山** (びざん・竹内たけのうち) 1781-1854 74 江戸地本錦絵問屋竹内保永堂の主人、霊岸島塩町住、絵師;四条派風の画;俳書の挿画・人物版画・風景画など、広重「東海道五十三次」を出版、1832「俳諧歌彼賀古登集」33「狂歌百人一首闇夜礫」37「狂歌職人尽花鳥集」画など多数、[眉山(;号)の通称/別号]通称;孫八/竹孫、別号;東一/万宝、屋号;保永堂
- C3729 **眉山** (びざん・安藝あき、名;均/字;良平) ?-? 江後期文政1818-31頃大阪の医者、1820「生々堂傷寒約言」編/24「麻療要語」著
- C3730 **眉山** (びざん・沢田さわだ、名;師厚) 1798-1853 56 尾張名古屋藩士/儒者;毛利容保門、1809藩校明倫堂に修学/17永井星渚門/さらに江戸で修学、書;丹羽盤桓門、1844明倫堂で書道教授/47御儒者/典籍次席/儒の教授、「眉山文草」「眉山詩文稿」、「甲寅詩稿」「甲午詩藁」1837-8「好問堂詩草」40「正順考」、「三堂集」「三堂吟藁」「三堂漫筆」、「三堂録」「要齋記并要齋説」「左伝択正」「餐霞詩草」「三堂叢書」「読書余筆」外著多数、[眉山(;号)の字/通称/別号]字;無功/天爵、通称;三次郎/伝之丞/良蔵/正業/三郎、別号;三堂、法号;靈明院
- C3731 **眉山** (びざん・山本、名;積善) 1800-37 38 阿波岡崎の農家/儒者;伊勢亀山藩校教授、「文化文政詩集」著
- C3732 **眉山** (びざん・松本まつもと、通称;文蔵、別号;井圃庵) ?-? 大阪の俳人:井眉門、1853「うめのあめ」編、「俳諧廿九ヶ条」書
- | | | | |
|------------------------|---|------------------------|-----------|
| 眉山(びざん・柴田) | → | 鳩翁(きゅうおう・柴田しばた、心学者) | 1 6 2 6 |
| 眉山(びざん・小出) | → | 兼政(かねまさ・小出こいで、暦算家) | O 1 5 9 3 |
| 眉山(びざん・三井) | → | 良之(よしゆき・三井みつゐ/黒木、眼科医) | H 4 7 8 9 |
| 眉山(びざん・桑野) | → | 喜斎(きさい・桑野くわの、医者/詩歌) | K 1 6 4 8 |
| 眉山(びざん・神野) | → | 呉山(ござん・神野、俳人) | M 1 9 6 5 |
| 眉山(びざん・桑野) | → | 公克(きみかつ・桑野くわの、国学/歌人) | U 1 6 2 9 |
| 眉山(びざん・桂) | → | 宗信(むねのぶ・桂かつら、絵師) | C 4 2 1 3 |
| 薇山(びざん・小出) | → | 君徳(くんとく・小出こいで、医者/解剖) | C 1 7 1 7 |
| 薇山(びざん・浜村) | → | 蔵六(4世ぞうろく・浜村/塩見、篆刻家) | J 2 5 2 6 |
| 薇山(びざん・新宮) | → | 涼民(りょうみん・新宮しんぐう/柚木、蘭医) | J 4 9 5 1 |
| 飛散人(ひさんじん) | → | 三千風(みちかぜ・大淀、俳人) | 4 1 0 3 |
| 鼻山人(びさんじん、東里山人) | → | 鼻山人(はなさんじん・細川、人情洒落本) | F 3 6 4 5 |
| 眉山荘(びざんそう) | → | 義根(よしね・足利/源/平嶋、詩人) | F 4 7 4 9 |
| 斐之(ひし・吉島) | → | 斐之(あやゆき・吉島よしじま、商家/国学) | I 1 0 5 6 |
| 斐子(ひし・土屋) | → | 斐子(あやこ・土屋/三枝) | C 1 0 7 6 |
| 美子(ひし・久我) | → | 美子(よしこ・久我こが/細川、歌人) | D 4 7 2 8 |
| 美子(ひし・水沢) | → | 美子(はるこ・水沢みずさわ/並河、歌人) | K 3 6 8 6 |
| 美至(ひし・人見) | → | 美至(のりゆき・人見ひとみ、幕府儒官) | G 3 5 1 1 |
| 美之(ひし/のりゆき or よしゆき・深田) | → | 厚斎(こうさい・深田ふかだ、藩士/儒者) | G 1 9 3 1 |
| 美之(ひし・森) | → | 美之(よしゆき・森もり/藤原、官人/歌人) | P 4 7 6 5 |
| 備子(ひし・伊達) | → | 備子(ともこ・伊達だて/鷹司、藩主正室/歌) | V 3 1 6 0 |
| 備資(ひし・中条) | → | 備資(まさすけ・中条ちゅうじょう、藩史編纂) | C 4 0 9 4 |

- C3733 **麩崎**(びじ・高山たかやま、名;繁文)1649-171870 甲斐谷村藩主秋元喬朝の国家老;
川越移封に随従;1200石、俳人;芭蕉門/1682江戸大火で焼出された芭蕉が谷村に半年僑居、
1682千春「武蔵曲」入;「錦どる」百韻発句等/1685風瀑「一楼賦」入、
新田十六騎の一人高山重栄の後裔/同族に高山彦九郎が出た、墓は川越本応寺、
[山吹は女の後のさかりかな](一楼賦)、[年の花富士はつぼめる姿かな]、
[麩崎(;号)の別号]柳梢(;初号)/幻世(;晩年号)
- K3773 **土雄**(ひじお・肥田ひだ、通称;藤右衛門、為秋男)1795-185763 伊豆田方郡八幡野村の医者;父門、
春安(蘭医)の弟、国学・歌;竹村茂雄門(父・兄と同門)
未之止(びし) → 猿左(えんさ・戸谷とや、俳人) B 1 3 7 4
美質(びつ・福羽) → 美質(よしかた・福羽ふくば、藩士/国学) O 4 7 8 4
賁趾亭(びしてい) → 婉(えん・野中、医者/詩歌) E 1 3 3 8
- M3755 **媯子内親王**(びないしんのう、一条天皇第2皇女)1000-1008夭逝9歳 母;藤原定子、出生翌日母没、
藤原詮子(東三条院)の養女、乳母は[中將の乳母]、1001(長保3)内親王宣下/02着袴、
1003鼻に双六の賽子が入る;天台僧慶円きょうえん(のち大僧正)が加持し取り出す、
1008(寛弘5)1月清水寺参詣/4月発病;文慶が修法;回復;功績で文慶は権律師、
同年5月再発病;没/一条天皇が悲嘆にくれ脩子内親王が妹宮を恋しが(栄花物語入)
菱の舎(ひしのや) → 好貞(よしさだ・平岡ひらおか、神職/国学) O 4 7 7 6
菱舎(ひしのや) → 好貫(よしつら・矢崎やざき、神職/国学) P 4 7 7 0
- C3734 **土麻呂**(ひじまろ/つちまろ・山田史やまだのふひと)?-? 廷臣;754頃中務省少主鈴しょうしゅれい、家持の下僚、
舎人親王の元正上皇への応詔歌(724-35頃の歌)を754仲麻呂邸で請問の合間に家持に誦す、
(万葉集廿4294左注/舎人親王の歌[あしひきの山に行きけむ山人の心も知らず山人や誰])
- 3707 **土満**(土麿ひじまろ・栗田くりた、左兵衛信安男)1737-181175 遠州城飼郡の平尾八幡宮神官、従五下、
古学歌道:1767江戸で賀茂真淵門;門下12大家の1、国学;1785本居宣長門、万葉振りの歌人、
俳;幼少より周竹門、栗田貞良の兄、
「栗田土満詠草」、1789「寛政元年京都紀行」96「祝詞集」97「滝のいと」1804「岡屋おかのや歌集」、
1805「さつきの日記」10「神代紀葦牙」、「岡屋祝詞集」など著多数
[土満(;名)の通称/号]通称;富五郎/求馬/民部/老岐守、号;岡廼屋/冬雁、宣秋のりあきの父
- C3735 **土麿**(ひじまろ・三神みかみ、名;元敬/元慶もとよし)?-? 江後期安房の医者;京の下河原鷺尾町で開業、
1842「和歌魂魄」著、
[土麿(;号)の別号] 水火の屋
弥若(びじやく) → 弥若(みわか・東門院or東南院、童/歌) L 4 1 0 9
毘沙門堂(びしゃもんどう) → 為教(ためり・京極・藤原、歌人) 2 6 7 0
毘沙門堂(びしゃもんどう) → 公豪(こうごう;法諱、天台僧/歌人) B 1 9 0 3
毘沙門堂僧正(びしゃもんどうのそうじょう) → 実顕(じつけん;法諱、天台園城寺僧) B 2 1 5 6
毘沙門堂法印(びしゃもんどうのほういん) → 明禪(みょうぜん;法諱、天台僧/浄土教) G 4 1 5 2
毘沙門堂民部入道(びしゃもんどうのみんぶにゅうどう) → 親範(ちかのり・平、円智、廷臣/出家/歌) B 2 8 5 8
美樹(びじゅ・河津/加藤) → 宇万伎(美樹うまさき・加藤、幕臣/国学) 1 2 8 5
美樹(びじゅ・八木) → 美樹(よしき・八木やぎ、美穂男/国学者) D 4 7 1 0
飛洲(ひしゅう・結城) → 確所(かくしよ・結城ゆうき、藩士/儒者) H 1 5 3 1
肥舟(ひしゅう・杉田) → 玄端(げんたん・杉田すぎた、医者) K 1 8 3 6
美住(びじゅう・葛野) → 美住(よしずみ・葛野かどの、商家/国学/俳) M 4 7 2 3
備重(びじゅう・広瀬) → 備重(ともしげ・広瀬、和算家) T 3 1 0 4
眉壽堂(びじゅうどう) → 東陽(とうよう・高木、儒者/詩文) H 3 1 7 9
美春(びじゅん・前原) → 美春(よしはる・前原/横瀬/小野、神職) G 4 7 1 3
美楯(びじゅん・福田) → 美楯(実楯みたて・福田、商家/国学者/歌) 4 1 0 2
美順(びじゅん・福田) → 美順(みより・福田ふくだ、歌人) H 4 1 9 3
美女(びじよ) → 美女(よしじよ、歌人) L 4 7 0 1
- M3700 **美生**(びしょう・足羽あすは、通称;唯助/丈左衛門)?-1887? 出雲松江藩士、
国学・歌人;島重老・森為泰・中村守臣門、
美松(びしょう) → 古友尼(こゆうに・橋本、俳人) D 1 9 9 9

- 美章(びしょう・阮/下司) → 芝亭(してい・下司しもつかさ/げじ/源、篆刻家) V 2 1 1 9
 美勝(びしょう・室) → 美勝(よしかつ・室むろ、茶人/藩茶博士) P 4 7 5 7
 美城(びしょう・大原) → 美城(よしき・大原おほはら、神職) D 4 7 0 8
 薇城(びしょう・多々良) → 平山(へいざん・多々良たたら/鳥山、俳人) 2 7 4 2
 飛庄五郎(ひしょうごろう・末吉) → 道一(みちかず・末吉すえよし、国学者) J 4 1 3 3
 七常持(ひじょうじ) → 七常持(さじのつねもち、狂歌作者) M 2 0 8 9
 美女丸(びじよまる;幼名) → 源賢(源憲げんけん;法諱、天台僧/歌) B 1 8 6 6
 美眞(びしん・小野) → 美眞(よしまさ・小野おの・古庄、神職) H 4 7 0 7
 美真(びしん・古海) → 深志(ふかゆき・古海ふるみ、神職/国学) I 3 8 6 9
 美尋(びじん・大野) → 美庭(よしにわ・大野おの、国学) L 4 7 9 7
 肥人(ひじん・田氏・少令史) → 肥人(うまひと、万葉歌人) 1 2 8 9
- C3736 **昆親**(びしん) ? - ? 連歌師/歌;1457武家歌合参加(正徹・心敬らと);3首入
 [時雨行く遠山もとののははそ原くれなゐまではえやは染めぬる](武家歌合;十六番左24)
- 美信(びしん・三坂) → 美信(よしのぶ・三坂/三坂みさか、心学者) F 4 7 6 4
 美振(びしん・菊池) → 美振(よしふる・菊池きくち、神職/国学) M 4 7 4 5
 避塵斎(ひじんさい) → 止邱(止丘しきゅう・田中/田、儒者) B 2 1 5 8
 飛塵馬蹄(ひじんばてい) → 飛塵馬蹄(とぶちりのばてい/とばちりの、狂歌) O 3 1 7 2
 美仁親王(びじんしんのう) → 美仁親王(はるひとしんのう・閑院宮、歌人) G 3 6 7 4
- C3737 **非吹**(ひすい・池田いけだ、名;長吉)?-? 備前岡山藩の重臣/俳人:美濃派、
 1736「聲引出集」-38「朝日川」編(;路津跋/岡山連中の句収輯)
- C3738 **美水**(びすい・横田よこた) ? - ? 土佐の国学者;
 1803「古万葉集」今村楽(たぬし)と共編(楽の序/木活字二十卷本)
- 美穂(びすい・児玉) → 美穂(よしほ・児玉こたま、国学者) H 4 7 8 6
 美穂(美穂びすい・八木) → 美穂(よしほ・八木やぎ、国学者/和漢学) 4 7 2 7
 鼻垂(びすい→はなたれ・雲多楼) → 春足(はるたり・遠藤、狂歌/戯作) G 3 6 5 1
 美瑞(びすい・水原) → 史郎(ふみお・水原みずはら、国学者/歌人) I 3 8 7 4
- C3739 **鼻垂先生**(びすいせんせい・青木あおき)?-? 狂詩作者;京の儒者か?;江戸の事情にも詳しい、
 1813?狂詩集「同楽詩鈔」著(古詩・絶句・律・音曲什など多種)、寝惚先生南畝に私淑、
 狂歌作者遠藤春足(1782-1834)とは別人?
- C3740 **美崇**(びすう・山口やまぐち、通称;弥六)?-? 江後期筑後久留米藩家老有馬照長の家臣、
 絵師:藩の絵師狩野永錫門・江戸で永峰晴水門、帰郷後は筑後三潯郡大川町で画業、
 1848(嘉永元)「甲冑着用図」画
- 美須賀(びすが・桑原) → 眞清(ますが・桑原くわばら、神職/勤王) I 4 0 9 6
- C3741 **鄙省**(ひせい) ? - ? 大阪の俳人;1691賀子「蓮実」2句入(299/313)、
 [哀あはれ秋赤子あかごの鳴きしとなりかな](蓮実;秋299)
- C3742 **美静**(びせい/よしげ・福羽ふくば、初名;美黙、美質男)1831-190777 石見鹿足郡木部村出身/津和野藩士、
 1849藩校養老館入学;岡熊臣門、国学;1852京の大国隆正門、近江八幡の西川吉輔の蔵書渉獵、
 1856帰藩;養老館国学教師/中小姓、58江戸の平田鍊胤門、62藩命で上京;尊王派の情報収集、
 1863帰藩;西国諸藩を往来し調整幹旋に尽力、維新後は新政府の神祇政策推進;議員、
 歌・書を嗜む、1860「近世学者歌人年表」67「古事記聞書」、「一夢の記」「神官要義」など著多数、
 [美静(;名)の幼名/通称/号]幼名;文三郎、通称;百之進、
 号;木園/硯堂/鶯花園/稽古照今書屋/元々居/弹琴亭/一清亭
- 美生(びせい・足羽) → 美生(びしょう・足羽あすは、藩士/歌人) M 3 7 0 0
 美成(びせい・山崎) → 美成(よしげ・山崎やまざき、商家/国学者) 4 7 1 2
 美清(びせい/よしきよ・田中) → 葵園(きえん・田中たなか、役人/儒者) J 1 6 7 2
 美清(びせい・井関) → 美清(よしづみ・井関いげき、藩士/歌人) D 4 7 8 6
 美清(びせい・佐草) → 美清(よしきよ・佐草さくさ、神職/国学) M 4 7 9 8
 美晴(びせい/みはる・長野) → 美波留(/三春みはる・長野/藤原、国学/歌) 4 1 3 6
 備成(びせい・舟生) → 釣浜(ちようひん・舟生ふなう/ふにゅう、儒者) J 2 8 7 2
 眉生(びせい・内山) → 眞弓(まゆみ・内山うちやま、歌人) 4 0 3 3

- 弥税(びせい・相浦) → 秀興(ひでおき・相浦あいうら、藩士/文筆家) C 3 7 8 7
 微生斎(びせいさい/みしょうさい) → 未生斎(2世みしょうさい・広甫こうほ、華道家) 4 1 8 8
- C3743 微席(びせき・関せき、河内屋重左衛門男) 1757-1821⁶⁵ 信州松本の俳人:士朗門、遺稿「有なし草」
 眉尺(びせき・五嶺館) → 雨塘(2世うとう・下河原、俳人) 1 2 7 6
 美積(びせき・静間) → 三積(みさか・静間しずま、藩士/国学者) 4 1 8 2
- I3711 飛節(ひせつ) ? - ? 江後期安藝仁方の俳人、
 [露霜の中に香かをもつ牡丹哉](短冊)
- C3744 飛川(ひせん・深山みやま、別号;菊翁/如雲窟)?-? 近江彦根の俳人:有中ゆうちゆう門、
 1793近江犬上郡鳥籠山昼寝塚で芭蕉百回忌俳諧を興行、1789「彦陽十境げんようじつきょう集」著、
 1793芭蕉百回忌追善「ひるねの跡」編、1814「みさらえ草」編
 飛川(ひせん・勝) → 海舟(かいしゅう・勝かつ、幕臣/海軍) I 1 5 7 1
- C3745 肥前(ひぜん・前斎院さきのさいいん/前斎宮)?-? 平安後期歌人;白河天皇皇女斎院令子内親王家に出仕、
 俊子内親王家(後三条天皇皇女/斎宮)にも出仕か?、歌;金葉449(Ⅲ447)、
 [萱葺かやぶきのこや忘らるゝつまならん久しく人の訪れもせぬ](金葉集;恋449/人は夫)
 (小屋とは是や・端緒のつまと妻の掛詞/軒端のつまと庇ひさは小屋の縁語)
 肥前(ひぜん・村上天皇乳母) → 共政妻(ともまさのつま・藤原、拾遺歌人) Q 3 1 5 8
 肥前(ひぜん・伊達) → 宗房(むねふさ・伊達だて/田手、領主) D 4 2 9 1
 肥前(ひぜん・草鹿砥) → 延紀(のぶり・草鹿砥くさかど、神職/国学) I 3 5 2 7
 肥前(ひぜん・安岡) → 成政(なりまさ・安岡わやすおか、神職/歌人) P 3 2 1 5
- C3746 眉仙(ひせん・桂かつら) ? - ? 江中期絵師;読本挿画、
 1766庭鐘「繁野話しげしげやわ」画、-76秋成「雨月物語」画
 美宣(びせん・佐藤) → 如春(じょしゅん・佐藤さとう、国学/歌人) U 2 2 8 5
- C3747 備前(びぜん/備前蔵人びぜんのかろうど)?-? 平安前期村上期の女蔵人/歌人、
 960天徳四年内裏歌合参加
- C3748 備前(びぜん・近衛院このえいん/皇后宮)?-? 平安後期歌人:近衛天皇[1139-1155]家女房、
 院没後皇后宮(近衛天皇皇后多子まさるこ?)家に出仕、
 1178別雷社歌合参加(;前斎院備前名)、続詞花集/月詣集入、風雅集1990、
 [天の川ほしあひの空はかはらねどなれし雲みの秋ぞ恋しき](風雅;雑1990)、
 (近衛天皇崩御[久寿2/1155]の喪中の土左内侍に贈歌)
- C3749 備前(びぜん・宗尊むねたか親王家、後藤基綱[1256没]女)?-? 鎌倉期歌人/三河(宗尊親王家)と姉妹、
 中務卿宗尊親王家に出仕、続古今1381、
 [今こんと頼めし夜半の更けしこそかはるつらさのはじめなりけめ](続古今;恋1381)
- M3751 備前(びぜん・寿成門院じゅじょうもんいん)?-? 寿成門院(嬬子内親王、後二条天皇皇女/1302-62)に出仕、
 鎌倉南北期;女房歌人;藤葉とうよう集入、
 [人しれずおつる涙にしられけめ忍ぶにたへぬこころなりせば](藤葉;恋413)
- 備前(びぜん・島津) → 元直(もとなお・島津しまう、領主/詩文) D 4 4 4 2
 備前(びぜん・八木) → 為茂(ためたけ・八木やぎ、藩士/和学) 2 7 0 3
 備前(びぜん・河村) → 琦鳳(きほう・河村/竹内/中原、絵師) L 1 6 9 2
 備前(びぜん・伊達) → 峰宗(みねむね・伊達だて、藩士/詩文) F 4 1 5 6
 備前(びぜん・大町) → 章頼(あきより・大町おおまち、藩老/歌人) H 1 0 2 9
 美髯公(びぜんこう) → 景範(かげのり・長尾ながお、軍学/詩文) L 1 5 1 7
 比仙斎(ひせんさい) → 松雨(しょうう・佐々木ささき、町役/俳人) F 2 2 2 8
 備前処士(びぜんしよし) → 元義(もとよし・平賀、平尾/興津/犬丸、地誌/歌人) 4 4 2 4
 美髯亭(びぜんてい) → 堪忍舎二字守(かんにんしゃにじもり、狂歌) R 1 5 5 9
- C3750 ビセンテほういん(びせんてほういん Toín Vicente、養方軒パウロ男、姓名不詳)?-? 若狭の生、
 堺の医者/イエズス会士/1580父とイルマン/日本語教師;説教家/父と「サントスの作業」翻訳、
 参考 父 → パウロ(養方軒) C 3 6 4 0
- 肥前入道(ひぜんにゅうどう) → 為種(ためたね・飯尾いのお/三善、幕臣/歌・連歌) 2 6 6 4
 肥前阿闍梨(ひぜんのおじり) → 日伝(にちでん、肥前法印、日蓮僧) C 3 3 8 8
 肥前守(ひぜんのかみ・岡本) → 保助(やすすけ・岡本おかもと、神職/歌人) F 4 5 5 7

肥前守(びぜんのかみ・松浦)→ 詮(あきら・松浦まつら、藩主/書/茶人) I 1 0 4 4
 備前守(びぜんのかみ・平井)→ 道助(どうじよ・平井ひらい、武将/連歌) F 3 1 2 4
 備前守(びぜんのかみ・松平)→ 天府(てんぷ・葆光斎、松平、藩主/俳) E 3 0 1 7
 備前守(びぜんのかみ・松平)→ 忠根(ただね・松平まつだいら、幕臣/和学) Z 2 6 6 1
 備前守(びぜんのかみ・三宅)→ 康高(やすたか・三宅みやけ、藩主/茶人) G 4 5 8 1
 備前守(びぜんのかみ・小出)→ 英安(ふさやす・小出こいで、藩主/国学) I 3 8 2 4
 備前守(びぜんのかみ・鍋島)→ 直条(なおえだ・鍋島なべしま、藩主/詩歌) 3 2 7 7
 備前守(びぜんのかみ・鍋島)→ 直郷(なおさと・鍋島、直条孫/藩主/詩歌) B 3 2 2 3
 備前守(びぜんのかみ・中山)→ 信治(のぶはる・中山なかやま、藩当主/和学) J 3 5 3 9
 備前守(びぜんのかみ・中山)→ 信守(のぶもり・中山なかやま/松平、家老) G 3 5 6 9
 備前守(びぜんのかみ・浅野)→ 梅堂(ばいどう・浅野、幕臣/和学) B 3 6 9 2
 備前守(びぜんのかみ・藤堂)→ 高堅(たかかた・藤堂、藩主/歌人) L 2 6 7 3
 備前守(びぜんのかみ・森) → 為壽(ためかず・森もり/袴田、国学者) 2 7 0 1

C3751 **肥前掾**(びぜんのかみ・江戸えど、名;七郎兵衛/伊之助、杉山丹後掾男)?-? 1661-88頃浄瑠璃太夫、父の芸風継承し柔らかい語り物を得意とす、1661肥前掾を受領;江戸堺町の操芝居で活躍、「源氏十二段」/1672刊「十界図」著、[江戸肥前掾(;名号)の別称]天下一江戸肥前掾藤原清政(-清正)

C3752 **肥前掾**(びぜんのかみ・豊竹とよたけ、通称;新右衛門)1704-5754 大阪松屋町の呉服商の生、浄瑠璃太夫、豊竹越前少掾の門弟、1726豊竹座で初舞台/33江戸で活動;38江戸堺町に豊竹肥前座創設、座主・座本・座頭太夫を兼任;江戸の操芝居興行・義太夫節流行に尽す、45無届のため退転、1746再興/51名号を伊勢太夫に譲渡;隠居/のち肥前掾を名乗り再登場、俳諧を嗜む、1745「かくれんぼ」、51「頭陀袋」編、55「豊曲不二硯」著、[豊竹肥前掾(;名号)の別称]豊竹肥前掾藤原清正/宮内/東々庵/蛙井/一瓢庵、法号;春応庵

C3753 **備前典侍**(びぜんのかみ・源雅通女)?-? 平安後期歌人;備前守源兼長の妻、聡子内親王(一品宮)の乳母、後拾遺184、妹雅通女も後拾遺歌人、1086若狭守通宗女子達歌合わかさのかみみちむねあそんのむすめたちのうたあわせ(判者;通俊)参(隆源らと)、[ほととぎす名告りしてこそ知らるなれ訪たぐねぬ人に告げややらまし](後拾遺;184)、(大蔵卿藤原長房[1030?-99]に贈歌)[秋萩を咲く野辺ごとに尋ねつゝ露も落とさず見るよしもがな](通宗女子歌合;五番左9)丹波乳母と同一? → 丹波乳母(たんばのめのと・源雅通女、栄花物語の殿上花見・根合入)

肥前太夫(びぜんのかみ・橋村)→ 正克(まさかつ・橋村/度会、神職/歌/書) C 4 0 1 2

備前目(びぜんのかみ・河村)→ 琦鳳(きほう・河村/竹内/中原、絵師) L 1 6 9 2

弥惣(びそう・大塚) → 巴扇堂(初世はせんどう、呉竹世暮気、狂歌) E 3 6 7 4

弥惣(びそう・宇都宮) → 竜山(りゅうざん・宇都宮/原田、儒者/教育) E 4 9 2 3

C3755 **密**(ひそか・前嶋/前島まへじま、上野助右衛門男)1835-191985 越後頸城郡池部村の農家/諸国を遊学、医学・蘭学・英学・兵学・航海術を習得/1865薩摩藩で英語を教授、1866江戸に戻る、幕臣前嶋錠次郎の養嗣子;幕臣となる、1870新政府出仕;郵便制度確立・鉄道・教育に尽力、1866「慶応年中漢字御廃止の儀に付き慶喜公に上る書」著、[密(;名)の幼名/字/号]幼名;房五郎/来輔、字;懐之、号;鴻爪子/白眼居士/如々山翁、変名;巻退蔵

美則(びそく・村上) → 美則(よしのり・村上、商家/国学者) P 4 7 5 1

斐足神霊(ひそくしんれい) → 南阜(なんこう・浅井あさい、医者/詩歌) I 3 2 9 4

C3756 **潜**(ひそむ・関谷せきや、通称;敬蔵)1765-? 1814存 肥前長崎の儒者/国学者;本居宣長門、大阪淀屋橋で儒を業、「万葉集註」、1796「大学新註」97「易象解」、「易象直解」著

潜(ひそむ・浦池) → 九淵(きゅうえん・浦池うらいけ、儒者/詩) I 1 6 6 9

C3757 **火烧翁**(ひたきのおきな、紀;秉燭人ひともしびと)?-? 記紀歌謡詠者、倭建命(紀;日本武尊)東征伝説、倭建命東征時に甲斐酒折さかき宮で答歌(:連歌の祖)/東あづまの国造くにのみやつこに抜擢される、[新治にひばり筑波を過ぎて幾夜か寝つる](倭建命)[日日かか並なべて夜には九夜このよ日には十日を](御火烧翁)

K3710 **飛騨**(ひだ・高尾たかお/深草、本居宣長の長女)1770-184980 母;深草家出身、国学者;父門、

1786(天明6/17歳)母の実家の深草玄鑑と結婚;1男1女を出産/1631(寛永8)離婚、
 1797(寛政9/28歳)伊勢四日市の素封家高尾九兵衛吉きち(宣長の門弟)と再婚(後妻);
 2男4女を出産;のち孫の信郷(1825-1900/宣長曾孫)が後継者の絶えた本居家を継嗣、
 [飛驒(;名)の法名]知覚貞鏡信女

飛驒(ひだ・田辺) → 憲(けん・田辺たなべ、書家/篆刻) H 1 8 4 9
 飛驒(ひだ・浅野) → 忠(ただす・浅野あさの、藩家老) P 2 6 6 4
 飛驒(ひだ・森) → 連久(つらひさ・森、神職) E 2 9 4 6
 飛驒(ひだ・水走) → 平岡(へいこう・水走みずはしり、医者) 2 7 2 9
 飛驒(ひだ・柏木) → 眞海(しんかい・柏木かしわざ、幕臣/儒者) D 2 2 6 6
 飛驒(ひだ・八羽) → 光謙(みつかた・八羽はつば/荒木田、神職) K 4 1 0 9
 飛驒(ひだ・大久保) → 頼暉(よりてる・大久保おおくぼ、藩大老/歌) L 4 7 9 5
 美沢(ひたく・浦上) → 利延(としのぶ・浦上うらがみ、神職) U 3 1 3 7
 飛驒山人(ひださんじん・尽語楼) → 天明老人(てんめいろうじん、大工/狂歌) E 3 0 3 7

C3758 常陸(ひたち、三条左大臣頼忠[924-989]家女房)?-? 平安期歌人;977頼忠家前裁合参加、
 [虫の音に秋のまがきをもとむれば草むらわかず月もさやけし](頼忠前裁合;79)

C3759 常陸(ひたち・二条院前皇后宮にじょういんのさきのこうごのみや)?-? 二条天皇皇后の育子家女房、
 育子は藤原実能(1096-1157)女で藤原忠通の養女、御裳濯集5首入、
 歌人;勅撰3首;千載691・新勅139/841、藤原俊成女の女御殿大式説(「和歌色葉」)は誤り、
 [いかにせむ信夫しのぶの山の下紅葉しぐるゝまゝに色のまさるは](千載;恋691)、
 (忍ぶ恋ゆえの紅涙)

☆永久百首入の常陸(定成女肥後)とは別人

常陸(ひたち、実仁親王[1085没]の乳母) → 常陸乳母(ひたちのめのと、歌) C 3 7 6 3
 常陸(ひたち、1116永久百首歌人:76歳) → 肥後(ひご・京極前関白家) 3 7 5 1
 常陸(ひたち・羽田野) → 敬雄(たかお・羽田野はたの、神職/国学者) C 2 6 5 4
 常陸(ひたち・清岡) → 里三郎(りさぶろう・清岡/菅原、国学者) B 4 9 1 0
 常陸(ひたち・石川) → 豊次(とよつぐ・石川いしかわ/藤原、神職/国学) U 3 1 1 9
 常陸(ひたち・小野) → 幸雄(ゆきお・小野おの、国学者/歌人) G 4 6 6 6
 常陸(ひたち・小保内) → 定知(さだとも・小保内おぼない、神職/国学) O 2 0 0 6
 常陸(ひたち・坂) → 尚品(ひさただ・坂さか/荒木田、神職/歌) J 3 7 7 0
 常陸(ひたち・八羽) → 光謙(みつかた・八羽はつば/荒木田、神職) K 4 1 0 9
 常陸(ひたち・岡) → 方度(まさのり・岡おか、商家/歌人) O 4 0 5 1
 常陸(ひたち・広田) → 正陽(まさはる・広田ひろた/度会/中須、神職/絵師) S 4 0 2 1
 常陸入道(ひたちにゅうどう) → 契忍(けいにん、僧/歌人) D 1 8 5 8
 常陸入道(ひたちにゅうどう) → 宗三(そうさん・佐竹、武家故実/弓術家) H 2 5 4 3

C3760 常陸娘子(ひたちのおとめ) ? - ? 常陸の遊行女婦うかれめか?、
 万葉三期歌人521;藤原宇合うまかひの常陸守を離任上京時721年頃に贈る歌、
 [庭に立つ麻手あさで刈り干し布さらす東女あつまをみなを忘れたまふな](万葉集;四521)

C3761 常陸介(ひたちのすけ・唐崎からさき、名;信徳/士愛ことちか/玉成、信道男) 1737-96切腹60 安藝竹原の神職:
 実父は竹原磯宮八幡社祠官/1751伊勢の谷川士清門、家職;磯宮八幡社祠官を嗣、
 垂加神道主唱、儒者唐崎広陵の養子/京で高山彦九郎と親交;尊王思想主唱、
 1793彦九郎の自刃;後を追ひ1796竹原長生寺庚申堂で切腹、「彦文家集」編、「神道秘録」著、
 [常陸介(;通称)の幼名/字/別通称/号]幼名;哲太郎、字;宝愛/百道、
 別通称;淡路、号;瓊山けいざん/赤斎せきさい、変名;柄崎八百道

常陸介(ひたちのすけ・荷田) → 信言(のぶこと・荷田/羽倉、神職/詩) B 3 5 4 1
 常陸介(ひたちのすけ・徳川) → 頼宣(よりのぶ・徳川/源/松平、初代紀州藩主) J 4 7 3 9
 常陸介(ひたちのすけ・徳川) → 光貞(みつさだ・徳川/松平/源、藩主) D 4 1 4 4
 常陸介(ひたちのすけ・徳川) → 治室(はるとみ・徳川、藩主/雅楽) G 3 6 6 0
 常陸介(ひたちのすけ・徳川) → 宗将(むねのぶ・徳川/松平/源、藩主) C 4 2 1 1
 常陸介(ひたちのすけ・小寺) → 清先(きよさき・小寺こでら、神職/国学) D 1 6 1 5
 常陸介(ひたちのすけ・浦) → 毎保(つねやす・浦うら/藤原、神職/国学) F 2 9 3 3

常陸介(ひたちのすけ・川江)→ 直種(なおたね・川江かわえ/定村、神職/歌) L 3 2 6 9
 常陸介(ひたちのすけ・清家)→ 貞幹(さだもと・清家せいけ/清原、神職/歌) O 2 0 7 5
 常陸介(ひたちのすけ・根本)→ 佳胤(よしたね・根本ねもと/平、神職/国学) O 4 7 4 1
 常陸介(ひたちのすけ・中川)→ 長雄(ながお・中川ながわ/藤原、廷臣/歌) O 3 2 0 3
 常陸之允(ひたちのすけ・野沢)→ 信元(のぶもと・野沢のざわ/藤原、神職/国学) J 3 5 5 4
 常陸大掾(ひたちのたいじょう)→ 浄永(じょうえい、平高幹、武将/連歌) H 2 2 1 7

C3762 常陸内侍(ひたちのないし) ? - ? 平安前期村上天皇期の女官;掌侍ないしのじょう、
 歌;962応和二年内裏歌合参加(;5月4日庚申夜に5日の時鳥を待つという題)、
 [ほととぎす心しあらばさみだれのいつか待つ夜はとくも鳴かなん](内裏歌合;2)

C3763 常陸乳母(ひたちのめのと、女房名;常陸)?-? 平安後期後三条天皇皇子実仁親王(1085没)の乳母、
 1085実仁親王夭逝を悼む贈答歌(大僧正行尊と):新統古1560(行尊への答歌)、
 [花よりもちりぢりになる身をしらで千歳の春と頼みけるかな]、
 (新統古;哀傷1560/統詞花集;哀傷388)

常陸屋甚兵衛(ひたちやじんべえ)→ 常丸(つねまる・忍岡、姓;藤本、戯作) D 2 9 8 1
 飛驒守(ひだのかみ・森脇)→ 春方(はるかた・森脇、武将/記録) G 3 6 1 4
 飛驒守(ひだのかみ・蒲生)→ 氏郷(うじさと・蒲生がもう、武将/城主/歌) 1 2 3 1
 飛驒守(ひだのかみ・立花)→ 忠茂(ただしげ・立花、藩主/歌人) F 2 6 1 2
 飛驒守(ひだのかみ・畠山)→ 義里(よしさと・畠山はたけやま/源、奥高家) O 4 7 5 2
 飛驒守(ひだのかみ・酒井)→ 忠明(ただあきら・酒井さかい/源、忠蓋/藩主) U 2 6 0 5
 飛驒守(ひだのかみ・賀茂)→ 規清(のりきよ・賀茂/梅辻、烏伝神道家) E 3 5 4 4
 飛驒守(ひだのかみ・波多野)→ 庸成(つねなり・波多野はたの/伊藤、神職) G 2 9 1 6
 飛驒守(ひだのかみ・杉浦)→ 国頭(くにあきら・杉浦すぎうら、神職/国学) 1 7 1 7
 飛驒守(ひだのかみ・巨勢)→ 惟久(これひさ・巨勢こせ、絵師) O 1 9 7 5
 飛驒守(ひだのかみ・波多野)→ 春郷(はるさと・波多野はたの、神職/国学) K 3 6 5 8
 飛驒守(ひだのかみ・立花)→ 鑑寛(あきとも・立花、藩主/文筆) D 1 0 1 0
 飛驒守(ひだのかみ・前田)→ 利啓(としか・前田まへだ、藩主/歌人) W 3 1 4 0

C3764 飛驒掾(ひだのじょう・山本やまもと、おやま五郎兵衛男)?-?;元文1736-41頃没 江中期京の人形遣い、
 元禄-正徳1688-1716頃大坂出羽座を中心の人形遣い:浄瑠璃作者として自演曲を執筆、
 1700宮中でからくり細工を演じて飛驒掾を受領/のち河内掾の名代も許可、
 1708江戸に下向し堺町で興行;水からくり・手妻人形に特色、後代三人遣への道を拓く、
 吉田三郎兵衛らに影響、「生玉北向八幡宮」「役行者伝記」「息女四天王」「さんせう太夫」作
 [山本飛驒掾(;名号)の別名号]山本弥三五郎(初名号)/飛驒掾源清賢/河内掾

日田山左右(ひたやまさゆう)→ 左右(さゆう・日田山、財津永晟、藩士) L 2 0 5 9
 飛大夫(ひだゆう)→ 飛大夫(とびだゆう、能役者) O 3 1 7 0
 美竹西荘(びちくせいそう)→ 鉄兜(てつとう・河野、医/儒/詩歌) C 3 0 5 7
 美知女(びちじょ)→ 未知代(みちよ・眠我の妻、俳人) C 4 1 8 0
 美知女(びちじょ・堀内)→ 美知女(みちじょ・堀内ほりうち、歌人) H 4 1 9 1
 美中(びちゆう・藍沢)→ 朴斎(ぼくさい・藍沢あいざわ、儒者/教育) D 3 9 1 9
 美仲(びちゆう/よしなか・柳瀬)→ 方塾(みちいえ・柳瀬やなせ、商家/国学/歌) B 4 1 1 8
 鼻中庵(びちゆうあん)→ 三力(さんりき・鼻中庵、俳人) E 2 0 8 0

C3765 披長(ひちよう・杉村すぎむら) ? - ? 江中期伊勢の俳人、
 1715「土佐みやげ」編(自序/土佐の諸家と連句・土佐俳人の吟収集/京の菊屋七郎兵衛板)
 斐張(ひちよう・堀)→ 斐張(あやはる・堀ほり、藩老/国学者) I 1 0 4 1

I3751 眉長(びちよう・糸川いとかわ、法名;一貫雄長庵主)1817-188670 紀伊牟婁郡の国学者;佐々木弘綱門、
 歌人

美澄(びちよう・松井)→ 美澄(みはる・松井/源、藩医/国学者) F 4 1 7 4
 美暢(びちよう・西川)→ 竜章堂(りゅうしょうどう・西川にしかわ、書家) E 4 9 7 3
 眉長(びちよう)→ 眉長(まゆなが、橘州門狂歌作者) K 4 0 1 6
 眉長(びちよう・堀田)→ 燕斎(えんさい・堀田、旗本/川柳作者) B 1 3 7 5
 眉長房(びちようぼう)→ 沾山(7世さんざん・内田、合歓堂) F 2 4 5 7

- 美直(びちよく・高原) → 美直(よしなお・高原たかはら、大庄屋/国学) N 4 7 7 4
 美陳(びちん・野田) → 美陳(よしのぶ・野田のだ、庄屋/国学/歌) M 4 7 1 8
 飛沈斎(ひちんさい) → 白亀(はつき・飛沈斎、俳人;雑俳) F 3 6 1 1
 苾(ひつ・青木) → 青城(せいじょう・青木あおき、儒者) C 2 4 2 7
 秘(ひつ・但馬/田結莊) → 千里(ちさと・田結莊たゆいのしょう/但馬、蘭学/砲術) B 2 8 9 6
 弼(ひつ・富川/大橋) → 白鶴(はつかく・大橋/富川とみかわ、儒者) F 3 6 0 8
 弼(ひつ・長崎) → 金城(きんじょう・長崎ながさき、儒者) J 1 6 0 2
 弼(ひつ・浦上) → 玉堂(ぎよくどう・浦上うらがみ、詩/画/琴) D 1 6 0 7
 弼(ひつ・加藤/篠崎) → 小竹(しょうちく・篠崎/篠、儒者/詩人) 2 2 9 2
 弼(ひつ・河崎/川崎) → 敬軒(けいけん・河崎/川崎かわさき、儒者) F 1 8 5 0
 弼(ひつ・多々羅) → 西臯(さいこう・多々羅たたら、町人/詩人) G 2 0 6 7
 弼(ひつ・淡輪) → 元潜(げんせん・淡輪たんなわ/たんのわ、医者) K 1 8 6 5
 弼(ひつ・伊東) → 如雷(じらい・伊東いとう、藩医者) M 2 2 8 8
 弼(ひつ・山田) → 重秋(しげあき・山田やまだ、漢学/大肝煎) a 2 1 0 2
 弼(ひつ・神林) → 復所(ふくしょ・神林かんばんやし、藩士/儒者) B 3 8 5 8
 弼(ひつ・椿) → 椿山(ちんざん・椿つばき、幕臣/兵学/絵師) K 2 8 7 4
 弼(ひつ・黒川) → 良安(りょうあん・黒川くろかわ、医者) G 4 9 1 0
 弼(ひつ・栗原) → 弼(たすく・栗原くりはら、国学/歌人) W 2 6 9 0
 必庵(ひつあん・鈴木) → 其一(きいつ・鈴木すずき、絵師) E 1 6 9 5
 必安舎将園(ひつあんしゃしょうえん) → 好方(よしかた・藤井ふじい、藩士/藩助教) O 4 7 8 5
 必華(ひつか・毛生) → 学川(がくせん・曾谷そだに、儒者/詩/篆刻) E 1 5 8 8
 C3766 必賀(ひつが・五島ごとう、赤水男)?- ? 1807前没 大阪の儒者、必由の弟/必与の兄、「獅巖存稿」著
 必賀(ひつが・五島) → 赤水(せきすい・五島、必賀の父/医者) K 2 4 2 5
 筆海(ひつかい・三国/真幸) → 正心(せいしん・真幸まさき、書家) I 2 4 9 0
 筆海子(ひつかいし) → 妙貞(みょうてい・長谷川はせがわ、書家) G 4 1 6 0
 筆花堂(ひつかどう) → 威佐(かんすけ・戸川とがわ、藩士/書家) R 1 5 1 5
 筆華堂(ひつかどう) → 茂八(もはち・玉置たまき、書家) E 4 4 8 8
 必化坊(ひつかぼう) → 五雲(ごうん・岡、不夜庵2世、俳人) C 1 9 1 1
 C3767 必観(ひつかん・其瀾亭きらんてい)?- ? 江中期江戸住の俳人、蓼太と交流、1771「山里六歌仙」編
 必簡(ひつかん・斎/斎藤) → 静斎(せいさい・斎いつき/斎藤/斎宮、儒者) B 2 4 5 7
 必貫(ひつかん・箕曲) → 在一(あいかず・箕曲みのわ、神職/詩歌) F 1 0 2 6
 必器(ひつき・蒔田) → 暢斎(ちやうさい・蒔田/田、書家/篆刻) I 2 8 3 7
 必敬(ひつけい・三野) → 象麓(しょうろく・三野みの、漢学者) C 2 2 1 6
 弼卿(ひつけい・小林) → 忠良(ただよし・小林こばやし、農業/和算家) R 2 6 3 5
 必香(ひつこう・田結莊) → 千里(ちさと・田結莊たゆいのしょう/但馬、蘭学/砲術) B 2 8 9 6
 筆耕林助(ひつこうりんすけ) → 孟緯(たけひろ・川名かわな、儒者/詩人) O 2 6 7 0
 弼宰相(ひつさいしょう) → 有国(ありくに・藤原、漢学/詩人) B 1 0 6 6
 C3768 羊(ひつじ・若麻績部わかおみべ)?- ? 奈良期755防人/上総国長柄郡ながらのこおり上丁、万葉廿4359、
 [筑紫辺つくしへに舳向へむかる船のいつしかも仕へ奉まりて国に舳向かも](万葉集;廿4359)
 J3790 穠(ひつじ・吉田よしだ、旧姓;待井) 1835-1907 73 筑前福岡の歌人;井上文雄・八田知紀門、
 [穠(穠;名)の別名/通称]別名;成樹、通称;安内
 筆次(筆二/筆治ひつじ・玉木) → 筆次(筆二/筆治ふでじ・玉木、歌舞伎・浄瑠璃作者) D 3 8 4 4
 弼次(ひつじ・佐々木) → 松後(松吾しょうご・佐々木、総年寄/俳人) C 2 2 8 4
 泌舎主人(ひつしゃしゅじん) → 一江(いっこう・和田わだ、儒者) H 1 1 0 7
 必醇(ひつじゅん・何か) → 学川(がくせん・曾谷そだに、儒者/詩/篆刻) E 1 5 8 8
 苾蕝(ひつすう) → 貞佐(ていさ・桑岡、初世平砂、俳人) 3 0 0 3
 筆正(ひつせい・中川) → 憲斎(けんさい・中川ながわ、書家) I 1 8 9 4
 必節堂(ひつせつどう) → 花外(かがい・星野、俳人) B 1 5 1 8
 沕潜(ひつせん・永田) → 善斎(ぜんさい・永田/広島、儒者/詩) F 2 4 4 1
 沕潜居(ひつせんきよ) → 善斎(ぜんさい・永田/広島、儒者/詩) F 2 4 4 1

- C3769 **必大**(ひつだい・人見ひとみ/修姓;野、初名;篤、元徳男/本姓;小野)1642?-170160? 幕臣;
1677幕府番医、本草学、1692「本朝食鑑」著(;兄竹洞序/1695將軍綱吉に献上)、98小普請、
「丹岳随筆」著、
[必大(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;小笋/小筍、字;千里、通称;正竹/伝左衛門、
号;丹嶽、変名;平野必大
必大(ひつだい・伊藤) → 震台(かだい・伊藤いとう、儒者) M 1 5 8 9
必大(ひつだい・田中) → 適所(てきしょ・田中たなか、医者/儒者) B 3 0 9 7
筆端(ひつたん・独歩庵) → 買明(ばいめい・交/高橋、俳人) C 3 6 0 8
必端(ひつたん・小島/島) → 洪卿(こうけい・小島/児島、商家/漢学) I 1 9 4 2
必弾居(ひつだんきよ) → 雪哉(雪斎せつさい・森田もりた、俳人) K 2 4 9 7
必端堂(ひつたんどう) → 洪卿(こうけい・小島/児島、商家/漢学) I 1 9 4 2
- C3770 **備中**(びっちゅう) ? - ? 平安後期女房/歌人;1089四条宮扇合(寛子催)参加、
四条宮扇合の参加者は経信・匡房・公実・俊頼・美濃・加賀左衛門・郁芳門院安藝など、
[かもめみるしらの浜の水底にそのたまみゆる秋の夜の月](四条宮扇合;3)
備中(びっちゅう) → 功德(くどく;法諱、備中、僧/狂詩) B 1 7 4 4
備中(びっちゅう・丹羽) → 貴明(たかあき・丹羽にわ、家老/文武奨励) L 2 6 4 7
備中(びっちゅう・高野) → 倫兼(ともかね・高野たかの、藩士/詩歌) P 3 1 3 5
備中守(びっちゅうのかみ・山井、備中介) → 景貫(かげつら・山井やまのい、楽人) L 1 5 0 5
備中守(びっちゅうのかみ・永田) → 高弘(たかひろ・永田/源、武将/連歌) N 2 6 0 4
備中守(びっちゅうのかみ・座田) → 太氏(ひろうじ・座田さいだ/賀茂、神職/歌) F 3 7 5 7
備中守(びっちゅうのかみ・三原) → 重種(しげたね・三原みはら、藩家老/和学) Z 2 1 8 9
備中守(びっちゅうのかみ・阿部) → 正精(まさきよ・阿部あべ、藩主/書画/歌) L 4 0 5 9
備中守(びっちゅうのかみ・酒井) → 忠謙(ただなお・酒井さかい、藩主/歌) U 2 6 1 7
備中守(びっちゅうのかみ・板倉) → 勝行(かつゆき・板倉いたくら、藩主/国学) T 1 5 6 9
備中守(びっちゅうのかみ・井伊) → 直惟(なおのぶ・井伊いゐ/藤原、歌人) K 3 2 9 8
備中守(びっちゅうのかみ・北小路) → 俊徳(としのり・北小路きたのこうじ/大江、諸大夫/歌) U 3 1 9 8
備中守(びっちゅうのかみ・星野) → 千之(かずゆき・星野ほしの、幕臣/奉行) V 1 5 6 2
備中守(びっちゅうのかみ・増山) → 正同(まさとも・増山ますやま/永井、藩主) S 4 0 5 9
備中次郎左衛門尉(びっちゅうのじろうさえもんじょう) → 行藤(ゆきふじ・二階堂/藤原、幕臣/歌) F 4 6 5 4
- C3771 **備中介**(びっちゅうのすけ・姓名不詳)?-? 平安期男性歌人;
977三条左大臣頼忠家歌合の後宴[好忠の会]に参加
[ふぢばかま秋のみきつつゆくものをいづこに露のおきそはるらむ](頼忠家歌合;99)
備中介(びっちゅうのすけ・三宅) → 経香(つねか・三宅みやけ/賀茂県主、神職/書・歌) G 2 9 4 4
- C3772 **備中貧楽**(びっちゅうのひんらく)? - ? 江後期狂詩/1815雅仏「毒玉どきぎょく集」上巻入、高野山僧?
筆天斎(ひつてんさい) → 伊助(いすけ・中尾、浮世草子作者/画) D 1 1 4 8
- C3773 **必東**(ひつとう・泉/銭せん、名;貞/経貞)?-1764 大阪の書家;細井広沢門、画;沈南蘋なんびんに私淑、
1748「滄溟錦帯賦」書、48「女蘿館消息」著、「倭文章」書、
詩人;1742東溟「名月篇」・61雪巖「白雪余歌」などに詩入、
[必東(;通称)の字/号]字;恒卿/恒軒、号;女蘿館
筆道先生(ひつどうせんせい) → 玉善(ぎよくぜん;法諱・知覚、真言僧) P 1 6 2 2
必々舎(ひつつしゃ) → 馬宥(ばゆう・堀田/芳井、雑俳点者) F 3 6 7 7
筆峯(ひつぼう・狩野) → 探幽(たんゆう・狩野、絵師) I 2 6 6 1
筆峯大居士(ひつぼうだいこじ) → 探幽(たんゆう・狩野、絵師) I 2 6 6 1
- C3774 **匹竜**(ひつりゅう・ひきりゅう・藤重ふじしげ、通称;献吉)?-? 江後期大阪阿波座の文筆家、
1803刊「掌中古言梯」著
筆林舎(ひつりんしゃ) → 忠昭(ただあき・葛上くずがみ、藩家老/地誌) P 2 6 0 8
- K3753 **ひで**(・丹羽にわ、藩士丹羽宗義むねよし[1726-1822]女)1775-184470 信濃飯田の歌人;桃沢夢宅門、
歌;福住清風せいふう門
秀(ひで・青江) → 秀(ひいず・青江、藩士/官吏) C 3 7 7 5

- 秀(ひで・富田) → 秀女(ひでじよ・富田とみた、歌人) L 3 7 7 1
 秀(ひで・佐田) → 友忠(ともただ・佐田さだ/藤原、国学/勤王) V 3 1 3 0
- H3798 秀秋(ひであき・小早川こばやかわ/羽柴、木下家定[高台院の兄]男) 1582-1602早世21 武将:
 1585秀吉の養子、羽柴秀俊を名乗る/1589丹波亀山城所領/92従三位権中納言、
 1594小早川隆景の養子、1595秀次事件に連座;亀山城を没収/筑前名島城主、
 1597慶長役の総大将;秀秋に改名、1600関ヶ原戦で東軍へ内通;西軍敗退の原因となる、
 備前・美作を加増;岡山城を改築;秀詮に改名、1602(慶長7)上方から帰国途中急死、
 酒による内蔵疾患?/裏切で討死した大谷吉継の祟りという逸話あり、
 小早川家は無嗣断絶により改易、
 [秀秋(;名)の別名/通称]別名;辰之助(;幼名)/秀俊(;初名)/秀詮ひであき(;関ヶ原戦後名)、
 通称;丹波中納言/金吾中納言、木下長嘯子の弟
- L3734 秀秋(ひであき・三輪みわ、喜太夫治秀男) 1685-176985 江戸生/陸奥盛岡藩士、南部主計に出仕、
 秀寿ひでひさ(1686-1764)の兄、一家で盛岡移住/兄弟で京三条家流歌人、以後三輪門歌道続く、
 [秀秋(;名)の通称] 定右衛門
- C3776 秀詮(ひであき・築田/梁田やなだ、通称;平左衛門) 1717?-178872? 陸中盛岡藩士;1752市監/69参政、
 1770花巻郡代、1781「法曹至要鈔俗解」86「梁翁古稀集」、「名例律解」著
- C3777 秀詮(ひであき/ひであきら・大巻おおまき/初姓;戸田、別名;恒実) 1740-180162 陸中花巻の人/大巻家継嗣、
 盛岡南部藩士;福岡・田名部の代官、1797「邦内郷村志」著、
 [秀詮(;名)の通称/号]通称;勇助、号;鳳陽
- J3781 秀秋(ひであき・島田しまだ/本姓;紀、通称;河内) ?-? 江中後期神職;紀伊日前宮社家、
 国学;本居宣長(1730-1801)門
- C3778 秀詮(ひであき・寺西てらにし、通称;蔵人、秀一男) ?-? 1841存 加賀金沢藩士;1812家督6500石、
 1816宝円寺火消/41致仕、「宝円寺請取火消方留帳」著
- 秀明(ひであき・隠岐) → 栞軒(しゅけん・隠岐、詩人) I 2 1 6 5
 秀明(ひであき・古屋) → 眞章(まなか・古屋ふるや、神職/国学) H 2 0 1 8
 秀明(ひであき・米津/隠岐) → 栞軒(しゅけん・隠岐おき/米津、与力/詩人) I 2 1 6 5
 秀明(ひであき・清水) → 三益(さんえき・樋口ひぐち/清水、幕府侍医) N 2 0 4 7
 秀昉(ひであき・熊沢) → 秀昉(しゅうほう;法諱、僧、歌人) M 2 1 9 9
 秀章(ひであき・根岸) → 鶴亭(かくてい・根岸ねざし、藩士/儒者) K 1 5 2 4
 英明(ひであき・色川) → 三中(さんちゅう・色川、商家/国学者) G 2 0 0 3
 英明(ひであきら・源、母道真女) → 英明(ふさあきら・源、廷臣/詩歌人) B 3 8 9 7
- I3793 秀厚(ひであつ・岡田おかだ、旧姓;田熊) 1840-191273 下野都賀郡の国学者、維新後;栃木県庁出仕、
 大平山神社祠官、
 [秀厚(;名)の字/通称/号]字;崇父、通称;順平、号;渡南
 美庭(びてい・大野) → 美庭(よしか・大野おの、国学) L 4 7 9 7
- 3708 秀家(ひでいえ・浮田/宇喜多/宇喜田うきた、初名;家氏、直家男) 1572-165584 武将;備前備中美作領主、
 妻;前田利家女、従三位権中納言、秀吉の九州・小田原攻に参戦/1598秀吉五大老の1、
 1600関ヶ原で敗戦;06八丈島に流罪、1600「毛利輝元浮田秀家誘瑞竜公書」著、
 [秀家(;名)の通称/号]通称;八郎、号;休福/体福/礼福/久躬/成元、法号;樹松院
 秀家(ひでいえ・多賀) → 秀種(ひでたね・多賀/堀、武将/日記) D 3 7 1 6
- L3775 秀稻(ひでいね・田中たなか) ? - ? 江後期;歌人、神職?、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [若松にならぶ老木の千代の色はおとりまさりも見えずぞ有りける]、
 (大江戸倭歌;雑1772)
- C3779 秀氏(ひでうじ・藤原ふじわら/家名;河村?、河村秀基男?) ?-? 鎌倉中期の連歌作者;菟玖波集1句入、
 河村秀氏とすると:通称;二郎太郎/法名;秀念/5代將軍藤原[九条]頼嗣(1239-56)の近習;
 1252頼嗣の將軍廃位後帰京し出家
 [柴の戸の明暮あけくれ松の風聞きて](菟玖波;十六1613/前句;滝の響きもなるゝ木かくれ)
- C3780 秀氏(ひでうじ・小槻おつき/大宮、小槻秀継男) ?-1292 廷臣;主計頭/隠岐守/記録所勾当/大蔵権大輔、
 算博士/左大史/正四下/穀倉院別当/修理東大寺大仏長官、「小槻秀継記」著

- C3781 **英氏**(ひでじ・石野いし、通称;雅楽助うたのすけ、寛氏男)1786-1835⁵⁰ 加賀藩士;1808家督/御奏者、公事場奉行/魚津在住御算用場奉行/御近習御用、1824「御算用場格帳」編/「石野英氏諸雑」
- K3789 **秀枝**(ひでえ・二木ふたき/にき、秀幹ひでもと[1813-57]男)?-1867 江後期;飛騨高山の酒造業(二木10代)、国学者;山崎弘泰門、点茶・活花を嗜む、
[秀枝(;名)の初名/通称]初名;恭依、通称;長右衛門(代々の称)
- I3737 **秀枝**(ひでえ/ほつえ・永野ながの/本姓;橘、通称;浅右衛門)?-? 江後期土佐藩多郡利岡の大庄屋の一族、国学;本居大平門、大平撰「八十浦の玉」下巻入、
[宮人の袖かぐはしくかをれるは殿の橘花咲きぬらむ](八十浦;789)
秀枝(ひでえ→ほつえ・青木)→秀枝(ほつえ・青木あおき/丹治比、料理/尊攘/歌)G 3 9 1 3
- L3773 **秀条**(ひでえだ・高木たかぎ、任字2男)1769-1837⁶⁹ 尾張藩士高木求馬秀虔の養嗣;1890家督継嗣;175石/普請組寄合、儒;須賀亮齋門/神道;堀尾秀実門/歌;日野資枝門、1798小納戸兼奥番江戸在勤;世子愷千代(斉朝)に伴読、奥寄合/中奥番/先手物頭格に昇格;250石、神道家;三教一致の説;「いつまで草」著、深田正韶まさあきの神道の師、逸話;文政1818-30頃農民が早天を歎き雨乞の歌を乞うので秀条が氏神の社頭に献歌;
[水無月の天のかはせみせきわけて民の心にまかせたらなむ]の詠で降雨し一同安堵す
[秀枝(;名)の字/通称/号]字;子暢、通称;三次/源五左衛門、号;椿庵/玉鏘翁(;晩年号)法号;椿庵宗古居士
- I3779 **秀雄**(ひでお・織田おだ、信雄の長男)1583-1610^{早世28} 母;北畠具教女の千代御前(雪姫)、1590(天正18)父信雄は秀吉の国替命令を拒んで改易;秋田配流、1592(文禄元)秀雄は越前大野郡に5万石を授与;亀山城(大野城)を居城;従三位・参議、小牧・長久手戦後;秀吉により織田宗家の当主と公認;家督嗣、1600(慶長5)関ヶ原戦で西軍に属し改易;江戸浅草に閑居;1602秀忠より蔵米3千俵支給、
[秀雄(;名)の幼名/法号]幼名;三法師、法号;月松院
- C3782 **秀雄**(ひでお) ? - ? 俳人;1672元隣・元怨編「諸国独吟集」下巻;独吟入
- I3778 **秀雄**(秀緒ひでお・織田おだ、通称;寿三)?-1823 越中富山藩医/国学/歌人
- I3743 **秀雄**(ひでお・新村しむら)1764- 1844^{81歳} 江戸の幕臣;主計頭かづえのかみ、新村出の義理の祖父、歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入(主計頭名)、猛雄・秀起の父、
[いつしかも檜原のみ雪うちとけて霞たなびくを初瀬の山]、
(大江戸倭歌;春113/雪消山色静)、
[思ひきや人をみるめのうらぶれて袖の涙に沈むべしとは](同;恋1547/寄浦恋)
- C3783 **秀雄**(ひでお・飯田いだ、信秀男)1791-1859⁶⁹ 因幡気多郡勝宿の加知弥かちみ神社祠官(宮司)、国学・歌;衣川長秋門/1796従五下、のち国禁を犯し追放/1832和歌山で本居大平門、歌;加納諸平門、1834帰郷し古学を興す、1859家集「樟齋集」、「鷲峯集」飯田秀雄随筆著、「樟齋謾筆」「倭歌集」著、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入、伴林光平の師、妻;志保[汐子](白岩正栄女/大平門)、秀臣・年平・竜臣・俊子・輝子の父、
[かねのおとに梅か香たくふ夕風もまた春さむしつづらをの里]、
(沖探容画の因幡八景;妨己尾晚鐘)
[秀雄(;名)の幼名/通称/号]幼名;円(園)之助、通称;大蔵/筑前守、号;樟齋、
- C3784 **秀雄**(ひでお・小早川こばやかわ/土肥、吉田源五兵衛方行男)1802-53⁵² 備中足守藩士;土肥家継嗣医、断絶した小早川姓を名乗る;幕府の忌憚を怖れた藩の反対により致仕、宇佐美流兵法家、儒;徂徠学修得/郷土史に精通/画を嗜む/古器蒐集、「吉備国史」編(嘉永1848-54頃)、
[秀雄(;名)の幼名/通称]幼名;久米之丞、通称;太平太/隼人、号;天柱/豪谷/太平軍師、法号;平秀院
- K3792 **栄雄**(ひでお・辺見へんみ、号;竹陰亭草人)1802-70⁶⁹ 陸奥仙台の国学者
- J3706 **秀雄**(ひでお・勝野かつの、三勝文十郎長男)1829-1908⁸⁰ 名古屋諸町の尾張藩御鞆(磔しよう/かたたぬき)師、父の鞆(磔)師(;ゆがけ[弓・鷹狩用皮手袋]製造業)を継嗣、神道および桂園派歌道;氷室長翁ながとし門、国学;植松茂岳しげおか門/歌;熊谷直好門、維新後;1868民部省駅通司官;天皇東京行幸に同行/1870埼玉県官、1887神職;武蔵大宮一宮氷川神社禰宜;89氏子総代等より建言書が提出され騒動;90退任、退任後は専ら詠歌に専念し歌壇で活動、妻;加藤平助女の[ちょう]、米子よね・秀麿の父、

1852「桐の落葉」「桐園歌話」/57「やたからす」「今案折々草 桂園門下集」、
遺稿集「むらからす」(1914刊)

[むらからすほからとなきて天の戸をあけたる空に年はきにけり](むらからす巻頭)
[秀雄(;名)の別名/通称/号]別名;宗章、通称;啓太郎/文十郎(父の称)、号;桐園

K3785 秀緒(ひでお・藤田ふじ、浪緒なみお[1804-49]男)1835-191076 羽前米沢藩士/国学・歌;父門
[秀緒(;名)の通称] 八十八

秀雄(ひでお・白井/菅江)→ 眞澄(ますみ・菅江すがえ、国学/地誌) J 4 0 2 3

秀雄(ひでお・中山) → 俊彦(としひこ・中山なかやま、神職/国学) V 3 1 9 4

C3785 秀崇(秀岳ひでおか・良岑/良峰よしみね)?-? 896存 廷臣/官人:879文章生/883但馬掾、
884治部少丞/888兵部少丞/891兵部大丞/896従五下伯耆守、歌:古今集379、
[白雲のこなたかなたにたち別れ心を幣ぬきとくたく旅かな](古今集;離別379)、
(友が東あづまに行く時に贈る歌)

K3798 英興(ひでおき・本堂ほんどう、通称;右内)1780-184061 陸奥盛岡藩士、国学者

J3788 秀起(ひでおき・新村しんむら、秀雄2男)1806-4439 江戸の国学者/歌人、
[秀起(;名)の通称]藤兵衛/為之丞/平五郎

C3786 秀興(ひでおき・小槻おつき/別姓;虫鹿、小槻秀寿男)1811-? 1855存 廷臣;1839豊後守/左少史、
1851右大史/55(安政2)正五下、「御造営御用掛日記」著

C3787 秀興(ひでおき・相浦あいうら、通称;弥税)?-? 江末期羽前米沢藩士、
1850頃上杉家逸話集「鶴城叢談」著

秀興(ひでおき・宮川/宮腰/宮越)→ 忍斎(にんさい・宮川、兵学者) G 3 3 3 9

秀興(ひでおき・河村) → 秀穎(ひでかひ・河村かわむら、藩士/国学者) C 3 7 8 9

秀興(ひでおき・金) → 易右衛門(いゑもん・金こん、藩士/養蚕) F 1 1 0 4

C3788 秀臣(ひでおみ・飯田いだ、通称;大蔵/肥後守、秀雄の長男)1815-4935 母;汐子、
因幡気多郡加知弥神社祠官、歌;父門、「勝宿大明神由緒書」著、年平の兄、秀仲の父

I3754 秀馨(ひでか・今井いまい、)1754-183178 江戸幕府参政の稲葉家に出仕、
のち石見津和野藩士、妻;久留米藩士石黒家の娘、大国隆正の父、
[秀馨(;名)の号] 護斎/五柴ごさい/天柱

L3747 秀香(ひでか・六人部むとべ、忠篤男)?-1883 山城乙訓郡向日神社祠官の家の生、
是香よし(1798-63)の弟、国学者/歌人/神道家:河内門間(門眞)神社社司、
[秀香(;名)の字/通称]字;御六、通称;雲平

J3757 秀馨(ひでか・高妻こうづま、医者 of 秀備ひでつね長男)1815-190086 日向宮崎郡本庄村六日町の儒者、
1837広瀬淡窓の咸宜園入門/のち父と大坂の篠崎小竹門、父は大塩平八郎と親交、
和漢学・書画・詩歌を修学、大塩乱後に帰郷;私塾[会友園]開設し多数の子弟教育、
讃岐の日柳燕石と交流、弟五雲ごうんの私塾[稽衆園]と連携し地域教育文化に貢献、
[秀馨(;名)の通称/号]通称;円之助/行祐ぎょうすけ、号;騰雲とううん

直香(ひでか・橋本) → 直香(ただか・橋本はしもと、国学) E 2 6 8 7

C3789 秀穎(ひでかひ・河村かわむら、初名;秀興、秀世男)1717-8367 尾張藩士;1751家督/先手物頭、
1787町奉行、書物奉行、歌;冷泉為村門、
国学:河村秀辰門/福本八十彦・多田義俊門/吉見幸和門/天野信景門、
蔵書多し;1773文会書庫と称し貸出す、深田昌益と親交、秀根の兄/秀俊の父、
1744「天御中主尊造化人体論」45「夷子大黒説辨」46「日本書紀撰者考」47「日本書紀撰者辨」、
1782「敬正二祖雑記」編、「天柱伝」編/「古事記開題」「歴代徒刑考」「令義解備考」外著多数、
[秀穎(;名)の字/通称/号]字;君栗、通称;久米之進/七郎/進七郎/公明/敬彦、
号;秋水軒/楽寿園/楽寿館/投杖堂/地水軒、法号;秋水軒

J3714 秀穎(ひでかひ・川田かわだ、通称;久次郎)1826-9772 阿波徳島藩寺沢家の家臣、
国学;野口年長・池辺眞榛まはり門/歌;木内千尋門、徳島金刀比羅神社社司、
のち大麻比古神社社司

秀穎(ひでかひ・伊庭) → 八郎(はちろう・伊庭いば、幕臣/剣術) F 3 6 0 2

C3790 秀蔭(ひでかひ・賀田かた、号;周山)?-? 江末期尾張中島郡一宮村の歌人:富樫広蔭門、
1862「看虎長歌」著

- K3780 **秀景**(ひでかぜ・深沢ふかさわ、宗定むねさだ男)1817-1901⁸⁵ 上野山田郡の国学者、
 国学・狂歌(壺側);黒川春村門(父と同門)、
 [秀景(;)名)の初名/通称/号]初名;大蔭、通称;善之助/弥一郎、号;壺鳴園
- C3791 **秀員**(ひでかぜ・妻屋/妻谷つまや)1684-1765⁸² 河内交野郡の歌人:烏丸光栄みつひで・光胤門、
 三宅邑長、「積翠集」著、烏丸光栄みつひで口述「聴玉集」の後半[1731-41]担当(加藤信成編)、
 [秀員(;)名)の通称/号]通称;平治、号;可雪/積翠軒
- C3792 **英一**(ひでかぜ・高井たかい、通称;佐藤太)?-? 江後期越後長岡藩士/1857森春成と蝦夷へ出張、
 唐太(樺太)まで赴く、1857「罕有かんゆう日記」著
- L3710 **秀一**(ひでかぜ・生駒にま、)1847-1919⁷³ 近江滋賀郡膳所町梅仙窟の主人/神職、医者、
 歌;膳所最勝院の勤皇僧の立祀りし門、歌;服部春樹/国学;西川吉輔門、
 [秀一(;)名)の通称/号]通称;広次/造酒介、号;梅の家/酔月
 秀和(ひでかぜ・小野寺) → 十内(じゅうない・小野寺、義士/歌人) I 2 1 1 8
- J3751 **英風**(ひでかぜ・小出こいで、)? - ? 江中後期;出雲松江藩士;藩主松平治郷の近習係、
 歌人;1770(明和)頃;澄月(1714-98)・慈延(天台僧/1748-1805)門、
 [英風(;)名)の通称]五助/順左衛門/出雲
- C3793 **秀賢**(ひでかた・大屋おおや、法名;如卿、秀長男/本姓;藤原)?-? 母;藤原(蒲生)秀村女、鎌倉末期廷臣、
 従五上/上野介/隠岐守/左衛門尉/法勝寺後戸の官人、歌:続千783、続後拾1158、
 [まどろまでこよひやひとり明石方波のまくらにかよふ浦風](続千載集;羈旅783)
- F3726 **秀賢**(ひでかた・舟橋ふなはし/高倉、清原国賢男)1575-1614⁴⁰ 1601高倉から改姓;舟橋家の祖、廷臣、
 1602明経博士/04式部少輔/13従四上/天皇の侍読、漢学/連歌/活字印刷に精通、
 「官職歌」「清原秀賢日記」「侍中備急抄」「神泉苑記」「三十首詩歌」著、百韻・聯句多数、
 元賡げんこう・有雅の兄、妻;佐々木承禎女、伏原賢忠の父
- C3794 **秀賢**(ひでかた・寺西てらにし、秀澄男)1625-1709⁸⁵ 加賀金沢藩士;1638家督継嗣/39家老;小松住、
 江戸留守居役/前田利常没後金沢で火消役・出銀奉行/1705致仕、1706「寺西宗寛書翰」著、
 [秀賢(;)名)の通称/号]通称;庄右衛門/若狭/石見、号;宗寛そうかん
- C3795 **栄賢**(ひでかた・吉田よしだ、臥竜男)1697-1770⁷⁴ 豊後臼杵藩士;郡奉行、家学;漢学/詩、
 「正賢先生詩文集」著、
 [栄賢(;)名)の字/通称]字;正賢、通称;新蔵
- C3796 **秀堅**(ひでかた・青山あおやま、青山豊秀[白峯]の養子)?-? 江末期幕臣;1853西丸御広敷御用人、
 1859諸太夫/1860和宮様御縁組并御下向御用係/61和宮様御用人、「青山秘録」編、
 [秀堅(;)名)の通称]通称;禄平/九八郎/大和守/讃岐守
- C3797 **秀賢**(ひでかた・伊庭いば/本姓;源、初姓;築山/関、初名;秀形/秀堅)1800-72⁷³ 伊庭家の養子/幕臣、
 御徒士/40歳余で致仕、国学;村山素行門、歌人、1832「大富天神概略」34「辨宝所詠草糾謬」、
 1851「詠歌入学抄」「武家諸臣位署式私考」、「霊語天格」「禰麻呂忌寸墓誌凶考」著、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
 [初春に咲くだに梅はうれしきに鶯さそふつまとなるもの](大江戸倭歌;春121)、
 [ほろほろと桐の葉落つる夕風に人の泪もとまらざりけり](現存百人一首;93)、
 [秀賢(;)名)の通称/号]通称;久右衛門、号;水斎/詞林園、法号;夏雲院
- C3798 **秀堅**(ひでかた・清宮せいみや、尚之男)1809-79⁷¹ 下総香取郡佐原の農業/幼時に父母没;祖母に養育、
 儒;久保木竹窓・宮本茶村門/実学、1835里正/42佐原領主津田家臣;財政管理;士分に列す、
 物頭席に進む、国学;本居宣長に私淑;伝記的研究、1872印旛県の地誌編纂「三郡小誌」著、
 1845「下総国旧事考」47「北総詩誌」「地方新書」49「外史劄記」57「古学小伝」59「雲烟略伝」
 1862「茶村宮本先生行状」、「総廻舎集」「南宗名家小伝」「新撰香取誌」「三条余論」外著多数、
 [秀堅(;)名)の字/通称/号]字;穎栗、通称;秀太郎/総三郎、号;棠陰/縑浦けんぼ漁者
- L3719 **秀堅**(ひでかた・石田いしだ、)1802-1853⁵² 三河吉田藩の城内天王社神主、国学;平田篤胤門
 茶道;宗徧流の不蔵庵龍溪門、遺品に千利休の自筆書状あり、
 [秀堅(;)名)の通称/号]通称;式部、号;偃松軒えんしょうけん青標せいひょう
- 秀賢(ひでかた・神保) → 臥雲(がうん・神保じんぼう、国学/歌) J 1 5 2 2
 秀克(ひでかた・加藤) → 仲実(ちゅうじつ・加藤、医者) G 2 8 1 7
 秀勝(ひでかた・寺西) → 秀澄(ひでずみ・寺西てらにし、藩士/書翰) D 3 7 1 0

- C3799 **秀包**(ひでかね・毛利もうり/大田/小早川、元就男/本姓;大江)1567-1601³⁵ 母;乃美正弘平女、武将;
1571備後の大田英綱の嗣;遺領を継嗣/1575兄小早川隆景の猶子/秀吉の近習、
1586頃キリシ教入信/87筑後久留米入封、久留米城下に教会・伝道所を開/朝鮮出兵で戦功、
関ヶ原で敗戦;除封/剃髪;赤間関で没、吉敷毛利家の祖、「軍書」著、
連歌;1587「天正十五年三月七日紹巴道叱等何人百韻」、
隆元・元春・隆景の弟、妻;大友宗麟女、
[秀包(;名)の幼名/別名/通称/法名/法号]幼名;才菊丸、初名;元総、通称;市正/藤四郎、
法名;道叱、洗礼名;フィンデナオ、法号;瑞光院、
秀金(ひでかね・中山) → 巖水(いずみ・中山なかやま/宮川、藩士/史家) J 1 1 8 4
- D3700 **英材**(ひでき・在原) ? - ? 平安期;廷臣/962文章生;
歌人;977三条左大臣頼忠殿前裁合参加3首
[かぎりなき玉のうてなの八重葎照る月影は千代の光か](頼忠前裁合;13)
- L3722 **秀樹**(ひでき・石丸いしまる、)1822-1914^{長寿93} 阿波勝浦郡の医者、歌人/能書家、
1894(明治27)歌集「千代のしをり」著(喜寿記念)、
[秀樹(;名)の通称/号]通称;秀庵、号;扇峰
秀樹(ひでき・梅) → 梅秀樹(うめひでき;通称、狂歌) D 1 2 4 1
秀樹(ひでき・多田) → 義俊(よしとし・多田、神道/故実/浮世草子) 4 7 1 8
- D3702 **秀清**(ひできよ・小笠原おがさわら)?- ? 故実;武道礼法・1595豊臣秀次命の謡曲註釈「謡抄」に参加
- D3703 **栄清**(ひできよ・村田むらた、通称;金太夫)?-? 江前期撰津島上郡原村の和算家、
1693(元禄6)「改算塵劫記」1716(享保元)「智恵袋」、「算法図解大全」著
秀清(ひできよ・今井/大国) → 隆正(たかまさ・大国/山本/野之口/今井、国学/歌) 2 6 1 7
- J3778 **秀邦**(ひでくに・島川しまかわ、旧姓;倉田)1692-1771⁸⁰ 伊勢一志郡の津藩士、
儒・国学;佐善雪溪(元恭)門、
[秀邦(;名)の通称/号]通称;左平太、号;閑適/何陋軒(からうけん)
- L3752 **荣国**(ひでくに・武谷たけたに、)1829-1885⁵⁷ 母;武谷(井岡)機女(はたじよ、江戸後期徳島藩士、
妻の武谷楽女(らくじよ)も歌人、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(母・妻と共に入集)、
[ほのぼのと明るる枕の山の端をみつよつ雁の鳴きてすぐなり](大江戸倭歌;秋923)
[荣国(;名)の別名/通称]別名;荣弟、通称;新之丞/恒太郎/亀五郎/新之進/部
母 → 機女(はたじよ・武谷たけたに/井岡、歌人) J 3 6 4 0
妻 → 楽女(はたじよ・武谷たけたに/井岡、歌人) D 4 8 5 2
秀国(ひでくに・壽) → 秀国(しゅうこく・壽ことぶき、俳人) H 2 1 3 9
英国(ひでくに・川部) → 正秀(まさひで・川部/鈴木、刀工/鍛錬術) G 4 0 7 2
秀倉(ひでくら・小林) → 松蔭(まつかげ・小林こばやし/竹田、神職/国学) P 4 0 6 3
- M3725 **秀子**(ひでこ・山本やまもと、)1735-1783⁴⁹ 佐渡の生/越後三島郡出雲崎の名主山本泰雄(以南)の妻、
歌人、夫は幕府代官所名主に就任、良寛・由之・橘香(山本泰信)の母
- J3798 **秀子**(ひでこ・鈴木すずき、)1757-1836⁸⁰ 周防吉敷郡の歌人、鈴木高輅の一族?、
歌;長沢伴雄[類題和歌鴨川三郎集]・[鴨川三郎集料歌](;高輅筆)入
- I3768 **秀子**(ひでこ・小河おごう/おがわ)1793-1805^{天逝13歳} 豊後の歌人;1804加藤千蔭門
- L3770 **秀子**(ひでこ・小出こいで) ? - ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[宇治川や寒さ忘れてをしかもの氷らぬ浪に浮き寝をぞする](大江戸倭歌;冬1231)
- M3719 **秀子**(ひでこ・山添やまぞえ、旧姓;矢西)1835?-1868?³³ 近江大津の歌人;[鳩のうみ]入
秀是(ひでこれ・多田) → 立意(りゅうい・多田ただ、商家/俳人) C 4 9 7 3
秀五郎(ひでごろう・青山) → 忠高(ただたか・青山、藩主/藩校創設) P 2 6 7 4
- D3704 **英貞**(ひでさだ・山澄やまずみ、英童(ひでたつ男)1688-1773⁸⁶ 兄英重の養嗣子/尾張名古屋藩士;
1699大年寄、1713老中/20従五下淡路守/24加増され4千石/32致仕、武家故実に精通、
「山勢問答」「山問伊答」著/「山澄英貞尋給返答条々」問、
[英貞(;名)の幼名/通称/号]幼名;辰之進、通称;兵部/大膳/主税/将監/造酒佑(みきのすけ)、
号;風詠、法号;棹槻院、

- I3757 **栄貞**(ひでさだ・小川おがわ、旧姓;三宅)1763-1827⁶⁵ 備中浅口郡連島町矢柄の生、
備前児島郡粒江村の豪農小川兵次郎の婿養子;家督嗣;粒江村の里正、国学者/歌人、
真澄ますみ・雅藻まさもの父、
[栄貞(;)名)の通称/号]通称;権四郎、号;紹清
秀定(ひでさだ・愛甲) → 喜春(きしゆん・愛甲あいこう、医者/儒) K 1 6 8 5
秀貞(ひでさだ・妻谷) → 秀員(ひでかず・妻屋/妻谷、歌人) C 3 7 9 1
秀貞(ひでさだ・鶴飼) → 忠郷(たださと・鶴飼うがい、藩士/国学) V 2 5 7 8
秀貞(ひでさだ・福住) → 松年(まつとし・福住ふくずみ、商家/歌人) S 4 0 2 4
栄貞(ひでさだ→よしさだ/ながさだ・本居)→ 宣長(のりなが・本居、国学) 3 5 2 4
- D3705 **秀郷**(ひでさと・藤原ふじわら、村雄男)?-? 平安中期下野の豪族/武将;弓術に秀でる、
下野掾/押領使、940平将門乱に猿島を攻撃し乱平定;従四下下野守/鎮守府將軍、
武門の家として伝説化;三上山百足退治など、
[秀郷(;)名)の通称] 俵(田原)藤太たわらのとうだ
- M3746 **秀実**(ひでさね・津田つだ、) ? - ? 江前期;上方の歌人、
1670下河辺長流[林葉累塵集]入、
[かりがねも心や春にとどむらん啼きて霞の関を越えぬる](林葉累塵;春114)
- B3735 **秀実**(ひでさね・大田おおた、通称;九右衛門)1701-41⁴¹ 江中期;信州飯田の商家;飯田藩の御用達、
歌人;依田正純門(伊那歌道史入)、秀延ひでのぶの祖父
- D3706 **秀真**(ひでさね・高木たかぎ) ? - ? 1859or86没^{80余歳} 尾張藩士、文武を兼修/歌人、
「杏葉」「くさくさの考」著、
[秀真(;)名)の通称/号]通称;八郎左衛門、号;臥雪/雪居/雲居/大翁/大応/雪髯
法号;得翁性真
- K3736 **秀実**(ひでさね・中川なかがわ、)1815-1879⁶⁵ 加賀石川郡の国学者/歌;田中躬之みゆき門、
神職;伊勢神宮祠官、維新後;戸長、
[秀実(;)名)の通称] 兵右衛門/兵二
- K3743 **秀実**(ひでさね・永鳥ながとり、旧姓;松村)1824-65⁴² 肥後玉名郡の郷士、国学;林有通門、
[秀実(;)名)の初名/通称/号]初名;行義、通称;三平、号;帰山
- I3786 **秀実**(ひでさね・大谷おおたに/本姓;源、)1830-1902⁷³ 石見津和野藩士、国学;大国隆正・松岡明義門、
国学;平田鉄胤門、幕末期国事奔走、維新後;神祇官/鹿島神宮宮司、
[秀実(;)名)の通称] 庄三郎
- I3783 **英実**(ひでさね・大田おおた、)1834-1906⁷³ 信濃飯田藩士/国学者、松本開智学校校長、
[英実(;)名)の初名/字/通称/号]初名;幹、字;子誠、通称;雄助、号;大幹/静処
秀実(ひでさね・松本) → 魯堂(ろどう・松本、家老/儒者) C 5 2 2 7
秀実(ひでさね・蒲生) → 君平(くんぺい・蒲生がもう/福田、儒/尊攘) C 1 7 0 0
秀三郎(ひでさぶろう・池田) → 治道(はるみち・池田いけだ/源/松平、藩主) J 3 6 3 6
秀三郎(ひでさぶろう・蜂屋) → 宗意(そうい・蜂屋はちや/菅原、香道家) F 2 5 9 8
- M3718 **英重**(ひでしげ・山澄やますみ、英竜ひでたつ男)1647-1733⁸⁷ 母;祖庭院(寺尾直政養女)、尾張名古屋藩士、
1672(寛文12)3千石/側同心/1685(貞享2)家老;4千石、従後下淡路守、和学;小笠原定世門、
1699(元禄12)致仕/1700剃髪;風残と号す、1733(享保18)没;弟英貞が家督嗣、
[英重(;)名)の初名/通称/号]初名;英要、通称;主膳/将監/淡路守/数馬、号;風残
法号;陽徳院柳陰風残
- D3707 **栄滋**(ひでしげ・野尻のじり、杉山すぎやま盧叟男)1766-1822⁵⁷ 野尻栄守の養子/加賀大聖寺藩士、国学、
物頭格;諸職歴任、前田利精以下4代藩主に出仕、「一蓬君日記抜書」編/1803「芝憩紀聞」補填、
[栄滋(;)名)の字/通称]字;子春、通称;後藤太ごとうだ
- D3708 **秀茂**(ひでしげ・文の家/文廻家ふみのや・姓;村松むらまつ)1843-1923⁸¹ 上州伊香保の旅館主人、
狂歌・本町側判者、「酒の春」著、
[文の家秀茂の通称/別号]通称;熊次郎、別号;看森堂/香山人
- D3709 **英茂**(ひでしげ・藤田ふじた、丹岳男)?-? 江後期阿波の儒者、一説に英・茂は兄弟とする、
1851(嘉永4)「聖学概論」編、「読書要訳」著
秀重(ひでしげ・広沢) → 安任(やすとう・広沢ひろさわ、藩士/牧畜) C 4 5 2 0

- K3776 **秀女**(ひでじょ) ? - 1852 佐渡相川の歌人、
佐渡修験密教院権大僧都の養尊の妻、
[過ぎきつるそのいにしは浮びきぬ行末見せよ夜半の月影](寄月述懐)
- L3771 **秀女**(ひでじょ・富田とみた) ? - ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[打ち時雨れ雪げもよほす山風に煙横切る峰の炭竈](大江戸倭歌;冬1308炭竈煙)、
[あさなあさな向かふ鏡の人ならばやつれしかげをあはれとや見ん](同;恋1611)
- 秀四郎(ひでしろう・竹中) → 震城(かじょう・竹中たけなか、医者) L 1 5 9 7
秀次郎(ひでしろう・小島屋) → 梅秀(ばいしゅう・春友亭/田中、狂歌) B 3 6 4 8
秀次郎(ひでしろう・生駒) → 信億(のぶのり・生駒いこま、歌人) H 3 5 2 5
秀次郎(3世ひでしろう・山彦) → 可慶(かけい・十寸見ますみ、河東節太夫) K 1 5 7 3
秀次郎(ひでしろう・田中) → 芹坡(きんば・田中たなか、儒者/藩士) J 1 6 0 7
秀次郎(ひでしろう・花井) → 重郷(しげさと・花井はない/吹原、国学者) Z 2 1 6 8
秀二郎(ひでしろう・鶴殿/志毛) → 藕塘(ぐとう・志毛しげ、儒者) C 1 7 0 4
秀二郎(ひでしろう・大江) → 維寧(これやす・大江おおえ、儒者) O 1 9 9 4
- J3774 **英輔**(ひですけ・桜井さくらい) 1815-1888 74 遠江榛原郡の宿侖、国学・歌;石川依平門、
[英輔(;名)の通称]彦一/浅右衛門
秀介(秀助ひですけ・瀬井) → 馬雪(ばせつ・斉せい、歌舞伎作者) E 3 6 7 1
秀祐(ひですけ・河又) → 浩斎(こうさい・河又かわまた、儒者) J 1 9 0 1
秀助(ひですけ・松井) → 八澄(やすみ・松井まつい、国学者) G 4 5 6 7
秀輔(ひですけ・田中) → 守貫(もりつら・田中たなか、絵師/法橋) K 4 4 2 9
- D3710 **秀澄**(ひですみ・寺西てらにし、別名;秀勝、秀則男) 1559-1641 83 加賀金沢藩士/1582父と前田利家家臣、
1583近江柳ヶ瀬の役/1600加賀大聖寺の役に戦功;7千石/大坂陣参加/1239致仕、
「寺西秀澄書翰」著、
[秀澄(;名)の通称/号]通称;若狭/治右衛門、号;宗乾(そうけん)、秀賢の父
- L3717 **英純**(ひですみ・石井いし、通称;三郎右衛門) ?-? 江中期;佐渡の州吏/風山流軍学を修学、
易学・和算に通ず/歌人、娘いち(1731-94)は田中美真(1726-1784)の妻(田中美矩の母)、
松宮甲助(軍学者)の師
- K3762 **英純**(ひですみ・萩原はぎわら、号;千林) 1708-89 82 武蔵多摩郡の豪農/国学者、
境川が氾濫し苦悩する農民のため私財で護岸工事を敢行;境川翁と称される、
- M3739 **秀澄**(ひですみ・秀實・赤尾あかお、新十郎男) 1716-1774 59 父;1719没;4歳で家督嗣;備後福山藩士、
漢学者;詩文で大成、
小松裕[若き田中正造の師・赤尾小四郎を追って]に詳述されている、
茂睡編歌集[鳥の迹](1702刊)入集の赤尾弥三左衛門秀澄とは別人か、
[秀澄(;名)の通称/号]通称;弥惣左衛門/弥三左衛門、号;鷺洲
秀澄(ひですみ・堀) → 貞儀(さだのり・堀ほり/菅原、藩士/記録) J 2 0 2 4
秀純(ひですみ・河村) → 秀世(ひでよ/ひでつぐ・河村、藩士/歌人) E 3 7 0 8
- D3711 **秀蔵**(ひでぞう・瀬井せい) ? - ? 江中期1771-74頃活動の歌舞伎作者;齊馬雪門、
師と江戸森田・市村座で活動、1771「葺換月吉原」/72「初曙鷄曾我」/「伊豆暦芝居元日」、
1773「帰木曾樹每初物」/「色蒔絵曾我羽觴」/74「結鹿子伊達染曾我」著
- D3712 **秀孝**(ひでたか・藤原ふじわら、修姓;藤政) ?-? 平安前期詩人;962三善道統「善秀才宅詩合」参;左方
- K3745 **秀隆**(ひでたか・夏川なつかわ) 1681-1753 73 近江彦根藩士、歌人;[彦根歌人伝・寿]入、
[秀隆(;名)の通称/号]通称;新左衛門、号;歌林亭
- I3752 **英好**(ひでたか・稲葉いなば) 1775-1849 75 丹後熊野郡の国学者
[英好(;名)の通称]友太郎/市郎右衛門/十作
- D3713 **秀堯**(ひでたか・五代ごだい) ? - ? 江後期鹿兒島藩士/儒者、藩主島津斉興に出仕;書役、
1815「朝鮮役録」43「三国名勝図会」44「琉球秘策」49「五峯先生七律起結対語」著、
1852「五峯先生詩鈔」、「春雨溪居限韻百五十詠」、「征韓実記」著、
[秀堯(;名)の通称/号]通称;直左衛門、号;五峯/乾坤独歩学
- L3739 **秀嵩**(ひでたか・宮川みやがわ) ? - 1878 近江蒲生郡の旅宿業、儒詩;浜崎景斎門、歌人、

歌:[鳩のうみ]入、

[秀嵩(；名)の通称/号]通称;九兵衛、号;誓阿

秀宇(ひでたか・陶すえ) → 石蘭(せきらん・石中庵、俳人) H 2 4 9 5

英隆(ひでたか・高橋) → 義路(よしみち・高橋たかはし、歌人) N 4 7 7 2

栄孝(ひでたか→しげたか・重村)→栄孝(しげたか・重村しげむら/林、神職/国学) Q 2 1 7 5

K3759 秀彪(ひでたけ・籠黒のぐろ、通称;紀伊、旧姓;太田)1780-1838⁵⁹ 信濃水内郡赤沼村八幡宮の神主、
国学:本居大平門

L3746 秀丈(ひでたけ・宮下みやした、)1848-1914⁶⁷ 信濃松代藩士/国学者、
2男元はじめが松代藩士依田家11代を継嗣

D3714 秀忠(ひでただ・徳川/松平、家康男/本姓;源)1579-1632⁵⁴ 母;お愛(西郷氏/宝台院)、幕府2代将軍、
従一位/太政大臣、遠州浜松城に生/1790上洛し秀吉に謁す/1605将軍;実権は家康が掌握、
1616家康没より主権;幕府の基盤強化/1623将軍職を家光に譲渡/大御所として実権掌握、
「台廟玉章三十条」「徳川秀忠書状」著、歌;1626後水尾天皇二条城歌会;家光と参加、
[秀忠(；名)の幼名/号]幼名;長松/竹千代、号;広度院、家光の父

J3779 秀尹(ひでただ・島川しまかわ、通称;斎宮)1721-74⁵⁴ 伊勢津藩士;用人、国学;本居宣長門、安永3没
栄忠(ひでただ・勝部) → 栄忠(しげただ・勝部かつべ、大庄屋/歌人) O 2 1 0 3

D3715 英竜(ひでたつ・山澄やまずみ、川方宗成男)1625-1703⁷⁹ 母;馬場政次女、山城の生、
母が鳥取藩主池田光政の簾中に入り江戸住、1641尾張名古屋藩主に謁見;小姓、用人、
1650山澄に改姓/側同心頭/1661老中;5千石/66従五下淡路守、「桶狭間合戦記」著、
[秀竜(；名)の幼名/通称/号]幼名;左膳、通称;主膳/兵部/将監/数馬/造佑佐みきのすけ、
変名;松村新兵衛、号;了雲、法号;指月院、英重・経英・英貞の父

英竜(ひでたつ・江川) → 担庵(たんあん・江川えがわ、幕臣/砲術) H 2 6 9 0

秀竜(ひでたつ・齋藤/松波) → 道三(どうさん・齋藤、戦国武将/領主) E 3 1 6 8

秀竜(ひでたつ・河村) → 秀世(ひでよ/ひでつぐ・河村、藩士/歌人) E 3 7 0 8

秀竜(ひでたつ・畑/赤松) → 金鶏(金鶏きんけい・奇々羅、医/狂歌/戯作) 1 6 6 0

秀辰(ひでたつ→ひでとき・河村)→秀辰(ひでとき・河村/俵/藤原、藩士/国学) D 3 7 2 9

D3716 秀種(ひでたね・多賀たが、堀秀重男)1565-1616⁵² 美濃の武将;織田信長の臣、
多賀貞能の養子(女婿)/貞能除邑後は実兄堀秀政に出仕/羽柴秀長の家臣、
秀長没後秀吉に所属/関ヶ原では西軍、越後に配流/のち赦免;大坂冬の陣に従軍、
1615金沢藩主前田利常の臣、1600以前「古今狂歌抄」撰(散佚)、
1604「多賀秀種越後在府日記」著、秀識ひでのりの父、
[秀種(；名)の幼名/別名/通称/号]幼名;源千代、別名;政藤(；初名)/秀家、
通称;源助/大炊おおい/左兵衛/出雲、号;鷗庵、法号;賢翁宗晋居士

L3726 秀胤(ひでたね・松風まつかぜ、旧姓;松岡)?-1855 駿河益頭郡の国学者;本居大平門、
飽波神社神主、
[秀胤(；名)の通称/号]通称;長門、号;藤花園

D3717 秀種(ひでたね・荒川あらかわ、弥五郎秀高男)1827-82⁵⁶ 代々出羽秋田藩主佐竹氏の宿老、神職/歌人、
剣術;直心影流道場入門/日置流弓術;小田野又八郎門/大坪本流馬術;丹金作門、
国学;平田篤胤門、洋学;吉川忠行門、戊辰役で指揮;戦功、維新後神職;大平山招魂社祠官、
権大講義、「遊撃隊日記抄」著、
[秀種(；名)の通称/号]通称;久太郎、号;稜屋

L3733 秀胤(ひでたね・三牧みまき、)1839-1865^{獄中死}27 尾張海西郡の農家/江戸浅草光徳寺で新発意、
のち還俗/京の二条城の城番の家に出仕;尊攘活動、1863(文久3)生野拳兵に参加;
捕縛され京六角の獄中に病死
[秀胤(；名)の通称/法名]通称;力弥/庄蔵/謙蔵、法名;猶学

秀胤(しゅういん・三牧) → 秀胤(ひでたね・三牧みまき、僧/尊攘派) L 3 7 3 3

秀民(ひでたみ・吉田) → 秀民(ひでひと・吉田よしだ、幕臣;天文家) D 3 7 7 4

秀民(ひでたみ・高階) → 春帆(しゅんぱん・高階たかしな、漢学/詩人) K 2 1 4 1

秀民(ひでたみ・峯) → 下蔭(したかげ・峯みね、国学者) Z 2 1 3 9

I3739 英為(ひでたみ・奥井おおい、通称;又右衛門)?-? 伊勢松阪藩士、国学;本居大平門、

大平撰「八十浦の玉」下巻;神仏儒三道論の時の歌入、

[神風の伊勢の国内の人ならばその書見てぞ道は知らなむ](八十浦;926)

秀太郎(ひでたろう・大久保)→ 一岳(いちがく・大久保おおくぼ、絵師) G 1 1 1 2

秀太郎(ひでたろう・清宮)→ 秀堅(ひでかた・清宮せいみや、農業/国学者) C 3 7 9 8

秀太郎(ひでたろう・竹村)→ 茂正(しげまさ・竹村たけむら、国学/歌/神職) Z 2 1 3 6

秀太郎(ひでたろう・西山)→ 尚義(ひさよし・西山にしやま、国学/勤王) K 3 7 5 7

秀太郎(ひでたろう・三谷)→ 義一(よしがず・三谷みたに、神職) P 4 7 3 2

日出太郎(ひでたろう・加藤)→ 桜老(おうろう・加藤、儒/国学/尊王派) C 1 4 7 3

D3718 栄親(ひでちか・北きた、重親男) 1577-1666長寿90 伊勢の武将;1598別家の北家を名乗る、1600関ヶ原戦で伊勢岩手城主稲葉道通に敗戦;鳥羽に逃れ紀伊に潜伏/のち帰郷、剣道;1618小畑勘兵衛門/皆伝免許、1666「中島軍記」著、[栄親(;名)の通称]杉福/勝五郎/左太夫、辰親の弟

D3719 栄親(ひでちか・中山なかやま、兼親男/本姓;藤原) 1709-7163 母;庭田重条女、廷臣;蔵人頭/1732参議、1744権大納言/47正二位、詩人、「吟壇詩草」「懐旧詩十一首」「百首詩歌」著、「日本神人統譜」編、1736「中山栄親卿記」47「神宮上卿記」、「職原抄」著、法号;松巖静空、愛親なるちかの父

K3750 秀近(ひでちか・檜原ならはら、?) - 1820 豊前小倉藩士、書家/漢学者、歌人;高倉永春門、1811(文化8)朝鮮通信使の幕府正史の小倉藩主小笠原忠固ただかたの命で接待役を務める、[秀近(;名)の初名/字/通称/号]初名;永貞、字;公篤、通称;/源左衛門、書号;棠陰

D3720 栄親(ひでちか・天野あまの) ? - ? 幕末期江戸浅草花川戸の和算家、河北朝鄰と親交、1867「所掲于東都芝愛宕山之算額」著

J3723 秀親(ひでちか・喜多きた/来田/本姓;秦、) 1802-7170 伊勢度会郡の伊勢外宮祠官、国学;本居春庭・足代弘訓門、[秀親(;名)の通称] 外記

I3791 栄哉(ひでちか・太田おた/本姓;源) 1846-191570 信濃伊那郡山本村の庄屋、国学;岩崎長世門、平田鉄胤・師岡正胤門、歌人、[栄哉(;名)の通称/号]通称;健次郎/健治、号;杉廼舎

D3721 秀次(ひでつぐ・豊臣とよとみ、三好吉房男、母;秀吉姉の日秀) 1568-95切腹28 武将;秀吉の臣、1591秀吉の継嗣/関白/正二位/93秀吉の実子秀頼誕生;秀吉との関係悪化/95謀反の疑惑、関白左大臣を解任され高野山で切腹、「豊臣秀次朱印状」著、歌人;1592「秀次亭行幸和歌」催、連歌:1582紹巴と「夢想百韻」/84秀吉と「夢想百韻」/85紹巴と「何木百韻」、[秀次(;名)の初名/通称/法号]初名;信吉、通称;弥次兵衛/孫七郎、法号;高巖寺/瑞泉院/善正寺

D3722 秀次(ひでつぐ・鷹取たかとり/本姓;藤原) ?-? 室町末期播磨の医者:鷹取流の祖、漢方と民間療法を折衷した外科医、1581「外療新明集」、「外療細漣さいせん」著、[秀次(;名)の通称]甚右衛門尉、理齋の父

M3720 秀紹(ひでつぐ・山田まだ、通称;左藤) ?-?長寿92 江後期;尾張海部郡の神職、神道・国学・歌;栗田直政(1807-91)門

秀次(4世ひでつぐ・篠井しのい)→ 林斎(りんさい・篠井、塗師/連歌作者) K 4 9 2 8

秀次(ひでつぐ・北村) → 正立(せいりゅう・まさたつ・北村、国学・歌学者) D 2 4 1 1

秀世(ひでつぐ・河村) → 秀世(ひでよ/ひでつぐ・河村、藩士/歌人) E 3 7 0 8

D3701 秀綱(ひでつな・佐々木ささき、道誉長男) ?-1353討死 鎌倉末南北期の武将;1338近江守、北畠顕家の上京時に父と近江で阻止/1340家臣の毆打された事件で御所に火をかける、建仁寺を延焼;延暦寺の抗議により上総へ一時配流/1345検非違使、1351観応の擾乱で直義を追討/53室町幕府侍所司;後光厳天皇と足利義詮を護衛中に堅田真野浦で新田の残党堀口貞祐に襲撃され討死

D3723 秀綱(ひでつな) ? - ? 戦国期連歌作者;1496頃近江野洲郡永原にて永原重泰興行「永原千句」参加(;宗祇兼載らと)、[見渡せばたゞ青柳の野山哉](永原千句;第四発句)

D3724 秀綱(ひでつな・岡崎おかさき) ? - ? 大和宇多の俳人、1680「点滴集」編?(153句入)

- D3725 **英綱**(ひでつな・渡辺わたなべ) ? - ? 備後芦田郡上有地村の和算家:撰津西成・堂島住、のち出家、1779「大数量蘇生物語」著
[英綱(;)名)の号/法名]号;養麟軒/楽山、法名;大数院积覃茎たんけい
- D3726 **秀経**(ひでつね・大屋おおや、法名;如恵、秀時男/本姓;藤原)?-?1349存 母;藤原(蒲生)公俊女、鎌倉南北期廷臣;従五下右馬助/1349出羽守(園太暦入)、歌人:風雅1809、新千1361/1651、[待ちわびて更くるもつらしなかなかにこぬ夜は人のちぎらずもがな](新千載;恋1361)
- D3727 **英常**(ひでつね・山崎やまざき) ? - ? 江後期福井藩士;書院番/普請奉行、福井藩編年史「片豊記」を増補;「続片豊記」編、「海岸防禦御備立之図」著、
[英常(;)名)の通称/号]通称;七郎右衛門、号;山霞軒
秀常(ひでつね・岡本) → 可復(かふく・岡本おかもと、藩士) P 1 5 2 6
秀経(ひでつね・長谷川) → 夜白(やはく・長谷川はせがわ、商家/俳人) D 4 5 9 6
- K3746 **秀貫**(ひでつら・夏田なつた、) 1844-1892 49 志摩鳥羽の生/伊勢度会郡の商家/国学者
[秀貫(;)名)の通称/号]通称;覚二郎、号;雨街/百千舎、屋号;津国屋
- M3722 **英輝**(ひでてる・山中やまなか、通称;正吉しょうきち、与兵衛8男) 1809-96 88 近江蒲生郡西大路村出身の商家、文政1818-30頃駿河富士郡天間村で酒造業/1830(天保元)鈴木藤右衛門から酒株・店取得、富士郡大宮町に鈴木正吉商店を開業;屋号中屋、1860仁正寺藩から土地拝領;幕末期に蒲生郡日野に初代正吉家の主屋建設;酒・醤油・味噌・酢を製造販売、1875富士郡今泉村にも店舗、画;村田東圃門/内国絵画共進会で褒賞授与、歌人、歌;[鴉のうみ]入、1896(明治29)没/2代目正吉が家督嗣
- 3709 **秀能**(ひでとう/ひでよし・藤原ふじわら;北家藤成流、法名;如願にょがん、秀宗男) 1184-1240 57 母;源光基女、武家/廷臣、歌人、初め源通親に出仕/11991199後鳥羽の北面/左兵衛尉/左衛門尉、防鴨河使判官/出羽守/従五上、歌人として後鳥羽院の寵愛;1200千五百番歌合参加、1201十五夜撰歌合・04春日社歌合・05元久詩歌合参加/1205新古今集和歌所寄人、1206卿相侍臣歌合・07最勝四天王院障子和歌・16建保四年院百首・20道助法親王家五十首、1221承久乱では京方の大将か?/敗北後に熊野で出家;如願名、1225都の歌壇に復帰/32西国行脚;隠岐の後鳥羽院を尋ねる、1232為家家百首参加1236遠島御歌合参加、家集「如願法師集」、秀康・秀澄の兄弟、秀範・能茂・秀茂の父、万代集・秋風集・雲葉集・閑月集入集、続歌仙落書に入、菟玖波9句入、勅撰78首;新古(17首26/290/398以下)新勅(9首186/310以下)続後撰(5首)続古(2首)以下、[夕月夜ゆづくよしほみちくらし難波江の蘆の若葉にこゆる白浪](新古今;春26)
- D3728 **秀任**(ひでとう・松田まつた) ? - ? 江前期大和の兵法家;小幡景憲門、松田流軍法・忍術の祖、加賀金沢前田利家に出仕/のち広島藩主浅野光晟に出仕、松田流は横山勘右衛門に伝承、1654仮名草子「武者物語」編/56「三將軍解」/67「武者物語抄」(;注釈考証)、「武家語伝集」著、「古今得失論」「松田流軍用書目録」著、
[秀任(;)名)の通称/号]通称;金七郎、号;一楽/一楽齋
秀遠(ひでとお・高妻) → 五雲(ごうん・高妻こうづま、儒者/教育者) Q 1 9 8 1
- D3730 **英時**(ひでとき・北条ほうじょう/赤橋、久時男/本姓;平)?-1333自刃 武将/室町幕臣;鎮西探題、四位、修理亮/武蔵守、武家歌人:1327?浄弁から三代集相伝、九州二条派歌壇の中心、百首歌を催、九州で少弐・大友らの討幕軍と戦い筑前博多で自刃、続現葉・臨永・松花集入、勅撰6首;続後拾遺(587/908)風雅(1549)新拾遺(955)新後拾遺(723/1098)、
[相坂の山越えくれて関守のとどめぬさきに宿やとはまし](続後拾;羈旅587)、
[英時(;)名)の通称] 武蔵修理亮むさししゆりのつけ、守時の弟、足利尊氏室の登子の兄
- D3729 **秀辰**(ひでとき・河村かわむら/俵/本姓;藤原)?-1751 尾張藩士/国学者、秀穎ひでかい・秀根ひでね兄弟の師、1724「正統録」39「安座軌則講義」、「伊勢参宮紀行」「多賀紀行」「三種宝伝口義」外著多数、
[秀辰(;)名)の通称/号]通称;忠左衛門、号;天足彦/足彦/足人/三辰曆
- J3717 **秀時**(ひでとき・木下きのした、) 1746-1805 60 京の官人/歌人;澄月門、磯田種正の兄、
[秀時(;)名)の通称]右衛門大尉/筑後守
- J3754 **秀時**(ひでとき・児二井こにい、) 1763-1846 84 備前邑久郡太伯村の八幡宮祠官、国学;内藤中心なかご・藤井高尚たかなお門、秀直の父、
[秀時(;)名)の通称] 作之進/淡路

- L3793 **秀時**(ひでとき・赤堀あかぼり、) 1829-1906 78 尾張藩士;江戸の生、歌人/俳句を嗜む、
維新の時国事に奔走/晩年は雅人として悠々自適、
[秀時(;)名)の通称/号]通称;源之進、号;琴声/棋楽庵 啓甫 さらくあんらくほ
- L3781 **栄時**(ひでとき・) ? - ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[雪降ればしるべと頼む炭がまの煙も細き小野の山里](大江戸倭歌;冬1314/雪中墨竈)
- D3731 **秀俊**(ひでとし・河村かわむら、秀頼ひでかい男) 1761-91 31 尾張藩士;家督5百石、先手物頭/1775父と上京、
国学者;父門/詩文;柴野栗山門/歌;冷泉家門、笛;豊原家門、「松濤集」「凶書品彙」編、
[秀俊(;)名)の字/通称]字;子徳、通称;浪江/久米進/滝口、法号;興徳院
- D3732 **秀俊**(ひでとし・檜垣ひがき/本姓;度会、檜垣貞堯男) 1804-42 39 檜垣貞基の継嗣/神職;伊勢外宮祠官、
従四下、1824「古今六帖紀聞」、「貞徳神主紀行」著、
[秀俊(;)名)の別名/通称]別名;常前(;)初名/つねさき?) / 貞徳さだり、通称;平丸/志摩
- M3701 **秀俊**(ひでとし・麻生あそう/本姓;斎部宿禰いんべのすくね、通称;志摩守) ?-? 江後期;阿波麻殖郡の神職、
国学;1851本居内遠うちとお(1792-1855)門、天日鷲あめのひわし神社祠官/土社神社祠官
秀俊(ひでとし・羽柴/木下) → 秀秋(ひであき・小早川/羽柴、武将/城主) H 3 7 9 8
秀俊(ひでとし・木村) → 聿(いつ・木村きむら、藩士/勤王/日記) G 1 1 7 1
秀俊(ひでとし・柿商庵) → 菊夫(きくふ、鈴木すずき、俳人) K 1 6 2 3
秀俊(ひでとし・吉永) → 直雄(なおたけ・吉永よしなが、神職/歌人) B 3 2 5 3
秀年(ひでとし・近藤) → 芳樹(よしき・近藤/田中、国学者/歌) 4 7 0 9
秀敏(ひでとし・生嶋) → 宣盛(のぶもり・生嶋いくしま、廷臣/記録) G 3 5 5 6
秀歳(ひでとし・大田) → 什安(じゅうあん・大田おた、医者) G 2 1 7 2
英俊(ひでとし・日向) → 元秀(げんしゅう・日向ひゅうが、本草家) J 1 8 6 2
- I3774 **秀富**(ひでとみ・小野寺おのでら、大高忠晴2男) 1676-1703 切腹 28歳 母;貞立尼(小野寺秀和の姉)、
大高忠雄(源吾)の弟/播磨赤穂藩士小野寺秀和(十内)・丹子夫婦の養子、
1701刃傷事件で藩改易、02父に随い江戸下向/討入に戦功/1703切腹、法名;刃風颯剣信士、
俳諧;1702大高忠雄(子葉)編「二ツ乃竹」入;[張笠のそちらへふかば諫鼓鳥]
[秀富(;)名)の幼名/通称]幼名;小二郎、通称;幸右衛門、俳号;漸之、変名;仙北又四郎
- D3733 **英臣**(ひでとみ・坂本さかもと、藩砲術師範の俊英男/本姓;源) 1701-74 74 信州高遠藩士/砲術;父門、
さらに荻野照清門;荻野流を修得、1726家督継嗣;高遠藩砲術師範、大目付/普請奉行、
郡代/用人、槍術師範も兼務、1756藩命で駒ヶ岳調査「後駒ヶ嶽一覽記」編、
[英臣(;)名)の字/通称/号]字;国華、通称;運四郎、号;雄心
- D3734 **秀富**(ひでとみ・内田うちだ、通称;源兵衛) ?-? 江中期大阪の和算家/宅間流;鎌田俊清門、
1755「算用手引草」67「授時曆加減見行草」85「立円之演段」著
- D3735 **秀富**(ひでとみ・広岡ひろおか、別名;富爾/通称;蘇仙) ?-? 江中期大阪折屋町の医者、1750「難経鉄鑑」
- J3718 **秀富**(ひでとみ・木田余きだまり/本姓;源、) 1729-92 64 近江彦根藩士、歌人;[近江歌人伝・鶴]入、
[秀富(;)名)の初名/通称]初名;吉雄、通称;兵左衛門(;)代々の称)
- D3736 **秀富**(ひでとみ・ほさき・三輪みわ、初名;辺、表秀あきひで男) 1762-1836 75 陸奥盛岡藩士/歌人;加藤千蔭門、
曾祖父秀寿ひでひさより代々歌道で一家を成す、1804「安庭紀行」、06「旧蹟遺聞」編、
「杉齋翁文集」「宇曾利山記」「千尋浜」「梅雨晴」「なくさの緑」「三輪秀福文稿」著、
1829「高野山奉納和歌稿」著、
[三輪門歌道]秀寿一秀奏ひでのり一表秀あきひで一秀福ひでとみ一秀機ひでのり一秀憲ひでのり
[秀富(;)名)の通称/号]通称;大吉/林九郎/左司、号;杉齋/良杉齋、法号;良杉齋林操自青居士
- K3734 **秀萃**(ひでとみ・奈良井ならい、旧姓;高山) 1770-1837 68 信濃洗馬せんばの脇本陣(志村家)に出仕、
歌人;桃沢夢宅門、
[秀萃(;)名)の通称/号]通称;半左衛門、号;秀華
- K3707 **英知**(ひでとも・多田ただ、) 1783- 1828 46 下総香取郡の醸造業、国学;平田篤胤門、
[英知(;)名)の初名/通称]初名;知雄、通称;庄兵衛
- D3737 **栄倫**(ひでとも・里見さとみ) ? - ? 江後期陸中盛岡南部藩の料理人、
四条流庖丁式・作法の写本を遺す、1796「料理煮方心得」、「庖丁心得書」「庖丁切方心得」著、

[榮倫(；名)の通称]良右衛門

- M3727 **秀伴**(ひでとも・結城ゆうき、秀雅男) 1823-97 75or74 廷臣；曇華院どんげいん宮の家令、国学；大国隆正門、小松帯刀・後藤象二郎らと交流；尊攘運動、維新後；宮内省出仕/岡山県の中山神社宮司、
[秀伴(；名)の通称/号]通称；筑後守、号；快堂
- D3738 **秀豊**(ひでとよ・鴨かも) 1756 - 1837 82 江中後期京の神職；1793下賀茂神社権祝/従三位、1807正祝/35従二位、1834「御祖宮木造始並下遷宮次第」著
秀豊(ひでとよ・蒲) → 正村(まさむら・蒲がま/長谷川、神職/国学) O 4 0 9 8
秀豊女(ひでとよのむすめ・鴨脚) → 昭子(あきこ・鴨脚いちよう、女官/日記) D 1 0 3 5
秀名(ひでな・久隅) → 良材(よしき・梶野かじの/久隅、幕臣/奉行) D 4 7 0 7
- H3753 **秀直**(ひでなお・富小路とみのこうじ/本姓；藤原) 1564-1621 58 安桃江戸初期廷臣；中務大丞/従五位、狂歌；1666「古今夷曲集」入、
[咲き出でし八重山吹のまつ黄なる色も甲州一步いちぶなりけり](古今夷曲集一款冬やまぶき)
- D3739 **英直**(ひでなお・土屋つちや、藩主篤直男) 1769-1803 35 母；豊田定愛の妹、兄泰直の養嗣子；1790家督継嗣；常陸土浦藩主/従五下但馬守/1798奏者番、1799城内に読書所設置(；藩校郁文館の先駆)、歌を嗜む、「筑波山紀行」著、
[英直(；名)の幼名/通称/法号]幼名；保三郎、通称；主税ちから、法号；動山義功英哲院
- J3755 **秀直**(ひでなお・児二井こい、秀時男) ?-1876 備前邑久郡太伯村の八幡宮祠官；父を継嗣、国学；業合大枝おえ門
- M3736 **秀直**(ひでなお・若林わかばやし、法名；悦静/信応) 1837-1907 71 佐渡の佐渡郡真野町吉岡の歌人、国学・歌；堀秀成門/文法に精通、玉置清磨と並称される、
維新後；東京の鈴木重嶺門；歌会に参加、帰郷後；真言宗曼荼羅寺住職、1907(明治40)没、
秀直(ひでなお・朝日) → 一貫斎(いっかんさい・朝日あさひ、藩士/儒) G 1 1 8 5
秀直(ひでなお・林) → 潜斎(せんさい・林はやし/花沢、儒者) M 2 4 3 2
秀直(ひでなお・朝比奈) → 束稻(つかね・菅田ほんだ、神職/国学) G 2 9 3 5
- D3740 **秀長**(ひでなが・藤原ふじわら、秀弘男) ?-? 母；大江広村女、鎌倉後期北面武士/正五下、右衛門尉/左衛門尉/河内守/伊賀守、後深草院・伏見院の北面/法勝字後戸官人、歌人、1309伏見院・後伏見院の石清水八幡御幸に供奉；「延慶二年八幡御幸記」、1309「秀長朝臣記」著、藤原秀茂の孫、権大僧都公順の従兄弟、歌人；続現葉集入、勅撰10首；新後撰(1301)玉葉(735/1014)続千載(1209/1353)続後拾遺(441)以下
[関の戸をささでも道やへだつらん逢坂山の秋の夕霧](新後撰；1301)
- D3741 **秀長**(ひでなが・度会わたらい) ? - ? 鎌倉末南北期；伊勢外宮の権禰宜/神主、歌；1321外宮北御門歌合参加、1330(建武元)度会朝棟亭歌会参加(3首)、
[逢ふ事にかへばと思ふあらましの末もたのまぬ我が命かな](外宮歌合；32番右64)、
[ふりて行く我が身を秋の類とや初霜むすぶ庭の蓬生](朝棟亭歌会；57)
- M3750 **秀長**(ひでなが・中条なかじょう、頼平3男/本姓；藤原) ?-1405? 鎌倉南北期；三河賀茂郡高橋荘の地頭、兄長男宗長→次男景長→三男秀長へ兄弟で家督継嗣、景長は建武乱で足利尊氏側で活躍、1335(建武2)矢作川合戦で景長重傷；秀長が家督嗣、室町幕府成立後に戦功で尾張守護、幕政に関与；常陸介/大夫判官/備前守、1345(貞和元)天竜寺供養行列に中条備前守で参加、1347足利直義邸射的で二階堂行通と口論；行通は出家、観応擾乱に尊氏・義詮側で活躍、1352乱に便乗し京を占領した南朝軍に対し義詮を錦小路京極の自邸に入れ南軍を撃退、出家；号；元威/家督や高橋荘地頭職は景長の孫秀孝が継嗣、自ら高橋荘北方伊保郷を領す、1365-1380伊賀守護/68幕府評定衆；72辞任、三河の長興寺・猿投神社を創建、歌人；1345?小倉実教[藤葉集]入、
[逢坂の関路吹きこす秋風になほ立ちのぼるきり原の駒](藤葉；秋223)
- D3742 **秀長**(ひでなが・東坊城ひがしぼうじょう、長綱男/本姓；菅原) 1338-1411 74 文章博士/1383従三位非参議、1390参議/94式部大輔、1402正二位/氏長者、後円融・後小松天皇の侍読、二条良基の側近、「景憲物語」「名字鈔」、日記「迎陽記」、1393「相国寺供養記」、「北山院御入内秀長記」著、「姓名録抄」「奈良八景詩歌」著、歌/連歌人、
1366年中行事歌合/1387浄阿奉納[隠岐田方明神百首]参加(従三位)/1407内裏90番歌合参加、勅撰3首；新後拾(759)/新続古今(1643/1965)、菟玖波集1句入、

[初瀬山尾上の霧のへだてにも明け行く鐘はなほきこえつつ](新後拾;雑秋759)

[秀長の号/法名] 号;迎陽、法名;宗親[宗観]、長遠ながとう・一条兼良の母らの父

D3743 英脩(秀脩ひでなが・神じん/みわ・諏訪)?-? 南北期諏訪大社神官、信濃守、連歌;菟玖波1句入、
円忠と同族、

[薪つきてもけふりをもみす](菟玖波集;十三1246/前句;いかゝふく鶴のはやしの夕嵐)

M3747 英長(ひでなが・大崎おおさき、)?- ? 江前期;上方の武士/歌人、
1670下河辺長流[林葉累塵集]入、

[とどそむる氷を谷のとどしにて水もいはまの冬ごもりせり](林葉累塵;冬651)

I3766 英長(ひでなが・小川おがわ/本姓;源、)?-? 江中期越前福井藩士、国学/歌人;冷泉為村(1712-74)門、
[英長(;名)の字/通称]字;君卿、通称;治兵衛

D3744 秀栄(ひでなが・岩橋いわたし、通称;甚右[左]衛門、屋号;袋屋)?-?寛政1789-1801頃没 紀伊田辺の歌人、
歌学;冷泉家門、1805「今按名蹟考きんあんめいせきこう」著(長原忠睦の跋)

I3724 英長(ひでなが・白沢しろさわ、号;林葛)?-? 江中期幕臣;御数寄屋頭、

歌人;冷泉家門、1798刊石野広通「霞関集」入、岡田忠篤催[千首和歌]に参加、

[散る花の雪を集めてとてもわがまなばぬ窓の慰めにせん](霞関;春161/落花如雪)

D3745 英長(ひでなが・内堀うちぼり、房長男)1774-183259 近江大津の役人;代官石原家の下役人、
儒者;川島栗斎門、酒井忠順に招かれ上京/神道;山崎闇斎門/竹林流弓道を嗜む、
「律呂新書解」「小運考」著、

[英長(;名)の幼名/通称]幼名;繁太郎、通称;繁太

D3746 秀長(ひでなが・佐藤さとう、通称;恒蔵)1823-? 豊後杵築藩士;1860-62遣米使節団に賄方で随行、
1860(万延元)「米国日記」著

栄長(ひでなが・久世) → 友輔(ともすけ・久世くぜ、心学/俳人) P 3 1 6 1

秀栄(ひでなが・井上) → 秀栄(しゅうえい・井上、幕臣/記録) W 2 1 6 6

秀長(ひでなが・鷹取) → 養巴(ようは・鷹取たかとり、医者) B 4 7 5 2

秀長(ひでなが・佐々木) → 長秀(ながひで・佐々木/吉田、幕臣天文) F 3 2 4 9

D3747 秀就(ひでなり・毛利?) ?- ? 連歌;

1581明智光秀催「五吟一日千句」参加(;紹巴らと)/毛利輝元男(1595生)とは別人

D3748 秀就(ひでなり・毛利もうり/賜姓;豊臣・松平、輝元男/本姓;大江)1595-165157 母;児玉元良女、
長門萩藩主;1600(6歳)家督継嗣/義兄秀元に長門府中を分与、1601より人質として江戸住、
1608家康孫で松平秀康女の喜佐姫と結婚、11帰国を許可/大坂陣に徳川方で参戦、
1626秀忠・家光上洛に供奉/34弟就隆に周防下松を分与、連歌;慶長期7-19歳(1601-13)4種、
1601「何路百韻」04「山何百韻」13「何人百韻」「何船百韻」(;毛利秀元・秀就らと)、

[池水にちりうくまゝの桜花つきせぬ春の夕日なりけり](;萩の歌人)、

[秀就(;名)の幼名/一字名/通称/法号]幼名;松寿丸、一字名;成、通称;藤七郎、
法号;大照院、綱広の父

D3749 秀成(ひでなり・波多野はたの、通称;右馬亮うまのすけ)?-? 江前期尾張名古屋藩士、

兵法家;北条氏長(1609-70)門;北条流軍学を修学、

平士軍用と称し波多野流兵法を創始;名古屋・桑名藩に伝承、

「軍用巻」著、渋川勝久の師

D3750 日出成(秀成ひでなり・赤松/赤松せきしょう亭、増田屋熊次郎)?-? 1817前没 江中後期江戸神田の絵師、
狂歌;菅江社中、1787「才蔵集」2首入、1800「怪談破几帳」画、「松登妓話」画

[夕立の雨のありたけ降り過ぎて今宵は空に水無月の影](才蔵集)

K3740 英成(ひでなり・中山なかやま、)1782-1806早世25 筑前遠賀郡小竹村の神職/国学者

[英成(;名)の初名/通称]初名;秀成ひでなり、通称;主税ちから

K3714 秀成(ひでなり・滝浪たきなみ、)1797-186266 佐渡相川の医者(代々医者)、

江戸で官医中川栄春院に入門/帰郷し医業、名声を得て1823(文政6)相川陣屋付医師、

1825学問所が創設され医学所世話煎に就任;帯刀を許可/1862(文久2)流行病治療に奔走、

1849(嘉永2)疱瘡流行に種痘を普及、歌人;海野遊翁門、専哲(医者)の父、

[一枝はをりて帰らむ桜花こと葉につきん色香ならねば](折花;天保文芸集入)、

[秀成(;名)の字/通称/号]字;就卿、通称;玄伯、号;可翁

- L3764 **秀成**(ひでなり・鈴木すずき、通称;彦五郎)?-? 江後期;歌人、幕臣?、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[大幣おほぬさをとる袖涼し襖ぎ川罪つみも暑さもはらひ流して](大江戸倭歌;夏686/夏祓)
- D3752 **秀成**(ひでなり・堀ほり、名;重国/茂足、重遠男)1819-8769 母;石川太郎女、下総古川藩士;
1838家督継嗣、御広間番/1841弟に家督譲渡、国学;富樫広蔭門、
諸家に付き修学;1851駿河江尻から甲斐市川で執筆講義、音韻学;音義説の研究、
1856御岳神官の要請で社中に滞在;57(安政4)景山源烈公で出府;古事記・音義を進講、
秀成に改名/門人栗原保定支援で甲斐巨摩郡穴山村城濠院で開塾;国学・神道・歌学を指導、
維新後は少博士・神宮禰宜・琴平社教師など;高松で没、奥野安行・栗原保定の師、
「音義本末考」「仮字本義考」「古言音義考」「歌名考」「言霊妙用論」、随筆「磯山千鳥」外著多、
[見ればかつなみだにくもるよしの山てる日かくりしむかしおぼえて](短冊)、
[秀成(;通称)の別通称/号]別通称;卯之吉/造次/慥爾/内記/八左衛門、
号;琴舎/足穂家たりほや、
- K3784 **秀成**(ひでなり・藤尾ふじお、通称;乗平、)1827-8963 近江甲賀郡の歌人;佐々木弘綱門、
歌;[鳩のうみ]入
- D3753 **秀業**(ひでなり・松本まつもと)1838-191780 伊勢松阪の御厨神社の社掌、歌;伯父義住門、
狂歌・漢学・仏教・柔術・插花・月琴など修得/宣長の著書蒐集、「延喜式祝詞外誌」編、
[秀業(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;豊吉、字;子静、通称;利助、号;楳園じやくえん/雲廼屋
- | | | | |
|---------------|---|-----------------------|-----------|
| 秀成(ひでなり・合川) | → | 珉和(みわ・合川あいかわ、絵師) | H 4 1 2 6 |
| 秀成(ひでなり・大田) | → | 什安(じゅうあん・大田おおた、医者) | G 2 1 7 2 |
| 秀成(ひでなり・高岡) | → | 養拙(ようせつ・高岡、商家/儒者) | B 4 7 3 1 |
| 英成(英生ひでなり・今村) | → | 市兵衛(いちべゑ・今村、通事/書翻訳) | G 1 1 3 9 |
| 秀就(ひでなり・江見) | → | 柳条(りゅうじょう・江見えみ、俳人) | E 4 9 7 0 |
| 秀主(ひでぬし・北島) | → | 昌孝(まさのり・北島きたじま、神職/国学) | P 4 0 2 8 |
- D3754 **秀根**(ひでね・河村かわむら、秀世男)1723-9270 尾張藩士;寄合職/国学者、秀穎ひでかい弟、
神道;吉見幸和・多田義俊門、俳諧;巴静門/歌;冷泉為村門/故実;速水房常門、
笙;豊原順秋門、1777京で謀反の嫌疑で投獄;78無罪釈放、日本書紀研究;紀典学を構築、
「葎庵歌集」「葎庵歌叢」「葎庵咏藻」、1745「仮名能津登」編/47「日本書紀撰者辨」著、
1748「延喜神名式集解」、「万葉集集解」「古事記集解」著、「摧玉集」「殷根遺草」「連璧集」編、
「可保李やま」編、「葎庵曼載」「仮名能津登」「狭衣入紐」「三朝鈔録」「字母纂会」外著多数、
[秀根(;名)の字/通称/号]字;君深/君律/信行、通称;金之助/復太郎またろう/又太郎/金之丞、
号;葎庵/曲洲、洗眼堂・藤原唯彦/上野山人、殷根・益根の父、
- | | | | |
|---------------|---|-------------------------|-----------|
| 秀乃進(ひでのしん・羽鳥) | → | 半湖(はんこ・羽鳥はとり、俳人) | H 3 6 5 5 |
| 秀之進(ひでのしん・宮沢) | → | 正治(まさはる・宮沢みやざわ/橘、神職/国学) | T 4 0 0 0 |
| 秀之助(ひでのすけ・大沢) | → | 順軒(じゅんけん・大沢おおさわ、儒者) | J 2 1 4 9 |
| 秀之助(ひでのすけ・加藤) | → | 正国(まさくに・加藤かとう、国学/歌人) | O 4 0 6 7 |
| 秀之助(ひでのすけ・伊達) | → | 宗充(むねみつ・伊達だて、領主/民政) | D 4 2 9 2 |
| 秀之助(ひでのすけ・塩沢) | → | 亮雄(すけお・塩沢しおざわ/竹村、庄屋/歌) | I 2 3 5 8 |
| 秀之助(ひでのすけ・戸沢) | → | 芳一(ほういち・戸沢とざわ、三戸、検校) | G 3 9 2 9 |
- D3755 **秀信**(ひでのぶ・菊川きくかわ) ? - ? 江中期絵師、1765「風流三代枕」画、
「俄仙人戯言日記」著、笠森おせんを描いた錦絵/戯作の挿絵など
- D3756 **秀延**(ひでのぶ・結城ゆうき、秀備男/本姓;藤原)1750-180354 母;藤原秀尚女、廷臣;1772筑後守、
故実家、1787蔵人所衆/1803正五下、「衣服便覧」「玄猪私考」「御散飯供御調進次第」著、
秀繁・秀雅の父
- D3757 **栄信**(ひでのぶ・田中たなか、号;愿仲)?-? 江中後期1772-1801頃大阪の医者;吉益東洞門、
1781「辨斥医断」86「温故堂医譚」著、91「長沙正経証彙」編、播磨の福岡貞亮の師
- D3758 **秀信**(ひでのぶ・巨勢こせ、号;隆源)?-? 江後期京薬師前町の絵師、
1810「絵本菅原実記」著
- 3739 **秀延**(ひでのぶ・大田おおた) ? - 1817 信州飯田の商家/大田秀実の孫、

歌人(伊那歌道史入)、

[秀延(;)名)の通称/号]通称;泉蔵、号;茶波/梅下亭はいかてい

D3759 **秀叙**(ひでのぶ・生嶋いくしま、宣由男/本姓;平)1791-185666 廷臣;大蔵権大輔/近江守:京極宮家出仕、
「文政慶大嘗会記」著

秀信(ひでのぶ・梅井) → 一室(いっしつ・梅井とがのい、書肆/歌人) B 1 1 4

秀信(ひでのぶ・徳永) → 秀之(ひでゆき・徳永とくなが、陪臣/尊攘家) K 3 7 3 1

秀延(ひでのぶ・高木) → 松意(しょうい・高木たかぎ、琴風軒/俳人) E 2 2 7 4

D3760 **秀乘**(ひでのり・佐々木ささき/初姓;河島、別名;高吉、佐々木重綱男)1621-9171 紀州浪人、水戸藩出仕、
伊達安芸家出仕/のち甲府宰相綱重に出仕;甲府書院番(300石)、兵法;小幡景憲門、
甲州流兵法の仙台藩金沢藩の学統の基礎を築く、「軍配秘説」「軍配奥秘口授」、
「甲陽軍鑑抜要抄」/1686「武田備要抄」伝、関屋政春・有沢永貞・太地寄治・大嶺広通らの師、
[秀乘(;)名)の通称] 三郎兵衛/四郎兵衛、高忠・高麻の父

D3761 **秀憲**(ひでのり・河崎かわさき、式部丞/和泉守、通称英之)1663-172664 加賀大野湊神社の神主、
俳人:1691「卯辰集」3入、「信用屏風記」著、
[枯れ薄がさくさと摘むなづな哉](卯辰集;一18/がさくさと;乱雑に/優雅ではない)

D3762 **秀奏**(ひでのり・三輪みわ、秀寿ひでひさ男)1712-178473 陸奥盛岡藩士/歌道:父門、「三輪秀奏歌草」、
以後三輪門歌道として続く、

[三輪門歌道]秀寿一秀奏ひでのり一表秀あきひで一秀福ひでとみ一秀機ひでのり一秀憲ひでのり

[秀奏(;)名)の通称/法号]通称;多助、法号;月恒齋性実道居士、表秀あきひでのり父

D3763 **秀升**(ひでのり・吉田よしだ、初名;秀房、佐々木長秀男)1745-180258 幕臣天文方:

1765父と宝暦暦修正に参画、1767天文方見習/79天文方/87家督継嗣/90弓矢鎗奉行兼任、
1796上京;寛政暦の改暦作業参加/1800御役御免、「七曜暦」「二都実測消長法」著、
「暦法新書」編、「日月食測器並測方」「七政会聚図」「暦法問答」著、

[秀升(;)名)の通称/法号]通称;吉十郎/輓負、法号;長盛院、秀賢・秀民の父

D3764 **秀得**(ひでのり・小塚こうか/山本新五左衛門男)1785-185975 1797小塚藤蔵の養子/1814家督継嗣、
加賀大聖寺藩士;1824植物方奉行/松奉行/用水奉行/産物方引請:殖産興業に尽力/58致仕、
1844「加賀江沼志稿」「江沼志稿」著、

[秀得(;)名)の通称/号]通称;藤十郎、隠居号;清風

L3735 **秀機**(ひでのり・三輪みわ、通称;八百之丞、秀福ひでとみ男)1796-185762 陸奥盛岡藩士/代々歌道:父門、
「三輪秀奏歌草」、

[三輪門歌道]秀寿一秀奏ひでのり一表秀あきひで一秀福ひでとみ一秀機ひでのり一秀憲ひでのり

D3765 **穎則**(ひでのり・伊能いとう、四郎兵衛孚光男)1805-7773 下総香取郡佐原の呉服商;油屋主人、
国学:神山魚貫・小山田与清門/井上文雄・平田鉄胤門、1848家業を廃業;江戸本所亀沢町住;
国学教授、53帰郷、歌人、1864香取尚古館学師/香取神宮神職、68東京神祇官筆生、
1869大学助教;令義解を講義/70帰郷、画嗜む、1851「万葉集私考一之巻」52「香取四家集」編、
1857「麻葉あさのは集」編、60「梅宇長歌集」66「日本史類名勝訓」、「夏衣」「伊能穎則詠草」著、
「歌語童諭」「陸奥日記」「詞学一隅」外著多数、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[箒とる袖うちかをり散る花にやすらふしづも心ありけり]、

(大江戸倭歌;春309/惜花不拈庭)、

[穎則(;)名)の幼名/通称/号]幼名;松二郎、通称;三右衛門/三造/栄助、

号;梅宇/蒿村こうそん/降臨時人/外記、屋号;油屋、穎房ひでぶさの父

K3774 **英哲**(ひでのり/てるもと・樋口ひぐち、)1809- ? 江後期越後柏崎の諏訪神社祠官、
国学・神道;平田篤胤(1776-1843)門、

1836(天保7和学振興のため同門の生田万よろう(1801-37)一家を柏崎に招き開塾、
翌年万による柏崎の乱が起きる(万は敗北自刃/万の妻は自害)、

[英哲(;)名)の通称/号]通称;因幡/出羽、号;桜園

D3766 **秀憲**(ひでのり・沼波ぬなみ) ? - ? 江後期美濃大垣の医者、「医事問答」問、江馬蘭齋門?、

K3763 **秀矩**(ひでのり・間はざま、通称;半兵衛)1822-7655 美濃惠那郡中津川宿本陣宿問屋役、
歌人;福住清風門、国学者;岩崎長世・平田鉄胤門、本陣当主市岡殷政げまさと尊攘運動参加、
戊辰戦争に新政府軍の先導役、のち神祇権少史、元矩もとのりの父

- L3736 **秀憲**(ひでのり・三輪みわ、秀機ひでのり[1796-1857]男)?-1881 陸奥盛岡藩士/代々歌道:父門、
[三輪門歌道]秀寿一秀奏ひでのり一表秀あきひで一秀福ひでとみ一秀機ひでのり一秀憲ひでのり
[秀憲(;名)の通称]筆之介/権之丞/平馬
- L3728 **英徳**(ひでのり・松本まつもと、通称;与平)1830-190071 美作津山の国学者/歌人;伊東祐命すけのぶ門
秀徳(ひでのり・江村) → 厚(あつし・江村えむら、藩士/勤王/斬首) B 1 0 3 0
秀典(ひでのり・益戸) → 滄洲(そうしゅう・益戸ますこ、藩士/儒/詩) H 2 5 7 7
- D3767 **秀八**(ひではち・大坂屋おおさかや)?- ? 江戸の書肆文英堂主人/草紙問屋;義太夫ぬき本板元、
1806「両竹鑑」編
秀八郎(ひではちろう・児玉) → 氏光(うじみつ・児玉こたま、名主/国学) E 1 2 6 8
- D3768 **秀治**(秀春ひではる・大屋おおや、秀賢男/本姓;藤原)?-? 南朝廷臣;従五下/備前守、歌人;風雅1525
[一むらの雲吹きおくる山風に晴れても涼しゆふだちのあと](風雅集;雑1525)
- D3769 **秀春**(ひではる・京極きよごく/佐々木、秀宗男/本姓;源)?-? 足利義満家臣/佐々木高氏[道誉]の孫、
武家;左右衛門尉/三河守/義満の近習、歌;新後拾遺916、
[かぢ枕いくよなれてか波のおとにおどろくほどの夢をだにみん](新後拾遺:十916)
- D3770 **栄治**(ひではる・伊藤いとう、号;一楽軒)?-1685 幼時に良純法親王に出仕;学問勉励/神道;度会延信門、
国学/歌;松永貞徳・東条勘解由・中院通村門、姫路藩主榊原政房に出仕/のち1672島原藩士、
藩主松平忠房に出仕;源氏物語など古典を進講/忠房に1677「古今集三鳥秘訣」を伝授、
1662「紅葉辨引抄」、「神道奥儀の書」著
- D3771 **栄春**(ひではる・井口いぐち) ? - ? 江後期医者;和泉岸和田藩主岡部長皓の侍医、
1861水野忠徳に随行し小笠原諸島で治療に従事/薬園を造り草木調査、「弘前軍符」画
- J3750 **英春**(ひではる・栗岩くりいわ) 1815-187157 信濃水内郡の国学者
- I3782 **英春**(ひではる・大越おおごえ) 1842-191170 陸奥(陸前)仙台の歌人/書;平井東園門、
佐々木巴溪と共に入木道の伝授を受く、晩年;歌;鳴原行雄ゆきお門、
[英春(;名)の号]松下庵南園
秀彦(ひではる・山本) → 直彦(なおひこ・熊谷くまがい/山本、藩士/絵師) L 3 2 9 9
- D3772 **秀久**(ひではる・賀茂かも、師久男)?- ? 南北期神職;若宮社禰宜/1350貴船社祝/蹴鞠/歌、
勅撰;新続古2101、
[君をまもる賀茂の社のみしめ縄神も契をなほむすぶらし](新続古;神祇2101)
- D3773 **秀寿**(ひではる・三輪みわ、喜太夫治秀男)1686-176479 上州前橋の歌人/江戸住/1696陸奥盛岡藩士、
南部行信に出仕;江戸詰、御次役/宗門奉行/一家で盛岡移住/京三条家流の歌人、
万葉古今の講義/以後三輪門歌道として子孫に継承、「古今万葉歌道」「三輪秀寿歌集」著、
「詠千首秀寿翁集」、「於当路具佐」(評)、
秀秋の弟、秀奏ひでのりの父、
[三輪門歌道]秀寿一秀奏ひでのり一表秀あきひで一秀福ひでとみ一秀機ひでのり一秀憲ひでのり
[秀寿(;名)の通称/号]通称;権之丞、号;右竹、法号;温恭院
- J3791 **秀久**(ひではる・菅すが) 1820 - 190283 信濃松代藩士;文具奉行、儒学/武道/国学者、
西洋砲術;佐久間象山門/師範代、古典・歌道を研究、維新後;宣教師/大講義、神社取調、
生島足島神社宮司、
[秀久(;名)の別号/通称/号]別号;真楯、通称;鉞太郎えつたろう、
号;春風/冠峯子/冠翁/準愚公谷人/須気廼屋/勁節堂けいせつどう
- J3704 **栄久**(ひではる・片桐かたぎり/本姓;源、春一の長男)1846-72早世27 信濃伊那郡の国学者;平田鉄胤門、
[栄久(;名)の別号/通称]別号;勲いさお、通称;左太郎/三郎太夫
秀久(ひではる・飯塚) → 桃葉(とうよう・飯塚いつか、蒔絵師) S 3 1 9 8
- D3774 **秀民**(ひではる・吉田よしだ、通称;栄六郎、秀升ひでのり男)?-? 幕臣;天文家、
1797兄秀賢と父に随い上京:測量により父の改暦作業に助力、1806「唐山西洋星象比較録」著
栄仁親王(ひではるとしのう) → 栄仁親王(よしとしのう・伏見宮、歌人) G 4 7 4 6
- D3775 **秀衡**(ひではる・藤原ふじわら、基衡男)?-1187(55-60歳没) 平安末期奥羽の武将、出羽陸奥の押領使、
馬と金による財力;平泉の仏教文化隆盛、1170鎮守府将軍/義経を庇護;80鎌倉へ送る、
1181陸奥守従五上、外交手腕で源平の戦禍を避け平和独立/87追われた義経を匿う
- M3728 **秀平**(ひではる・六角ろっかく、初名;秀房)?-? 武蔵豊島郡の神職、国学/歌;小国重平(1766-1819)門、

国学;本居大平門、向笠稻荷神社神主、

[秀平(;名)の通称]内蔵助/甲斐

秀平(ひでひら・二神) → 永世(ながよ・二神ふたがみ、商家/歌人) O 3 2 6 1

J3729 榮弘(ひでひろ・北村きたむら、通称;竹二郎)1825-9369 上野山田郡大間々村の町医者、
医・国学;権田直助門

秀弘(ひでひろ・藤原) → 如寂(にょじやく、鎌倉期僧/歌/秀能孫) F 3 3 9 5

秀弘(ひでひろ・賀茂) → 定清(さだきよ・賀茂、陰陽家;暦博士) B 2 0 8 1

D3776 秀房(ひでふさ・狛こま、政副男)?- ? 鎌倉南北期;神職;大原野神社神主/五位、歌人:
二条為藤催「大原野探題歌会」参加、1345刊[藤葉集]2首入、
勅撰6首;続千(886)続後拾(791)新千(1738/1860)以下、
[二葉より神をぞたのむ小塩山おしほやまもあひおひの松の行末](続千載;神祇886)、
[うづもれぬ夢路もたえぬ白雪の古里さむき夜半の寢覚に](藤葉;冬369)

L3703 秀房(ひでふさ・松井まつい、旧姓;大場)1823-? 出羽新庄藩士/国学者、「最上郡史」著、
[秀房(;名)の初名/通称/号]初名;巖、通称;文吾/左太夫、号;松園

L3713 穎房(ひでふさ・伊能いとう、穎則ひでのり男)1839-62早世24 下総佐原の呉服商の生/国学者;父門、
1848父と江戸本所亀沢町住

秀房(ひでふさ・佐々木/吉田)→秀升(ひでのり・吉田/佐々木、幕臣/天文家)D 3 7 6 3

秀房(ひでふさ・六角) → 秀平(ひでひら・六角ろっかく、神職、国学/歌)M 3 7 2 8

D3777 秀藤(ひでふじ・葛原くずはら)1768-1860長寿93歳 能登珠洲郡飯田の春日神社神主、
儒;寺島静斎(競)・津田梧岡(梧崗/鳳卿)門、加賀金沢で国史研究、
1793上京し勤王志士と交流/頼山陽と親交/大塩中斎平八郎と京に学舎を設立、
1837大塩の乱後帰郷、歌人、1826「童蒙日本魂」著、
[秀藤(;名)の通称]村麿/鎌六/出雲守

D3778 秀文(ひでふみ・鴨脚いちろう)?- ? 江後期京の神職;下賀茂社禰宜、
1859「安政六年須静書屋積奠次第」著

K3725 秀文(ひでふみ・土岐とき、)1818- 189174 豊前宇佐郡の医者、国学者、
[秀文(;名)の通称/号]称;太玄、号;小室/陽谷ようこく

D3779 秀文(ひでふみ・鴨) 1833 - ? 1868存 江後期京の神職;河合社祝/1864従三位、
「鴨河合社服紀雑穢禁忌」著

秀文(ひでふみ・今井/大国)→ 隆正(たかまさ・大国/山本/野之口/今井、国学/歌) 2 6 1 7

K3706 秀穂(ひでほ・田中たなか、) ?- ? 江後期;尾張津島の神職;
津島社社家氷室家の老職、歌人;香川景樹(1768-1843)門、
[秀穂(;名)の通称/号]通称;織衛おりえ、号;稲園/夢遊

D3780 秀政(ひでまさ・前島まえじま、通称;主膳正)?-? 江前期尾張の医者/南蛮流の眼科、
1605「八婦国蘇呂王流眼目之書」、「南蛮流楚呂玉伝眼目秘術」著

D3781 秀政(ひでまさ・吉野よしの、末益の孫)1724-8863 老岐老岐郡の箱崎神社大宮司/大行事、
1736「諸社靈驗記」44「老岐国続風土記」63「老岐国魂祭記」、「海鱸図解大成」著、
[秀政(;名)の別名/字/通称/号]別名;末一/末正/金光/公光、字;舜寛/尋遂、
通称;源太/菊次、号;心柱舎/蘭花軒/宗神舎/富斎人/蓬萊山人

D3782 英政(ひでまさ・茂山しばやま/初姓;青木、初名;青酒造介)1740-182182 京の大蔵流狂言方茂山家8世、
初め禁裏御所の御鏡司、1806「旧正録」「花咲伝」、「茂山久蔵伝書」著、
[英政(;名)の通称/法号]通称;久蔵、法号;融誉釈道円

D3783 秀雅(ひでまさ・篠沢しのざわ)?- ? 江後期会津の文筆家/歌人、先祖は武蔵の人、
「秀雅家集」「君山遺稿」/文化1804-18頃「握奇八陣集解口義」著、
[秀雅(;名)の通称]仁右衛門

I3753 英昌(ひでまさ・稲葉いなば、英次男)1782-183958 丹後熊野郡久美浜の国学者/歌人、
稲葉英好ひでたかの弟?
[英昌(;名)の通称]喜一郎/喜兵衛

M3726 秀雅(ひでまさ・結城ゆうき、秀延2男)1791-? 江後期;京の廷臣;蔵人所衆、文筆家/楽律に通ず、
能書家、1809(文化6)筑後守/左衛門権大尉/式部少丞、のち丹後守、東洞院三条北に住、

- [秀雅(；名)の初名/通称/号]初名;秀義、通称;筑後守/丹後守、号;松石庵
- 秀正(ひでまさ・小瀬/坂井/土肥)→**甫庵**(ほあん・小瀬おせ、軍学/歴史) 3 9 5 0
- 秀昌(ひでまさ・中原) → **秀昌**(なかまさ・中原、廷臣、文筆) F 3 2 6 8
- 秀升(ひでます・吉田) → **秀升**(ひでのり・吉田/佐々木、幕臣/天文家) D 3 7 6 3
- 秀町(ひでまち・田中) → **壽豊**(ひさとよ・田中、商家/歌人) L 3 7 8 0
- 秀松(ひでまつ・竜) → **玉淵**(ぎよくえん・竜りゅう、藩士/儒者/画) I 1 6 9 3
- 秀松(ひでまつ・市島) → **屏山**(へいざん・市島いちじま、詩人/弹琴) 2 7 4 0
- 秀丸(ひでまる・原田) → **則長**(のりなが・原田はらだ、神職/和学) J 3 5 7 3
- D3784 **秀麿**(秀満ひでまる・斎藤さいとう/本姓;藤原、通称;利三)?-? 江中期石見三隅村の医者、
国学者;1783宣長門、1796「奇談雑記」、「雲州黄泉穴一見之覚」(斎藤秀満書翰)著、
本居大平「八十浦の玉」中巻;長歌[雨を乞ふ歌]入、
[いとふにも降るときあるをかくばかりこふる五月雨降らなくもあやし]、
(八十浦;雨を乞ふ歌の反歌360)
- D3785 **秀麿**(ひでまる・喜多川きたがわ)?- ? 江後期江戸下谷柳稻荷社前の絵師:喜多川歌麿門、
黄表紙・合巻の挿絵/美人画錦絵、1800「屏風の色絵」03「臍沸西遊記」08「落嘶百夫婦」画、
1813「役者用文章」画、
[喜多川秀麿(；号)の通称/別号]通称;春治、別号;松林斎
- J3793 **秀麿**(ひでまる・鈴鹿すずか/家名;平佐、祀職鈴鹿[平佐]秀山長男)1797or99-187781or79 神職の家、
備後安那郡神辺三日市の生、漢学;菅茶山門、神道・国学・歌;小寺清先・小寺清之門、
1830頃京の吉田家で日本書紀を講ず、歌人/能書家、
1840(天保11)頃裁許状を得て神辺大明神(天別豊姫あまわけとよひめ神社)宮司;父を継嗣、従五下、
1868安那・品治・芦田3郡の注連頭しめがしらに就任、歌人;生涯2万数千首詠/梅・桜百首は有名、
[秀麿(；名)の別名/字/通称/号]別名;宗近、字;魏祖、
通称;織部之助/五十鈴/織江/美濃守/能登守、号;翠柳軒/蛙遊、柳の舎(；自邸名)
- D3786 **秀実**(ひでみ・小出こいで、別名;実、土岐丹波守男)?-? 小出権之助の養嗣子、幕臣;1861小姓組、
使番/目付;外国掛/1862箱館派遣;箱館奉行、1866樺太国境画定のためロシアへ派遣、
外国奉行を兼任/勘定奉行/町奉行/留守居/1868致仕、大和守/美濃守、「魯国御用留」著
- L3759 **秀実**(ひでみ・大橋おおはし/本姓;橋、通称;一九郎)?-? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[忘れてはきのふの雲とたどるかなけさみし花の夕暮れの空](大江戸倭歌;春352/春日)
- 秀実(ひでみ・津田) → **秀実**(ひでざね・津田つだ、歌人) M 3 7 4 6
- 秀実(ひでみ/ひでざね・松本) → **魯堂**(ろどう・松本、家老/儒者) C 5 2 2 7
- 秀実(ひでみ・金) → **岳陽**(がくよう・金こん、儒者) H 1 5 8 0
- 秀実(ひでみ・今村/笠間) → **奥庵**(おうあん・笠間かさま、儒者) C 1 4 2 9
- 秀実(ひでみ・福田/蒲生) → **君平**(くんぺい・蒲生がもう、儒者/尊攘) C 1 7 0 0
- 秀実(ひでみ・荘司) → **健斎**(けんさい・荘司/畠山、儒者/医者) I 1 8 9 5
- 秀実(ひでみ・犬塚) → **男内**(だんない・犬塚いぬづか、藩士/儒/砲) U 2 6 7 1
- 秀実(ひでみ/ひでざね?・真宮/橋本) → **稻斎**(とうさい・橋本はしもと、藩士) E 3 1 2 5
- 秀実(ひでみ・中垣) → **謙斎**(けんさい・中垣なかがき、藩士/儒者) I 1 8 9 7
- 秀実(ひでみ・大谷) → **秀実**(ひでざね・大谷おおたに/源、藩士/神職) I 3 7 8 6
- D3787 **秀道**(ひでみち・吉川よしかわ) ? - ? 江中期の探検家:幕臣佐藤行信の命で伊豆諸島探査、
1781行信ゆきのぶ「伊豆海島風土記」編、行信「伊豆七島巡見志」編/「八丈島記」(行信と共著)、
[秀道(；名)の通称]茂右衛門/義右衛門/右衛門
- D3788 **秀道**(ひでみち・皆川みながわ、通称;沖右衛門)?-? 幕臣;御普請役、1785幕明で蝦夷地検分、
1786東蝦夷の交易取調に従事;田沼失脚により調査中止、1786「蝦夷拾遺」著
- J3773 **秀道**(ひでみち・桜井さくらい)? - 1860 信濃伊那郡の国学・歌人;田中大秀(1777-1847)門、
[秀道(；名)の通称/号]通称;与右衛門、号;和光亭
- I3780 **秀道**(ひでみち・山本やまもと、正寿院秀詮男)1827-9266 美濃不破郡宮代村の醍醐三法院系修験家の生、
修験;父門、父の山本救護所で加持祈祷による精神障害者収容施設を運営、
神仏分離令により山本家の基盤は修験道から神道へ移行;山本救護所は生活実践に変化、

門弟の大石凝おいしり真素美ますみと共に天津金木あまつかなぎ学を大成

- D3789 **秀満**(ひでみつ・塩川しおかわ、秀仲男)1430-1500⁷¹ 撰津豊島郡止止呂美城主/豊前守/細川家の支配下、宗祇・肖伯と親交、連歌:1482「何人百韻」出座/88「能勢頼則興行千句」連衆、新菟玖波3句入、[秀満(;)名]の号]号;昌慶、法号;月山昌光、種満の父
- D3790 **秀三**(ひでみつ・木下きのした/本姓;豊臣、利紀男)1681-1725⁴⁵ 木下利値の養嗣子;幕臣;1701家督嗣;3千石、歌人;1711「和歌視今集」編、[秀三(;)名]の通称/法号]通称;主計かづえ、法号;見性院
秀光(ひでみつ・藤原) → 季光(すえみつ・藤原、連歌)
秀光(ひでみつ・大滝) → 新蔵(しんぞう・大滝おおたき、藩士/奉行) P 2 2 2 3
- D3791 **英致**(ひでむね・松田まつだ、数秀男/本姓;藤原)?-? 室町幕府奉行人、「御評定始条目」編
- D3792 **秀宗**(ひでむね・伊達だて、政宗長男)1591-1658⁶⁸ 陸奥柴田郡村田城の生の武将、1594秀吉の人質;伏見城で養育/1595秀次事件に父政宗も連座;秀吉命で家督継嗣予定が家康により中止、1596(文禄5)秀吉の猶子;元服;秀宗を名乗る;従五下侍従/豊臣秀頼のお側小姓、1600関ヶ原戦で石田三成の人質;宇喜多秀家の邸に住、正室の子虎菊丸(忠宗)誕生;秀宗は相続除外される、家康の命で井伊直政女の亀を正室、1614大坂冬陣に父と参戦、戦功;伊予宇和島藩主10万石;藩祖、従四下・遠江守、1620家老を成敗;父の激怒で勘当、1621(元和7)父政宗から宇和島藩返上問題(和霊騒動);老中土井利勝の仲介で父と和解、父と親密になり和歌を交歓・秘蔵の茶入や名香を贈られる、1637島原乱に出兵、1657(明暦3)隠居;3男宗利が家督嗣、母;側室飯坂宗康女?、息;宗利(むねとし、宇和島藩主)/宗純(伊予吉田藩主)、歌人/狂歌、連歌「政宗等何人百韻」入、了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、[渡り来る数も限らず一つれに二十卅四十から(雀)かな](古今夷曲集;三)[高砂の松の浦風吹きたゆみ暁かけて積る白雪](若むらさき;95雪)、[秀宗(;)名]の通称/号]通称;兵五郎/遠江守、号;義山、
- D3793 **英棟**(ひでむね・平松ひらまつ) ? - ? 江後期三河宝飯郡国府の国学者/歌人、1844「三の山ふみ」/71歌集「桃園集」著、[英棟(;)名]の通称/号]通称;次郎左衛門、号;桃園
- D3794 **秀茂**(ひでもち・藤原ふじわら、秀能ひでとう男)1205-68⁶⁴ 母;源彦教女、武家/廷臣;左衛門尉/左兵衛尉、従五下/式部丞/後嵯峨院の北面/西園寺実氏家に出仕、源兼泰・西音・藤原則俊と交流、歌人;後鳥羽院御影堂一品経供養歌会参加/父の歌集「如願法師集」編纂参画?、雲葉集入、勅撰21首;続後撰(1272)続古(483/903/1780)続拾(1224)新後撰(230/1515)玉(2首)以下秀弘の父、秀長・権大僧都公順の祖父、[藤衣馴れしかたみを脱ぎすててあらぬ袂も涙なりけり](続後撰;1272/父1周忌除服)
- D3795 **秀茂**(ひでもち・木村きむら) ? - ? 江後期寛政文化1789-1818頃信州小諸藩医、医;宇田川玄眞門、本草学にも精通、1797「遠西草本略」編、「和蘭局方」編、「泥蘭度草木略」著
- D3796 **英基**(ひでもと・えいき・布施) ? - ? 連歌;1479-81賢盛「諸家月次連歌抄」入
- D3797 **秀元**(ひでもと・大河内おおごうち、政綱男/本姓;源)1576-1666^{長寿91歳} 母;大久保忠直女玄妙院、三河の武将、1595秀吉の朝鮮渡海に臼杵城主太田宗隆に従い戦功、1633「光禄新書」著、1655「不伝妙集」62「朝鮮物語」、「朝鮮征伐記」、「足立政定一代記」、「松平物語」著、足立政定の弟、源頼政の末裔、[秀元(;)名]の通称/号]通称;善助/茂左衛門/大膳大夫、入道号;成心斎/成包斎、法号;興竜院
- D3798 **秀元**(ひでもと・毛利もうり/本姓;大江、穂田元清[元就4男]男)1579-1650⁷² 母;来島通康女、武将;1585毛利輝元の養子、妻;豊臣秀長女/朝鮮出兵に両度とも出陣戦功、1595輝元に実子誕生;後嗣を辞退;山口城主となる、1600関ヶ原敗戦後は長府藩主に転封、輝元の依頼で1623-30秀就の後見役;萩藩の基礎を築く、甲州流兵学;小幡景憲門、茶;古田織部門;高弟、將軍家光の御伽衆、1613「稲富流鉄砲伝書」、「元就公伝」、歌人、連歌:1611「何路百韻」13「何木百韻」、「於毛利家何船百韻」参加、法号;智門寺功山玄誉
- D3799 **秀元**(ひでもと・吉田よしだ、与惣左衛門男)1653-1733⁸¹ 備後福山藩士;1665藩主付小姓、

1685鞆津目付役;鞆に在番/1689大目付/93江戸留守居、
裏判役本締;水野家改易の事務処理に当る、京伏見に逼塞、
「水野記」執筆(;福山藩主水野歴代事蹟);下総結城の水野家に納入、
[秀元(;名)の幼名/通称/号]幼名;彙之助、通称;安右衛門/彦兵衛、号;彦衛

- E3700 **秀素**(ひでもと・藤田ふじた) ? - ? 江中期絵師、奥村政信系の絵師か?
享保1716-36頃赤本「桃太郎」画(;式亭三馬が愛玩)
- L3733 **栄元**(ひでもと・三宅みやげ、通称;源六郎、三右衛門栄範男) 1761-1816⁵⁶ 筑前福岡藩士、剣術家、
1788(天明8)秋月藩主長舒公御前で有地兵太夫と共に剣術を披露、
撃剣術は天下に敵なしと称される、1794(寛政6)家督継嗣、1816(文化13)没
- K3790 **秀幹**(ひでもと・二木ふたき/にき、恭豊たかよ男) 1813-57⁴⁵ 飛騨高山の酒造業、国学者・歌人;田中大秀門、
三綱みつなの兄、
[秀幹(;名)の初名/通称]初名;恭憲、通称;長右衛門(代々の称)
- M3704 **秀元**(ひでもと・有賀ありが、) 1817-1871⁵⁵ 上野甘楽郡の生糸商、国学/歌人、
[秀元(;名)の字/通称]字;济美、通称;善五郎
秀元(ひでもと・佐野) → 千風(ちかぜ・佐野さの/藤原、神職/国学) M 2 8 6 1
栄職(ひでもと・ひでより・橘/袋草子・続詞花入) → 能元(よしもと・橘たちばな、忠元男) H 4 7 6 7
- E3701 **栄盛**(ひでもり・小松こまつ、通称;庄太夫) 1787-1851⁶⁵ 土佐高知藩士/長岡郡蚊井田村出身/歌人、
「鉏之寸隙」著
- I3764 **秀守**(ひでもり・江川えがわ、通称;兵衛) ?-1889 紀伊和歌山の日前宮神社想見職、
三百瀬村の船着神社神職、国学;本居内遠門
- J3764 **秀安**(ひでやす・佐々木ささき、) 1679-1737⁵⁹ 佐渡相川の鹿伏里神明社祠官、
神道;京の吉田家入門/橘三喜みつよし(1635-1703)門、歌人、
[秀安(;名)の通称/諡]通称;出羽、諡;元通霊神
- L3714 **秀安**(ひでやす・飯岡いおか、) 1782-1856⁷⁵ 大和吉野郡の飯岡家の養子/書・歌人;森野好徳門、
京で本願寺僧知順・中山忠能ただやすと交流、
[秀安(;名)の通称] 安右衛門/治右衛門
- J3707 **秀安**(ひでやす・勝俣かつまた、) 1820-1881⁶² 信濃伊那郡川田村の医者、国学;平田鉄胤門、
[秀安(;名)の別名/通称/号]別名;英昉、通称;惣左衛門/宗徳/正庵、
号;延寿園有枝/三千足/柳川
- J3777 **秀恭**(ひでやす・芝しば、旧姓;加藤) 1827-89⁶³ 紀伊日高郡田辺藩士/維新後;藩民政局出仕、
国学・神道/歌;本居内遠門、須賀神社祠官、正恭まさやすの父
[秀恭(;名)の別名/通称/号]初名;正彦、通称;健蔵/善九郎、号;草民
- E3702 **秀行**(ひでゆき・小串おぐし/こぐし、範秀男/本姓;藤原) ?-? 鎌倉末南北期の武士/官人;左衛門尉、
歌人;勅撰4首;続千載(1604)続後拾遺(889)風雅(1530)新千載(2115)、
[はてはまた我が身にかへる恨みかなしばしぞ人のうきもしられし](続千載;恋1604)
[秀行(;名)の通称] 三郎左衛門
- E3704 **秀行**(ひでゆき・鴨かも、初名;光数/光教) 1517-? 1547^存 戦国期京の神職;下賀茂神社社家、
1535従四下/47正四上、山科言継ときつと交流、1534「別雷社記」著
- E3705 **英至**(ひでゆき・野村のむら、通称;十右衛門) ?-? 江戸期備中倉敷の人、「山陽道美作国図」
- E3706 **秀之**(ひでゆき・山中やまなか、秀典男/本姓;秦) 1805-75⁷¹ 伊勢度会郡大湊の医者;華岡青洲門、
国学;足代弘訓門、歌人、天保飢饉で窮民救済に尽力/新田開発、
「朽木集」「寛門鶏肋集」、「花の枝折」「宮川内名所百題」「大湊施行引留」著、
[秀之(;名)の字/通称/号]字;子華、通称;隆甫たかすけ/隆輔/立介、号;鷺浜/周斎/修斎
- E3707 **秀幸**(ひでゆき・高橋たかはし、通称;文蔵) ?-? 江後期陸前仙台の和算家;菊池長良門、
1845頃「算学楷梯新法」編
- K3718 **秀幸**(ひでゆき・知久ちちく、) ? - 1856 信濃伊那郡の阿島領主知久家の家老、歌人、
[秀幸(;名)の通称/号]通称;次良左衛門、号;白園、幸充ゆきみつの息子?
- L3766 **秀之**(ひでゆき・海老原えびはら) ?- ? 江後期;歌人、
1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[後瀬山のちにめぐるは染め残る木々をたづねて降る時雨かも](現存百人一首;65)

- K3731 **秀之**(ひでゆき・徳永とくなが、) 1818-1870切腹 53 周防佐波郡の国学者;神職鈴木高頼門、佐伯頼彦(稜威雄いずお/神職・尊攘家)の兄、周防防府の右田毛利家に出仕;牟礼村の進徳舎で子弟教育、尊攘運動に参加;京・大坂で遊説、萩藩の兵制改編時に諸隊の脱隊騒動に連座;1870(明治3)切腹、
[秀之(;名)の初名/通称]初名;秀信、通称;京平/恭平
- E3708 **秀世**(ひでよ/ひでつぐ・河村かわむら、初名;長益/秀竜/秀純、長秀男) 1695-1771 77 尾張藩士;1714家督;馬廻小頭、近姫傳役/藩主継友・宗春・宗勝3代出仕/1751致仕、国学者/歌:冷泉為村門、神道;吉見幸和門/書;間宮応馬門、「子玉集」「河村秀世詠冷泉家賞点和歌」「子玉尺牘」著、「河村秀世秀詠」「再遍百首和歌十箇度」「百首和歌」著、「親類題和歌抄書」編、
[秀世(;名)の字/通称/号]字;子玉、通称;庄九郎/金之助/久米之進/代右衛門よえもん/九郎右衛門/藤太夫とうだゆう、号;玉翁、法号;慶善院、秀頼ひでかいの父
- I3731 **秀世**(ひでよ・横山よこやま) ? - ? 江中後期;遠江城飼郡の国学者;栗田土満(1737-1811)門、のち本居宣長(1730-1801)門、歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;2首入、
[夕立の雨うち降りてわが屋外の軒のしのぶに白露おきぬ](八十浦;554夕立)
[秀世(;名)の別名/通称]別名;清風/永久、通称;藤兵衛/庄右衛門
- K3720 **秀世**(ひでよ・土屋つちや、旧姓;川上) 1801-47 47 飛騨高山郡代役所の地役人、国学/歌;田中大秀門、1845(弘化2)郡代の命で「官材画譜」著(松村寛一画);
(これを基に1854富田節斎(礼彦いやひこ)が郡代の命で「官材図絵」を著)、
[秀世(;名)の通称/号]通称;勘左衛門、号;雪園
- 3710 **秀吉**(ひでよし・豊臣とよとみ/羽柴、木下弥右衛門男) 1537-98 62 母;なか(天瑞院)、尾張中村の農家、1552故郷を出て信長に出仕/武将;羽柴姓/信長を支え没後その後継者/1585従一位関白、1586豊臣賜姓;太政大臣、90小田原北条を平定;天下統一/刀狩りと検地により身分統制、1591関白を秀次に譲渡/自ら太閤を称す、朝鮮出兵;戦半ばに伏見城で没、茶;利休門/茶会をしばしば催、連歌;1578「羽柴千句」、88聚楽行幸和歌催、貞徳「鷹筑波集」(西武編);発句など27句入、百韻多数、出陣に際し詠んだ句も多い、
[春の日や日永ひながの宿しゆく霞酒かすみぢけ](鷹筑波集)/「小田原や思ひのままに刈おほせ」、
[秀吉(;名)の幼名/通称/一字名/神号]幼名;猿/日吉丸、通称;藤吉郎/高吉、一字名(歌/連歌);御/松、神号;豊国大明神
- E3709 **秀能**(ひでよし) ? - ? 連歌;1578「羽柴千句」参加(;秀吉・昌叱らと)
- I3769 **秀芳**(ひでよし・小槻おつき、爲秀男) 1771-1852 82 京の地下官人;御所御執次衆/従四位下、虫鹿東市正むしかいちのかみ、和学;衣紋の知識に秀づ、
[秀芳(;名)の通称]伊勢介/東市正/右大夫/虫鹿豊後守むしかぶんごのかみ
- L3725 **英珍**(ひでよし・松尾まつお、初名;為英/通称;佐次右衛門) 1782-1838 57 信濃伊那郡の農業/歌人、松尾元珍もとよし(1806-80/多勢子の夫)と同族
秀能(ひでよし・藤原、如願) → 秀能(ひでとう・藤原、歌人) 3 7 0 9
秀義(ひでよし・結城) → 秀雅(ひでまさ・結城ゆうき、廷臣/文筆/書) M 3 7 2 6
英好(ひでよし・稲葉) → 英好(ひでたか・稲葉いなば、国学者) I 3 7 5 2
日出吉(ひでよし・加藤) → 桜老(おうろう・加藤、儒/国学/尊王派) C 1 4 7 3
- E3710 **秀頼**(ひでより・豊臣とよとみ、秀吉男/母;茶々[淀君/浅井長政女]) 1593-1615 自刃 23 大坂城内で誕生、1598権中納言/従二位/1600関ヶ原後は摂津河内和泉3国65万石/03秀忠女千姫と結婚、1605右大臣/14方広寺鐘銘事件で大阪夏の陣;落城/母と自刃、「豊右府母子簡牘」著、
[秀頼(;名)の幼名]拾/捨丸
秀順(ひでより・金) → 岳陽(がくよう・金こん、藩士/儒者) H 1 5 8 0
栄職(ひでより・橘/袋草子・続詞花入) → 能元(よしもと・橘たちばな、忠元男) H 4 7 6 7
日出留(ひでより・佐田) → 友忠(ともただ・佐田さだ/藤原、国学/勤王) V 3 1 3 0
彌天(ひでより・みてん・永釈) → 永釈(えいしゃく・彌天、禅僧) 1 3 3 0
弥天(ひでより・美濃口) → 春鴻(はるこう・春江しゅんこう・美濃口、俳人) 2 1 5 7
飛天大師(ひでより・たいし) → 日蔵(にちざう、修験者;冥界蘇生伝説) 3 3 0 3
- E3711 **尾頭**(びとう、行誓;僧名) ? - 1710 伊賀上野の明覚寺住職/俳人;芭蕉門、

「有磯海」「枯尾花」「けふの昔」入/98「続猿蓑」2句入、
[ひとかぶの牡丹は寒き若菜かな](続猿蓑;卷下若菜)

美稲(びとう→うましね) → 味稲(美稲うましね、万葉吉野伝説人物) 1 2 8 7

美稲(びとう・井上) → 保秋(やすあき・井上いのうえ、国学/歌人) F 4 5 2 6

美稲(びとう・武田) → 千頼(ちかい・武田たけだ/三好、藩士/歌) M 2 8 8 1

美稲(びとう・豊田) → 美稲(よしね・豊田とよだ、文武/勤王家) O 4 7 0 5

斐道人(ひとうじん・木村/小泉) → 檀山(だんざん・小泉/木村、神職/儒/画) I 2 6 7 9

I3713 一重(ひとえ;組連) ? - ? 江戸赤坂の雑俳の組連/取次;1748「筑丈評万句合」入;
[禪ふんどの金かねなかなかに気あつかひ](前句;案じこそすれ々々)
(用心深い男;旅先で禪に入れた金子が気苦労)

一重(ひとえ)上記以外 → 一重(いちじゅう)

E3712 人長(ひとおさ/ひとなが・坂上忌寸さかのうえのみき)?-? 701(大宝元)十月持統・文武天皇紀伊行幸の従駕歌、
万葉二期歌1679(左注;或はいはく坂上忌寸人長の作なりといふ)、
[紀伊の国に止まず通はむ妻の社もり妻寄よしこそね妻と言ひながら](万葉集;九1679)、
(寄しこそねは与えてほしい)

E3713 人上(ひとかみ・県犬養宿禰あがたのいぬかいのすくね)?-? 奈良期廷臣/医者?、内礼正ないらいのかみ(内薬正の誤?)
731聖武天皇の命で大伴旅人を看病;医薬なく死をみとる(万葉459左注):旅人哀悼歌、
[見れど飽かずいましし君がもみち葉のうつろひ行けばかなしくもあるか](万葉;三459)

E3714 非得(ひとく・思恩堂しおんどう)?- ? 江後期文政1818-30頃の大坂長堀橋本町の石門心学者、
1819「忠孝道の枝折」20「三教童諭」22「画本道の手引」、「志礼多言の葉」著、
[思恩堂非得(;号)の別号] 歛味斎

K3779 仁子(ひとこ・じんこ・深井ふかい、高崎藩士深井四郎資治3女)1843-9654 上野高崎の歌人、父は生前に没、
母に養育、文武両道を修学、国学・皇学・歌;田島尋枝ひろえ門/歌;尾高高雅門、
佐幕の高崎藩で勤王を主唱;反対派から毒殺されそうになる、維新後;教育者、
1878(明治11)私学[国振くにふり学校]開設;女子教育に尽力/1907私立深井幼稚園併設、
高崎清水寺馬頭観音堂に[深井仁子先生顕彰碑]あり

E3715 一言主大神(ひとことぬしのおおかみ)?- ? 記紀神話/葛城山の神;雄略帝との出会、
役行者に役使(靈異記)

E3716 人真(ひとざね・酒井さかい) ? - 917 平安前期廷臣:889備前権大目/912左大史、
914土佐守/外従五下、歌:古今集743、
[大空は恋しき人のかたみかは物思ふごとにながめらるらむ](古今集;十四恋743)

E3717 等(ひとし・源みなもと、中納言の希男)877or880-95175-72 平安前期廷臣;947参議/従三位、
左大弁/大宰大貳、歌人;名誉歌仙と称さる(和歌色葉入)、済たる・整ととの父、
後撰集4首;577/619/654/1284、
[浅茅生の小野のしのはらしのぶれどあまりてなどか人の恋しき](後撰集;九恋577)

I3795 比等之(ひとし・長田おさだ、鶴夫たつお長男)1814-9178 大坂の豪商加島屋の生/母;直子なこ(歌人)、
国学;本居大平・内遠門、歌人、
[比等之(;名)の別名/字/通称/屋号]別名;政敏、字;伯成、通称;作之助/純一、
屋号;加島屋、法号:能成院

等(ひとし・須子/大郷) → 浩斎(こうさい・大郷おおごう/須子すご、儒者) G 1 9 3 2

等(ひとし・小河原) → 重麿(しげまる・小河原おがわら/藤原、神職) N 2 1 6 0

均子内親王(ひとしきこのみこ) → 均子内親王(きんしなしいんのう) H 1 6 9 6

E3718 人足(ひとり・坂門さかた) ? - ? 藤原期大宝元(701)九月持統太上天皇紀伊行幸の従駕歌、
万葉二期54:巨勢のつらつら椿の歌、
[巨勢山のつらつら椿つらつらに見つつ偲しのはな巨勢の春野を](万葉集;一54)

E3720 人足(ひとり・三国真人みくにのまひと)?-? 藤原・奈良期廷臣;705従五下/715従五上/720正五下、
万葉三期八1655、
[高山たかやまの菅すがの葉しのぎ降る雪の消けぬとか言はも恋の繁けく](万葉集;八冬1655)

E3719 人名(ひとな・三手代みてしろ/之手代)?-? 奈良期廷臣;738年橘奈良麻呂の宴に参加、
万葉四期歌人;1588、

- [平山ならやまをにはほす黄葉手折り来て今夜こよひかざしつ散らば散るとも](万葉;八1588)
- H3793 **人並面成**(ひとなみのつらなり) ? - ? 江戸狂歌;1787「才蔵集」入;
[追讎 ひいらぎのひらりとみえし赤鯛そりや抜いたはと逃る鬼の子](才蔵集)、
(錆び付いた刀を赤鯛という。侍が抜いたときを町人達は逃げる合図にした)
- E3721 **人長**(ひとなが・多おの) ? - ? 平安前期廷臣(官人);808散位従五下、
812から日本書紀講筵;その講書「日本紀弘仁私記」著(序に太安万侶の紀編纂参画説)
人長(ひとなが・坂上) → 人長(ひとおさ・坂上忌寸、万葉歌人) E 3 7 1 2
人成(ひとなり・多田/只の) → 多田人成(只の-ただのひとり、姓;島崎、狂歌) F 2 6 5 1
- E3722 **人主**(ひとぬし・大綱公おおよさみのきみ) ?-? 官人;公(;姓)は主として地方の皇別氏族に多い、
万葉四期歌人;卷三413:譬喩歌、
[須磨の海人あまの塩焼き衣きぬの藤衣ふじごろも間遠まどおにしあればいまだ着馴れず]、
(万葉集;413/通いはじめて日が浅く互いになじめないことの比喩)
- E3723 **人主**(ひとぬし・布勢朝臣ふせのあそん) ?-? 駿河国防人部領使ことりうかひ守かみ従五下、
755. 2. 7「駿河国防人歌20首」進歌(10首記載)、
- H3787 **人世話成**(ひとのせわなり) ? - ? 江戸の狂歌作者;1785「後万載集」2首入;
[寄蓮恋 それとなく恋の糸ひく心ねをほりて聞くのも蓮葉はすば(女の浮気)なりけり]
一節千杖(ひとふしちつえ、狂歌) → 紫蘭(しらん・南陀伽・窪俊満、絵師/狂歌/戯作) 2 2 1 5
- E3724 **人まね小まね**(ひとまねこまね、真田さなだ弥右衛門) ?-? 江戸大久保住、狂歌四方連、1787才蔵集1首入;
[僧恋 かた時も傍そばはなさじと握る手の珠数より君が顔をみだ仏](才蔵集)
- 3711 **人麻呂**(ひとまろ・柿本朝臣/和邇氏の支流) ?-710? 天武・持統・文武期の宮廷歌人/資料は万葉のみ、
地位や柿本左留との関係など不詳、臨死歌や妻依羅娘子(よさみのおとめ)の挽歌等に諸説多、
万二期歌人64首;外に人麻呂歌集から360首余収録、680年七夕歌(2033)が初、拾遺下多数
[天の川安の河原に定まりて神競者磨待無(こころくらばときまたなくに?)](万葉2033)
[あしびきの山鳥の尾のしだり尾のながながし夜をひとりかも寝む]
(万葉2802人麻呂歌集の或る本、拾遺778)
- E3725 **人麻呂**(ひとまろ・丈部造はせつかべのみやつこ) ?-? 奈良期;755防人/相模の助丁すけのよほろ、万葉廿4328、
[大君の命みこと恐かこみ磯に触ふり海原うのほり渡る父母を置きて](万葉集;廿4328)
秉燭人(ひともしびと;書紀) → 火焼翁(ひたきのおきな;古事記、歌謡詠者) C 3 7 5 7
- H3791 **一本鎗主**(ひとものやりぬし/いっぽんやりぬし) ?-? 武士/江戸狂歌、1785「後万載集」2首/87「才蔵集」入、
[帆をあげし米のあたへは高砂のこのうら店だによくも住の江](徳和歌後万載集;738)
(詞書;米のあたへ貴きころ市のほとりを過ぎ侍りて)
- E3726 **人康親王**(ひとやすしのう、山科宮、法性、仁明天皇皇子) ?-? 常陸・上総太守/859出家、
女(娘);①藤原基経室(時平・仲平・忠平の母)、②平惟範室(時望の母)
独武者(ひとりむしゃ) → 梅人(ばいじん・平山、俳人) B 3 6 6 3
肥遯(ひとん・立川) → 曾秋(そしゅう・立川たちかわ、農/俳/心学) L 2 5 0 5
肥遯斎(ひとんさい・堀江) → 賢重(かたしげ・堀江ほりえ、武将/連歌) M 1 5 9 5
- E3727 **夷臣**(ひなおみ・後藤ごとう、別号;基久、基直男) 1791-1841 51 安藝山県郡本地村の農家/国学者;
1812広島白神社で国学を聴講し国学に志す、13本居大平門、出雲・伯耆・石見を遊歴;
古事記・古今集を講義/歌の指導、石見大森で客死、1824「泉国辨」33「八雲路日記」、
1836「桜園集」、「比婆山考」「安藝国社倉之事」「後藤夷臣日記」「神職弁」「臍笑弁」著、
歌;大平撰「八十浦の玉」下巻;短歌・長歌[網代]入、
[うつろはむことぞうれたき桜花わがまつ友はいまだこなくに]、
(八十浦;737/うれたし;恨めしい)
[夷臣(名)の通称/号]通称;彦佐/助太郎/衛守、号;桜園、和田大魚・服部重広の師
雛子(ひなこ・中井) → 雅枝(まさえ・多羅尾たらお/中井、歌人) Q 4 0 6 3
- E3728 **雛助**(初世ひなすけ・嵐/叶、初世小六男) 1741-96 56 歌舞伎役者/実悪、
俳人;1782蕪村「花鳥篇」入、1790自笑「眠獅選みんしせん」に逸話入、
[初世嵐雛助(号)の別号] 三世嵐小六、俳名;珉子みんし/眠獅/小七、
雛助(2世ひなすけ・嵐) → 十蔵(3世じゅうぞう・中村、歌舞伎役者)
- H3788 **鄙野中道**(ひなのなかみち) ? - ? 江戸狂歌;1785「後万載集」入、

[さみせんもひかず調子もあはねどもひとよ旅寐の岡崎の君](徳和歌後万載集;八恋489)、
(三味線の習始めの歌詞「岡崎女郎衆はよい女郎衆」をきかせる)

E3729 **雛丸**(ひなまる・初世三日坊みつかぼう、姓;土井/通称;見益)?-1828 大坂御堂筋順慶町の医者、
狂歌作者:玉雲斎貞右門;高弟、浪華六郡頭目の1、1813「狂歌一人十首」編、
1820「狂歌友の文庫」編、「温故知新春」、「緋月遺稿」、
[初世三日坊雛丸(;号)の別号]緋月/緋月堂

E3730 **雛丸**(ひなまる・初世弥生庵やよいあん)1764?-183067? 幕臣か?/江戸麻布日ヶ窪の狂歌作者、
1830「俳諧歌追福香花集」、「風流童絵噺」著、
[初世弥生庵雛丸(;号)の別号] 桃の本雛丸/春月堂

日並皇子(ひなめしのみこ) → 草壁皇子(くさかべのみこ) 1 7 0 3

日並皇子尊宮舎人(ひなめしのみこのみことのみやのとねり)→草壁皇子宫舎人(くさかべのみこのみやのとねり) 1 7 0 4

E3731 **雛群**(ひなむら・3世弥生庵やよいあん・姓;君塚きみづか)1813-6755 江戸大坂町の茶亭経営、
狂歌;巴水連判者、1851「連名披露狂歌合」/52「むつきの遊」編、「狂歌四季遊納涼之部」編、
[弥生庵雛群(;号)の通称/別号]通称;藤兵衛、初号;江鏡園北雄/江鏡園北雄

L3777 **夷守**(ひなもり・五十君いそぎみ/五十嵐いがらし、通称;又一郎)1793-187381 周防佐波郡三田尻の歌人、
本陣五十君家の分家の五十嵐坂場家の生、国学;尾古重伴・鈴木高鞆門、
秋本里美・俳人素兄と交流、詠史和歌に長ず、江戸住、長沢伴雄「和歌鴨川集」入、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[ものすごく小雨降る夜の遠方に見えみ見えみ燃ゆる狐火](大江戸倭;1975/狐火)

雛屋(ひなや) → 立志(6世りゅうし・関、俳人)

雛屋利七(ひなやりしち) → 立意(りゅうい・多田ただ、商家/俳人) C 4 9 7 3

簸南(ひなん・陶山) → 尚迪(ひさみち・陶山すやま、医者) B 3 7 9 8

E3732 **飛入**(ひにゅう) ? - ? 俳人:1672重徳「俳諧塵塚」下巻6吟百韻入;一貞・玄札らと

美仁親王(びにしんのう) → 美仁親王(はるひとしんのう・閑院宮、歌人) G 3 6 7 4

美年(ひねん・長田) → 美年(よしとし・長田ながた、藩士/歌人) N 4 7 8 4

美之一(びのいち→よしのいち) → 葛原勾当(くずはらこうどう、生田流箏曲) C 1 7 4 4

檜尾僧都(ひのおのそうず) → 実慧(じつえ・じちえ;法諱、真言僧) U 2 1 4 4

I3716 **日の上組**(ひのかみぐみ;組連)?- ? 江中期相模浦賀の雑俳の組連、

取次;1757「2世収月評万句合」入;

取次例;[後生より暑寒しよかんの果はてを待つ彼岸](万句合/前句;いつかいつか々々)

H3794 **檜香もよし**(ひのきのかもよし)? - ? 狂歌作者/1787「才蔵集」入;457

[君ゆへに硯の海にしづむとも筆の命毛のちげあふに代えなん](才蔵集;寄硯恋457)

E3733 **檜隈女王**(ひのくまのおおきみ) ? - ? 高市たけち皇子女か?、737従四上/737従四上、

万葉二期202左注入(類聚歌林に曰く;檜隈女王 泣沢神社を怨む歌なり/高市皇子の死)、

[泣沢の神社もりに神酒みわ据ゑ祈れども我が大君は高日知らしぬ](万葉集;二202)

日野三位(ひのさんみ) → 資業(すけなり・藤原・日野、廷臣/詩歌) C 2 3 6 7

日野大納言(ひのだいなごん) → 資明(すけあきら・柳原/日野、廷臣/歌人) B 2 3 7 6

日野中納言(ひのちゅうなごん) → 兼郷(かねさと・広橋ひろはし、廷臣/歌) F 1 5 6 8

日野入道(ひのいりどう) → 資長(すけなが・日野/藤原、如寂、廷臣) C 2 3 6 2

日野帥(ひのそち) → 実光(さねみつ・藤原/日野、廷臣/歌人) D 2 0 6 5

日野後師(ひののちのそち) → 資実(すけざね・日野/藤原、廷臣/詩歌) C 2 3 1 8

日野町(ひのまち) → 資藤(すけふじ・町/藤原/柳原、廷臣/歌) C 2 3 9 8

日野町(ひのまち) → 資広(すけひろ・町/藤原/柳原、資藤男/歌) C 2 3 9 5

日野町(ひのまち) → 広光(ひろみつ・町/柳原/藤原、資広男/歌) H 3 7 3 8

火の宮(ひのみや) → 尊子内親王(そんしないしんのう、冷泉天皇皇女/円融妃/歌) E 2 5 8 5

日野民部卿(ひのみんぶきょう) → 資長(すけなが・日野/藤原、如寂、廷臣) C 2 3 6 2

日野律師(ひのりっし) → 資実(すけざね、藤原、詩歌人) C 2 3 1 8

E3734 **肥梅**(ひばい) ? - ? 浪花の雑俳点者;1748本屋新右衛門「兎の目」入

檜皮釘武(ひはだのくぎたけ) → 釘武(くぎたけ・檜皮ひはだの、狂歌) 1 7 4 2

披髮翁(ひはつおう) → 牛山(きゅうざん/ござん・香月かつき、医者/随筆) M 1 6 6 6

- 美波留(びはる・長野) → 美波留(三春みはる・長野/藤原、国学/歌) 4 1 3 6
- E3736 美備(びび・沼田ぬまた) ? - ? 江後期讃岐高松の馬術家:「騎格順道」「馬名考」、
1816「馬石記」/22「武家厚総之記」「騎法一隅」/28「厚総五編礼式」35「馬馬具色々の図」、
1859「冥々騎談」、「厚総問答」「大坪流軍馬摘要」「飼養通考」「馭法集説」「美備雜記」外多数、
[美備(;名)の通称/号]通称;一平次/逸平次、号;桐野(い)や/桐野亭主人
- 非々庵(ひひあん) → 十庵(じゅうまる・岡田おかだ、俳人;雑俳) Y 2 1 4 1
- 肥人(ひびと・田氏・少令史) → 肥人(うまひと、万葉歌人) 1 2 8 9
- 非々道人(ひひどうじん) → 法蓮(ほうれん;法諱・姓;川崎かわさき、真宗僧/国学) G 3 9 2 0
- 榧々舎(ひひのや) → 千庵(せんあん・森田もりた、医者) L 2 4 5 5
- 比々羅木園(ひひらぎえん) → 訓昶(のりひさ・西尾にしお、藩士、国学者) J 3 5 4 8
- ひゝらぎの舎(比々良木の屋;ひひらぎのや) → 武雄(たけお・丸山、歌) O 2 6 2 9
- 斐夫(ひふ/あやお?・大村) → 桐陽(とうよう・大村、儒者) H 3 1 9 0
- 肥富(ひふ・島/日置) → 風水(ふうずい・日置へき/島、神職/俳人) 3 8 8 4
- E3737 美福門院(びふくもんいん、名;得子、藤原長実女) 1117-6044 母;源俊房女、1141鳥羽天皇皇后、
近衛天皇・八条院の母、1149院号/55後白河天皇即位に尽力/56出家、保元乱では天皇方、
歌:「美福門院御集」、女房に加賀(定家の母)など、法号;真性空
- 美福門院加賀(びふくもんいんのかが、藤原定家母) → 加賀(かが・美福門院) E 1 5 5 5
- 美福門院帥(びふくもんいんのそち) → 帥(そち・美福門院)
- 一二三(ひふみ・岩田) → 広彦(ひろひこ・岩田いわた/大江、医者) G 3 7 9 7
- 一二三軒(ひふみけん) → 文鐘軒(ぶんしょうけん、浄瑠璃作者) F 3 8 8 0
- ひふみのや(日文舎ひふみのや) → 通光(みちみつ・弘ひろ、和洋算家/教育) C 4 1 6 4
- 日文舎主人(ひふみのやしゅじん) → 通光(みちみつ・弘ひろ、和洋算家/教育) C 4 1 6 4
- 美平(びへい・入谷) → 美平(よしひら・入谷いりや、藩士/歌人) L 4 7 6 4
- M3744 檜芳(ひほう) ? - ? 江前期;歌人、浅井忠能ただり家の人(女房?)?;
忠能[難波捨草]に20首余入集、歌会・月次会に参加、
[たのめけるも心よくも侍らずたがひければ、
契りおく末だにとげぬ言の葉を千よとたのみし身ぞ悔しけれ]([難波捨草]恋456)
- E3738 眉峰(びほう) ? - ? 江末期尾張鳴海俳人、1851「はるの霜」編
- 美方(美芳びほう・田中) → 美方(よしかた・田中、絵師/国学) H 4 7 3 7
- 費墨斎(ひぼくさい) → 鈍苦斎(どんくさい、戯作/談義本作者) S 3 1 1 4
- 卑牧堂(ひぼくどう) → 乗全(のりやす・松平、藩主/老中、詩歌) G 3 5 0 7
- 飛摩窓(ひまさう) → 寥和(3せりょうわ・浅井あさい、俳人) J 4 9 6 7
- H3789 ひまの内子(ひまのないし) ? - ? 江戸天明期1781-89頃の女流狂歌師;
1785大田南畝撰「徳和歌後万載」2首/87「才蔵集」2首入、
知恵内子・世話内子と共に[三内子]と称される、
[まざまざとうそばつかりを言ひなさるしりも結ばぬ君が言の葉](後万載;622)、
(詞書;寄申恋/猿の尻は赤;真っ赤なうそ)、
[結びても人の口端にいはず帯やゝあらはるゝ恋の塊(かたまり)](才蔵集;375)
- E3739 卑弥呼(ひみこ/ひめこ) ? - ? 3ct中葉邪馬台国女王/30余を統治、
239魏に使者難升米派遣;明帝より親魏倭王の称号;魏志倭人伝、
日本書紀作者は神功宮皇后と同一と考えたらしい(邪馬台国都は九州説・大和説あり)
- 秘密大師(ひみつだいし) → 安然(あんねん;法諱、天台僧/悉曇学) C 1 0 4 1
- 微妙院(びみょういん;法号) → 利常(としつね・前田まえだ、藩主/日記) M 3 1 9 2
- 微妙院(びみょういん;法号) → 日就(にちじゅう;法諱、日蓮僧) H 3 3 1 9
- E3740 日向(ひむか、日向君) ? - ? 平安前期規子内親王家女房?、歌人、
972(天禄3)女四宮(規子内親王)歌合(野宮歌合)参加(大観11/大系16)、続詞花集入、
[白雲のかかりし尾にも秋霧のたてばや空に山のみゆらん](女四宮歌合;左11/紫苑しむに)
[高砂の山のをじかの年を経ておなじ尾にこそ立ちならしけれ](同;右12藤原もろふん、
続詞花集923・袋草紙には日向の歌としている)
- 日向(ひむか・古屋) → 眞章(さねあき・古屋ふるや、神職/国学) H 2 0 1 8

- 日向(ひむか・八羽) → 光穂(みつほ・八羽はちは/荒木田、神職/国学) E 4 1 8 1
 日向(ひむか・大隅) → 松亭(しょうてい・大隅おおすみ、神職) L 2 2 0 1
 日向(ひむか・沢田) → 泰綱(やすつな・沢田/荒木田/菌田、神職) C 4 5 1 0
 日向開山(ひむかかいざん) → 日睿(ひるい・日叡にちえい;法諱、修験者/日蓮僧) 3 3 5 7
 美明(びめい・大口) → 灌畦(かんけい・大口おおぐち、本草家) Q 1 5 3 0
 備明(びめい・関口) → 本貞(ほんてい・関口せきぐち、医者) F 3 9 5 5
- E3741 姫大伴氏(ひめおおともし・伴姫ともひめ)?-? 平安前期810-124頃漢詩人:文華秀麗集入
 紐(ひも→ちゅう・岩田) → 紐(ちゅう・岩田いわた、藩士/詩人) F 2 8 6 9
 美茂(びも・森) → 美之(よしゆき・森もり/藤原、官人/歌人) P 4 7 6 5
 美黙(びもく・福羽) → 美静(びせい・よししず・福羽ふくば、藩士/国学) C 3 7 4 2
 弥門(びもん・樋口) → 雪汀(せつてい・樋口ひぐち/菅原、藩士/儒者) E 2 4 5 9
 百(ひやく・渡辺) → 幸嗣(ゆきつぐ・渡辺わたなべ、藩士/歌人) H 4 6 5 2
 百阿(ひやくあ) → 吾仲(吾中ごちゅう・渡辺、仏画師/俳人) D 1 9 2 9
 百阿仏(ひやくあぶつ) → 吾中(吾仲ごちゅう・渡辺、仏画師/俳人) D 1 9 2 9
 百阿弥(ひやくあみ) → 吾中(吾仲ごちゅう・渡辺、仏画師/俳人) D 1 9 2 9
- E3743 百庵(ひやくあん・寺町てらまち、名;言満、三知かずとも男/本姓;越智) 1695-1781 幕府坊主衆:20歳頃家督、
 表坊主/1741幕府連歌師を出願;失敗し太鼓坊主に降格/56小普請/71隠居、
 有職故実・本草・考証に精通、俳諧;青峨・素堂門/茶;石州流;伊佐幸琢門/歌;冷泉為久門、
 歌;小倉百人一首の講釈/1734「江戸今八百韻」を米仲と編纂刊行、奇人逸話あり、
 1736「毫の秋」、51考証「歌囊并蛙談」「歌林記識論」、狂句「華葉集」編、61「燧袋花鶯談」著、
 1764「滑稽中興万々集」、71俳「梅花林藪漫談」73「林藪余談」、「楓樹考事辨別」「源三知抄」、
 「蕨薇考」「蕨薇考事辨別」「短尺板屋抄」著、妻;なつみ[?-1755]も俳人、
 [百庵(;号)の通称/別号]通称;三知[三智]かずとも(父を継承)、別号;道阿/己百庵/越道/
 浜類ひんきょう/蛭子たんし/不二山人/負薪山人/独知翁/梅仁翁/新柳亭/南無三坊/
 沈虎子/山臥井老蛙/山井道士/文翰井/茅軒/路菊/四方明、法号;広海院
- 百一(ひやくいち・児島) → 鳳林(ほうりん・児島、琴製作/琴曲家) C 3 9 7 4
 百一字(ひやくいちじ) → 吾中(吾仲ごちゅう・渡辺、仏画師/俳人) D 1 9 2 9
 百一翁(ひやくいちおう) → 鉅鹿(きよろく・目々沢めめざわ、儒者) Q 1 6 4 4
 百一翁(ひやくいちおう) → 秋水(しゅうすい・長尾ながお、遍歴/詩人) H 2 1 7 7
 百一居士(ひやくいちこじ) → 鉄石(てつせき・藤本、勤王/天誅組) C 3 0 5 1
 百一守(ひやくいっしゅ) → 吾中(吾仲ごちゅう・渡辺、仏画師/俳人) D 1 9 2 9
- E3744 百叡(ひやくえい;法諱、俗姓;菽生おぎゅう) 1787-1871 加賀江沼郡の真宗本願寺派僧;願生寺住職、
 宗学;僧朗門/諸師歴訪;天台・性相学研究、帰郷後願生寺に講席を開く;後進指導、
 1862勸学/68教導職/権少教正、1851「因明入正理論聞書」、「浄土論聴記」「俱舎論聴記」外多、
 [百叡(;法諱)の別法諱/諡号]別法諱;広智、諡号;大乘院
- 百穎(ひやくえい・上田) → 光賢(みつかた・上田うえだ、国学・歌) H 4 1 7 8
 百右衛門(ひやくえもん・荒木) → 右一(ゆういつ・荒木あらか、藩士/俳人) 4 6 5 6
- E3745 百淵(ひやくえん・鈴木すずき、通称;文忠堂)?-? 江中期武蔵幸手の心学者、僧侶か?、
 仏教の題材で実践道徳を説く、1782(天明2)刊「萃種」、84刊「元原木尋」著、
 「心学便蒙抄」「智理束」「幼童便蒙」著
- 百猿(ひやくえん・仏牛庵) → 貞橘(ていきつ・仏牛庵、俳人) 3 0 5 7
 百園(ひやくえん・敷田) → 年治(としはる・敷田/吉松/宮本、神職/国学) N 3 1 4 3
 百花(ひやくか・松田) → 百花(ひやくか・松田、歌舞伎役作者) E 3 7 9 1
 百花(ひやくか・菊地/杉原) → 沾山(5世せんざん・杉原/菊地、俳人) F 2 4 5 5
 百花庵(ひやくかあん) → 宗固(そうこ・萩原/鈴木/源、幕臣/歌人) 2 5 0 8
 百厩(ひやくがい;号) → 羅城(らじょう;号・恵階;法諱、真宗僧/俳人) B 4 8 3 9
 百花園(ひやくかえん) → 宗固(そうこ・萩原/鈴木/源、幕臣/歌人) 2 5 0 8
 百花園(ひやくかえん) → 勝明(かつあき・齋藤さいとう、国学/本草家) N 1 5 2 2
 百花園(ひやくかえん) → 蓬宇(ほうう・佐野さの、商家/俳人) 3 9 1 5
 百花園(ひやくかえん) → 鞠塙(きくう・佐原/北野、商家/俳人) J 1 6 9 9

- 百花園(ひやくかえん) → 花守(はなもり・都筑つづき、藩士/歌人) K 3 6 4 5
 百花園(ひやくかえん) → 眞垣(まがき・湯田ゆた、国学者/歌人) T 4 0 6 3
 百鶴(ひやくかく・岩瀬) → 京水(きょうすい・山東さんとう、絵師) S 1 6 0 3
 百鶴園(ひやくかくえん) → 希因(機因きいん・大越/和田、俳人) 1 6 7 6
 百鶴園(2世ひやくかくえん) → 後川(ごせん・小寺/和田、酒造業/俳人) B 1 9 5 7
 百華嶺(ひやくかくつ) → 蘭阿坊(らんあぼう;号、武山、僧/俳人) B 4 8 5 4
 百可齋(ひやくかさい) → 舎員(しゃいん・百可齋、俳人) G 2 1 0 0
 百花主人(ひやくかしゅじん) → 珠来(しゅらい・洪こう/沼、俳人) J 2 1 0 7
 百花堂(ひやくかどう/百華台) → 嵐枝(らんし・上坂うえさか、藩士/俳人) C 4 8 3 8
 百花坊(ひやくかぼう) → 除風(じよふう;号、真言僧/俳人) C 2 2 9 4
 百花坊(ひやくかぼう) → 巒古(らんこ・百茶坊、美濃派俳人) B 4 8 9 6
 百浚(ひやくかん・門田) → 樸齋(朴齋ぼくさい・門田もんでん、儒者/詩) D 3 9 1 6
 百喜(ひやくき・洞露齋) → 百喜(ひやくき・洞露齋、鋳職/挿絵) E 3 7 9 7
 百卉園(ひやくきえん) → 旭山(ぎよくざん・戸田とだ、医者/本草家) O 1 6 9 6
 百戯園(ひやくぎえん) → 歌右衛門(3世うたえもん・中村、初世竜玉/役・作者) 1 2 6 4
 百峽(ひやくきやう・鳥山) → 啓(ひらく・鳥山とりやま/田所、藩士/教育) K 3 7 0 4
 百莖仙(ひやくけいせん) → 友左坊(ゆうさぼう・山本やまもと、俳人) B 4 6 8 4
 百月庵(ひやくげつあん) → 丁知(ていち・村林/高柳、札差/俳人) 3 0 4 4
- E3746 百合(ひやくごう/ゆり・浅田あさだ、団扇堂) 1666-1733 68 京の俳人: 団水門、1709「伝舞可久」「田楽」編、
 1709言水「京拾遺」3吟入; 言水・路通と、前句附点者; 1729隆志「俳諧草結」点句入、八百彦父、
 [辛からふ行く秋も梢を北の山](いやでも去り行く秋だが北山の梢を染め慰めてくれた)
 百合(ひやくごう) → 百合(ゆり、越中俳人) G 4 6 1 5
 百合(ひやくごう/ゆり・今村) → 正文(まさぶみ・今村いまむら、藩士/歌人) N 4 0 8 3
 百号子(ひやくごうし) → 雲阿(うんあ・円竜、神職/僧/狂歌) D 1 2 5 3
 百光房(ひやくこうぼう) → 慶暹(けいせん;法諱、天台僧、歌人) 1 8 7 7
- E3747 百合坊(ひやくごうぼう・竹永/武長たけなが、名; 以文) 1734-1805 72 出羽酒田の俳人: 玄武坊門、
 1801「俳事諸記」著、
 [百合坊(;号)の通称/別号]通称; 五右衛門
 忠治/号; 百壺翁
 百壺翁(ひやくこおう) → 徳枝(のりしげ・増田ますだ、藩士/和漢学) J 3 5 9 8
 百谷(百穀ひやくこく・小田) → 海僊(かいせん・小田おだ、絵師) I 1 5 8 5
 百五齋主人(ひやくごさいしゅじん) → 除風(徐風じよふう・肥田ひだ、教育者) M 2 2 8 0
- E3748 百歳(ひやくさい・西島にしじま、名; 之寛、藤堂五郎左衛門良重男) 1668-1705 38 伊賀上野の俳人; 芭蕉門、
 蟬吟の甥、西島家を継嗣、1689「あら野」1句/91「猿蓑」2句/92車庸「己が光」入、
 1694其角「枯尾花」/98「続猿蓑」1句入、
 [枯れ芝や若葉たづねて行く胡蝶こてふ](あら野; 二)
 [百歳(;号)の通称]通称; 十郎右衛門
- E3749 百濟(ひやくさい・兼康かねやす、名; 元愷) 1781-? 代々大阪の医者/儒者: 篠崎三島門、
 1818「浪花雑吟」35「浪華詩話」、藤井裕齋・広瀬筑梁・奥檀橋らと交流、
 [百濟(;号)の字/通称]字; 孟美、通称; 渡辺久太郎/兼康愷
 百齋(ひやくさい・画号) → 石上(せきじょう・樹下じゅげ、浄瑠璃/黄表紙作) D 2 4 6 0
 百齋(ひやくさい・牧) → 墨僊(墨仙ぼくせん・牧まさき、藩士/絵師) D 3 9 6 1
 百齋(ひやくさい) → 潭考(たんこう;号、俳人) I 2 6 0 9
 百齋(ひやくさい・藤井) → 良文(好文よしふみ・藤井ふじい松林、藩絵師) O 4 7 8 6
 百歳翁(ひやくさいおう) → 寿山(じゅざん・井口、長寿/書家/歌人) O 2 1 8 2
 百歳孫(ひやくさいそん) → 蜂房(はちぶさ・坂上、俳人) E 3 6 9 3
 百齋久信(ひやくさいひさのぶ;画号) → 石上(せきじょう・樹下じゅげ、梶原、黄表紙) D 2 4 6 0
 百做(ひやくさく) → 忠次(ただつぐ・榊原、藩主/歌人) F 2 6 3 0
- E3750 百三(ひやくさん・山中やまなか・鴻池こうのいけ) ?-? 江前中期大阪の俳人: 伴自と交友、
 1706「俳諧幸哉」編、1714月尋「伊丹発句合」; 四季発句入、

[梅咲て山家も嬉し餅の力](伊丹発句合;春)

百杉(ひやくさん・佐伯) → 正度(まさのり・佐伯さえき、神職/国学) P 4 0 7 9

百山(ひやくざん・宮沢) → 敬宗(たかむね・宮沢みやざわ、国学者/歌) Z 2 6 8 3

E3751 百子(ひやくし・堤/塘つみ、模陵舎、紀海音[貞峨]女婿)?-? 大阪の雑俳点者、狂歌:油煙斎貞柳門、貞柳(海音[貞峨]の兄)と狂歌贈答や連句付合をする、1734貞柳一周忌「狂歌糸の錦」編、1736海音「橋波志羅」編/40「銀の月」評・「狂歌餅月夜」編/42「狂歌時雨の橋」43「仙家之杖」編、1751「狂歌猫筑波」編、53「狂歌猿筑波」編、「百千堂雑話」「俳諧橋はしら」著/外編著多数、1754「しぐれの碑」編(;貞因[貞柳貞峨の父]25回忌・貞峨13回忌追善集)、56「有馬籠」評、1751春耕「あふ夜」入/56「両面かゞみ」入/57律中「耳勝手」入、1770(明和7)貞峨の養子貞風没後その未亡人と結婚;貞峨の女婿となる;貞柳一門の中心、[いつを是ぞ十三年の碑の時雨](しぐれの碑/貞峨13回忌10月4日の墓参)[模陵舎百子の別号] 百子堂/百千堂/西山子/潘山はんざん

※「しぐれの碑」参加の俳人、

六々韻;潘山(百子)・呉川・淇大・其山・管躬・宜山・規亭・男梶・徳大・千秋・孫成・朶輝、懐旧発句に以上の外;太山・嬉柳・芦船・貞堂・得夫・三蝶・半時庵淡々・紹廉・遺茶・一好・孫威、魚洞・可由・元養・啓字・竹夏・巴洞・文長・竹裏・五粒・吞舟・祇山・三千継・貞堂・百之・友専、東銭・画舟・旭山・都紫・求花・帛(虎)十じゆう・竹翠・矩州・布門・白羽・左橋・法策・風知・ア自

H3783 百之(ひやくし) ? - ? 江中期摂津北条の俳人、

1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因25回忌・貞峨[紀海音]13回忌追善集)入、[いにしへのけふは歌川初時雨](しぐれの碑/発句)

E3752 百史(ひやくし) ? - ? 加賀小松の俳人;1776樗良「俳諧月の夜」入

[世の中や山に籠れば鹿の声](月の夜:58)(本歌;世の中よ道こそなけれ・・・[千載/俊成])

百之(ひやくし・桜井) → 百之(ももゆき・桜井さくらい、商家/国学) K 4 4 0 7

百枝(ひやくし・山田) → 百枝(ももえ・山田やまだ/橋、藩士、国学) I 4 4 7 7

百枝(ひやくし・稲葉) → 百枝(ももえ・稲葉いなば、歌人) I 4 4 9 0

百枝(ひやくし・高橋) → 清義(すがよし・高橋たかはし、国学/神学) F 2 3 9 0

百枝(ひやくし・川崎) → 多豆雄(たずお・川崎かわさき/高原、神職/国学) W 2 6 6 0

秀蔵(ひやくし・田辺) → 玄齡(げんれい・田辺たなべ、医者/詩歌) N 1 8 1 4

E3753 百二(ひやくじ・山下やました、百童男)?-? 江後期;代々甲斐八代郡小石和の酒造業、

俳人:父百童及び嵐外門、諸国行脚、1813父の追善集「反古さかし」編、

[百二(;号)の通称/別号]通称;半三郎、別号;流上齋、屋号;松葉屋

E3754 百慈(ひやくじ・山下やました、百二男)?-1836 江後期;代々甲斐八代郡小石和の酒造業、

俳人:嵐外門、1833「二樞集」編、

[百慈(;号)の通称/別号]通称;半三郎、別号;流上齋、屋号;松葉屋

百事亭(ひやくじてい・三宅) → 宗春(そうしゆん・三宅、俳人) B 2 5 9 7

百日紅園(ひやくじつこうえん) → 麿江(おうこう・川田かわだ、儒者) B 1 4 6 5

百子堂(ひやくしどう) → 百子(ひやくし・堤/塘つみ、狂歌/雑俳) E 3 7 5 1

百寿(ひやくじゆ・西村) → 重長(しげなが・西村にしむら、書肆/絵師) C 2 1 6 1

百樹(ひやくじゆ・岩瀬) → 京山(きやうざん・山東さんとう、戯作者) 1 6 3 3

百樹(ひやくじゆ・上田) → 百樹(ももき・上田/波伯部、国学者) E 4 4 9 7

百寿庵(2世ひやくじゆあん) → 市貢(しこう・吹山/次山、俳人) P 2 1 3 8

E3755 百洲(ひやくしゅう・江川えがわ)? - 1746 江中期江戸の俳人:沾洲門、1739「宇知海」編、「俳諧花見三吟集」、

[百洲(;号)の通称/別号]通称;幸助、別号;掬山/知園斎

百秋(ひやくしゅう・遠藤) → 巳人(わつじん・遠藤/木村、藩士/俳人) 5 3 5 1

百十(ひやくじゅう・加茂) → 茂庭(しげにわ・加茂かも、神職/国学) N 2 1 8 9

E3756 百十郎(ひやくじゅうろう;通称・林はやし、三郎太男)1771-? 肥前長崎の唐通事の名家;7代目を嗣がず、

1786長崎宿老見習/1804糸割符宿老見習/のち薩摩鹿児島に移住、

「唐人帰化由緒書」/1802「長崎宿老見習林家由緒書」著

- 百種園有武 (ひやくしゅえんありたけ) → 有武(ありたけ・百種園、狂歌) C 1 0 8 0
- E3757 百樹園寛持 (ひやくじゅえんひろもち・笹廼屋)?-? 名古屋の狂歌作者、1858「狂歌三河名勝図絵」
- 百壽齋 (ひやくじゅさい) → 巴静(はじょう・太田、俳人) 3 6 1 3
- 百春 (ひやくしゅん・西村) → 清狂(せいきょう・西村にしむら、絵師) H 2 4 8 9
- 百春 (ひやくしゅん・笠原) → 百春(もはる・笠原かさらは、医者/歌人) J 4 4 6 4
- 百順 (ひやくじゅん・久保) → 銀杏満門(ちちのみのみつかど、幕臣/狂歌) E 2 8 7 5
- 百昌 (ひやくしやう・花野井) → 有年(ありとし・花野井はなはい、医/国学/歌) F 1 0 5 0
- 百祥 (ひやくしやう・福村) → 履正(ふみまさ・福村ふくむら、絵師) E 3 8 0 3
- E3758 百城 (ひやくじやう・藤田ふじた、名; 積靖、積善[青溪]男) 1798-1830³³ 撰津兵庫の医者: 小森桃塙門、
蘭医; 藤林普山門/儒詩: 菅茶山門/京の三宅橘園門、帰郷後; 江川町で医開業、詩人、
「先医事蹟録」「百城詩鈔」、「百城存稿」著、撫山の弟、
[百城(;号)の字/通称]字; 好直、通称; 佐五郎すげごろう
- 百城 (ひやくじやう・頼) → 三樹三郎(みきさぶろう・頼らい、儒者/詩) 4 1 6 9
- 百常観 (ひやくじやうかん) → 孔阜(こうふ・長井ながい、俳人) L 1 9 0 4
- 百丈軒一毛 (ひやくじやうけんいちもう) → 広城(ひろき・太田おた/喜満多、藩士/詩歌) I 3 7 9 0
- 百昌齋 (ひやくしやうさい) → 有年(ありとし・花野井はなはい、医/国学/歌) F 1 0 5 0
- 百昌堂 (ひやくしやうどう) → 月溪(げつけい・松村、俳人/絵師) B 1 8 0 4
- 百笑堂 (ひやくしやうどう) → 養齋(ようさい・奈良なら/青山、藩士/儒者) 4 7 9 7
- 百次郎 (ひやくじらう → もも一・高野) → 貞一(さだかず・高野たかの/新貝、藩士/歌) Q 2 0 8 4
- 百親 (ひやくしん・森川) → 百親(ももちか・森川もりかわ、医者/歌人) L 4 4 7 2
- 白心 (ひやくしん; 字) → 虎明(こみょう; 法諱・白心; 字、真言僧) N 1 9 7 0
- 百信庵 (ひやくしんあん) → 精一(せいいち・深田ふかだ、儒者/茶道) H 2 4 3 5
- E3759 百輔 (ひやくすけ; 通称・林はやし)?- ? 江後期越後直江津の和算家: 小林惟孝門、
「算法団扇百好」著(団扇に関する問題集)
- 百助 (百亮ひやくすけ/ももすけ・新井) → 宣卿(のぶり・新井、儒者) C 3 5 7 3
- 百助 (ひやくすけ/ももすけ・林) → 確軒(かくけん・林はやし、幕臣/儒者) E 1 5 6 6
- 百助 (ひやくすけ/ももすけ・板倉) → 勝清(かつきよ・板倉いたくら、藩主/記録) N 1 5 2 6
- 百助 (ひやくすけ/ももすけ・大幸) → 岱畎(たいけん・大幸おおさか/児玉、漢学) T 2 6 9 4
- 百助 (ひやくすけ/ももすけ・宝田) → 蘭陵(らんりやう・宝田たからだ、藩儒/詩人) D 4 8 2 6
- 百助 (ひやくすけ/ももすけ・金森) → 桂五(桂吾けいご・金森、藩士/俳/狂歌) 1 8 5 0
- 百助 (ひやくすけ/ももすけ・苗木; 変名) → 年治(としはる・敷田/吉松/宮本、神職/国学) N 3 1 4 3
- 百助 (ひやくすけ/ももすけ・佐々木) → 文山(ぶんざん・佐々木/佐/源、書家) F 3 8 4 0
- 百助 (ひやくすけ/ももすけ・近藤) → 幸養(さちひさ・近藤こんどう、藩老/国学) O 2 0 4 6
- 百助 (ひやくすけ/ももすけ・近藤) → 幸止(さちもと・近藤、幸養弟/官僚/国学) O 2 0 4 7
- 百助 (ひやくすけ/ももすけ・増島) → 高実(たかさね・増島ますじま、藩士/歌人) Z 2 6 5 1
- 百介 (ひやくすけ/ももすけ・安保) → 正員(まさかず・安保あほ/小野、国学/歌) M 4 0 9 3
- 百是 (ひやくぜ・林) → 真人(まひと・まこと・林はやし/原、藩士/歌) R 4 0 9 0
- E3760 百濟 (ひやくせい・辻葩つじはな、名; 適成/通称; 五左衛門)?-1813 江後期三河岡崎藩儒、「百濟集」著
- 息 → 菅陽(かんよう・辻葩つじはな、藩士/儒者) R 1 5 7 3
- 百世 (ひやくせい) すべて → 百世(ももよ)
- 百尺亭竿頭 (ひやくせきていかんとう) → 竿頭(かんとう、百尺亭、噺家/洒落本) G 1 5 5 5
- E3761 百尺楼桂雄 (ひやくせきろうけいゆう)?- ? 江後期天保1830-44頃大阪京町堀一丁目の狂歌作者、
条果亭栗標社中に属す、1818「狂歌題林集」著、
[百尺楼桂雄(;号)の通称/別号]通称; 俵屋宗七、別号; 英果亭
- I3719 百切 (ひやくせつ・下町) ?- ? 江前期上方の俳人; 1678西鶴「物種集」入、
[唐瘡とうかさをつつりにけりな徒いたづらに](物種集/前句; 小町と思ふ新町の君、
古今; 春113小町; 花の色は移りにけりないたづらに我身世に経るながめせしまに)
- 百拙 (ひやくせつ; 号) → 鉄舟(てつしゅう; 道号・徳濟、臨濟僧) C 3 0 3 8
- 百拙 (ひやくせつ; 道号・元養) → 元養(げんよう; 法諱・百拙、黄檗僧/詩/画) E 1 8 5 7
- 百拙齋 (ひやくせつさい) → 栗軒(りっけん・宮崎みやざき、幕臣/儒者) B 4 9 7 5

- E3762 百川(ひやくせん) ? - ? 大阪俳人;雑俳;1718波天「万石船」3吟三つ物入;蘭桂・波天と
- E3763 百川(ひやくせん・飯田いだ、名;規壽/潤) 1694-1767 74 書家:細井広沢門/董其昌門、松下烏石門?、
1756「名媛歌」編、「一賞心帖」著、
[百川(:号)の字/通称]字;季甫、通称;源四郎
- E3764 百川(ひやくせん・榊原さかきばら、名;真淵) 1698-1753 56 名古屋生/京の薬種商、狩野の派絵師;法橋、
南画の創始者:「春秋江山図屏風」「元明画人考」、俳人:支考・乙由門、「発句集」「瓜名月」、
1745芭蕉50回忌法要;「八仙観墨直し」編、 [出女の麦つく門や花標はなおうち]、
[百川(:号)の通称/号]通称;土佐屋平八郎、
号;蓬洲・八仙(僊)堂/八仙観/八仙法橋・張昇角・彭蓬洲、画号;彭城さかき百川/彭百川
- E3765 百川(ひやくせん・臨松亭) ? - ? 江後期文化1804-18頃の讃岐三豊郡大麻村の俳人:芝峰門、
1806「山荘集」編:芝峰選による全国募集1200句を金比羅宮に奉額し出版、
- 参考 → 芝峰(しほう・清暉堂、讃岐俳人) V 2 1 6 8
- 百川(ひやくせん) → 富平(とみへい・中村、書肆/書目編集) O 3 1 9 4
- 百川(ひやくせん) → 白鹿(はくろく・桃もも/とう・桃井もものい、儒者) E 3 6 1 9
- 百川(ひやくせん・依田) → 学海(がつかい・依田よだ、儒/詩/日記) F 1 5 4 0
- 百川(ひやくせん・下郷/千代倉) → 亀洞(きどう・下郷、学海、醸酒業/俳人) B 1 6 5 7
- 百川(ひやくせん・臨泉堂/中村) → 治郎兵衛(じろべゑ・文台屋、書肆) Q 2 2 5 2
- 百千(ひやくせん・末田) → 百千(ももち・末田すえだ、藩士/神職) K 4 4 1 4
- 百蟾(ひやくせん・箕曲) → 在六(ありむつ・箕曲みのわ/秦、曆算家) F 1 0 8 6
- 百川子興(ひやくせんしきょう) → 栄松斎(えいしょうさい・長喜ちようき、絵師) B 1 3 4 9
- 百船舎(ひやくせんしゃ) → 淳風(きよかぜ・橋村、神職/歌人) O 1 6 6 9
- 百川堂(ひやくせんどう) → 茂喬(しげたか・文屋ぶんや、書肆/狂歌) C 2 1 3 2
- 百千堂(ひやくせんどう) → 百子(ひやくし・堤/塘つみ、狂歌/雑俳) E 3 7 5 1
- 百千堂(ひやくせんどう) → 致鶴(ちかく・関屋せきや、医/儒者) 2 8 8 5
- 百川堂灌河(ひやくせんどうかんが) → 茂喬(しげたか・文屋ぶんや、書肆/狂歌) C 2 1 3 2
- 百千万兵衛(ひやくせんまんべゑ;頭取名) → 専助(せんすけ・笠縫、歌舞伎作者) G 2 4 1 2
- 百巢(ひやくそう・清瀬) → 茂良(もりよう・清瀬きよせ/伊勢屋、俳人) G 4 4 7 9
- 百操(ひやくそう・中川) → 千尋(ちひろ・中川ながわ、藩士/国学) N 2 8 1 4
- 百草庵(ひやくそうあん) → 文友(ぶんゆう・浅井あさい、俳人) G 3 8 5 7
- 百草園(ひやくそうえん) → 旭山(あさひさん・戸田とだ、医者/本草家) O 1 6 9 6
- 百草園(ひやくそうえん) → 寸風(すんぷう・筒井つづみ、鳥取俳人) E 2 3 0 0
- 百足山人(ひやくそくさんじん) → 湖東百足山人(ことうむかでさんじん、俳人) N 1 9 2 4
- 百村(ひやくそん・土氏) → 百村(ももむら・土氏とし、土師はにし?、廷臣/万葉歌) F 4 4 0 1
- I3703 百汰(ひやくた) ? - ? 江中期京の俳人;淡々門、
1728柳岡「万国燕」入(593/月の巻)、
[山といふ名は闇の夜の髪ならで](万国燕;593月の巻/闇夜の鳥を掛る)
- 百泰(ひやくたい・指月散人) → 指月散人百泰(しげつさんじんひやくたい、箏曲家) R 2 1 5 5
- 百代(ひやくだい・大伴) → 百代(ひやくだい・大伴宿禰、万葉歌人) 4 4 2 5
- 百太郎(ひやくたろう・坂井) → 虎山(こざん・坂井さかい、藩士/儒者) C 1 9 6 5
- E3766 百池(ひやくち・寺村てらむら、名;雅晃がちよう、邦雅[酒白窓三貫]男) 1748-1835 88 京河原町四条の富商、
煙管商兼糸物商、俳人:1770頃に蕪村門/蕪村の後援者、画;応挙門/茶道;藪内竹陰門、
1771百池に改号、76几董「続明烏」22句入、90二条家誹諧で執筆しゆひつ、「蕪村遺墨集」編、
「大来堂四季発句集」、「暮雨巷発句集」編、「花のちから」「夏日遊東山」「春興歌仙三唸」、
「発句十題」「耳たむし」「月並発句帖」、1835「巴調集」著、
[西と見えて日は入にけり春の海](遺墨)、
[百池(:号)の字/通称/別号]字;子文、通称;三右衛門/助右衛門、屋号;堺屋、
別号;百雉(ひやくち;初号)、竹外/大来堂/微雨楼/九隠斎/春載、茶道号;閑柳亭、
剃髮号;紹賀
- 百癡(ひやくち;字) → 眞際(しんさい;法諱・百癡;字、天台僧) O 2 2 3 9
- 百癡(ひやくち・嘴天狗、「滑稽臍磨毛」作) → 柳浪(りゅうろう・馬田、戯作)

- 百竹(ひやくちく・西川) → 吉輔(吉介よしすけ・西川にしかわ、国学者) D 4 7 8 0
- E3767 百竹軒(ひやくちくけん・羽山はやま)?-? 歌人:遠江在住中に当代歌人の歌を蒐集:
妻の蘭らんが17ct末分類し「細江草ほそぐさ」編、
妻 → 蘭(らん・羽山はやま、歌集編纂) B 4 8 5 3
- 百癡道人(ひやくちどうじん) → 拙巖(せつがん;法諱、真宗本願寺派僧) K 2 4 8 0
- 百茶坊(ひやくちやぼう・高木) → 巒古(らんこ・百花坊、美濃派俳人) B 4 8 9 6
- 百仲(ひやくちゆう→ももなか・森川) → 許六(きよろく/きよりく・森川、藩士/俳人) 1 6 5 5
- 百亭(ひやくてい・松岡) → 文彦(ぶんりゆう・松岡まつおか、蘭医) G 3 8 7 3
- 百田楼(ひやくでんろう) → 丸三(まるみつ・横山、幕臣/陶宮術) K 4 0 2 2
- E3768 百童(ひやくどう・山下やました)? - 1811 代々甲斐八代郡小石和の酒造業/俳人:鳥酔門、
1747「いびきの図」(;深魚と共編)、追善集「反古さかし」(;息百二ひやくじ編)
- E3769 百堂(ひやくどう・田辺たなべ、名;敬明)?-1814 大阪堂島の米商、俳人:蘆陰舎大魯門(2世を襲名)、
能書家、1808「名月帖」10「句安奇禹度」編、15「こより籠」「百堂句集」(息2世百堂が刊行)、
[百堂(;号)の字/通称/別号]字;子玄、通称;五郎兵衛、別号;歩々斎/竹斎/蘆陰舎2世
- E3770 百堂(2世ひやくどう・田辺たなべ、百堂男)?-? 1837存 大阪堂島の米商、俳人;父門/蘆陰舎大魯門?、
父の跡を継嗣;百堂・蘆陰舎を名乗る、1815「こより籠」「百堂句集」(父編纂を刊行)、
1820「蘆陰集」、24「宇曾替うそかえ」「みはしら」編、37「今様集」編、
[百堂2世(;号)の通称/別号]通称;熊蔵、別号;浪甫/竺斎/桃壺/柿壺/蘆陰舎3世、
- 百道(ひやくどう・唐崎) → 常陸介(ひたちのすけ・唐崎、神職/尊王) C 3 7 6 1
- 百道(ひやくどう) → 湛元(たんげん:法諱、臨濟僧) T 2 6 4 1
- 百堂(ひやくどう;号) → 仙厓(せんがい;道号・義梵;法諱、臨濟僧/禅画) F 2 4 0 1
- E3771 白堂(ひやくどう、与左衛門男) 1758-1825 68 甲斐の木喰行者;行道[五行]門、塩山法幢院住僧
- 百桃園(ひやくとうえん・敷田) → 年治(としはる・敷田/吉松/宮本、神職/国学) N 3 1 4 3
- 百内(ひやくない・乾) → 景寛(かげひろ・乾いぬい、国学/歌人) T 1 5 7 0
- 百内(ひやくない・山本) → 杉芽(すぎが・山本やまもと、開国説/俳人) L 2 0 8 7
- 百成(ひやくなり・瓢亭、村/黒沢) → 瓢亭百成(ひょうていひやくなり・戯作者) F 3 7 3 6
- 百二(ひやくに・山下) → 百二(ひやくじ・山下、俳人) E 3 7 5 3
- 百如(ひやくによ;号/百如庵) → 慈芳(じほう;法諱、天台尼僧/悉曇学) F 2 1 6 6
- 百忍庵(ひやくにんあん) → 勝興(かつおき・小豆沢あきざわ、歌人) T 1 5 4 1
- E3772 百年(ひやくねん・溪たに、名;世尊、丸亀藩士河田相馬男) 1754-1831 78 父が大坂滞在中の生;
溪たにを称す、儒;讃岐丸亀藩の白木蘭溪門/清文会に從学/文学;菊池黄山[崧溪]門、
兵学;土田利重門、砲術;荻野昭長門/天明期1781-89に江戸・京・大坂を遊歴、
諸学諸芸に通ず、
寛政1789-1801頃鳥取藩尚徳館で講説;1802藩主池田斉邦より銀20枚の足留料、
1781「玉藻漫筆」94「太公望三略考」、「經典余師」「千字文余師」「天朝史鑑」「天朝鬼神論」著、
[百年(;号)の字/通称/別号]字;士達、通称;親太/大録/代録/大六、
別号;玉藻舎[亭]主人、大録の養父
- I3712 百年(ひやくねん・木ぼく;修姓・三枝さえぐさ/木舗/木敷、名;寿、木舗五郎右衛門男) 1768-1821 54
信州水内郡蓮村上組の庄屋/手習師匠、詩人;1796頃柏木如亭の信州中野の晩晴吟社参加、
同門の高梨聖誕と双璧、1806江戸で文人達と交流;江戸で客死、「静窓詩」、
[百年(;号)の通称/別号]通称;鼎助、別号;小峯/愚蒼ぐあん 妻;松代藩士深井家の女染井、
- E3773 百年(ひやくねん・鈴木すずき、名;世寿、星海男) 1825-91 67 京の絵師;北宋画/のち四条派を修得、
詩文;父門、諸国遊歴、のち京都府画学校教師、「青山御流活花早教諭」画、
[百年(;号)の字/別号]字;子孝、別号;尚百僊/摘星楼/大椿翁だいちんおう
- 百之進(ひやくのしん・福羽) → 美静(みせい/よししず・福羽ふくば、藩士/国学) C 3 7 4 2
- E3774 百馬(ひやくば・立川たてかわ、別号;一草亭)?-? 江後期江戸の落語家;鳥亭焉馬門、
1783「傾城懷嘶」85「呉服漢服現金論」著
- 百馬(ひやくば・宮地) → 畏山(いざん、宮地みやじ、藩士/武術/詩) F 1 1 5 7
- E3775 百梅(ひやくばい・山田やまだ、名;紀員)? - 1747 武州小鹿野の菓種商、俳人:涼袋(綾足)門、
涼袋の後援者、師より俳論書「まごの手」を受領、「誹諧桃の鳥」、「百題集」編、

- 追善集「枯野問答」(1748刊/涼袋との往復書簡入)、
 [百梅(；号)の通称/別号]通称;源治、別号;絮呈
- E3776 **百梅**(ひやくばい・新居にい、名;甫、莊筑男)?-1839 代々徳島藩医;1782家督嗣/詩に長ず、
 玉潤元寔・岡田南山と交流、「百漁詩稿」/1808「百霖ひやくばい詩稿」著、
 [百梅(；号)の字/通称/別号]字;甫則、通称;莊甫、別号;桂堂
- 百榎園(ひやくばいえん) → 直入(ちよくにゆう・田能村たのむら、絵師) K 2 8 3 2
 百梅楼(ひやくばいろう) → 慥斎(そうさい・奥宮、儒者/国学/歌) B 2 5 5 8
 百八筵(ひやくはちえん) → 可庭(かてい・坂さか、俳人) O 1 5 0 8
 百八山人(ひやくはちさんじん) → 竜山(りゅうざん・宇都宮/原田、儒者/教育) E 4 9 2 3
- I3710 **百非**(ひやくひ) ? - ? 江中期大阪の俳人;1776几董「続明烏」入、
 [埋火うづみひや助炭じょたんに残る風の音](続明烏;乙648/助炭;地炉・火鉢を覆う紙張り籠)
- E3777 **百非**(ひやくひ、俗姓;田村、巢居男)?-? 江後期の僧;陸前宮城郡原町の観音堂別当清光院11世、
 法印、俳人;白居門(父と同門)、1810「華鳥余音集」15「三重の滝」編、
 [百非(；号)の別号]一如道人いちによどうじん、心阿の兄
- 百非(ひやくひ・林) → 真人(まひと・まこと・林はやし/原、藩士/歌) R 4 0 9 0
 百非(ひやくひ;号) → 弁旭(べんきよく;法諱・北条、浄土宗大僧正) B 2 7 5 5
 百筆齋(ひやくひつさい・市河) → 米庵(べいあん・市河、儒者/詩/書家) 2 7 0 0
 百々丸(ひやくひやくがん) → 百々丸(ももまる・権藤ごんどう/別府、医者/歌) I 4 4 9 2
 百々齋(ひやくひやくさい) → 舎羅(しやら・榎並、俳人) G 2 1 5 5
 百々子(ひやくひやくし) → 舎羅(しやら・榎並、俳人) G 2 1 5 5
 百々坊(ひやくひやくし) → 舎羅(しやら・榎並、俳人) G 2 1 5 5
 百布軒(ひやくふけん) → 角上(かくじょう、三上、僧/俳人) B 1 5 5 9
 百不知童子(ひやくふちどうじ) → 慈雲(じゆん;字・飲光おんこう、真言僧) 2 1 0 2
 百平(ひやくへい・元田) → 竹溪(ちくけい・元田もとだ、藩儒/詩) C 2 8 8 7
 百哺(ひやくぼ・小林) → 惟孝(これたか・小林/篠宮、和算家) O 1 9 4 4
- E3778 **百峰**(ひやくほう・牧まき峴、字;信侯/信吾)1801-63 63 美濃玉珠村の儒者;山陽門、京で講説業、
 1844-48頃学習所儒者、「鷲斎漫稿」「日本楽府注」著、「松蔭詩稿」入、
 [百峰の通称/別号]通称;善助、別号;鷲斎とうさい/百峰山人
- 百峰(ひやくほう) → 星巖(せいがん・梁川やながわ、詩人) 2 4 0 5
- E3779 **百木**(ひやくぼく) ? - ? 江中期武蔵の武士/僧;徳島退休庵で参禅、俳人;
 武州に帰郷し旧友柳居と唱和、1738「俳諧繁花」(:柳居との唱和句集)、「俳諧月の台」著
- 百墨(ひやくぼく・安藤) → 自笑(3世じしょう・八文字、書肆/俳人) E 2 1 0 9
 百まなこ(ひやくまなこ/もまなこ) → 可上(かじょう・百まなこ、噺家) F 1 5 1 3
- 3712 **百丸**(ひやくまる・森本もりもと、名;宗賢)1655-1727 73 伊丹の酒造業(屋号;丸屋)の分家を継嗣、
 俳人;重頼門、俳諧を好み家業を捨て1704頃より京に隠棲、晩年は伊丹に帰郷、鬼貫と同志、
 伊丹俳諧中興の祖とされる、句風は代表的な放逸体、文に長じ「本朝文鑑」に入集、
 1674維舟「大井川集」入(；森安英名)、1678西鶴「物種集」86西吟「庵桜いおざくら」入、
 1692青人「伊丹生俳諧」;独吟歌仙入、1705「逃亭伊丹希李」編、1723「在岡ありおか逸士伝」編、
 「老の寢覚」「六玉川」著、「不懲亦頌」「白鷗堂記」著(；共に本朝文鑑入)、
 「野々宮奉納万句」に一座/1678宗旦「当流籠抜」1712長父「鉢扣」の撰集に参画、
 1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、
 [蚊に埋み犬ないて乞食涅槃の姿哉](庵桜)、[雪は白く霰は丸し松の風](伊丹発句;冬)、
 [百丸(；号)の通称/別号]通称;丸屋吉左衛門/吉兵衛/一勝、
 別号;安英、囉斎/白鷗堂/蘭日堂、法号;然誉宗賢信士
- E3780 **百万**(ひやくまん) ? - ? 俳人;巴人門/1755師13回忌追善「夜半亭発句帖」百韻入、
 1764頃撰集「八題集」編
- 百万坊(ひやくまんぼう・小栗) → 旨原(しげん、俳人) D 2 1 4 9
 百万坊(2世ひやくまんぼう・高橋) → 麻中(まちゅう、俳人) J 4 0 6 5
- 3713 **百明**(ひやくめい・杉坂すぎさか)? - 1784 上総東金の俳人;鳥酔門、江戸・相模に住、
 1769鴨立庵4世、1767「丁亥春興」70「そのきさらぎ集」72「きさらぎ集」「春の音信」編、

1774「きさらぎ集」「そのきさらぎ」編/78「玩世松陰」編、84「奥往来」、「市中の閑」編、
「二季の杖」「俳論梁上之君子」「四季供養」、「四季のくさくさ」編、
追善集;7回忌追善「追善談言史」(1793刊)・「夏柳集」(1797刊)、13回忌追善「秋ななくさ」、
[百明(;)号)の通称/別号]通称;忠蔵/志蔵、

別号;紗雪/土龍庵/大至坊/嶋立庵4世/大塊舎/不識房、
妻;木の女(このじよ)

百明台(ひやくめいだい・西奴さいぬ)→ 烏酔(ちゆすい・白井、俳人) 2 8 2 4

百明房(ひやくめいぼう) → 烏酔(ちゆすい・白井、俳人) 2 8 2 4

百野(ひやくや・川辺) → 信一(信弍しんいち・川辺、藩士/暦算家) N 2 2 3 0

E3781 百雄(ひやくゆう・無敵斎) ? - ? 江後期紀州熊野長島の役人/俳人、狂俳笠付宗匠、
樗良[1729-80]の師、樗良「白頭鴉」入

E3782 百雄(ひやくゆう・花月堂、百々ど政業まさなり/字;五明)?-? 江戸四谷狂歌;瓢箪連判者、
1826「狂歌百将図伝」編、
[花月堂百雄の別号] 五明堂/年の屋

百祐(ひやくゆう・佐藤) → 信淵(のぶひろ・佐藤、経世家) D 3 5 1 2

百由窠(ひやくゆうそう) → 九蚶(きゅうかん・高野、俳人) B 1 6 9 5

百陽(ひやくよう・遠藤) → 日人(わつじん・遠藤/木村、藩士/俳人) 5 3 5 1

百葉泉(ひやくようせん・富鈴)→ 宋屋(そうおく・望月、俳人) 2 5 8 0

百蘿(ひやくら) → 玄門(げんもん・山下/福沢、修験/医/俳) M 1 8 5 2

百蘿(百羅ひやくら・百羅坊)→ 春信(はるのぶ・広瀬ひろせ、神職/歌/俳人) J 3 6 2 8

百懶(ひやくらん・祇園) → 尚濂(しょうれん・祇園ざおん、藩儒/詩) M 2 2 0 3

E3783 百里(ひやくり・高野たかの、名;勝春)1666-172762 江戸小田原町の魚問屋、俳人;嵐雪門、
1701「杜撰集」編/05「銭龍賦せんりょうのふ」編、11707師追善;「風の上」・23「嵐雪十七回忌集」編、
「続誰が家」、1708「遠のく」、26「普白追善集」編、26「ふるふすま」、高野蘭亭[東里]の父、
1690其角「花摘」・94嵐雪「或時集」・沾涼「綾錦」入、[秋風や梢離れぬ蟬の空から](花摘)、
[百里(;)号)の字/通称/別号]字;文館、通称;市兵衛、別号;茅風(;)初号)/雷堂、

E3784 百里(ひやくり・本間ほんま、住順男)1784-185471 陸中一関藩士;1798近習/1809藩主の命で江戸へ;
有職故実:松岡辰方ときかた門/京の高倉家入門;装束衣紋の免許取得、持明院家入門;
入木道・郢曲の免許取得、1816「服色図解」26「服色備忘束帯部」、「公武装飾考」「有職問答」、
「古事拔要集」「具足羽織考」「みゝと川」、「本間叢書」「本間流書札」「尚古鎧色一覽」編、
[百里(;)名)の字/通称/号]字;伯震、通称;与一/与市、号;梅軒、法号;敬忠院

百里(ひやくり・木下/円山)→ 応震(おうしん・円山まるやま/源、絵師) C 1 4 5 5

百里(ひやくり・巻) → 鷗洲(おうしゅう・巻まき、書家/歌人) C 1 4 4 8

百里(ひやくり・冢田) → 子常(しじょう・冢田つかた、医者) T 2 1 7 9

百里(ひやくり・望月) → 震(しん・望月もちづき、医者/和学/歌) V 2 2 3 4

百里(ひやくり・伊藤) → 亀谷(きこく・伊藤/平、幕臣/書家) K 1 6 3 6

百里(ひやくり・岩瀬) → 忠震(ただなり・岩瀬/設楽、幕臣/詩/画) Q 2 6 3 7

百栗荘(ひやくりつそう) → 伯兔(はくと・石川いしかわ、俳人) D 3 6 6 3

百柳軒(ひやくりゅうけん) → 晋流(晋柳しんりゅう・藤井/近藤、商家/俳人) 2 2 9 1

百柳舎(ひやくりゅうしゃ) → 其兆(きちょう・大谷、俳人) L 1 6 3 5

E3785 百靈(ひやくりょう;法諱、号;狛川)?-? 江後期1789-1818頃讃岐の僧、詩、「三処庵詩集」

百琳(ひやくりん) → 宗理(初世そうり・俵屋たわらや、絵師) D 2 5 1 2

百琳(ひやくりん) → 北斎(ほくさい・葛飾、初世宗理門/絵師) 3 9 6 2

百琳(ひやくりん) → 宗理(5世そうり・俵屋/菱川、絵師) B 2 5 2 5

百林樵人(ひやくりんしょうじん)→ 松嶺(しょうとう・家里いえさと/近藤、儒者/尊攘) R 2 2 5 7

E3786 百鈴(ひやくれい・光枝) ? - ? 大阪の雑俳人;1757律中「誹諧耳勝手」入

百齡(ひやくれい・山県) → 守雌斎(しゆしさい・山県/吉田、藩士/儒者) Y 2 1 8 6

百齡(ひやくれい・山田) → 春堂(しゅんどう・山田やまだ、俳人) P 2 1 1 9

百鍊(ひやくれん・富岡) → 鉄斎(てつさい・富岡とみおか、絵師/詩文) C 3 0 3 3

- E3787 **白蓮**(びやくれん) ? - ? 江後期歌人;
1856「月代つきし和歌集」(20巻2冊;当代の秀歌私撰)編(;自序)
白蓮華院(びやくれんげいん) → 日暉(にちき;法諱・境政院、日蓮僧) B 3 3 1 9
白蓮居士(びやくれんこじ) → 葵園(きえん・坂本さかもと、儒者) I 1 6 4 4
白蓮子(びやくれんし) → 探幽(たんゆう・狩野、絵師) I 2 6 6 1
白蓮子(びやくれんし) → 猗蘭(いらん・本多忠統、藩主/詩歌) B 1 1 9 3
白蓮室(びやくれんしつ;号) → 性均(しょうきん;法諱、唯阿、本願寺派僧) Q 2 2 9 5
白蓮社空阿(びやくれんしゃくうあ) → 空阿(くうあ;号、浄土僧/歌/紀行) C 1 7 1 8
百蓮社笑誉(ひやくれんしゃしょうよ) → 秦岡(しんがい;法諱・白純、浄土僧/詩) O 2 2 0 6
白蓮社霽誉(ひやくれんしゃせいよ) → 鸞山(らんざん、浄土僧) C 4 8 3 2
白蓮社宣誉(ひやくれんしゃせんよ) → 敬首(きょうしゅ;法諱・祖海;字、浄土僧) G 1 6 7 8
白蓮社天誉(ひやくれんしゃてんよ) → 大我(たいが/だいが;法諱・絶外、浄土僧) B 2 6 1 0
白蓮社微誉(ひやくれんしゃびよ) → 信岡(しんがい;法諱、浄土僧) O 2 2 0 5
白蓮台(びやくれんだい) → 紅顔(こうがん・白蓮台、日蓮僧/俳人) E 1 9 6 1
白蓮台(びやくれんだい) → 無所得(むしよとく;号、真言僧) 4 2 7 1
白蓮阿闍梨(びやくれんのあじかり) → 日興(にっこう・常在院、日蓮僧) D 3 3 8 7
白蓮房(びやくれんぼう) → 日道(にちどう;法諱、日蓮僧) C 3 3 9 7
- E3788 **百楼**(ひやくろう) ? - ? 大阪の俳人;几董と親交、1782蕪村「花鳥篇」入、
[花に来て御室おむろを出るや宵月夜](花鳥篇;46)(御室の桜を見て寺を出ると月も出た)
- E3789 **百老**(ひやくろう) ? - ? 江戸中期;駿河駿府の人相家;寿命・禍福を見る、
白髪長髯、70余歳没、山梨稲川[1771-1826]「思旧漫録」記事入
百老館(ひやくろうかん) → 幸陀(さいだ・苗村、俳人) 2 0 9 4
百六散人(ひやくろくさんじん) → 木米(もくべい・青木あおき、陶工) B 4 4 1 0
- I3704 **百話**(ひやくわ) ? - ? 江中期京の俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」2句入、
[袖に入る蚊も暫くの神慮かみごろ](万国燕;687/神前では殺生しない)
- E3790 **百花**(ひゃっか) ? - ? 書肆/俳人;讃岐丸亀一夜庵主、
1708友琴3回忌追善「艶賀の松えんがのまつ」編、18「雪之光」編
- E3791 **百花**(百華ひゃっか・松田まつだ)?- ? 江中期1711-64頃大阪歌舞伎役者;初世松島半七門、
1711大坂の嵐三右衛門座に若女方で初出勤/23座本;諸座に出演/36岩井半四郎座立女方、
1751松田百花に改号;作者も兼ね合作に参加/並木正三・翁輔の下で共作、
1753初世正三「けいせい天羽衣」62「嬋髪歌仙桜おんななるかみかせんざくら」など正三脚本の番付、
[松田百花(;号)の初号]松島兵太郎、泉川千之助(金島快輔/役作者)松屋来助(作者)の兄
- E3792 **百花**(ひゃっか・松本まつもと) 1716-1779 64 京の俳人;荃石せんせき・のち米史門、
「蝶々菴俳諧」編、「誹諧しをり萩」編、
[百花(;号)の別号]蝶々庵/茶葉堂
- I3701 **百花**(ひゃっか・大谷おおたに、俳諧坊、春山男)?-? 江後期江戸の俳人;江戸沾徳座点者、
1848沾山7世「俳諧鱧はいかいけい」点句29-56入
- E3793 **百可**(ひゃっか・菱田ひしだ、名;得夫)?-1889 播磨の俳人;芹舎門、京住、1897「諸職発句合」、
[百可(;号)の別号]五升庵/花の本
百化(ひゃっか・菊地/杉原) → 沾山(5世せんざん・杉原/菊地、俳人) F 2 4 5 5
百花(ひゃっか・俳名・中村) → 文七(3世ぶんしち・中山/紅屋、歌舞伎役者) F 3 8 6 4
百花(ひゃっか) → 文志(ぶんし・野村、麩屋/三箇屋、書肆/俳人) 3 8 2 4
百華(ひゃっか・常盤) → 潭北(たんぼく、常盤ときわ/渡辺、医/俳) I 2 6 5 9
百歌(ひゃっか;号) → 歌右衛門(3世うたえもん・中村、初世竜玉/役・作者) 1 2 6 4
百花庵(ひゃっかあん;号) → 春山(しゅんざん;道号・士蘭、臨濟僧/歌人) K 2 1 8 1
百華[花]庵(ひゃっかあん・狂歌名) → 宗岡(そうこ・萩原、歌人) 2 5 0 8
百花園(ひゃっかえん) → 百花園(ひゃくかえん)
百鶴園(初世ひゃっかくえん) → 希因(きいん・和田/大越、俳人) 1 6 7 6
百鶴園(2世ひゃっかくえん) → 後川(ごせん・小寺こでら、初世男、俳人) B 1 9 5 7
百鶴園(ひゃっかくえん) → 北筵(北荃ほつけい・小寺、後川男/俳人) E 3 9 5 9

- 百華園主人(ひゃつかえんしゅじん)→ 良基(よしもと・関島せきじま、医者/教育) N 4 7 5 8
- 百華嶺(ひゃっかくつ) → 蘭阿坊(らんあぼう;号、武山、僧/俳人) B 4 8 5 4
- 百花齋(ひゃっかさい・常盤)→ 潭北(たんぼく、常盤ときわ/渡辺、医/俳) I 2 6 5 9
- 百可齋(ひゃっかさい) → 舎員(しゃいん・百可齋、俳人) G 2 1 0 0
- 百花山荘(ひゃっかさんそう) → 飛霞(ひか・賀来かく、医者/本草家) 3 7 4 0
- 百花主人(ひゃっかしゅじん) → 珠来(しゅらい・洪こう/沼しよう、俳人) J 2 1 0 7
- 百華小隱(ひゃっかしょういん)→ 花農(かのう・三田みた、医者/花卉画) P 1 5 1 5
- 百華[花]荘(ひゃっかそう) → 潭北(たんぼく・常盤ときわ/渡辺、医/俳) I 2 6 5 9
- 百花窓(ひゃっかそう) → 野坡(やば・志太しだ/斎藤、俳人) 4 5 1 2
- 百花窓(ひゃっかそう) → 青峨(初世せいが・鴛田、俳人) 2 4 8 2
- 百花堂(ひゃっかどう) → 文車(ぶんしゃ・日野ひの、藩家老/俳人) F 3 8 6 7
- 百花堂(ひゃっかどう/百華台)→ 嵐枝(らんし・上坂うえさか、藩士/俳人) C 4 8 3 8
- 百花堂(ひゃっかどう) → 文志(ぶんし・野村、麩屋/三箇屋、書肆/俳人) 3 8 2 4
- 百花堂(ひゃっかどう) → 冬斎(とうさい・藤川、儒者) E 3 1 3 0
- 百花坊(ひゃっかぼう) → 除風(じよふう・南瓜庵、真言僧/俳人) C 2 2 9 4
- 百花坊(ひゃっかぼう・石橋)→ 日藻(にっそう・報寿院、日蓮僧/俳人) E 3 3 9 1
- 百花坊(ひゃっかぼう) → 戀古(らんこ・百茶坊、美濃派俳人) B 4 8 9 6
- 百化房(ひゃっかぼう・片山)→ 寸長(すんちやう・片山/菅原、藩士/俳人) D 2 3 5 5
- 百化坊精齋(ひゃっかぼうせいさい)→ 沾山(5世せんざん・杉原/菊地、俳人) F 2 4 5 5
- I3717 百竿(ひゃっかん) ? - ? 江前期俳人、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、
[蓑虫の身は歎かしや古衾](丁卯集;補破選寒煖即休)
- 百爰(ひゃっかん・門田) → 樸齋(朴齋ぼくさい・門田もんでん/山手、儒者) D 3 9 1 6
- 百貫の安兵衛(ひゃっかんのやすべえ;侠客)→ 筆太夫(3世ふでたゆう・竹本、浄瑠璃太夫) D 3 8 4 5
- 百卉園(ひゃっかえん) → 旭山(ぎよくざん・戸田とだ、医者/本草家) O 1 6 9 6
- E3794 百亀(ひゃっき・小松こまつ、通称;小松屋三右衛門)1720-9374 江戸元飯田町中坂の薬屋、艶本春画、
嘶本作者;1773「聞上手」初-五編/江戸小咄の流行の端緒、版元遠州屋弥七を経営か?
狂詩/狂歌を嗜む、晩年は大久保大草屋敷に隠棲、「花の宴」画/1768-72「風流六女競」、
1772-73「聞上手」(一~三篇)/75「聞童子」、80洒落本「真似山気登里にせやまきどり」(;醉人名)
「風流艶色華結」「艶書式」「女容弁断」「古今枕大全」「艶道俗説辨」「魂胆遊蟬窟」外多数、
[百亀(;号)の別号]不知足散人/鶏肋齋/奇山/悦磨/画餅/小松軒/素松/上戸庵じょうごあん醉人、
狂名;和気春画、法号;万曆院
- E3795 百亀(ひゃっき・伊勢屋喜太郎)?- ? 江中期安永天明1772-89頃;江戸の札差、
二三治の「十八大通」入
参照 → 十八大通(じゅうはちだいつう)
- E3796 百亀(ひゃっき) ? - ? 江中期越中井波の誓願寺住職/俳人;1776樗良「月の夜」入、
[たゞにさへあはれを雨の男鹿をしか哉](月の夜;120/雨の声は一層の哀愁を帯る)
- E3797 百喜(ひゃっき・洞露齋どうろさい;号、通称;鰐屋かざりや治郎兵衛)?-? 江後期大阪の鰐職かざりしよく、挿絵、
役者歌右衛門最良の客;歌謡詞を作る、1786廬橘庵「寒暖寐言ひげん」画、1815「芝翫国一覽」
百卉(ひゃっき、俳人) → 竜齋(りゅうさい・山本やまもと、書家/俳人) E 4 9 0 0
- 百掬亭素仙(ひゃっくいていそせん)→ 素仙(そせん、菊研究家) K 2 5 0 0
- 百峽(ひゃっかきやう・鳥山) → 啓(ひらく・鳥山とりやま/田所、藩士/教育) K 3 7 0 4
- 百研堂(ひゃっけいんどう) → 高敏(たかとし・三井みつゐ、商家/国学) D 2 6 2 1
- E3798 百古(ひゃっこ・西周) ? - ? 江末期大和の俳人;梅室門、
1846「花標集」、1852「方南餞別」編/「海内流行百家発句集」、「めとの木かけ」編
- 百古(ひゃっこ、芭蕉堂5世)→ 公成(こうせい・河村/仁壁、俳人) B 1 9 5 0
- 百壺翁(ひゃっこおう) → 徳枝(のりしげ・増田ますだ、藩士/和漢学) J 3 5 9 8
- 百谷(百穀ひゃっこく・小田)→ 海僊(かいせん・小田おだ、絵師) I 1 5 8 5
- E3799 百歩(ひゃっぽ) ? - ? 江中期但馬の俳人;1772几董「其雪影」入、
[月夜も闇も恋の世の中](其雪影90;几圭発句の百韻名残の折表12句目)、
(前句;歌枕今道成寺があつたげな[几圭])

百咄(ひやっぼ・小林) → 惟孝(これたか・小林/篠宮、和算家) O 1 9 4 4
 毘耶離園(ひやりえん) → 清興(きよおき・町田まちだ、儒者/書家) O 1 6 6 4
 非熊(ひゆう・奥井) → 中里(ちゅうり・奥井おくい、儒者) G 2 8 9 3
 斐雄(ひゆう・菅沼) → 斐雄(綾雄/文雄あやお・菅沼すがぬま、歌) B 1 0 5 8
 斐雄(ひゆう・服部) → 斐雄(あやお・服部はつとり、歌人) G 1 0 6 8
 美雄(びゆう・東尾) → 美雄(よしお・東尾ひがしお、国学者/歌) O 4 7 7 1
 非有庵(ひゆうあん) → 昌程(しょうてい・里村[南家]、幕府連歌師) U 2 2 3 7
 日向(ひゆうが)多く → 日向(ひむか)
 日向(ひゆうが・大神) → 貫道(つらみち・大神おおが/山口、神職) E 2 9 4 8
 日向(ひゆうが・片岡) → 東親(はるちか・片岡りかたおか/秋川、神職/国学) J 3 6 9 2
 日向(ひゆうが・中山) → 素定(もとさだ・中山なかやま/阿刀、神職/国学) K 4 4 8 3
 日向守(ひゆうがのかみ・相良) → 長泰(ながやす・相良さがら/稲留、武将/和学) N 3 2 2 4
 日向守(ひゆうがのかみ・宮崎) → 信章(のぶあき・宮崎みやさき、神職/国学者) H 3 5 1 5
 日向守(ひゆうがのかみ・井出) → 道貞(みちさだ・井出いで、神職/史家) L 4 1 1 6
 日向守(ひゆうがのかみ・半谷) → 政因(まさより・半谷はんだに/藤原、神職) S 4 0 0 2
 日向守(ひゆうがのかみ・平岡) → 好貞(よしさだ・平岡ひらおか、神職/国学) O 4 7 7 6
 ひよ(しょうがくいん・松下/井伊/奥山) → 松岳院(しょうがくいん・松下、井伊直政母/歌人) V 2 2 4 5
 微誉(びよ・白蓮社) → 信罔(しんげい;法諱、浄土僧) O 2 2 0 5

K3726 兵(ひょう・戸田、旧姓;宮部、貞林禅尼) 1646-99⁵⁴ 江戸の生/戸田茂睡(1629-1706)と結婚、
 元周もとちか(3男)の母、歌人

標(ひょう・烏谷) → 美教(よしのり・烏谷からすや、神職/歌人) M 4 7 3 1
 豹(ひょう・池永) → 豹(秦良はだら・池永、国学) E 3 6 8 0
 豹(ひょう・飯田) → 豹(はだら・飯田、詩歌) E 3 6 8 1
 豹(ひょう→はだら・岡田) → 南山(なんざん・岡田、儒者) J 3 2 0 8
 豹(ひょう・館たち) → 天籟(てんらい・館たち/齋藤、藩士/儒者) E 3 0 5 2
 豹(ひょう・山脇) → 東海(とうかい・山脇、医者) B 3 1 9 0
 豹(ひょう・吉村) → 寛泰(ひろやす・吉村よしむら、藩士/儒者) H 3 7 5 5
 豹(ひょう・神河) → 渭南(いなん・神河かみかわ、医者/弓術) I 1 1 1 2
 豹(ひょう・稲垣) → 休叟(きゅうそう・稲垣いながき、茶人) M 1 6 7 5
 豹(ひょう・吉田) → 周斎(しゅうさい・吉田よしだ、藩医/儒者) X 2 1 2 9
 豹(ひょう・勝村/中) → 清泉(せいせん・中なか/勝村、藩儒) J 2 4 0 7
 豹(ひょう・古山) → 藍田(らんてん・古山ふるやま・こやま、医者) D 4 8 0 6
 豹(ひょう・荒井) → 鳴門(めいもん・荒井あらい、儒者/詩人) 4 3 4 1
 彪(ひょう→たけき・藤田) → 東湖(とうこ・藤田、儒者/藩士/尊攘) 3 1 0 8
 彪(ひょう・門馬/岡井) → 文皮(ぶんび・岡井/門馬もんま、藩儒者) G 3 8 3 5
 彪(ひょう・深井) → 松斎(しょうさい・深井/深、藩士/儒/兵学) I 2 2 9 6
 彪(ひょう・高宮) → 三中(さんちゅう・高宮たかみや、儒者) M 2 0 5 8
 彪(ひょう・武居) → 用拙(ようせつ・武居たけい、儒者/教育) B 4 7 3 2
 馮(ひょう・渡辺/戸田) → 茂睡(茂妥もすい・戸田/渡辺、恭光、歌人) 4 4 0 5
 馮(ひょう・堅田) → 絨造(じゅうぞう・堅田かただ、医者/本草家) X 2 1 9 0

F3700 未央(びょう) ? - ? 江中期江戸の俳人;

1779吾山「翌檜あすなろう」(;刪補さんぼ/跋文)

眉用(びょう) → 香国(こうこく・道蓮、黄檗僧) I 1 9 7 7
 美庸(びょう・八木) → 美庸(よしつね・八木やぎ、大庄屋/歌人) P 4 7 6 9
 尾蠅(びょう・尾崎) → 尾蠅(おぼえ・尾崎おさき、俳人) B 1 4 5 7
 豹阿弥(ひょうあみ・津田) → 養(よう・津田つだ/修姓;田、医者/俳人) 4 7 5 3
 豹庵(ひょうあん・荒井) → 鳴門(めいもん・荒井あらい、儒者/詩人) 4 3 4 1
 瓢庵(ひょうあん;号) → 守仙(しゅせん;法諱・彭叔;道号、臨濟僧) I 2 1 8 4
 瓢庵(ひょうあん) → 宗二(そうじ・山上やまのうえ、茶人;一期一会の語を使用) B 2 5 6 8
 瓢庵(ひょうあん) → 専定(せんじょう・池坊いけのぼう、僧/華道家) M 2 4 5 7

- 瓢庵(ひょうあん) → 杉長(さんちよう・井上いおうえ、医者/俳人) E 2 0 5 8
瓢庵(ひょうあん) → 斉恒(なりつね・松平、藩主/茶/俳人) H 3 2 6 4
瓢一房(ひょういちぼう) → 松陰(しょういん・吉田、藩士/軍学/教育) 2 1 6 7
豹隠(ひょういん:号) → 東滴(凍滴とうてき;道号、臨濟僧/詩) G 3 1 6 4
豹隠(ひょういん・家里) → 松嶠(しょうとう・家里いえさと/近藤、儒者/尊攘) R 2 2 5 7
豹隠(ひょういん・恩田) → 仰岳(ぎょうがく・恩田おんだ、藩士/漢学者) N 1 6 4 8
豹隠(ひょういん・矢野) → 義和(よしかず・矢野やの/藤井、商家/藩士/国学) P 4 7 7 4
豹陰(ひょういん・後藤) → 眞守(まもり・後藤/枚岡、国学者/神職) K 4 0 1 3
病隠(びょういん/へいいん?・丸山) → 貝陵(ばいりよう・丸山、儒者) C 3 6 2 5
瓢隠居(ひょういんきよ) → 逸淵(いつえん・児玉・久米、俳人) B 1 1 3 4
瓢隠居福瓶居士(ひょういんきよふくべこじ) → 醉茗(すいめい・海保かいほ、篆刻家) F 2 3 0 3
豹隠子(ひょういんし;号) → 義剛(ぎこう;法諱・依順、真言僧) F 1 6 3 4
憑蔭舎(ひょういんしゃ) → 園女(そのめ・斉藤、俳人) K 2 5 3 1
- F3701 俵雨(ひょうう) ? - ? 俳人;1772几董「其雪影」2句入;335/356、
[双六の石もまばらや菊の宴](其雪影;卷尾335/重陽の宴も果てる頃)
渺宇子(ひょううし) → 友貞(ともさだ・井上、俳/歌人) P 3 1 4 8
馮雲寺(ひょううんじ) → 茂睡(もすい・戸田、歌学/歌人) 4 4 0 5
- F3702 兵衛(ひょうえ、兵衛命婦ひょうえのみょうぶ、藤原高経女)?-? 平安前期歌人、右京大夫藤原忠房(928没)妻、
宇多天皇中宮温子(藤原基経女)の女房(大和物語);女房名兵衛命婦;890父が右兵衛督、
960内裏歌合参加、古今集455/789、
[あぢきなし嘆きな詰めそ憂き事にあひくる身をば捨てぬものから]、
(古今;十物名455、[梨・棗・胡桃])
- F3703 兵衛(ひょうえ、兵衛蔵人)? - ? 平安前期村上天皇期の女蔵人、歌人、
960天徳四年内裏歌合;左/966内裏前裁合参加、970女四宮歌合の[兵衛の君]も同一か、
[秋の夜の月と花とを見るほどになきそふるかなすずむしの声](内裏前裁合;33)
- F3704 兵衛(ひょうえ・六条斎院祿子内親王家女房?)?-? 歌;1050-68六条斎院・祿子内親王歌合7回参加、
[玉に貫くけふのあやめは宿ごとの軒端にかけて誰か見ざらん]
(1068?5月5日祿子内親王家歌合一番菖蒲左)
後拾遺歌人の[兵衛内侍]と同一説あり → 兵衛内侍(ひょうえのないし) F 3 7 1 2
- 3737 兵衛(ひょうえ・待賢門院/上西門院、神祇伯源みなもと頭仲女あきなかのむすめ)?-1184? 平安後期女房歌人;
鳥羽天皇皇后待賢門院璋子に出仕/のちその皇女上西門院統子内親王に出仕、
上西門院落飾に伴い出家、1128頭仲「西宮歌合」「南宮歌合」「住吉歌合」参、
1149家成家歌合/50久安百首など参加、西行・実国・実定・実家・惟方・隆信らと交流、
大夫典侍・待賢門院堀河の妹、兄弟に忠季・有房、寂超「後葉集」・続詞花8首・雲葉集入、
勅撰28首;金葉(33)千載(9首73/484/579以下)新古(692/770)新勅(1345)以下、菟玖波入、
[花の色に光さしそふ春の夜ぞ木このまの月はみるべかりける]
(後葉集;68/千載;73/花の梢間の月)、
参考 → 頭仲女(あきなかのむすめ・源) 1 0 7 6
- 兵衛(ひょうえ・藤原兼茂女) → 兼茂女(かねもちのむすめ・藤原、女房歌人) G 1 5 8 5
兵衛(ひょうえ・本院) → 本院兵衛(ほんいんのひょうえ・女房、後撰歌人) E 3 9 9 2
兵衛(ひょうえ・佐治) → 洞木(どうぼく・佐治さじ、順琢、医者/俳人) H 3 1 2 2
兵衛(ひょうえ・伊藤) → 祐祥(すけよし・伊藤いとう、藩士/教育) D 2 3 7 3
兵衛(ひょうえ・立花) → 包高(かねたか・立花、藩家老/家譜) O 1 5 5 8
兵衛(ひょうえ・梅田) → 三彦(かずひこ・梅田うめだ、藩士/歌) M 1 5 4 0
兵衛(ひょうえ・黒沢) → 道形(みちかた・黒沢/二階堂、郷土史家) B 4 1 3 4
兵衛(ひょうえ・本居) → 建正(たけまさ・本居もとおり、国学者) E 2 6 5 2
兵衛(ひょうえ・中西) → 常栄(つねひで・中西/出口、国学者) D 2 9 4 4
兵衛(ひょうえ・内藤) → 左兵衛(さへえ・内藤、藩士/奉行) L 2 0 5 5
兵衛(ひょうえ・山本) → 杉芽(すぎが・山本やまもと、開国説/俳人) L 2 0 8 7

兵衛(ひょうえ・遠藤) → 正恒(まさつね・遠藤えんどう、神職/歌人) N 4 0 0 2
 兵衛(ひょうえ・石王) → 文丸(ふみまる・石王いしおう/矢田部、神職/歌) H 3 8 9 8
 兵衛(ひょうえ・佐瀬) → 茂義(しげよし・佐瀬させ、神職/神道) O 2 1 5 2
 兵衛(ひょうえ・江川) → 秀守(ひでもり・江川えがわ、神職/国学) I 3 7 6 4
 兵衛(ひょうえ・藤田) → 長年(ながとし・藤田ふじた/横橋、神職/国学) O 3 2 6 0
 兵衛(ひょうえ・田端) → 年蔭(としかげ・田端たばた、大庄屋/国学) V 3 1 5 6
 兵衛(ひょうえ・本庄) → 忠成(ただなり・本庄ほんじょう/源、国学/歌) Z 2 6 4 3
 兵衛(ひょうえ・熊谷) → 直彦(なおひこ・熊谷くまがい/山本、藩士/絵師) L 3 2 9 9
 兵衛(ひょうえ・吉永) → 千秋(ちあき・吉永よしなが/藤原、神職/画) N 2 8 7 9
 豹恵(ひょうえ・満寿井) → 真酔(ますい・石橋庵、戯作者/俳人) I 4 0 9 2
 彪衛(ひょうえい・高坂) → 彪衛(たけもり・高坂こうさか、国学者) X 2 6 0 8

F3705 兵衛督(ひょうえのかみ) ?- ? 平安後期後白河女御琮子の女房、
 歌;1170住吉社歌合[俊成判]参加(;女御家兵衛督名)、
 [すみよしのかみさびにける玉垣をみがくは月の光なりけり](住吉社歌合;十一番左21)

F3706 兵衛督(ひょうえのかみ・鷹司院[1218-75]) ?-? 鎌倉期後堀河天皇皇后長子の女房/歌人;
 1243河合社歌合参加、
 [ときはなる木葉隠このはぐれはかはらねど月は冬こそ冴えまさりけれ](河合社;六番左11)

F3707 兵衛督(ひょうえのかみ・達智門院・皇后宮) ?-? 鎌倉末南北期女房歌人、
 宇多天皇皇女奨子内親王(皇后宮/達智門院)の女房、
 歌:現葉集入、勅撰7首;続千載(1171)新千載(1059/1312/2243)新拾遺(327/866/942)、
 [伊勢の海のおまの藻しほ火たくなはのくるればいとど燃えまさりつつ]、
 (続千載;十二恋二1171;皇后宮兵衛督)

兵衛督(ひょうえのかみ・花園院) → 遠子(えんし・高階、遠経女、歌人) 1 3 9 6
 兵衛の君(ひょうえのみ) → 兼茂女(かねもちのむすめ・藤原、女房歌人) G 1 5 8 5
 兵衛蔵人(ひょうえのくらうど) → 兵衛(ひょうえ、女蔵人/歌人) F 3 7 0 3
 兵衛尉(ひょうえのじょう・寺井) → 知清(ともきよ・寺井てらい、武家/連歌) P 3 1 3 8
 兵衛尉(ひょうえのじょう・岡部) → 長常(ながつね・岡部おかく、幕臣/奉行) E 3 2 5 7

F3708 兵衛佐(ひょうえのすけ・崇徳院すといん、法印信縁[藤原季実男]女) ?-? 平安期;大蔵卿源行宗の養女、
 1139頃崇徳天皇に出仕;女房;女房名;兵衛佐局ひょうえのすけのつばね、歌人、
 崇徳天皇の寵愛を受け第一皇子重仁しげひと親王(1140-1162/仁和寺一宮)を出産、
 重仁は出生後鳥羽上皇により藤原得子(美福門院)の養子とされる;平忠盛が後見、
 重仁後見の忠光は六波羅に池殿造営;崇徳院女房達を招き歓待、1155近衛天皇崩御、
 美福門院・信西・忠通の思惑で雅仁親王が即位(後白河天皇)、
 1156(保元元)鳥羽法皇没/崇徳院挙兵;保元乱/乱後;讃岐へ配流の崇徳院に同行、
 1162重仁親王は仁和寺に出家;没/64(長寛2)崇徳院崩御;帰京/出家;醍醐の勸修寺に隠棲、
 歌人;1165清輔[続詞花集]2首入/玉葉和歌集2422、
 [平忠盛朝臣六波羅家を新院(崇徳院)女房達見にまかりける時つまどに書付侍りける、
 おとはがわせきいれぬやどの池水も人の心は見えけるものを](続詞花:雑742)
 [君なくてかへる浪路なみちにしほれこし袖の雫を思ひやらなむ](玉葉集;十七2422、
 崇徳院没後讃岐から帰京後に見舞い客への返歌)

M3754 兵衛佐(ひょうえのすけ・東二条院) ?- ? 鎌倉中後期;女房歌人、
 東二条院公子(後深草天皇皇后/1232-1304)家に出仕、歌;続古今集入、
 [身にしむはいかなるいろのちらさともしらでかなしき秋の初風](続古今;秋298)

F3710 兵衛佐(ひょうえのすけ・新陽明門院しんようめいもんいん、高階宗成むねなり女) ?-? 鎌倉後期女房歌人、
 新陽明門院位子(龜山天皇女御、関白藤原基平女、1262-1296)家に出仕、成朝の姉妹
 1300父宗成撰「遺塵和歌集」19首入、勅撰4首;続拾(1062)玉(1413)続千(1086)新千(2139)、
 [有りし夜を思ひ出でける心こそうき身をさらぬかたみとはなれ](続拾遺集;恋1062)

兄弟 → 成朝(なりとも・高階、廷臣/歌) H 3 2 7 7
 姉妹 → 成朝姉(なりとものおね、歌人) H 3 2 8 0
 → 中將(ちゅうじょう・新陽明門院) G 2 8 4 0

- F3711 **兵衛佐** (ひょうえのすけ・近衛関白家基家、姓;高階)?-? 鎌倉後期女房/歌人;1300遺塵集入
 兵衛佐 (ひょうえのすけ、後白河女御琮子女房)→三河内侍(みかわのない・二条院、1200存) 4 1 6 6
 兵衛佐局 (ひょうえのすけのつばね・崇徳院)→兵衛佐(ひょうえのすけ・崇徳院、重仁親王母) F 3 7 0 8
- F3712 **兵衛内侍** (ひょうえのないし、姓;源、父は守信・隆俊・隆信など諸説)?-? 平安中後期の女官/歌人、
 後拾遺913(;平行親[1021蔵人]と交渉)、新千載1520(;定頼[995-1045]と贈答)
 [秋霧は立ちかくせども萩原に鹿臥しけりと今朝見つるかな](後拾遺;913)、
 (蔵人平行親が別の女の許にいたることを問い詰めた歌)、
 栄花物語・権記の[兵衛内侍]や御堂関白記の[兵衛典侍]と同一か、
 六条斎院歌合の[兵衛]と同一説あり→兵衛(ひょうえ・祿子内親王家女房?) F 3 7 0 4
- F3713 **兵衛内侍** (ひょうえのないし・順徳院、難波内侍、藤原隆信女)?-? 鎌倉前期女官、藤原忠定の妻、歌人;
 1214「月卿雲客妬歌合」/15「内裏名所百首」/16「内裏百番歌合」/17「右大臣家歌合」参加、
 1217「建保五年内裏歌合[冬題歌合]」19「内裏百番歌合」など参加、無名草子入、
 勅撰3首;新拾遺(670)新後拾遺(227)新統古今(757)、菟玖波集の兵衛内侍と同一か?、
 [漕ぎかへる棚なし小舟跡もなし難波の蘆の雪の下折れ](新拾遺;冬670)、
 (建保五年内裏歌合では3句[道もなし]/この歌で[難波内侍]の異名をとった)
- F3714 **兵衛内侍** (ひょうえのないし・後嵯峨院)?-? 鎌倉中期後嵯峨院の女房、連歌、菟玖波集1句入;918、
 [夜な夜なのうらみは鳥の声ばかり](菟玖波;918/前句;我が通路かよひの関守はなし)、
 順徳院の兵衛内侍と同一か?→兵衛内侍(ひょうえのないし・順徳院) F 3 7 1 3
- 兵衛姫君 (ひょうえのひめぎみ)→近衛姫君(このえのひめぎみ、源/歌人) N 1 9 3 7
 兵衛命婦 (ひょうえのみよぶ)→兵衛(ひょうえ、藤原高経女/歌人) F 3 7 0 2
 兵衛命婦 (ひょうえのみよぶ)→兼茂女(かねもちのむすめ・藤原、女房歌人) G 1 5 8 5
 兵右衛門 (ひょうえもん・松井)→兵右衛門(へいえもん・松井、能楽) 2 7 1 0
 兵右衛門 (ひょうえもん・寺山)→吾鬘(あずら・寺山、藩士/歌人) E 1 0 4 8
 兵右衛門 (ひょうえもん・相坂)→則武(のりたけ・相坂あさか、藩士/文筆) E 3 5 8 9
 兵右衛門 (ひょうえもん・浦上)→玉堂(ぎょくどう・浦上うらがみ、詩/画/琴) D 1 6 0 7
 兵右衛門 (ひょうえもん・片桐)→源一(げんいち・片桐かたぎり、歌人) H 1 8 7 0
 兵右衛門 (ひょうえもん・遠藤)→文石(ぶんせき・遠藤えんどう、商家/俳人) F 3 8 9 6
 病翁 (びょうおう/へいおう・小林)→寒翠(かんすい・小林こばやし、藩士/漢蘭学) H 1 5 6 9
 瓢屋主人 (ひょうおくしゅじん)→中彦(なかひこ・太田おた/丸山、藩医/歌) L 3 2 4 5
- F3715 **氷花** (ひょうか、別号;露堂)?-? 江前期江戸の俳人・嵐雪門、1690其角「誰が家」11吟入、
 1693結婚:翌年94妻子の死、1700「廢宅序」編し京に移住;のち園城寺に入る、
 1701嵐雪「杜撰集」;百里と共編、14月尋「伊丹発句合」;四季発句入、
 1726貞佐「代々蚕よかい」入、
 [蝸牛にじればついにあふ夜哉](伊丹発句;夏)
- 苗雅 (ひょうが・水島)→苗雅(たねまさ・水島、神職/藩士/典籍採集) S 2 6 0 5
- F3716 **氷解** (ひょうかい・遷喬亭せんきょうてい;号、姓;山本やまもと/通称;長十郎)?-? 江後期美濃笠松の狂歌作者、
 1824「狂歌養老集」編、「三才狂歌集」編
- 瓢界 (ひょうかい:「俳諧代系図」入)→瓠界(瓢海こかい・北村、俳人) C 1 9 2 1
 瓢界 (ひょうかい・松平)→四山(しざん・松平まつだいら、藩主/俳人) D 2 1 7 9
 瓢界 (ひょうかい・北川)→尚亭(しょうてい・北川/寺西、藩士/儒者) U 2 2 3 8
 氷壑山人 (ひょうがくさんじん)→芙蓉(ふよう・高こう/大島、篆刻家) E 3 8 4 7
 氷鑑 (ひょうかん・玉井)→海嶠(かいきょう・玉井たまゐ、医者/儒詩) I 1 5 5 4
 豹関 (ひょうかん・松前)→広長(ひろなが・松前、藩家老/修史事業) G 3 7 5 9
- F3717 **氷几** (ひょうき) ?-? 江後期大阪の俳人、
 1795「和唐材」/1803「俳諧藻塩草」編、
 [氷几(;号)の別号] 誹陳人/左華坊/郭蓮社
- 豹吉 (ひょうきち・和久田)→叔虎(よしとら・和久田わくだ、藩士/儒/医) F 4 7 1 0
- M3741 **兵橋** (ひょうきつ・森もり/毛利重政しげまさ、森高次男or重高男) 1551or56-159747or40 戦国安桃期武将、
 母;織田信昌女(歌人)、従五下豊後守、織田信長家臣/豊臣秀吉家臣、兄弟;高政・吉安、
 正室;大神親長女/後室;大友義鎮女、重次・十蔵の父、

[兵橋(；通称)の改名/別通称]森兵橋→森重政→毛利重政、別通称；兵吉/豊後守

☆毛利吉安と同一説([毛利氏御系譜])あり

兵橋(ひょうきつ・毛利) → 重長(しげなが・毛利もうり、幕臣/奉行) a 2 1 7 1

兵橋母(ひょうきつのはは・毛利) → 重長母(しげながのはは・毛利もうり、歌人) a 2 1 7 2

瓢渠間人(ひょうきよかんじん) → 蕉廬(しょうろ・佐藤、幕吏/国学/詩歌) M 2 2 0 7

F3718 馮虚公子撰(ひょうきよこうしせん:戯名)?-? 歌舞伎研究:1827五運企画・歌国編「許多あまた脚色帖」序文

氷計(ひょうけい・上杉/長沢) → 蘆雪(ろせつ・長沢ながさわ、絵師) C 5 2 0 1

豹卿(ひょうけい;字・森) → 庸軒(ようけん・森、儒/医者) 4 7 7 5

豹卿(ひょうけい・武谷) → 成章(しげあき・武谷たけや、医者/詩人) Q 2 1 4 6

瓢彦(ひょうげん・野村) → 繁成(しげなり・野村のむら、神職) R 2 1 8 7

F3719 氷壺(ひょうこ・高階たかしな、名;秀実/字;勉甫)?-? 江中期大阪の儒者/詩:田中桐江門、
撰津高槻藩の弓銃指揮、「氷壺遺稿」

F3720 氷壺(ひょうこ・岡田おかだ、双雀庵2世)?-1869 常陸の俳人:禾葉門、江戸住、北総の文哉と論争、
1841「芳春帳」52「蕉雨集」60「二葉艸」著、追善集「真空集」、門人に祐之・僊月・一春など

氷壺(ひょうこ・泉) → 久澄(ひさずみ・泉/和泉いずみ、商家/歌人) B 3 7 2 0

氷壺(ひょうこ・細川) → 林谷(りんこく・細川ほそかわ/広瀬、篆刻家/詩人) K 4 9 2 7

氷固(ひょうこ;初号) → 非群(ひぐん・松本、商人/俳人) 3 7 5 0

氷湖(ひょうこ・伊藤) → 清澄(きよずみ・伊藤いとう、和算家) 1 6 8 9

F3721 兵庫(ひょうご、兵庫蔵人ひょうごのくろうど)?-? 平安前期村上天皇期の女蔵人/歌人、
960天徳内裏/962内裏歌合/966内裏前裁合参加、968村上天皇哀悼歌を藤原兼通に送る、
勅撰1首;拾遺集1280、
[五月来てながめまされば菖蒲草あやめぐさ思ひたえにしねこそなかるれ](拾遺;哀傷1280)、
(村上天皇の1周忌の5月5日兼通へ送る/長雨と眺め・根と音・流れと泣かれの掛詞)

F3722 兵庫(ひょうご・栗本くりもと、別号;淡海三磨、三河屋久七)?-? 江戸の両替商/塗師方棟梁、
歌舞伎劇書「明和伎鑑」著、

白岡先生と同一説あり → 白岡先生(きゅうこうせんせい) G 1 6 4 0

F3723 兵庫(ひょうご・横沢よざわ、名;高広/親成/済衆、柴内ばうち親房男)1803-6260 横沢高依の養嗣子、
陸中盛岡藩士/1837側頭/38家老、藩主南部利済を補佐;武備充実・殖産興業に尽力、
神宮涼庭を推挙/佐藤信淵の意見重視、利済退隠後は職務停止/1854蟄居、画:「書画帖」、
[兵庫(；通称)の別通称/号]別通称;忠輔/勘解由、号;友水/雪斎、法号;英忠院

兵吾(ひょうご・早崎) → 益(すすむ・早崎はやさき、藩士/骨董商/歌) D 2 3 3 7

兵庫(ひょうご・安藤) → 親重(ちかしげ・安藤、神職/国学/故実) 2 8 9 7

兵庫(ひょうご・安藤) → 重満(しげまる・安藤、親重男/神職/国学) P 2 1 2 9

兵庫(ひょうご・毛利) → 広漢(ひろくに・毛利もうり、藩士/儒者) F 3 7 7 9

兵庫(ひょうご・伊勢) → 貞益(さだます・伊勢いせ/平、故実家) J 2 0 7 4

兵庫(ひょうご・斎藤) → 定輝(さだてる・斎藤さいとう、藩士/農政家) I 2 0 7 1

兵庫(ひょうご・三升屋) → 団十郎(初世だんじゅうろう、歌舞伎役作者) 2 6 8 8

兵庫(ひょうご・伊勢) → 貞丈(さだたけ・伊勢いせ/平、幕臣/故実家) B 2 0 9 5

兵庫(ひょうご・横瀬) → 貞臣(さだおみ・横瀬/源、幕臣/歌人) B 2 0 7 4

兵庫(ひょうご・小泉) → 養正(よしまさ・小泉こいずみ/源、幕臣/茶) H 4 7 0 2

兵庫(ひょうご・犬甘) → 知寛(ともひろ・犬甘いぬかい、家老/文筆) Q 3 1 4 5

兵庫(ひょうご・松井/氷室) → 長翁(ながとし・氷室ひむろ、神職/歌人) E 3 2 8 7

兵庫(ひょうご・氷室) → 応汀(おうてい・氷室ひむろ、神職/俳人) C 1 4 5 9

兵庫(ひょうご・慶徳) → 克明(かつあき・慶徳けいとく/中川、神職) N 1 5 2 1

兵庫(ひょうご・毛利) → 広鎖(ひろしげ・毛利もうり、藩主/詩歌) G 3 7 0 1

兵庫(ひょうご・中条) → 信敬(のぶゆき・中条ちゅうじょう、幕臣/高家) D 3 5 6 8

兵庫(ひょうご・佐野) → 義行(のりゆき・佐野さの、幕臣/文芸) G 3 5 1 3

兵庫(ひょうご・建部) → 賢之(かたゆき・建部たけべ、幕臣/和算家) 1 5 2 2

兵庫(ひょうご・板倉) → 勝任(かつとう・板倉いたくら、藩主/歌人) N 1 5 5 6

兵庫(ひょうご・阿部) → 正識(まさつね・阿部あべ、藩主/詩人) E 4 0 1 1

兵庫(ひょうご・中山) → 正樹(まさき・中山/度会、神職/歌人) C 4 0 2 4
 兵庫(ひょうご・椎名) → 許人(きよじん・椎名、鋳物師/俳人) D 1 6 2 4
 兵庫(ひょうご・島津) → 天錫(てんしゃく・島津、領主/詩人) D 3 0 7 0
 兵庫(ひょうご・島津) → 重豪(しげひで・島津/松平、藩主/諸学) C 2 1 9 0
 兵庫(ひょうご・田中) → 躬之(みゆき・田中たなか、藩医者/国学者) G 4 1 0 4
 兵庫(ひょうご・田中) → 猛之(たけゆき・田中/山村、躬之養子/国学) X 2 6 8 7
 兵庫(ひょうご・福島) → 末済(すえなり・福島/度会、神職/漢学) F 2 3 5 4
 兵庫(ひょうご・織田/大岡) → 清謙(きよかた・大岡/織田、幕臣) O 1 6 7 1
 兵庫(ひょうご・松平) → 玄駁(げんき・松平まつだいら、藩老/俳人) E 1 8 0 4
 兵庫(ひょうご・宇津木) → 久徴(ひさもと・宇津木うつき/平、藩老/歌) I 3 7 5 8
 兵庫(ひょうご・宇津木) → 昆岳(こんがく・宇津木、久徴男/藩老/儒者) G 1 9 5 7
 兵庫(ひょうご・宇津木) → 泰交(やすとも・宇津木うつき、昆岳男/家老/歌) F 4 5 3 6
 兵庫(ひょうご・宇津木) → 泰翼(やすすけ・宇津木うつき、泰交男/藩士/歌) F 4 5 3 7
 兵庫(ひょうご・大村/玉木/橋) → 正英(まさひで・玉木/橋、神道家) G 4 0 6 6
 兵庫(ひょうご・石川) → 総昌(ふさまさ・石川いしかわ、旗本/幕臣) H 3 8 9 9
 兵庫(ひょうご・山口) → 直清(なおきよ・山口やまぐち/伊達、旗本/国学) P 3 2 1 6
 兵庫(ひょうご・岩松) → 孝純(たかすみ・岩松/源、幕臣/文筆) M 2 6 1 2
 兵庫(ひょうご・林) → 直孝(なおたか・林はやし/伊丹、幕臣/国学) O 3 2 4 3
 兵庫(ひょうご・三田村) → 栗所(栗所りつしよ・三田村/藤原/藤/坪井、儒者/詩) C 4 9 0 3
 兵庫(ひょうご・松前) → 矩広(のりひろ・松前まつまえ、藩主/歌) F 3 5 6 2
 兵庫(ひょうご・遠藤) → 胤忠(たねただ・遠藤えんどう、藩主/歌人) R 2 6 8 5
 兵庫(ひょうご・岡田) → 経資(つねすけ・岡田おかだ/荒木田、神職) F 2 9 4 5
 兵庫(ひょうご・橋村) → 正並(まさなみ・橋村はしむら/度会/中山、神職) R 4 0 6 1
 兵庫(ひょうご・千野) → 貞亮(さだすけ・千野ちの、藩家老/歌人) Q 2 0 9 5
 兵庫(ひょうご・水野) → 福富(ふくとみ・水野みずの、藩士/俳/詩歌) B 3 8 6 3
 兵庫(ひょうご・有本) → 楽山(らくざん・有本ありもと、藩士/歌学) B 4 8 1 8
 兵庫(ひょうご・島) → 重養(しげかい・島しま、神職/国学/歌人) O 2 1 8 0
 瓢瓠庵(ひょうこあん) → 雄淵(ゆうえん・大場おおば、神職/俳人) 4 6 8 0
 瓢巷(ひょうこう・林) → 羅山(らざん・林はやし、幕府儒官祖;幕政) 4 8 0 2
 秒光斎(びょうこうさい) → 錦江(きんこう・馬場、幕臣/俳諧/和算) D 1 6 9 7
 俵口子(ひょうこうし) → 香以(こうい・細木ほそき/さいき、商家/俳人) 1 9 7 0
 瓢巷廬(ひょうこうろ) → 知雄(ともお・山崎、国学者) P 3 1 2 2
 氷湖観(ひょうこかん) → 虚庵(きよあん・渋川/板部/王、絵師) N 1 6 0 8
 豹谷(ひょうこく・吉田) → 長淑(ちやうしゆく・吉田/馬場、成徳/蘭医) F 2 8 9 6
 氷黒庵(ひょうこくあん/氷黒井ひょうこくせい) → 寥松(りやうしやう・巒みね、俳人) I 4 9 1 4
 病虎山人(びょうこさんじん) → 鷗波(おうは・富田とみた、儒者) C 1 4 6 2
 瓢乞士(ひょうこつし) → 三化(さんか、俳人) L 2 0 8 5
 兵庫頭(ひょうごのかみ) → 蓮位(れんい/れんに;法諱、下間宗重、真宗僧) 5 1 8 9
 兵庫頭(ひょうごのかみ・蜂屋) → 頼隆(よりたか・蜂屋はちや/源/羽柴、武将/歌・連歌) I 4 7 8 8
 兵庫頭(ひょうごのかみ・木村) → 芥舟(かいしゅう・木村きむら、幕臣/提督) I 1 5 7 2
 兵庫頭入道(ひょうごのかみにゆうどう) → 長秀(ながひで・中条なかじやう、幕臣/歌) F 3 2 4 6
 兵庫蔵人(ひょうごのくらうど) → 兵庫(ひょうご、女蔵人/歌人) F 3 7 2 1
 兵庫助(ひょうごのすけ・肥田/河田) → 玄清(げんせい;法諱、武士/連歌) C 1 8 4 5
 兵庫助(ひょうごのすけ・波々伯部) → 盛郷(もりさと・波々伯部ほおかべ、武将/連歌) F 4 4 4 3
 兵庫助(ひょうごのすけ・蜂屋) → 頼隆(よりたか・蜂屋はちや/源/羽柴、武将/歌・連歌) I 4 7 8 8
 兵庫助(ひょうごのすけ・武田) → 信頼(のぶより・武田たけだ、武将/日記) E 3 5 0 7
 兵庫助(ひょうごのすけ・田付) → 景澄(かげすみ・田付たつけ、砲術家) B 1 5 8 7
 兵庫助(ひょうごのすけ・杉原) → 賢盛(かたもり・杉原、宗伊、幕臣、連歌) 1 5 2 1
 兵庫助(ひょうごのすけ・池田) → 正盛(まさもり・池田/藤原、豪族/連歌) H 4 0 9 8
 兵庫助(ひょうごのすけ・伊東) → 祐膺(すけむね・伊東いとう/藤原、幕臣/歌) H 2 3 8 6

兵庫助(ひょうごのすけ・朽木)→ 綱泰(つなひろ・朽木/源、幕臣/蔵書家) B 2 9 2 7
兵庫助(ひょうごのすけ・高松)→ 千尋(ちひろ・高松たかまつ/高塚、神職/国学) M 2 8 8 0
兵庫介(ひょうごのすけ・小笠原)→ 長裕(ながかた・小笠原おがさわら、歌/神職) L 3 2 3 6
兵庫大允(ひょうごのだいいん) → 政徳(まさのり・大原おおはら/野中、廷臣/歌) O 4 0 4 4

L3753 豹齋(ひょうさい・中村なかむら、5代宗哲/名;守一) 1764-1811⁴⁸ 京茶道千家方の塗師5代目中村宗哲、
4代宗哲の婿養子、1783(天明3)従六下/主殿寮補左生火官兼式部大録に任命;御所御用達、
1788(天明8)天明大火で家焼失/歴代寸法帖は残る;3代夫人から聞取;「家伝」を作成、
俳人;三宅嘯山門、代表作;「認得齋好」「蔦蒔絵中棗」制作、
[豹齋(;)の通称/別号]通称;八兵衛(代々の通称)、別号;漆畝(;)俳号)

F3724 飄齋(ひょうさい・平塚ひらつか/修姓;平、名;茂喬しげたか、茂清男) 1794-1875⁸² 京の旗本幕臣;
1834家督継嗣、東町奉行組与力/1847隠居/再度召出し;町奉行支配調役、
俳人;梅仙門、狂詩;棕隠結社に参加、
1828「枯魚七部集」補/1839安穴(棕隠)「天保佳話」26編入、1843「末黒のすゝき」、
1847「牧民心鑑解」、49「大和路便覧」編/52「陵地私考」61「花ふゞき」、「俳諧春の田」、
「目揆集」編、「東山名勝図会」(のちに河喜多眞彦「再撰花洛名勝図会」として刊行)、
「自警録」「耳塵録」「花洛封境辨」「賑京私議」「仁風集覽」「赤城年鑑」「美々津雅記」外著多数、
[飄齋(;)の字/通称/別号]字;椿孫/士梁、通称;善十郎/表十郎/利助、
別号;飄々子/齋堂せいどう/齋堂野夫/茶梅庵、俳号;馬童/半楽舎、
狂詩号;吳綿奈齋ごめんなさい/武朝保ぶちようほう/読無子書楼、戯名;岡目蜂空おかめはちもく
変名;津久井清彰、法号;飄々齋独立居士

瓢齋(ひょうさい・小島) → 大梅(だいまい・小島/児島、詩/俳人) C 2 6 0 9
氷齋(ひょうさい・永根) → 伍石(ごせき・永根ながね/北条、書/篆刻) M 1 9 8 7
苗齋(ひょうさい・苗村) → 丈伯(常伯じょうはく・苗村なむら、仮名草子) B 2 2 2 3
標左衛門(ひょうざえもん・村松) → 紀風(のりかぜ・村松、本草家) E 3 5 3 7
兵左衛門(ひょうざえもん・吉田) → 可吟(かぎん・吉田、俳人) B 1 5 3 1
兵左衛門(ひょうざえもん・青山/井口) → 機山(きざん・井口いぐち、儒者) K 1 6 6 2
兵左衛門(ひょうざえもん・伊藤) → 玄節(げんせつ・伊藤いとう、藩医/儒者) K 1 8 5 5
兵左衛門(ひょうざえもん・伊藤) → 祐行(すけゆき・伊藤いとう、和算家) H 2 3 3 1
兵左衛門(ひょうざえもん・石川) → 大椿(たいちん・石川いしかわ、儒者/詩) K 2 6 6 6
兵左衛門(ひょうざえもん・鈴木) → 重規(しげのり・鈴木/穂積、幕臣/歌人) S 2 1 0 4
兵左衛門(ひょうざえもん・伊藤) → 祐行(すけゆき・伊藤いとう、和算家) H 2 3 3 1
兵左衛門(ひょうざえもん・牛丸) → 重明(しげあき・牛丸うしまる、藩士/詩人) Q 2 1 4 9
兵左衛門(ひょうざえもん・興津) → 清覧(きよみ・興津おきつ、幕臣/国学者) T 1 6 8 5
彪山(ひょうざん・蒔田) → 暢齋(ちようさい・蒔田/田、書家/篆刻) I 2 8 3 7
彪山(ひょうざん・佐竹) → 義脩(よしなお・佐竹さたけ、軍人/系図) K 4 7 3 5
屏山(ひょうざん・加部) → 琴堂(きんどう・加部かべ、名主/俳人) R 1 6 4 8
屏山(ひょうざん・河合) → 良翰(さとたか/よしさと・河合かわい/松下、藩老/勤王) O 2 0 3 5
豹山逸人(ひょうざんいつじん) → 豹(秦良はだら・池永、国学者) E 3 6 8 0
備陽山人(ひょうざんじん) → 大叔(だいしゆく;法諱・季弘、臨濟僧) B 2 6 5 6

F3725 瓢子(ひょうし) ? - ? 俳人;半夜亭連、1776初懐紙入、
1776几董「続明鳥」3句(78;歌仙春日晩望15/258/654)、76道立どうりゅう「写経社集」4句入、
[さし向ひ嘶はなしの消ゆる霜夜哉](続明鳥;乙654)

瓢子(ひょうし) → 曲齋(きよくさい・原田、俳人:19ct) C 1 6 9 9
兵司(ひょうし・後藤) → 利朴(りぼく・後藤ごとう、藩士/茶道/神職) M 4 9 1 5
俵二(ひょうじ・宇津木) → 静齋(せいさい・宇津木うつぎ、儒者) I 2 4 3 1
瓢七(兵七ひょうしち・槌井) → 金八(2世きんぱち・増山ますやま、歌舞伎作者) R 1 6 6 5
標七(ひょうしち・小沢) → 種春(たねはる・柳園、小沢、藩士/戯作) R 2 6 9 7
表紙屋市郎兵衛(ひょうしやいちろうべえ) → 市郎兵衛(いちろうべえ・表紙屋、書肆) J 1 1 1 7
表秀(ひょうしゅう・三輪) → 表秀(あきひで・三輪みわ/南雲齋、藩士/歌) D 1 0 8 2
苗秀(ひょうしゅう・久我) → 苗秀(たねひで・久我くが、里正/国学) W 2 6 8 4

- 瓢舟舎(ひょうしゅうしゃ) → 馬丈(ばじょう、俳人) E 3 6 6 2
 表十郎(ひょうじゅうろう・平塚) → 瓢斎(ひょうさい・平塚、幕臣/俳人/狂詩) F 3 7 2 4
 屏淑(びょうしゅく・河田) → 迪斎(てきさい・河田/川田、儒者/幕臣) B 3 0 9 3
 氷上大刀自(ひょうじょうだいとうじ) → 氷上大刀自(ひがみのおおとし:氷上娘子、藤原夫人) 3 7 0 2
 屏塵舎(びょうじんしゃ) → 玄仙(げんせん・田村/津田、医者) K 1 8 6 2
- F3727 瓢水(ひょうすい・滝/滝野、屋号;叶屋) 1684-1762 79 播磨別府^{ぶの}の船問屋/俳人:来山・淡々門、雑俳、俳画を嗜む、奇行に富む/俳諧に没頭し一代で家産傾く;大阪で客死、1735「旋反」編、1745「五百韻」編、48-49「はりま拾遺」編/48「諧歌集」49「播磨拾遺」50「むかひつき」編、1751「俳諧友千鳥」編、「勝手かくれ」「たから船」「響の灘」、「俳諧和泉川」「俳諧心の種」編、1758「夜の花」評/60「柱曆」(瓢水句選)/60「寿齡苑」、几董「其雪影」入(323)、[踏み脱いだ足にて着るやけさの秋](其雪影:巻尾323/寝始めは蹴飛ばし朝は寄す布団)[瓢水(;号)の通称/別号]通称;新之丞/新右衛門、別号;富春齋/一鷹舎、(剃髮号;)自得庵/自得齋
- 萍水散人(ひょうすいさんじん) → 兼勝(かねかつ・上坂、書肆/漢学) F 1 5 6 7
 瓢水子(ひょうすいし) → 了意(りょうい・浅井、真宗僧/仮名草子) 4 9 1 6
- F3728 兵介(ひょうすけ・賀島かしま、名;成白、号;恕軒、成尚男) 1645-97 53 対馬藩士;1664大小姓/75郡佐、肥前田代(対馬藩領)で善政/1685対馬に帰島;上士禄70石/87(貞享4)大監察、建議をしたため藩より佐護伊奈村へ流罪蟄居/流謫地で没、流謫中に陶山訥庵が書によりしばしば時政を相談、1687「賀島兵介言上書」著
- F3729 兵助(ひょうすけ・勝かつ、別号;亀山紋次/亀山為助) 1786-1828 43 歌舞伎作者・4世鶴屋南北の女婿、初世勝俵蔵(4世南北)門/1801中村座顔見番付(初出)/1821廃業/27復帰;28(文政11)没、狂言方近代の祖と称さる、1808「松二代源氏」17「巖流島勝負宮本」21「敵討櫓太鼓」外多数
 俵助(ひょうすけ・大藪) → 茂利(しげとし・大藪おおやぶ、和算家) R 2 1 6 6
 標助(ひょうすけ・穂井田) → 忠友(忠儔ただとも・穂井田/小原、歌/考証) 2 6 2 7
 氷清(ひょうせい・柴山) → 老山(ろうざん・柴山/菅原/菅、儒/詩) 5 2 3 1
- F3730 氷川(ひょうせん・池田いけだ、名;栄之、栄州男) 1737-81 45 丹波氷上郡国領村農業、儒学・山口等庵門、京的那波魯堂門、郷里で農業の合間に儒を教授/1765里正/66致仕、「氷川詩文稿」「三華詩草」「杯朴詩稿」著、[氷川(;号)の字/別号]字;子礼、別号;清弥庵(せいひあん)
- 氷川(ひょうせん・山本) → 簡斎(かんさい・山本/館たち、医者/本草) Q 1 5 7 0
 瓢仙(ひょうせん・羽佐間) → 宗玄(そうげん・羽佐間はざま、医者) H 2 5 1 8
 瓢僊(ひょうせん・待田) → 宗愿(そういん・待田まちだ/阿部、礼法/歌) L 2 5 1 2
 瓢仙居(ひょうせんきょ) → 一左(いっさ・近藤、俳人) H 1 1 1 2
 瓢叟(ひょうそう) → 由平(ゆうへい・よしひら・前川まえば、俳人) D 4 6 6 8
- F3731 俵蔵(2世ひょうぞう・勝かつ、初世俵蔵[4世鶴屋南北]男) 1781-1830 50 初め歌舞伎役者/1815廃業、深川の妓楼を経営、1829中村座立作者;四谷怪談戸板仕掛など奇抜な趣向を使用、1830「雲帯千丈滝」「虎石想曾我とらがいしねりきそが」「桜時清水清玄」「一陽来復洪谷兵」外著多数、[二世勝俵蔵(;号)の通称/別号]通称;直江屋重兵衛(;妓楼屋名)、別号;坂東鯛蔵/坂東鶴十郎、東水、法号;実夢院
- F3732 兵蔵(ひょうぞう・古賀こが、名;以貞/別通称;素行) ?-? 江後期天保1830-44頃筑後柳川の心学者、江戸石門心学講舎参前舎社中;各地の講舎を廻り講師、江戸山伏井戸に家塾を開、郷里柳川でも教化活動、1843刊「心学図会」校訂
- 俵蔵(初世ひょうぞう・勝) → 南北(4世なんぼく・鶴屋、歌舞伎作者) 3 2 3 5
 俵三(ひょうぞう・三浦) → 米積(よねかず・高島たかばたけ、商家/国学) N 4 7 7 3
 兵蔵(ひょうぞう・桜田/沢) → 南北(4世なんぼく・鶴屋、歌舞伎作者) 3 2 3 5
 兵蔵(ひょうぞう・寺田) → 兵蔵(へいぞう・寺田、浄瑠璃・歌舞伎作者) 2 7 6 4
 兵蔵(ひょうぞう・宇佐美) → 友政(ともまさ・宇佐美うさみ、藩士/史家) Q 3 1 5 5
 兵蔵(ひょうぞう・庄司) → 文螭(ぶんち・庄司しょうじ、絵師/篆刻/俳) G 3 8 1 3
 兵蔵(ひょうぞう・野村) → 篁園(こうえん・野村のむら、儒者/詩人) 1 9 7 8

- 兵藏(ひょうぞう・堀田) → 六林(ろくりん・堀田、恒山、藩士/詩/俳人) B 5 2 1 8
 兵藏(兵三ひょうぞう・上原) → 芳豊(初世よしとよ・歌川うたがわ、絵師) F 4 7 0 9
 兵藏(ひょうぞう・味木/沢) → 喬(たかし・沢さわ/味木、藩士/書画) L 2 6 9 6
 兵藏(ひょうぞう・堤) → 正敏(まさとし・堤つみ、儒者/禅学) E 4 0 5 5
 兵藏(ひょうぞう・中田) → 勇藏(ゆうぞう・中田なかだ、藩士/暦算家) D 4 6 3 2
 兵藏(ひょうぞう・井原/中村) → 徳水(とくすい・中村、藩士/心学者) L 3 1 0 9
 兵藏(ひょうぞう・深井) → 彰(あきら・深井ふかい/今村、藩士/兵学/儒学) I 1 0 3 5
 豹藏(ひょうぞう;通称・森) → 庸軒(ようけん・森、儒/医者) 4 7 7 5
 豹藏(ひょうぞう・原) → 狂斎(きょうさい・原はら、儒/折衷学) C 1 6 4 9
 豹藏(ひょうぞう・梅本/川合) → 梅所(ばいしょ・川合/梅本、藩士/儒者) B 3 6 5 5
 豹藏(ひょうぞう・横山) → 隆誨(たかこと・横山よこやま、藩士/記録) L 2 6 8 6
 豹藏(ひょうぞう・館たち) → 天籟(てんらい・館たち/齋藤、藩士/儒者) E 3 0 5 2
 瓢三(ひょうぞう・桜井) → 霽松(せいしょう・桜井さくらい、儒者) I 2 4 7 9
 瓢三(ひょうぞう・北村) → 考保(としやす・北村きたむら、商家/歌人) U 3 1 9 9
 瓢藏(ひょうぞう・竹柴) → 梅彦(めめひこ・四方、戯作者/狂歌) 1 2 9 3
 豹太(ひょうた・恩田) → 仰岳(ぎょうがく・恩田おんだ、藩士/漢学者) N 1 6 4 8
 I3705 苗代(ひょうだい) ? - ? 江前期江戸俳人、1692不角「二葉之松」入、
 [歌に見て京より瀬田へ十五日](前句;心まかせにひとり行く道、二葉之松178)
 豹太郎(ひょうたろう・武田) → 豊城(とよき・武田たけだ、藩士/歌人) T 3 1 5 2
 瓢箪舎(ひょうたんしゃ) → 駒成(こまなり・壺洞楼、狂歌) N 1 9 6 8
 瓢箪坊(ひょうたんぼう) → 呑湖(どんこ・大鯰堂、俳人) S 3 1 1 7
 瓢竹庵(ひょうちくあん、瓢竹亭) → 苔蘇(たいそ・岡本おかもと、藩士/俳人) B 2 6 7 9
 F3733 氷虫(ひょうちゅう・夏雪溪) ? - ? 江中期名古屋の俳人:露川門、書家、
 書:「西国曲」「北国曲」の版下書、「桃の宴」著
 F3734 瓢長(ひょうちよう・為永ためなが、別号;為長千生[千章])?-? 江後期戯作者:初世春水門、
 1858爲永千生せんしゅうと改名、1854-57「柳幕魁双紙」/57「当利生一網」「千羽鳥名画誉」、
 1857-66「濡衣女鳴神」
 F3735 猫悵(びょうちよう) ? - ? 俳人:1772几董「其雪影」入;
 [鮎汁ぶくじるや鍋のかたぶく古畳](其雪影;巻尾400/貧家の美食)
 瓢亭(ひょうてい) → 斎脩(なりのおぶ・徳川、藩主/雅楽/詩) H 3 2 9 6
 F3736 瓢亭百成(ひょうていひゃくなり、初姓;村/黒沢、対馬藩士村むら氏の男、名;定重)1767-1835 江戸の生、
 上州多野郡中里村の黒沢家の養子、戯作者:市川鶴鳴・中沢道二・湖十・浅草庵市人門、
 1789「ふくら雀」93「落咄梅の笑」1805「山中竅過多」/06「百なりばなし」「とらふくべ」著、
 1806「舌の軸」/07「瓢百集」09「咄の種瓢」16「瓢百文」、「初夢漬」「瓢孟子」、1829「山中絹」著、
 [瓢亭百成(;号)の通称/別号]通称;覚太夫、別号;浅笹庵せんぱあん/村瓢子そんびょうし
 瓢顛(ひょうてん) → 逸淵(いつえん・児玉/久米、俳人) B 1 1 3 4
 秤堂(ひょうどう) → 屈斎(くっさい・三木みき、藩士/詩/戯作) C 1 7 4 7
 豹洞(ひょうどう・藤) → 元通(もとみち・藤とう、歌人) K 4 4 6 9
 猫堂(ひょうどう・木戸) → 孝允(たかよし・木戸/桂/和田、藩士/討幕) N 2 6 7 9
 猫頭庵(びょうとうあん) → 大筈(たいこう・青野、俳人) B 2 6 3 7
 平等院大僧正(びょうどういんだいそうじょう) → 行尊(ぎょうそん、天台座主/歌) 1 6 3 5
 平等院宮(びょうどういんのみや) → 行慶(ぎょうけい;法諱、天台僧/歌人) C 1 6 3 7
 氷道人(ひょうどうじん) → 伍石(ごせき・永根ながね/北条、書/篆刻) M 1 9 8 7
 平等心院(びょうどうしんいん) → 闍揚(せんよう;法諱・法高;字、真宗僧) N 2 4 1 9
 平等心院大僧都(びょうどうしんいんのだいそうず) → 光室(こうぼう;法諱、真言僧) L 1 9 2 0
 平等房(びょうどうぼう) → 永巖(ようごん;法諱、真言僧) 4 7 8 7
 平等房(びょうどうぼう) → 癡兀(ちこつ;道号・大慧;法諱、天台/のち臨濟僧) E 2 8 2 1
 表徳(ひょうとく・桜井) → 百之(ももゆき・桜井さくらい、商家/国学) K 4 4 0 7
 尾陽の三哲(びょうのさんてつ);17c尾張地方のすぐれた3人の俳人
 → 春流(しゅんりゅう・清水/不存)1626-94 K 2 1 6 1

- ノ身(べつしん・池田)?-? B 2 7 0 0
 → 友次(ゆうじ・吉田)?-1669 C 4 6 1 7
 廟僧都(びようのそうず) → 実運(じつうん・じちうん;法諱、真言僧/座主) U 2 1 4 3
 瓢の屋(ひょうのや) → 荒陽(こうよう・渡辺、儒者/国学者) G 1 9 5 3
 漂麦園(ひょうばくえん) → 広川(こうせん・鈴木/廬、儒/詩文) K 1 9 2 0
 F3737 平備(ひょうび;法諱) ? - ? 763存 奈良期法相僧;東大寺・元興寺住僧、教相に通ず、
 学徒指導/已講か?、「因明疏記」「三身義」「法華經音義」「法苑林灯記」「梵網經私抄」外著多
 瓢々軒(ひょうひょうけん) → 三千風(みちかぜ・大淀/三井、俳人) 4 1 0 3
 瓢々子(ひょうひょうし) → 飄斎(ひょうさい・平塚、幕臣/俳人/狂詩) F 3 7 2 4
 F3738 瓢々亭泉成(ひょうひょうていせんなり)?-1886 尾張中村の人/嘉永1848-54頃江戸京橋竹川町住、
 狂歌作者:花笠文京門、1853「夢之眼我寐」著
 瓢々坊(ひょうひょうぼう) → 馬貞(ばてい・長野ながの、医者/俳人) F 3 6 3 4
 I3708 兵部(ひょうぶ/兵部蔵人ひょうぶのくらうど)?-? 平安前期村上天皇期女蔵人/歌人、
 960天徳内裏歌合参加、972女四宮(規子内親王)歌合参加、
 [さをしかのすだく麓の下萩は露けきことのかたくもあるかな](女四宮歌合;5/大系7)
 兵部(ひょうぶ・伊達) → 成実(しげさね・伊達だて、武将/記録) R 2 1 0 5
 兵部(ひょうぶ・伊達) → 宗勝(むねかつ・伊達だて、藩主/伊達騒動) C 4 2 7 6
 兵部(ひょうぶ・山本/大江) → 忠明(ただあき・大江、兵法家) P 2 6 0 7
 兵部(ひょうぶ・津田) → 千連(ゆきつら・津田つだ、藩士/記録) E 4 6 9 5
 兵部(ひょうぶ・堀田) → 正高(まさたか・堀田/紀、藩主/本草家) D 4 0 1 8
 兵部(ひょうぶ・土岐) → 頼稔(よりとし・土岐とき、藩主/歌人) J 4 7 2 0
 兵部(ひょうぶ・岡田/堀) → 利庸(としつね・堀ほり、幕臣/歌人) M 3 1 9 3
 兵部(ひょうぶ・京極) → 高門(たかかど・京極、幕臣/禅門/歌人) C 2 6 6 3
 兵部(ひょうぶ・山澄) → 英竜(ひでたつ・山澄/川方、藩士/戦記) D 3 7 1 5
 兵部(ひょうぶ・山澄) → 英貞(ひでさだ・山澄、英竜男/藩士/故実) D 3 7 0 4
 兵部(ひょうぶ・秋月) → 種類(たねひで・秋月、藩主) S 2 6 0 0
 兵部(ひょうぶ・稲葉) → 正謨(まさのぶ・稲葉いなば、藩主/記録) F 4 0 7 2
 兵部(ひょうぶ・堀) → 利正(としまさ・堀ほり、幕臣) N 3 1 7 0
 兵部(ひょうぶ・藤田) → 安貞(やすさだ・藤田/北川、藩士/奉行) B 4 5 4 7
 兵部(ひょうぶ・諏訪) → 頼巖(よりあつ・諏訪すわ/源、幕臣/歌人) H 4 7 5 3
 兵部(ひょうぶ・京極) → 高亶(たかあつ・京極/稻垣、幕臣/歌) U 2 6 0 9
 兵部(ひょうぶ・村井) → 長世(ながよ・村井、藩士/文筆家) G 3 2 2 9
 兵部(ひょうぶ・柳沢) → 吉里(よしさと・柳沢/源/松平、藩主/歌) D 4 7 4 1
 兵部(ひょうぶ・荒木田) → 末偶(すえとも・荒木田/菊家/益谷、神職/歌) B 2 3 2 8
 兵部(ひょうぶ・岡崎) → 天山(てんざん・吉田、講釈師) D 3 0 5 6
 兵部(ひょうぶ・栗野) → 経麻(つねあさ・栗野/度会、神職/国学) B 2 9 6 1
 兵部(ひょうぶ・福島) → 末济(すえなり・福島/度会、神職/漢学) F 2 3 5 4
 兵部(ひょうぶ・中条) → 信礼(のぶひろ・中条ちゅうじょう、幕府高家/国学) D 3 5 1 4
 兵部(ひょうぶ・植村) → 家長(いえなが・植村うえむら、藩主/詩人) E 1 1 9 1
 兵部(ひょうぶ・松田) → 幸照(こうしょう・松田まつだ、兵法家) J 1 9 7 9
 兵部(ひょうぶ・村田) → 庫山(こざん・村田むらた、儒者/書) G 1 9 6 1
 兵部(ひょうぶ・前田) → 純孝(すみたか・前田まえだ、藩家老/記録) D 2 3 9 0
 兵部(ひょうぶ・名越) → 時行(ときゆき・名越なごや/なごえ、民俗研究) K 3 1 2 9
 兵部(ひょうぶ・本多) → 忠寛(ただひろ・本多ほんだ、俳人) Q 2 6 6 9
 兵部(ひょうぶ・本多) → 康桓(やすたけ・本多ほんだ、藩主/詩歌) G 4 5 6 0
 兵部(ひょうぶ・山国) → 共昌(ともまさ・山国やまくに、藩士/天狗党) Q 3 1 5 7
 兵部(ひょうぶ・加納) → 諸平(もろひら・加納/夏目、国学者/歌) 4 4 3 5
 兵部(ひょうぶ・青山/浅野) → 長容(ながかね・浅野あさの、藩主/歌) K 3 2 6 6
 兵部(ひょうぶ・山科;変名) → 友実(ともざね・吉井よい、藩士/国事) P 3 1 5 3
 兵部(ひょうぶ・諏訪) → 頼蔭(よりかげ・諏訪すわ、旗本/奉行) N 4 7 4 0

兵部(ひょうぶ・生山) → 正方(まさかた・生山いくやま/藤原、神職/国学) N 4 0 5 1
 兵部(ひょうぶ・近藤) → 忠直(ただなお・近藤こんどう、神職/国学) V 2 6 3 6
 兵部(ひょうぶ・井出) → 道貞(みちさだ・井出いで、神職/史家) L 4 1 1 6
 兵部(ひょうぶ・池田) → 喜通(よしみち・池田/松平、藩主/歌) K 4 7 6 0
 兵部(ひょうぶ・川江) → 直種(なおたね・川江かわえ/定村、神職/歌) L 3 2 6 9
 兵部(ひょうぶ・菊池) → 守満(もりみつ・菊池さくち、神職/国学/歌) J 4 4 8 7
 兵部(ひょうぶ・柴田) → 顕光(あきみつ・柴田しばた、神職/歌人) H 1 0 7 2
 兵部(ひょうぶ・津守) → 德基(のりもと・津守つもり、歌人/書家) J 3 5 1 4
 兵部(平武ひょうぶ・羽田野) → 重雄(しげお・羽田野はたの、神職/国学) Z 2 1 6 6
 兵部(ひょうぶ・高崎) → 五六(ごろく・高崎たかさき、藩士/政治家) Q 1 9 9 6
 兵部川原(ひょうぶかわら) → 川原(かわら; 姓、万葉歌人/兵部省官人) D 1 5 3 7
 兵部卿(ひょうぶきょう・杉本) → 左近(さこん・杉本/中臣/伊野原/三神、神職) H 2 0 4 0
 兵部卿(ひょうぶきょう) → 秀順(しゅうじゅん; 法諱、天台僧/連歌) X 2 1 5 3
 兵部卿(ひょうぶきょう・大鳥居) → 信賢(しんけん・大鳥居/菅原/高辻、社僧/連歌) O 2 2 1 4
 兵部卿(ひょうぶきょう) → 梁盛(りょうせい; 法諱、歌僧) I 4 9 4 4
 兵部卿の宮(ひょうぶきょうのみや) → 章明親王(のりあきらしんのう、醍醐帝皇子) E 3 5 2 5
 兵部左衛門(ひょうぶさえもん・阿埜) → 則胤(のりたね・阿埜あの/阿部、藩士/軍学/天文) F 3 5 0 1
 兵部少輔(ひょうぶしょうゆう・伊勢) → 貞昌(さだまさ・伊勢/平/有川、藩士/故実) J 2 0 6 5
 兵部大輔(ひょうぶたいふ・三淵/長岡/細川) → 幽斎(ゆうさい・細川/源、武将/歌/連歌) 4 6 0 2
 兵部大輔(ひょうぶたいふ・高丘) → 紀季(おさすえ・高丘たかおか、廷臣/国学) D 1 4 9 9
 兵部阿闍梨(ひょうぶのあじり) → 日澄(にっしょう・寂仙房、日蓮僧) F 3 3 1 2
 氷覆(ひょうふく; 号) → 天嶺(てんれい; 道号・吞補; 法諱、曹洞僧) E 3 0 5 9
 兵部左右衛門(ひょうぶさうえもん・多田) → 義俊(よしとし・多田、神道/故実/浮世草子) 4 7 1 8
 兵部大輔(ひょうぶのおおすけ) → 忠助(ただすけ・樺山かばやま、武将/歌人) P 2 6 6 5
 兵部少輔(ひょうぶのしょう・長谷場) → 宗純(そうじゅん・長谷場はせば、武将/記録) H 2 5 9 0
 兵部少輔(ひょうぶのしょう) → 常任(つねとう・久志本/度会、神職/医者) C 2 9 6 0
 兵部少輔(ひょうぶのしょう・大給) → 乗友(のりとも・大給だいぎゅう/松平、藩主) H 3 5 5 6
 兵部少輔(ひょうぶのしょう・遠山) → 資尹(すけただ・遠山とおやま、幕臣/歌) H 2 3 8 7
 兵部少輔((ひょうぶのしょう・新見) → 正路(まさみち・新見しんみ/源、幕臣/歌) H 4 0 5 4
 兵部少輔((ひょうぶのしょう・河津) → 毎鎮(つねしず・河津かわづ/浦、神職) F 2 9 5 8
 兵部輔(ひょうぶのすけ) → 遠忠(とのおだ・十市とおち/といち、武将/歌人) I 3 1 6 3
 兵部介(ひょうぶのすけ) → 則庸(のりつね・齋藤さいとう、神職/国学者) I 3 5 5 9
 兵馬(ひょうま・富塚) → 有義(ありよし・富塚とみづか、藩士/歌人) F 1 0 9 1
 兵馬(ひょうま・本居) → 清島(きよしま・本居もとおり、国学者/歌) D 1 6 2 2
 兵馬(ひょうま・宇仁館) → 富元(とみもと・宇仁/宇仁館うにだて、神職/占卜) O 3 1 9 7
 兵馬(ひょうま・堀越) → 親盈(しんえい・堀越ほりごし、歌人) B 2 8 9 5
 兵馬(ひょうま・正木) → 輝雄(てるお・正木まさき、兵学者) C 3 0 7 1
 兵馬(ひょうま・鈴木) → 典晧(のりあき・鈴木すずき、神職) I 3 5 7 6

F3739 瓢廬(ひょうろく・原田はらだ、曲斎[1817-74]の弟)?-? 周防徳山の小間物商; 万福屋主人/俳人、
 [瓢廬(;号)の通称/別号]通称; 吉兵衛、別号; 麦園

兄 → 曲斎(きよくさい・原田、俳諧研究) C 1 6 9 9

眉用老人(ひょうろうじん) → 香国(こうこく; 道号・道蓮、黄檗僧) I 1 9 7 7

F3740 瓢六(ひょうろく・辻鼻つじはな) 1806-1880 75 大阪の俳人: 夜来門、
 1853「あしの葉」「新あしの葉」著

[瓢六(;号)の通称/別号]通称; 加茂屋弥助、別号; 翁堂4世/神吐屑

比翼亭(ひよくてい) → 枝成(えだなり・与鳳亭よほうてい2世、狂歌/戯作) C 1 3 1 2

J3712 平明(ひらあき・唐沢からさわ、旧姓; 下平)?-1829 信濃伊那郡の国学・歌人; 森広主門、
 [平明(;名)の通称/号]通称; 平作、号; 平明亭

平岡(ひらおか・水走) → 平岡(へいこう・水走みずはしり、医者) 2 7 2 9

平臣(ひらおみ・松岡) → 内平(うちひら・松岡/源、国学者/歌) D 1 2 1 0

開別皇子(ひらかすわけのみこ)→ 天智天皇(てんぢてんのう) 3012

I3714 平河組(ひらかわぐみ;組連) ? - ? 江中期江戸麹町の雑俳の組連、
取次;1749「菊丈評万句合」入
取次例;[心ではをかしい無理を泣いて見せ](1749万句合/前句;色々な事々々)、
(男と女の化かし合い)

啓(ひらき・藤井) → 竹外(ちくがい・藤井、詩人) C 2 8 7 8

啓(ひらき・佐久間) → 象山(しょうざん・佐久間さくま、藩士/兵学) S 2 2 5 4

K3717 啓(ひらく・竹内たけうち、小川新左衛門長男) 1828-67刑死40 武蔵入間郡竹内村の里正、
漢学;朝川善庵門、国学;平田鍊胤門、医学;辻元崧庵門、医を業とす/尊王倒幕を主唱;
1867(慶応3)同志と下野出流山に挙兵;鎮圧され中田宿に捕縛;松戸で斬首、
[啓(;名)の通称/号]通称;嘉助/一作、号;節斎

K3704 啓(ひらく・鳥山とりやま、田所頭周あきあね2男) 1837-191478 紀伊田辺の大庄屋の生/田所頭平の弟、
漢学;真砂丈平門/本草学;石田三郎(酔古)門/国学・歌;本居内遠・加納諸平・熊代繁里門、
1855(19歳)田辺藤家家臣の鳥山純昭の婿養子(妻;清)、田辺藩士/1869田辺藩校英語教授、
維新後;神戸の英国領事館勤務、1872田辺小学校教師/田辺伝習所教員;
青少年向け教育読物や理科系学問入門書を刊行/1876和歌山師範学校教員、
和歌山中学 で博物学教師/1886東京の華族女学校理科教授/学習院教授、東京に没、
和歌・随筆;「長庚舎歌文集」著、軍歌作詞;「黄海の戦」「軍艦マーチ」など、南方熊楠の師、
辞世[草に木に虫に鳥にもなりぬべし十まり四つの元にかへらば]、
[啓(;名)の初名/字/通称/号]初名;頭豊、字;明卿、通称;象二郎/又助/為助、
号;蛭水でいすい/啓明堂/長庚ちようこう庵(長庚ゆうづ;金星)/夕つつの屋/玉松之戸/百峡

I3715 平砂組(ひらすなぐみ;組連) ? - ? 江中期安房平砂(館山)の雑俳の組連、
取次;1748・49「菊丈評万句合」入、
取次例;[尾生びい敵ほが律儀を茶屋に待疲れ](1748万句合/前句;日の暮に迄々々)
(荘子盗跖とうせき篇の「尾生の信」;尾生が女と橋下で逢う約束したが増水し溺死、
尾生のように出合い茶屋での約束を愚直に守り続ける男)

平野五木(ひらのごぼく) → 五木(ごぼく・島津、商家/俳人) N 1 9 6 6

平丞(ひらのじょう・志村) → 識行(のりゆき・志村むら、藩士/文筆家) G 3 5 1 2

平丸(ひらまる・檜垣) → 秀俊(ひでとし・檜垣/度会、神職) D 3 7 3 2

F3741 平道(ひらみち・武藤むとう、別名;春道、致和むねかず男/本姓;藤原) 1778-183053 土佐高知の豪商美濃屋、
土佐藩御目見の町人、国学;父門/今村楽・本居大平・藤井高尚門、古典・歴史考証に精通、
歌人、後妻さと[里女/西蘭]も歌人、実証性を重視し藩内各地の実地踏査、
父致和が家産を傾けた著作「南路志」120巻の編纂を弟と援助、
「土佐国探古録」「土佐日記附ていふ」「敏屋集」「敏屋雑記」著、
「賢樹壺長歌集」「賢樹壺文集」(賢樹壺さかきのつぼは父の号)、「土佐日記地名考」、
「古鐘類聚」「棟札集」「続南路志」「大港考」「古文叢」、「桂浜月見歌文」「花勝間」編、外多数、
大平撰「八十浦の玉」下巻:長歌入、
[足引の山ほととぎすたち花のあたり初花地にちらしつ](786;反歌)、
[平道(;名)の通称/号]通称;忠五郎、号;敏屋、屋号;美濃屋、法号;実暁院、
正道の兄、直道の父

父 → 致和(むねかず・武藤/藤原、商家/国学) B 4 2 1 8

弟 → 正道(まさみち・武藤むとう、商家/国学) H 4 0 4 3

後妻 → 里女(さとじよ・武藤むとう/宮内、商家/歌) P 2 0 5 5

F3742 平保(ひらやす・岡おか、初名;保貞) 1810-8273 播磨室津の賀茂神社社司/国学;本居内遠門、
古典に精通/歌人、権少講義、「播磨風土記考」著、1858「室津賀茂神社記」編、
[平保(;名)の通称]五郎吉/左京/大隅、

F3743 嬬吏(びり) ? - ? 俳人;蘿音らおんと親交/1773几董「明鳥」入;
[我のみの身にしむ風や蘿けの音](あけ鳥;179/無音の友人蘿音へ)

H3766 飛竜(ひりゅう;組連) ? - ? 江中期江戸久保町(青山付近?)の雑俳の組連、
取次;1737「雲鼓評万句合」入、 取次例;

- [昨夜気ゆふけが人のゐるのにねむたがり](万句合/前句;見苦しいじや見苦しいじや)、
 (夜遊びで翌日人前で眠そうにしているのはだらしがない/そぶりを見せぬが夜遊の基本)
- 響竜(ひりゅう・小篠) → 敏(御野みね・小篠/篠、藩士/儒・国学) F 4 1 4 2
 美隆(びりゅう・岩崎) → 美隆(よしとか・岩崎いわさき、里正/歌人) E 4 7 0 9
- F3744 飛良(ひりょう・大倉おおくら、名;引佐、号;三居庵、本姓;菅原) 1712-6251 美濃大垣俳人;乙由門/京住、
 1757「諫鼓鳥」編/59作法書「俳諧近道集」著(;古音跋)、古音こおん(神職/俳人)の父
- 美領(びりょう・滝口) → 美領(よしみね・滝口/紀、神職/歌人) H 4 7 5 4
 拙隣居(ひりんこ) → 懈守(かにもり・今泉、国学) F 1 5 6 6
 非羸(ひるい・中村) → 重政(初世しげまさ・北尾きたお/中村、絵師) 2 1 1 5
 昼起(ひるおき・朝寝) → 朝寝昼起(あさねのひるおき、狂歌) C 1 0 6 8
 蛭子(ひるこ) → 蛙子(あし、俳人) C 1 0 2 7
 蛭成(ひるなり・翁齋) → 翁齋蛭成(おきなさいひるなり、滑稽本作者) C 1 4 9 2
- H3792 昼寐興兼(ひるねのおきかね) ? - ? 江戸狂歌;1787「才蔵集」入;
 [庭の雪の一重につもる若竹もやがて二重に腰やまがらん](才蔵集)
 Wilhelmus-Botanicus(ウゝィルヘルムス・ボタニクス) → 国寧(くにやす・桂川/6世、蘭医) D 1 7 3 1
- F3745 比礼雄(ひれお・野口のぐち、別名;功) ?-1843? 京の柳馬場三条北の歌人・聖護院村に移住、
 1843「北辺家説四具」著、1843追悼和歌が詠まれている;この年没か、
 [比礼雄(;名)の通称/号]通称;式部、号;審神/桜生
- 薇露(びろ・向井) → 長樹(ながき・向井、藩士/文筆) D 3 2 5 1
- C3754 熙秋(ひろあき・今橋いまはし) ? - ? 戦国期の楽人?;笛/豊原統秋(楽人)の同族か、
 歌人;三条西実隆門、実隆の日次詠草「再昌草」入、
 [年深き雪の埋木朽ちずなほ逢ひみん花の春をこそ待て](再昌草さいしょうそう)
 (美作へ下向時に三嶋治部丞に遣った歌)
- J3765 熙明(ひろあき・佐藤さとう、通称;杵右衛門) ?-? 江中期;越後新発田藩士、儒者、
 儒;幕臣幸田誠之まさゆき(1720-92)門:闇齋学修学
- L3700 広堯(ひろあき/ひろたか・益田ますだ、繁沢、長州藩寄組益田就高男) 1710-6556 長門阿武郡の生、
 親戚の繁沢元雄の娘婿;繁沢貞雄の養子;繁沢利充としみつに改名、本家益田元道の養子、
 益田広堯と改名;1742(寛保2)元道没;家督嗣;長門藩加判役(家老)/須佐領主益田家9代、
 1750(寛永3)城代家老/当職(国家老/執政)、逼迫した藩財政改革;1753藩主の意向で罷免、
 1765(明和2)没;家督を嫡男就祥なりよしが嗣、和学者、
 [広堯(;名)の通称]采女/宮内/越中/孫吉/勘解由
- K3737 広秋(ひろあき・中村なかむら、) 1757-180448 近江彦根藩士;目付役、歌人;[彦根歌人伝・寿]、
 [広秋(;名)の通称/号]通称;彦右衛門、号;吉野舎/向林亭
- I3742 広明(ひろあき・半井なかり、六郡大和守政速男) ?-? 1854存 医者;半井清雅の養子、出雲守、江戸住、
 刑部大和守/従五下、典薬守/刑部大輔に至る、半井家秘蔵「医心方」を1854幕府に提出、
 妻;永井直方女、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [打ちかすむ野山を見ればむらぎえの雪間をわけて春や来ぬらん](大江戸倭歌;26)
- F3746 胖秋(ひろあき・豊原とよはら/豊、安倍季随男/豊原広秋養子) 1816-6045 楽人:笙/実兄陽秋がげあき嗣、
 1848本家相続/隠岐守/正五下、1844「豊原胖秋鳳笙只拍子譜」編/56「鳴鳳残画集」著
- F3747 博秋(ひろあき・岩崎いわさき、志賀紀隆男) 1824-9572 叔父岩崎宅右衛門の養嗣子/信州高遠藩士;
 代官職、和算;石川子温門/天文測量に通ず、子弟に算学指導、門弟2百、維新後河合村戸長、
 1843「社前算譜」、「算術塵彙稿」、「算法摺録くろく」著、
 [博秋(;名;)の幼名/通称/号]幼名;三蔵、通称;平三郎/覚左衛門、号;友鶴ゆうかく
- F3748 熙明(ひろあき・堀ほり、静軒男) 1830-64暗殺35 鳥取藩士;1846父の代勤で出仕/51家督、
 儒者(家学);父門/二宮元勲・蘆川重周門、1852御居間講釈を勤む/願い出て江戸詰、
 儒;佐藤一斎・河田迪齋門、1854藩主池田慶徳の侍講/59藩校尚徳館文場学正/諸奉行格、
 藩政改革尽力;帰国/1864大目付、公武合体論のため急進派により暗殺、
 「東行日記」「敦齋文集」「栄力丸漂流記談」「異星考」著、「堀敦齋遺稿」、
 [熙明(;名)の字/通称/号]字;子光、通称;庄次郎、号;敦齋とんさい/玄尨げんぼう、
- F3749 広明(ひろあき・宇夫方うぶかた) 1830-190071歳 陸奥(陸中)遠野の儒者;江田霞村・久子くす翠峰門、

儒;那珂通高みちか門/江戸で羽倉簡堂門/国学の研究/維新後:鍋倉神社祠官、
1858「阿曾沼家乗」、「百将論」著、

[広明(;名)の字/通称/号]字;士義、通称;文吾、号;蘆齋らさい

弘明(ひろあき・伊藤) → 東臯(とうこう・伊藤、儒者) D 3 1 9 1

広明(ひろあき・毛利元太夫) → 勝則(かつのり・永井、藩士/日記) N 1 5 7 7

広明(ひろあき;初名・石野) → 広通(ひろみち・石野/中原、幕臣/歌人) H 3 7 2 7

宏明(ひろあき・林/新井) → 文山(ぶんざん・新井/林、儒/詩文/藩士) F 3 8 4 2

I3725 広明(ひろあき・石野いしの/本姓;中原) 1691-1767 77歳 幕臣;大番、歌;石野広通「霞関集」入、
石野広道の親戚、

[根も繁く種もつたへて年毎に夏野の草や生ひまさるらん](霞関;夏298)、

[広明(;名)の通称] 忠次郎/主水もんど/小左衛門

L3794 博高(ひろあき・明石あかし) 1839-1910 72 京の医者/殖産家/歌人、医;祖父善方・柏原学介門、
国学/歌;僧忍向・五十嵐祐胤門、1865京都医学研究会を創設/66京に煉真舎を組織;
理化学・衛生学・薬学を研究、1868京の御所内病院開設;医師試験制度整備に尽力、
1869大阪病院を創設、ハラタマ、ボードインらを招聘、養蚕場・牧畜場・学校・授産所を創設、
1874京都で日本初の医師免許試験の実施を提言/77コレラの検疫制度の採用を提案、
殖産・慈善事業に私財を消費尽し開業医とし失意のうちに没、
「日本薬泉考」「化学撮要」著、

[広明(;名)の別号/通称/号]初名;博人、通称;弥三郎、号;静瀾/万花堂主人

F3750 照明親王(ひろあきらしんのう、五辻宮、久良親王男) ?-1348 早世 母;三条公親女、伏見天皇の猶子、
三品兵部卿、1327守良親王より五辻殿を伝領、歌;風雅集1619、

[行末を思ふにつけて老いらくの身にはいまさらをしき年かな](風雅;雑歌1619)

I3788 広厚(ひろあつ・大橋おおし、諡;清土靈神) 1679-1741 京の神祇伯家出仕、国学者、酔狂翁泥作問答入

F3751 弘篤(ひろあつ・三井みつ) ? - ? 江中期信州松本藩士、

享保年間(1716-36)藩主忠恒の命で藩領内の地誌を編纂;1724地誌「信府統記」著

F3752 弘篤(ひろあつ・浅野あさ) ? - ? 江中期1772-89頃大坂高麗橋一丁目の書肆、
1778「元明清書画人名録捷索」編、新井白峨著「古易一家言」を出版し好評、

星占類刊行、1805「書通大成」13「占筮早考」著、

[弘篤(;名)の通称/号]通称;藤屋弥兵衛、号;星文堂

L3738 博篤(ひろあつ・水森みずもり、通称;平治、屋号;赤穂屋) ?-1808 江中後期;播磨赤穂郡網干の商家、
国学者

K3727 広厚(ひろあつ・富樫とがし、旧姓;小串、通称;泉) 1826-73 48 伊勢桑名の富樫広蔭の養子、
国学者/歌人;広蔭門、阪正臣の歌の師

I3761 弘篤(ひろあつ・牛尾うしお、通称;土佐) 1829-1901 73 石見那賀郡大内村の八幡神社社司、
国学;1862(文久2)平田鉄胤門(篤胤没後門);江尾兼山の紹介、歌人

弘篤(ひろあつ・宇井) → 黙齋(もくさい・宇井うい/丸子、儒者) 4 4 8 1

弘篤(ひろあつ・藪) → 慎庵(しんあん・藪やぶ、藩士/儒者) D 2 2 4 5

広敦(ひろあつ・久世) → 広誉(ひろやす・久世(ぜ)/源、藩主) F 3 7 0 3

広敦(ひろあつ・岸) → 熊野(ゆうや・岸きし/崖、藩士/儒者) D 4 6 8 9

広封(ひろあつ・毛利) → 元徳(もとりのり・毛利/大江、藩主/歌人) D 4 4 8 6

広篤(ひろあつ・毛利) → 元蕃(もとみつ・毛利/大江、淡路守/藩主/歌) E 4 4 4 0

広厚(ひろあつ・中島) → 健彦(たけひこ・中島なかじま、藩士/軍人) Y 2 6 5 3

寛篤(ひろあつ・米沢) → 一馬(いちば/いちま・貞松齋、華道/俳人) G 1 1 3 7

L3737 弘有(ひろあり・澁川みおがわ、通称;斧次郎/丈右衛門) 1815-90 76 下総葛飾郡の国学者;
国学・歌;伊能穎則ひでのり門

F3753 広家(ひろいえ・吉川きつかわ、元春3男) 1561-1625 65 母;熊谷信直女(新庄局)、毛利家の武将、
1570(元亀元)父と共に尼子勝久討伐戦で初陣、1583(天正11)大坂の秀吉の元へ人質、
安藝へ帰国;毛利輝元より隠岐を授与、1586九州平定中の父元春が没・87兄元長没、
家督継嗣/輝元より大江広元の[広]を授与;広家に改名、秀吉命で肥後国人一揆鎮圧出陣、
秀吉より[羽柴]を下賜;豊臣広家/従五下侍従/従四下、1588正室;宇喜多直家女(容光院)、

1591正室没;以後側室のみ、1591(天正19)月山富田城に入る;出雲伯耆安藝隠岐14万石、文禄・慶長の役に出陣/秀吉から日本槍柱七本の1人と賞讃、
1597小早川隆景没後所領問題で毛利秀元と内紛/1600関ヶ原戦の西軍;家康と内通、総大将秀元に[これから弁当]と返答し出撃を拒否;[宰相殿の空弁当]の語が生ず、毛利軍は戦闘なく離脱;輝元の本領安堵の密約は反故;広家は毛利家安堵の起請文提出、毛利宗家輝元・秀就父子の身命と長門周防の安堵、広家は周防岩国初代領主;3万石、藩主とされず家臣とされる;家康からは築城を許可されたが以後城破却問題など生ず、秀元は長府藩主となり支藩筆頭となる、連歌:懐旧百韻、
1592「大山万句三物」願主;秀吉征明軍先鋒として大山寺で祈願奉納、輝元「巖島万句」に参加、側室;若林藤兵衛女・品川氏女有・福家経女、広正・毛利就頼・益田就宣室の父

[広家(;名)の初名/通称]幼名;才寿丸/初名;経信/経言つねのぶ、
通称;次郎五郎/又次郎/民部少輔/蔵人/如兼、法号;全光院

博家(ひろいゑ・九条) → 隆博(たかひろ・九条くじょう、廷臣/歌人) D 2 6 6 4

F3754 広泉(ひろいずみ・物部ものべ・姓;首/朝臣)785-86076 平安初期;伊予風早郡の医者、827医博士兼典薬允、845侍医/内薬正/851次侍従/伊予権掾/肥前介三河権介/正五下、864首改め朝臣の賜姓、三河権守、「摂養要訣」著

F3755 広井女王(ひろいにょう) - 859:80余歳 催馬楽歌の名手(三代実録貞観元10.23条) 閑院五皇女と同一?→ 閑院五御子(かひんのこのみこ、古今歌人;内容が合わない)D 1 5 4 3
比老斎(ひろうさい) → 竹陰(ちくいん・藪内やぶのうち、茶人) C 2 8 5 0

F3756 弘氏(ひろうじ・足代あじろ/本姓;度会わたらい、初名;貞嗣、檜垣常晨男)1640-8344 足代弘仲の養子、外宮権禰宜、神官家ながら早くより俳諧に親炙、伊勢談林俳諧の中心、久居藩主藤堂高通より神風館の贈号、「弘氏句集」、「弘氏独吟」著、

[弘氏(;名)の幼名/通称/号]幼名;虎之助、通称;助十郎/又左衛門/民部、号;神風館初世

B3786 寛氏(ひろうじ・石野いしの、石野五兵衛氏遠の養子)?-? 養家継嗣;金沢藩士/1785人持組、1789今石動等支配/御近習御用、英氏ひでうじの父、1798「尾張大納言様御招請一件」
[寛氏(;名)の通称]喜三郎/多宮/八左衛門/源兵衛/主殿助とのものすけ

F3757 太氏(ひろうじ・座田さいだ/さいた、初名;久米彦、氏彦男/本姓;賀茂)1813-9280 京の神職;上賀茂社祠官、内舎人/正四下、国学;松田直兄門/歌人、「詠歌集説」編、1852「祝詞愚意」、「桂園難歌撰」評、
[太氏(;名)の通称/号]通称;河内介/備中守、号;菖蒲園

L3720 広江(ひろえ・石野いしの、通称;甚右衛門)?-1763 駿河清水の国学者;賀茂真淵門

I3722 広江(ひろえ・中原なかはら、通称;喜蔵、幕臣石野広通ひろみち8男)1780-? 江戸の生、幕臣;小姓組、歌人、1798刊石野広通「霞関集」入、
[咲く花の盛りをとひて行きかへる袖の香ふかき梅の下道](霞関;春60)

K3703 尋枝(ひろえ・田島たじま、初名;和雄)1846-9146 上野高崎連雀町の鰻店;清香庵を経営、国学・歌;新居守村門、鰻を捌きながらも本を側に置き勉学、深井仁子ひとこの師、歌人、「万葉集長歌批点」「秋野のあそび」著、
[尋枝(;名)の通称/号]通称;仙吉/広吉、号;橘園/清香庵

F3758 弘雄(ひろお・桑原くわばら、通称;石太夫)?-? 江中期伊勢度会の神道家;伊勢外宮内人、1721/23「神道科戸風」、33延経「神名帳考証」(息弘世と校訂刊行)、「桑原弘雄覚書」著

F3759 寛雄(ひろお・佐藤さとう) ? - ? 江後期天明-文化1781-1818頃上州の榛名神社神職、法眼、1783「榛名山志」、「榛名山地名考」「榛名山号考」「榛名山伝来深秘」著、「榛名神社神楽私記」「榛名神社末社記」著、五大庵一米(佐藤常範;華道/俳人)の父、
[寛雄(;名)の字/通称/号]字;君尚/文仲、通称;左中太、号;信斎/屈斎

L3731 弘夫(ひろお・三浦みうら、旧姓;高村/号;静篁舎)1833or32-191381or82 駿河庵原郡蒲原町の生、三浦家を継嗣/15歳のとき江戸小石川に住;和漢学修学/国学;富樫(鬼島)広蔭門、維新(1868)頃;歌;大久保忠寛ただひろ(一翁)門/門下に歌書を講ず、のち神職;小梳神社の祠官;1876(明治9)出島竹斎と境内に静篁舎を創設し子弟教育、1883静岡県の神部神社・浅間神社・大歳御祖神社の祠官;3社の国幣小社昇格に尽力、1888国幣小社昇格後;初代宮司/皇天講究分所長、1902水落町に裁縫女学校を創立、

晩年は古典を講じ歌学を普及

- K3772 **広雄**(ひろお・阪/坂ばん、通称;雅楽介うたのすけ/号;扇廼舎) 1840-1901⁶² 尾張知多郡の神職、国学者、横須賀の愛宕神社神官/駿河浅間神社禰宜、
[散りやすき山吹の花ひと枝を折らばつぼみのほどに折らまし](愛宕社歌碑/阪正臣書)
- K3755 **寛雄**(ひろお・贅川にえかわ、通称;直一郎) 1840-1913⁷⁴ 駿河駿東郡の国学者;富樫広蔭門、貞雄の孫
- K3766 **海雄**(ひろお・早尾はやお/本姓;藤原、) 1843-94⁵² 上総武射郡の国学者;平田鍊胤門、二荒神社宮司、維新後;権大講義、安房神社少宮司、伊勢神宮禰宜、誠三の父
[海雄(;名)の初名]敬直/惇実
弘雄(ひろお・松田) → 大直(もとなお・松田まつだ、神道/国学) L 4 4 3 8
- I3736 **弘岡**(ひろおか・矢田部やたべ) 1797-1873^{77歳} 紀伊海部郡矢宮神社祠官/紀伊藩神道方、国学者;本居大平門、大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌/短歌入、弘佳ひろよしの父、
[そみどりのみどりにかへる木の芽らをうちいでつつ見る春しよろしも](八十浦;711)、
[弘岡(;名)の通称/号]通称;意々橘/主殿とも/内匠たくみ/釧くしろ、号;賢木屋
- F3760 **弘興**(ひろおき・小峯こみね、別号;弘致)?-? 江前期延宝-元禄1673-1704頃甲州流兵法家、;大木富斎門/1679皆伝、師と関東・中部・東海の戦跡踏査、甲斐府中藩柳沢吉保の恩遇を得、1679「甲陽軍大全」、99「甲陽軍伝解」編、「甲陽巡見聞書」「甲国聞書」「孫子始末論」著、
[弘興(;名)の通称/号]通称;平太夫、号;玄入斎
広沖(ひろおき・安田) → 雷石(らいせき・安田やすだ/早川、医者/俳) 4 8 7 2
- H3796 **弘臣**(ひろおみ・足代あじろ/本姓;度会わたらい、別号;敦親、中山正武男) 1750-98⁴⁹ 足代弘伊の養嗣子、伊勢外宮禰宜、町年寄、俳人、1775「門すゞみ」、1801「人日春興」、85「花をはじめ」著、
[弘臣(;名)の号] 篁亭/神風館10世、弘魚ひろなの父
- F3761 **道臣**(ひろおみ・河合かわい、宗見男) 1767-1841⁷⁵ 姫路藩家老;1787家督、酒井家4代藩主に30年出仕、藩政改革/殖産興業に尽力、1821私財で仁壽山学問所設立、1835致仕、詩歌/茶を嗜む、姫路神社境内寸翁神社に祀らる、養嗣子;松下高知男の良翰(さとたか/よしさと)、
「和漢書籍目録松下目録」著、良臣三介(土方有経・丹羽貴明)の1、
[道臣(;名)の幼名/別号/字/通称/号]幼名;猪之吉、別号;鼎(;初名)/定一/宗鼎、
字;漢年、通称;隼之助/;隼之介じゅんのすけ、号;白水/竹墩ちくどん/蘭窩/墨水/寸翁
- I3733 **広臣**(ひろおみ・平野ひらの、春策男) 1773-1853⁸¹ 尾張名古屋藩医者;1816(文化13)家督嗣;寄合医師、父の[春策]を継承/1823(文政6)世子斉温の侍医;江戸住;1839斉温没、1843(天保14)近衛基前室(維学心院)の侍医/1844(弘化3)名古屋帰藩;禄3百俵、国学者;1800本居宣長・春庭門/歌;江戸の小林歌城門、神道家、神谷三園らと好古の同好会、歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;13首入、
[わが屋戸の藤なみの花しなひよくしなふさかりを見ればたぬしも](八十浦;566)、
[あやしとも怪しかりけり世々の人中子ながの道に迷ひ来るは](八十浦;572/中子;仏)
[広臣(;名)の別号/通称]別号;方穀、通称;春芳/春策(父の称)、法号;上池院
- F3762 **広臣**(ひろおみ・橋本はしもと、通称;亘) 1826-74⁴⁹ 武州忍藩士のち常陸下妻藩主井上家出仕の公用人、維新後は和泉塚の大鳥神社禰宜/権中講義、歌;黒沢翁満門、歌・書を嗜む、「和歌採風集」著、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[降りつもる雪の夕べのしづけさはものの音さへかすみかてけむ](現存百人一首;19)
- F3763 **弘蔭**(ひろかげ・藤原ふじわら、家宗男)?-904 母;藤原山蔭女、廷臣;蔵人/日向守/大学頭、継蔭の兄、伊勢(;歌人)の伯父
- F3765 **寛蔭**(寛陰ひろかげ・白井しらい/初姓;宮下) 1792?-1870?^{79?} 上州群馬郡白井村の国学者;黒川春村門、白井村出身で白井と改姓、検校、博学、のち江戸住、1860音韻仮名用例「64増補古言梯微略」著、「東谷鈔」「当道秘訣」「翻切撰名用捨論他二編」編、「憑切憑韻起源考」著、
[寛蔭(;名)の通称/号]通称;船輔、号;東谷/宏陰
- 3714 **広蔭**(ひろかげ・富樫とがし/本居/鬼島、井手由英男) 1793-1873⁸¹ 和歌山の木綿商の生、俳諧を嗜む、国学者・歌;1820本居大平門/22大平の養子/23;離籍/祖父母の富樫姓を名乗る/本居春庭門、言語の音義的研究、伊勢桑名春日社・多度社の祠官、1850桑名中臣神社の社家鬼島家の嗣、1855孝明天皇に歌集献上;従五下/土佐守、58富樫に復す、「言幸舎家集」「万葉集類句」、

「万葉集類辞解」「伊勢物語訳解」「塊老翁随筆初編」「記紀類辞解」「九集類辞訳解」、
「源氏物語類語詳解」「源氏物語大意鈔」「古今和歌集正正義」「ちりつか」「詞玉橋」著、
1857「千百人一首」編(1855土佐守就任記念;門詠37万余から撰出/類題)、
「辞玉襷てにをはたまたすき」外編著多数、鬼島さじま広睦ひろちか・伊豆女(1834-67)の父、広厚の養父、
[広蔭(;名)の別名/通称/号]別名;長平/景友/幸足、通称;豊松/倭/操/庄左衛門、
号;花酒屋咲足(;狂歌号)/言幸之舎ことさきわいのや/塊老つちくれのおじ、多度社宮司小串重郷の師

- F3764 **広蔭**(ひろかげ・竹村たけむら) 1793-1866 74 遠州敷知郡入野村の庄屋(竹村尚規なおりのの分家筋)、
歌:小栗広伴・本居大平門、八木美穂と親交、
「農家心の鞭」著、家集「門田の八束穂」、1852「変化抄」著、
[広蔭(;名)の通称]又蔵/元蔵
- F3766 **弘蔭**(ひろかげ・松本まつもと) 1806-1864 59 土佐の国学者;1839鹿持雅澄門、歌;家集「松葉まつのは集」、
1845「万葉集古義注釈目録」編/51「日本紀歌詞師説」60「土佐日記地理辨追考」著、
[弘蔭(;名)の通称]吉右衛門/源平
- J3776 **広景**(ひろかげ・清水しみず、通称;勇太郎) 1847-1917 71 陸奥仙台の国学者;落合直亮・平田鉄胤門、
歌;八田知紀門、1891「伊勢両宮御伝記」著、
落合直亮著「てにをはのたまだすき」「そへひも」の出版
広景(ひろかげ・谷) → 孝道(たかみち・谷たに/源/西沢、歌人) Y 2 6 1 3
弘景(ひろかげ・錦織にしごり) → 唐磨(からまろ・千柳亭、綾彦、医者/狂歌) F 1 5 9 6
弘蔭(ひろかげ・並木) → 義男(よしお・松岡まつおか/磯部、神職) P 4 7 1 0
寛陰(ひろかげ・榎本) → 清蔭(きよかげ・榎本えのもと、藩士/国学) T 1 6 6 3
- M3752 **広員**(ひろかず・藤原ふじわら、) ? - ? 鎌倉期;廷臣/歌人、1237素俊撰[檜葉集]3首入、
[三位知家卿(・六条/1182-1258/顕家男/正三位)の家にて人々春月をよみ侍りけるに、
もしほやく浦のけびりのよそにても猶おぼろなる春の夜の月](檜葉;春82)、
[五月ばかりあづまのかたにまかりけるに富士の山のふもとに郭公のなきければ、
雪きえぬふじの山べのほととぎすおのが五月をいかでしるらむ](檜葉;羈旅62)
- F3767 **弘員**(ひろかず・足代あじろ、弘氏男/本姓;度会わらい) 1657-1717 61 伊勢外宮権禰宜、国学/談林俳人、
[弘員(;名)の号] 雪堂/神風館2世
- F3768 **広計**(ひろかず・古田ふるた、字;弘卿) ?-? 江後期1785-1830頃豊後岡藩士/藩校由学館設立に尽力、
副学正/家老職:学政を整備、山鹿流兵学を修得、
歌人;小野資文・海量(1733-1817)・加藤千蔭(1735-1808)・村田春海(1746-1811)門、
1785-1830「不染斎歌集」、「岡藩家老次第考」著、
[広計(;名)の通称/号]通称;左馬允さまのじょう/中務、
号;淵黙/不染斎/温故堂、勘解由/老岐/曲肱/川上園
- J3747 **弘般**(ひろかず・倉沢くらさわ、通称;久兵衛) 1791-1875 85 信濃伊那郡の国学者;平田鉄胤門
- F3769 **弘運**(ひろかず・孫福まごぶく/本姓;度会、初名;察経、中川経政男) 1800-66 67 孫福弘利の養嗣子、
伊勢宇治の神職;内宮権禰宜、歌人、「公卿勅使記」著、
[弘運(;名)の通称] 右近/監物
- J3769 **寛一**(ひろかず・齋藤さいとう/本姓;藤原、) 1801-82 82 上野多胡郡の国学・歌人;橋本直香ただか門、
[寛一(;名)の通称/号]通称;佐源治、号;合翁/酒幸
- K3788 **礼和**(ひろかず・二神ふたがみ、源三郎具種男) 1845-1920 76 伊予宇和郡城辺村の庄屋(8代目)、歌人、
長州征伐に藩命で郷土兵98人をつれ三机に遠征/村長/1879常盤城掘埋立;中町造成、
弟;藤種(嘉/「二神内記」「二神外記」の著者)、駿吉の父、
[礼和(;名)の通称/号]通称;道治郎/作馬/十郎左衛門/深蔵、号;深水
寛和(ひろかず・清水) → 完和(さだかず・清水しみず/中島、藩士/歌) O 2 0 6 0
- F3770 **弘風**(ひろかぜ・伊藤いとう、通称;国介/七郎右衛門) ?-? 江中期近江日野の国学者;飛鳥井雅章門、
1739「国名抄」著
- K3783 **広風**(ひろかぜ・藤井ふじい、通称;遠江) ?-1770 備中賀陽郡の吉備津神社の社家、国学者
- I3747 **広風**(ひろかぜ・中坊なかのぼう) ? - 1878 旗本/幕臣;駿河守、1842(天保13)日光奉行、
1844(弘化元)勘定奉行/のち甲府勤番支配、妻;林述斎5女の緯こと、広胖ひろなおの父、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(息子広胖ひろなおと共に入集)、

[野となりて聞く人もなきふるさとに昔ながらの松虫の声]、

(大江戸倭歌;秋798/故郷虫)、

[広風(;名)の通称]長兵衛/駿河守

3716 広方(ひろかた・占部うらべ) ? - ? 755防人/常陸国助丁すけのよほろ、万葉廿4371

[橋の下吹く風のかぐはしき筑波の山を恋ひずあらめかも](万葉集;廿4371)

M3729 広賢(ひろかた・六角ろかく/本姓;藤原、烏丸光広2男)1630-58早世29 高家六角家初代当主、

従四下木工権頭、当時は家名[六角院]と称したか?、和学/歌人、

1647(正保4)・守澄法親王の関東下向に随従し江戸に下る、1658(万治元)没、

子の広治は高家旗本となる、

[広賢(;名)の初名/号]初名;広隆、号;桃園

K3723 広方(ひろかた・寺崎てらさき、経広男)1644-172885 母;寺崎忠広女、出羽久保田(秋田)藩士;

目付/物頭/裏判奉行/本方奉行/寺社・勘定・町の三奉行上席、宿老席に列す/520石、

広正・広政の兄/横広・家茂の父/養子;広生(小野崎通貞3男)が家督嗣、

[広方(;名)の初名/通称]初名;俊広、通称;弥九郎/弥左衛門/弥五右衛門

I3706 弘賢(ひろかた・舟橋ふなはし、初名;相起、秀相[秀雅]男/本姓;清原)1684-171431 兄経賢つねかたの嗣、

廷臣;1701従三位/03刑部卿/14正二位、「明経道勘文」「和歌御会之間事」「筮案」著

L3718 洋方(ひろかた・石尾いしお/本姓;荒木、)1702-176766 近江彦江藩士/歌人;烏丸光栄門、

1844野津基明「彦根歌人伝」亀ノ巻入、

[洋方(;名)の通称/号]通称;亥之助/太助/八十左衛門、号;大虫/可雲

I3781 広方(ひろかた・大江おおえ、号;藤街)1703-173836 加賀江沼郡菅生石部ぢういそ神社の神職、儒者、

性理学(宋学の中核)に興味/上京;伊藤平蔵(竹里/仁斎男)の門、帰郷後没

K3764 大方(ひろかた・服部はつとり、)1703-177371 近江彦根の伊賀衆、歌人;[彦根歌人伝・亀]入、

[大方(;名)の通称/号]通称;勘左衛門、号;永正亭

3715 弘賢(ひろかた・屋代やし、幕臣佳房男/本姓;源)1758-184184 江戸神田明神下の書家;1764森尹祥門、

持明院宗時門、国学者;塙保己一・松岡辰方門、儒;山本北山門/故実;伊勢貞春門、

歌;冷泉為村・為泰門、1779家督嗣/幕臣;81西丸台所出仕/86本丸付書役/90「国鑑」編参加、

1792柴野栗山の京・大和の寺社旧記調査に同行、93幕府奥右筆所詰、群書類従校刊参加、

書籍蒐集;不忍文庫(にち徳島の阿波文庫に収蔵)、「弘賢家集」「弘賢随筆」「弘賢雑筆」著、

「万葉集四種考」「池の藻屑」「過眼掌録」「机上掌録」「金石記」「玄猪考」「古量考」「虫蛭録」著、

「輪池叢書」編、「輪池翁歌集」「輪池拾葉」「輪池掌録」、1821-41幕命:「古今要覧稿」編、外多、

蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、

[御前にて手に摘む菊の露の間も君は千代ませと思ひけるかな]、

(大江戸倭;冬1119/初めて玄猪[亥の子の祝]賜る時の思い)

[弘賢(;名)の別名/通称/号]別名;詮虎/詮賢/詮丈、通称;太郎/太郎吉、号;輪池りんち、

M3721 大堅(ひろかた・山田やまだ、)1759-183072 越後刈羽郡の大肝煎、歌人;冷泉為則門、

[大堅(;名)の通称/号]通称;惣左衛門(代々の称)、号;友廬/寡葎かあん

F3771 祐賢(ひろかた・西浦にしうら、号;鶴亭)?-? 江後期大阪の文筆家、1812「東のつと」

J3760 弘方(ひろかた・近藤こんどう、茂左衛門弘美男)1800-187980 母;伊那の堀尾直賢3女の雪ゆき(雪子)、

信濃松本の名主/酒造・薬舗業;堤屋、紀伊・尾張・水戸御三家の御用達、

国学;出雲神官中村守臣/歌人;香川景樹門、山本貞一郎(いぢろう(弘素ひろもと)の兄、

勤王思想;1858貞一郎と江戸へ出て向島に私塾開設;兵学・書を指導、

水戸藩主徳川斉昭の内意で上洛;三条実方・近衛忠熙らと交流、

1858戊午の密勅を仲介;幕府に追われ大津宿で捕縛(貞一郎は京で自殺);1859越後追放;

家財没収/家族も連座・幽閉、ここより安政大獄が始まる、

1862(文久2)赦免;越後より帰郷/家屋・田畑を賜わる、

[弘方(;名)の通称/号]通称;茂左衛門(代々の称)、号;楽平斎/常磐道林、屋号;堤屋

母 → 雪子(ゆきこ・近藤こんどう/堀尾、国学/歌)G 4 6 8 5

弟 → 弘素(ひろもと・山本やまもと/久保田/近藤、国学/尊攘)J 3 7 6 1

F3772 広賢(ひろかた・林はやし、広胖男/本姓;太秦うずまさ)1815-? 1850存 天王寺方楽人/右馬大允/日向守、

1845豊前守/50正五下、「四天王寺舞楽之記」「笙ノ譜」著

- 太賢(ひろかた・浅利) → 太賢(もとかた・浅利、神道家) C 4 4 3 3
 広賢(ひろかた・小武) → 友梅(ゆうばい:法名・慶松、薬種業/歌人) D 4 6 5 7
 広賢(ひろかた・古内) → 弘見(ひろみ・古内ふるうち、邑主/国学) K 3 7 9 1
 寛勝(ひろかつ・平山) → 蝶酔(ちようすい・平山ひらやま、商家/俳人) J 2 8 0 8
- L3709 **広門**(ひろかど・伊野部いのべ、通称;金六)1799-1849⁵¹ 土佐高知藩の藩老福岡家の家臣、
 国学者;鹿持雅澄門?、国学・歌人の伊野部厳水いづみの父
- K3708 **純門**(ひろかど・多羅尾たらお、氏純うじすみ/-ひろ男)1803-78⁷⁶ 父の庶長子、父を継嗣;幕臣;近江信楽代官、
 国学;本居内遠・萩原広道・佐々木弘綱門、妻;藤女(1812-84/土井清子/国学)、
 [純門(;名)の通称/号]通称;久右衛門、号;梅賀
- J3784 **広門**(ひろかど・城じょう、)1816 - 1880⁶⁵ 紀伊熊野江住の地土、国学者、
 [広門(;名)の通称/号]通称;四郎右衛門、号;稻香
- K3729 **大門**(ひろかど・道家どうげ、遠藤浦右衛門正利4男/津田)1830-90⁶¹ 美作苦田郡の津山藩士、国学者、
 伯父津田七太夫文行の養子;津田弥作儲美と称す、1861(文久元)津田の本姓[道家]と改姓、
 藩の料理番/1868(慶応4)御刀番/維新後;作事奉行、藩命で国学修行;平田鋏胤門、
 歌;安藤野雁ぬかり門/桜木に至情を刻した児島高德の精神を顕彰する霊社の建立;
 1869(明治2)作楽神社社司と命名;初代洞官/祠職;道家大門と改名、
 [弓とらず太刀さへはかずなりにけりかがしのまへをゆくもはづかし](廃刀令の悲憤)、
 [大門(;名)の別名/通称/号]初名;弥作/八尺/順、通称;助十郎、号;虎乗
- F3773 **広周**(ひろかね・土佐とさ、初名;光持、光重or行秀男)?-? 室町前期絵師;土佐行広門/1439画所預、
 従五上/土佐守/弾正忠、「道成寺絵巻」、「天稚彦草子」著(ベルリン博物館蔵)、
 [広周(;名)の法名]経増
 広兼(ひろかね・諏訪/島津)→ 甚六(じんろく・諏訪すわ/島津、藩家老) Q 2 2 2 3
 広金(ひろかね・林) → 広守(ひろもり・林はやし、楽人/作曲) K 3 7 6 8
 広川(ひろかわ・中島) → 広足(ひろたり・中島/越智、藩士/国学者) 3 7 2 1
- 3717 **広河女王**(ひろかわのおおきみ/-じょう、上道王かみつみちのおおきみの女)?-? 奈良期;万葉四期歌人2首694/695、
 763従五下、穗積皇子の孫、新勅撰727、
 [恋草こひぐさを力車ちからぐるまに七車なぐるま積みて恋ふらく我が心から](万葉集:四694)、
 (力車は大型の荷車/重荷の恋をはびこる草に喩える)
- M3724 **比呂伎**(ひろき・山本やまもと、)1791-1871⁸¹ 越後魚沼郡小千谷の国学・儒学者、
 振徳館を創設;子弟教育、のち川合神社祠官、「五十鈴廻川波」著(没後;1894刊)、
 [比呂伎(;名)の通称/号]通称;恒次/徳右衛門、号;春林/甘池園/青鸞
- F3774 **広城**(ひろき・堀内ほりうち/本姓:源)1794-1856⁶³ 伊勢飯高郡宮前村の地侍/国学者;本居春庭門、
 のち本居大平・内遠門、1831「神代真玉光」著、50「活語初の葉」校訂、「戊子年月次歌合」参、
 大平撰「八十浦の玉」下巻:長歌[局が岳の紅葉]入、
 [はしけやしわが山里の高山のにほふもみちを見らくしよしも](八十浦;1002反歌)
 [広城(;名)の初名/通称/号]初名;良勝、通称;文次郎/利吉郎/利右衛門/主勲、
 号;五葉蔭、法号;宗瓊、千稻ちしね/千園ちそのの父
- F3775 **弘器**(ひろき・竜廻屋たつや・姓:柴田、名;博)1794-1868⁷⁵ 尾張藩医、狂歌作者;
 名古屋続六狂歌仙の1、雑俳;五側判者/当時江戸で流行の柳多留風の句を尾張地方に移入、
 平野広臣・神谷克服・平出亀寿・園田文園らと同好会;好古の道の研究、
 1823「佐久良鯛」(呉竹連催川柳)/1859「狂歌常鎮集」編、
 且斎の弟、雲阿の兄、妻;鈴木腹あきらの姉、承桂の父、
 [竜廻屋弘器(;号)の字/通称/別号]字;公篤、通称;承慶、
 別号;海城/香窓/玉淵子/鱗堂/雅流園/竜溪/水魚洞/金星軒、法号;徳法院
- J3748 **寛樹**(ひろき・栗田くりた、通称;喜文治)1807-59⁵³ 信濃更級郡の染色業、
 国学/歌;香川景樹・橘守部門
- I3790 **広城**(ひろき・太田おた、喜満多久容2男)1837-1911⁷⁵ 陸奥三戸郡角柄折村の生;代々地形給人、
 八戸藩士;家督を継嗣;喜満多久伝と改称/藩主より[広城]を拝命、1863(文久3)納戸役、
 1864屋敷固砲術士;足輕に鉄砲訓練/当田清見流棒術・川崎流柔術も修得、国学者、
 1867(慶応3)目付兼勝手方取締物産係、藩の使として奔走、1869藩制改革で参政兼公務人、

以後青森県役職を歴任/1878東京第六十銀行社員;川路大警視の秘密探偵を兼務、晩年;八戸に帰郷し詩歌に興ず、

[広城(;)名)の通称/号]通称;耕助/直次郎/久伝(・喜満多)、号;星英堂北雄/百丈軒一毛

J3713 **広樹**(ひろき・川上かわかみ、本姓;中村)1839-9557 江戸の足利藩武家屋敷の生、学問;中条某門、儒学;日尾直鷹(荊山)門、国学・歌;奥河内(今尾)清香門、下野足利藩士;家老、1861(文久元)田崎草雲と農民兵の育成に尽力、1862(文久2)藩政改革の建白書を藩主戸田忠行に提出/63改革を開始;郷土教育、幕末期に藩内を尊王派にまとめる、維新後;足利藩大参事、晩年;郁文館で儒学教育「足利学校事蹟考」著、

[広樹(;)名)の通称/号]通称;八十吉やそきち/才輔、号;春山

巨城(ひろき・源) → 巨城(おおき・源、廷臣/歌人) C 1 4 7 7
広城(ひろき・大野) → 広城(こうじょう・大野、国学;故実) B 1 9 3 8
広城(ひろき・便原亭) → 便原亭広城(べんげんていひろき、狂歌作者) B 2 7 4 5
広材(ひろき・中山) → 豊村(とよむら・中山なかやま/多治比、国学) T 3 1 3 0
広吉(ひろきち・山田) → 道悦(どうえつ・山田、軍法家) B 3 1 4 0
広吉(ひろきち・磯田) → 天広丸(あめのひろまる、狂歌) F 1 0 1 2
広吉(ひろきち・山本) → 輪田丸(わだまる・山本、醸造業/狂歌) 5 3 4 2
広吉(ひろきち・近藤) → 名洲(めいしゅう・近藤こんどう、心学者) 4 3 2 0
広吉(ひろきち・若菜) → 基輔(もとすけ・若菜わかたけ/平/野城、国学) L 4 4 9 2
広吉(ひろきち・田島) → 尋枝(ひろえ・田島たじま、商家/国学者) K 3 7 0 3

F3776 **広公**(ひろきみ・大伴おおとも、泰広か?)?-? 近江三井寺(園城寺)の新羅明神社の社司、1484辞書「温故知新書」著(序;園城寺学僧尊通[1427-1516])

F3777 **大潔**(ひろきよ・宇都宮うつのみや)1805-7571 播磨饒摩郡英賀村の博学者;高持百姓家の生、国学者/歌人;大江広海門、賀茂季鷹門;歌・国学・書を修学、陰陽道;土御門家入門、郷土史研究家/教育者、歌;1828-54加納諸平「鱈玉集」・57-58大沢深臣「巨勢総社千首」・1859秋元安民「類題青藍集」・「菅野屋集」などに入、「播磨奇人伝」編/「播磨後風土記」「地理天機」著、
[大潔(;)名)の通称/号]通称;大進、号;鐸綱/昌斎/鋏斎しゅうさい(;)隠居号)/鰐部翁

F3778 **広精**(ひろきよ・高橋たかはし/藤原、鈴木広視の養子)1808-6962 陸奥安達郡の安達太良明神社神主、1869高橋家(1683廃)を復興;安達太良明神社社格復興に尽力、歌人:「菅の小笠」著、「安達郡名義考」「大祓詞講本」「花かつみ考」「大祓太祝詞追釈」「旅日記」著
[広精(;)名)の通称] 修理亮(允)/豊前介

広口(ひろくち・鱸) → 鱸広口(すずきのひろくち、狂歌作者) D 2 3 7 7

F3779 **広漢**(ひろくに・毛利もうり、長門藩士広規男)1723-5937 長門萩藩士;1752江戸詰、1753藩主毛利重就の初参勤に随従;将軍に謁見/藩主の侍講、儒家;山県周南門/江戸で服部南郭門、詩文・書画・管絃を嗜む、「学則集話」著、滝鶴台「豊西君詩集序」があるが広漢の詩文稿は散佚、山内琴台の兄、
[広漢(;)名)の幼名/通称/号]幼名;権之助、通称;宮内/兵庫/下野しもつけ、号;豊西/南陵

I3777 **弘国**(ひろくに・緒方おがた、熊本藩士文兵衛の長男)1843-192078 肥後熊本の生/八代郡八代宮の宮司、国学者;木原楯臣(藤園)・林有通門、

[弘国(;)名)の別名/通称/号]別名;楯成、通称;小太郎、号;櫛山

弘邦(ひろくに・大倉) → 古音(こおん・大倉おおくら、神職/俳人) C 1 9 1 7
広国(ひろくに・小栗) → 広伴(ひろとも・小栗おぐり、国学/歌人) G 3 7 5 4
広国(ひろくに・関) → 勇助(ゆうすけ・関せき、藩士/国学者) C 4 6 8 8

K3709 **灌子**(ひろこ・伊達だて、通称;窈、伊達重村10女)1787-182135 江戸の生/歌人、

1800(寛政12)登米伊達家第10代当主伊達村幸むらゆき(村良2男/1777-1803/重村従弟)の正室、1803(享和3)夫村幸(27歳)没;落飾/号;順孝院

広子(ひろこ・渡辺) → 温子(あつこ・伊達だて/渡辺、側室/歌) H 1 0 9 1

寛子(飛呂子ひろこ・深谷/寛美の妻) → 寛美(ひろよし・深谷ふかたに、与力/歌人) K 3 7 8 1

3719 **広言**(ひろこと・ひろとき・惟宗これむね、基言男)1132?-1189/1208?: 58-77歳 廷臣;少監式部/筑後守、

島津氏の先祖との伝説あり、歌人：歌林苑会衆、今様：後鳥羽院門、1172広田社歌合参加、1187貴船社歌合参加、私撰「言葉集」編（散佚）、「惟宗広言集」著、勅撰6首；千載（5首116/323/376/472/934）玉葉（1800）、

[いかなれば春をかさねて見つれども八重にのみ咲く山吹の花]（千載；二116/除目の嘆？）
熙載（ひろこと・松室） → 松峽（しょうこう・松室まつむろ、神職/白話小説）S 2 2 1 1

[寿明（；名）の通称/号]通称；、号；春園

広五郎（ひろごろう・亀山） → 寿明（ひさあき・亀山かめやま、国学者） J 3 7 1 0

祐左衛門（ひろざえもん・大野） → 祐之（ひろゆき・大野おおの、和算家） H 3 7 6 5

宏左衛門（ひろざえもん・村上） → 頑山（がんざん・村上むらかみ/長野、儒者/歌）V 1 5 9 3

F3780 **広前**（ひろさき・内藤ないとう/本姓；藤原）1791-1866 76 江戸の幕臣；大番組与力/御先手組同心、国史・律令を修学/致仕、牛込榎町に移住；国学古典研究、尾張藩主の命で裏松光世「大内裏図考証」校訂；全図制作、水野忠央ただなか「丹鶴叢書」編纂参加、1810「万葉長歌類句」28「姓氏録見要」著、1840「大内裏図考証補正」「大内裏全図」、「和名部類」著、45「令義解見要」編、「国史拾遺」「古今類聚名諱伝」「紹運録見要」「賢木園雑記」外著多数、歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[秋されば露より先におきいでてみるもめづらしあさがほの花]（大江戸倭歌；秋754）

[広前（；名）の初名/通称/号]初名；広庭、通称；浜次郎、号；賢木園さかきのその

F3781 **広貞**（ひろさだ・出雲いづも、姓；連/宿禰、本姓；菅原）?-820? 撰津の生/京の左京住の侍医・典薬助、美作権掾を兼務、805桓武天皇の病を治療；勅命で808安倍真直らと「大同類聚方」撰上、薬升大小の量を制定、8011内薬正/22正五下（没後?）、「難経開委」、菅原岑嗣みねつぐの父

F3782 **弘貞**（ひろさだ・南淵みなぶら朝臣/本姓；息長真人、坂田奈豆麻呂男）777-833 57 廷臣/漢学；大学で修学、文章生/810大内記/813美作掾/式部少丞/815蔵人/式部大丞/821東宮学士、823弟永河と南淵朝臣を賜姓/825参議/827石作山陵の使、下野守・刑部卿・右兵衛督兼任、831従三位、「令義解りょうのぎげ」撰修に参加、「経国集」編纂参加；詩人、永河ながかわの兄、
[南淵朝臣の初姓かばね] 槻本公/坂田朝臣

F3783 **広定**（ひろさだ・蒔田まいた、別名；正時、広光男/本姓；藤原）1571-1636 66 尾張織津の武将/豊臣家臣、関ヶ原で石田光成軍に参戦；高野山に蟄居/浅野幸長を介し家康に謝罪；赦免、備中等に領地1万石；備中浅尾初代藩主、大坂陣では息定正と東軍に参加、1850「美人草」著、
[広定（；名）の通称/法号]通称；左衛門権佐/権之助/八専之助、法号；隆栄院、定正の父

3718 **熙定**（ひろさだ・清閑寺せいかんじ、熙房男/本姓；藤原）1662-1707 46 母；高倉永敦女、廷臣；1684参議、1698従二位/99権大納言、1684「熙定朝臣日記」著、法号；信解院、治房の父

F3784 **広貞**（ひろさだ・竹田たけだ、初名；庄五郎、三河の武士内藤重式男）1673-1725 53 金春流能楽師；1685竹田権兵衛広富門/87養子、加賀藩に出仕；金沢藩金春流能太夫/3百石、能楽史を研究、1714「歌舞名物同異抄」16「徳華問答抄」、「風流の事」「禁中猿楽由来」、「五音次第細釈」「能之濫觴略記」「拍子之本義」「笛鼓之本義」「仏法執義之説」外著多数、
[広貞（；名）の通称/法号]通称；弁四郎/権兵衛3世、法号；声応見利居士

L3708 **夏鼎**（ひろさだ・井上いのうえ、永俊男）1740-1803 64 備中倉敷の商家；宮崎屋/富豪、歌人；香川景平・小沢蘆庵門、妻；政子（歌人）、常之（つねゆき/端木はしき）の父、小野季頤正子夫婦の師、歌；[類題吉備国歌集]入（20首）、
[夏鼎（；名）の別名/字/通称/号]別名；永美、字；子徴/君敬、通称；文吉/善右衛門/五蔵、号；素堂、屋号；宮崎屋/花屋

H3777 **寛貞**（ひろさだ・芝しば、通称；越中守）1770-1842 73 京の国学者

H3778 **寛定**（ひろさだ・南みなみ、通称；助五郎）?-? 江後期陸前仙台藩士/和算家；千葉胤秀門、1828「数理捶鳴」著、「仙台五十好解義」校訂、「題術遺稿」

H3779 **広定**（ひろさだ・中島なかじま/本姓；源、広足3男）1823-80 58 肥後熊本藩士、国学；父門、のち菊池神社宮司、1852広足「櫃のしづ枝」序、
[広定（；名）の別名/通称/号]別名；広徳/広延、通称；五郎三郎/源兵衛/源三郎、号；後櫃園のちのかしどの、櫃園

広貞（ひろさだ・山本） → 広足（ひろたり・山本、神道家/詩人） G 3 7 3 3

- 広貞(ひろさだ・寿庵ことぶきあん)→知空(ちくう・石橋いしばし、国学/狂歌/僧)M 2 8 0 4
 広貞(ひろさだ・大江) → 松隣(しょうりん・大江、儒者/彰考館総裁) L 2 2 9 7
 広貞(ひろさだ・平尾) → 信種(のぶたね・平尾ひらお/平井、僧/医/国学) J 3 5 8 3
 広定(弘定ひろさだ・住吉)→ 弘貫(ひろつら・住吉すみよし、幕府絵師) G 3 7 4 5
 弘貞(ひろさだ・大内) → 余庵(よあん・大内/多々良、医者/地誌) 4 7 5 0
 弘貞(寛貞ひろさだ・今) → 幹斎(かんさい・今こん、藩侍医/詩文) V 1 5 5 2
 I3763 寛郷(ひろさと・内部うちべ、) 1841-1897 57 出雲の国学者;中村守手もて門、
 松江藩国学教授/権大教正、
 [寛郷(;)名)の初名/通称]初名;外弘、通称;林蔵
 H3780 広猶(ひろさね・林はやし、広基3男/本姓;太秦うずまさ) 1750-1817 68 母;安倍季任女、林広規の養子、
 天王寺方楽人/正四下/1760大炊権助/63主計権助/68日向守/1813正四下、
 1771「林広猶懐中笙譜」編、79「温故抄」1809「天王寺楽家林家琵琶伝統記」著
 H3781 弘実(ひろさね・富田とみだ、初名;喜代治、茂実男) 1790-1863 74 陸前仙台藩士;武頭/脇番頭、楠氏兵法、
 1825「女御入内ニ付禁裏江之副使被仰付候御用留並自分記事」著、
 [弘実(;)名)の通称/号]通称;三郎左衛門、号;梅樹
 F3785 弘孚(ひろさね・孫福まごぶく、弘含男/本姓;度会わたらい) 1830-1905 76 伊勢宇治の神職;1840内宮権禰宜、
 従四上、1871神宮改革で免職/復帰、「万葉語解摘要」「歌語訳解雑纂」編、「参宮次第」外多数、
 [弘孚(;)名)の通称/号]通称;寅吉/左近、号;耕天
 弘三郎(ひろさぶろう・取田)→ 正紹(まさつぐ・取田/橋、藩士/武家故実) D 4 0 9 6
 広沢隠士(ひろさわのいんし) → 長孝(ながよし・望月、歌人) 3 2 2 2
 広沢僧正(ひろさわのそうじょう)→ 寛朝(かんちょう;法諱、真言僧) R 1 5 4 0
 L3754 寛(ひろし・羽仁はに) 1731 - 1818 88 歳 長門萩藩士;大組士、
 俳人;美濃以哉派大野是什坊門、号;菖蒲庵初世/竹奥舎其音きおん、菊舎尼を大野傘狂に紹介
 F3786 寛(ひろし・川野辺かわのべ/川辺かわべ、重由男) 1746-93 48 上州高崎藩士;故事に通ず、
 藩主命で地誌編纂、1789江戸住;93江戸で没、
 「源頼政伝」「閩里歳時記」/1783「浅間山災異記」89「高崎志」著、
 [寛(;)名)の字/通称]字;子綽、通称;又次郎
 F3787 寛(ひろし・渡辺わたなべ、中村国香男) 1768-1855 88 上総夷隅郡長者町の郷土史家、渡辺家を継嗣、
 「南総珍」「里正談」「老媪茶話」「上総道中膝栗毛」著、
 [寛(;)名)の字/通称]字;子信、通称;増右衛門
 K3738 寛(ひろし・中村なかむら、) 1778 - 1842 65 備中都宇郡二子村の酒造業、詩歌人、
 国学・歌;藤井高尚たかなお門、
 [寛(;)名)の別名/通称/号]別名;義方/由多加、通称;孫三郎、
 号;躑躅つづじの舎(都通慈乃屋)、屋号;北国屋
 F3788 寛(ひろし・長谷川はせがわ) 1782- 1838 57 江戸の和算家;日下誠門、長谷川数学道場の創始者、
 算変法・極形術を創案/門弟多数を養成;数学の普及に貢献、「極形術定則」「算法増約術」、
 「算法採術だいじゅつ」「算法町見術」「塵劫記図解大全」編、「艸藁」「算梯」外著多数、弘ひろむの養父、
 [寛(;)名)の字/通称/号]字;子栗/栗甫、通称;藤次郎/善左衛門、号;西磻せいはん/極翁
 J3771 寛(ひろし・坂さかがみ、) 1784 - 1806 早世 23 撰津伊丹の国学・歌人;香川景樹門
 L3742 完(ひろし・宮城みやぎ、) 1789 - 1866 78 長門萩藩の医者;藩主夫人の侍医、
 歌人;[萩の歌人]入、
 [夏ふかくしげる木かげにたずねきてあつさ忘るゝ山の井の水]([萩の歌人]入)
 [完(;)名)の通称/号]通称;恭/恭伯、号;雲庵
 F3789 宏(ひろし・佐野さの、号;東庵/竹原ちくげん) 1795-1858 64 筑後甘木の医者/詩;広瀬淡窓門、詩画を嗜む、
 1850淡窓「懐旧楼筆記」評入/52「梅西舎詩鈔」著
 F3790 寛(ひろし・生方うぶかた/本姓;源、篠生院広弁男) 1799-1856 斬殺 58 上州沼田の書家;田部井諷齋門、
 巻菱湖門/江戸で書家としてたつ、画/撃剣を嗜む、宴席の舌禍で劍客金子竹四郎に斬殺、
 高久靄崖・福田半香と交流、1851「皇国三字史」著、権大僧都俵広しゅんこうの弟、
 [寛(;)名)の字/通称/号]字;猛叔、通称;造酒蔵みきぞう、

号;鼎齋/一粟居士/相忘亭主人/乳嶽/不動山人、法号;静恵

- F3791 寛(ひろし・和気わ) ? - 1858 越後新発田藩士;郡方、儒者;丹羽思亭門;門下4傑、中村沢齋の講述を纏める、「詩経口義」(:沢齋講述)編、誠・肅の父、[寛(;名)の字/通称/号]字;栗甫、通称;源四郎、号;果軒
- J3745 恕(ひろし・熊谷くまがい) 1813 - 1884 72 信濃伊那郡の小笠原家家臣、国学/歌人;小笠原三千子(信濃伊豆木領主夫人)・桜井春樹門 [恕(;名)の通称/号]通称;恕三、号;杏庵きょうあん/文杏
- M3733 広(ひろし・横山よこやま) 1822 - 1879 58 備前岡山藩士/儒者;姫井栗谷(孝たか之助)門、花房端連まさつら(蘭堂)・本庄(-城)梅屋(-翁)・難波松籟と交流、鷹取為鳩の易説を研究、藩の普通校及廣才校に採用;罹病し退任/家塾[水哉塾]開設、歌人、[広(;名)の字/通称/号]字;胖卿はんけい、通称;廉蔵/廉叟、号;香蔭/松窓しょうそう
- L3785 寛(ひろし・中川なかがわ、旧姓;光石) 1829-1905 77 美作勝田郡の生/英田郡宮地村中川家の養子;天石門別あめのいわとわけ神社神主を継嗣、国学;大原重徳・権田直助・矢野玄道門/歌;平賀元義門、1868吉田三位の召きで赤木盛常と上京;神威隊ぬ参加/内侍所を守衛、尊攘を主唱、1868赤木盛常と比叡山日吉神社の神仏分離に参加、帰郷;神典国学を教授/黒住教に入信、1857大沢深臣「巨勢総社千首」入、[身は裂けて骨は散るとも君のため国のためには火にも水にも](巨勢総社千首;嘉永六年1853巫墨利加の賊来るよし聞きて)[寛(;名)の初名/通称/号]初名;清彦、通称;陸奥、号;今守屋
- F3792 寛(ひろし・立野たの、名;元勲、忠篤男) 1830-85 56 安藝広島藩士;藩校で修学/儒;坂井虎山門、藩の句読師/藩用達所詰/1862時事探索のため江戸で周旋方;防長など奔走、戊辰戦では日誌方兼参謀として参加/1869藩の大属/74致仕/78広島新聞を発刊、「立野寛私記」著、[寛(;通称)の字/別通称]字;子業、別通称;一郎/勉
- F3793 寛(ひろし・大村おむら、通称;純道) ?-? 江後期淡路洲本の医者、1860「番沙新説」
- F3795 寛(ひろし・栗田くりた、雅文男) 1835-99 65 水戸の商家/国学;早くから才能を認められる、藤田東湖・会沢正志齋の知遇;1858彰考館入;豊田天功門、「大日本史」志表の編纂に参画、1892帝大教授/水戸に輔仁学舎を開塾、1852「姓氏辨」62「波夫理和射乃考」63「戸籍考」、1863「播磨風土記」65「神器考証」、「標注古風土記」「新撰姓氏録考証」「常磐物語」外著多数、[寛(;名)の字/通称/号]字;叔栗、通称;八十吉/利三郎、号;栗里/蕉窓/銀巷、恭徳たかりの弟
- D3701 広(ひろし・長谷川はせがわ、弘ひろむ男) 1842-78 37 江戸の和算家:(家学)父門、「久留米新宮長崎諏訪社奉額算題」編 [広(;名)の通称/法号]通称;善一郎、法号;広大院
- J3767 浩(ひろし・山川やまかわ、藩国老の重固男) 1845-98 54 母;西郷近登之女の艶えん、陸奥会津藩士、二葉の弟/健二郎・常磐・大山捨松らの兄、1860(万延元)父没;家督嗣/66藩命で上洛、1866(慶応2)幕府の遣露使節団員;フランス・ロシア訪問、戊辰戦争で鳥羽伏見・江戸転戦、会津で若年寄として戦費調達・藩兵西洋化に尽力、新政府軍との戦で日光口を防衛、若松城籠城;防衛総督、落城時に妻トセが爆死、戦後;禁固謹慎/斗南藩権大参事;生活困窮、1873陸軍省出仕;佐賀の乱・西南戦争で功績/総務局制規課長/高等師範学校長、貴族院議員歴任、「京都守護職始末」草稿著(弟健次郎が完成・刊)、[浩(;名)の別名/字/通称/号]別名;重栄、字;士亮、通称;常盤/大蔵おおくら/与七郎、号;屠竜子/二去堂主人

弘(ひろし・源)	→ 弘(ひろむ・源、廷臣/詩人)	H 3 7 4 4
弘(ひろし・長谷川)	→ 弘(ひろむ・長谷川、和算家)	H 3 7 4 6
弘(ひろし・赤松)	→ 大庾(だいう・赤松あかまつ/大川、儒者)	C 2 6 2 5
弘(ひろし・林)	→ 自弘(じこう・林はやし、藩士/和算家)	T 2 1 4 0
弘(ひろし・成島なるしま)	→ 柳北(りゅうほく・成島、幕臣/儒者/詩文)	F 4 9 6 7
弘(ひろし・松浦)	→ 武四郎(たけしろう・松浦、探検;北海道名付親)	E 2 6 3 8
弘(ひろし・酒泉さかいずみ)	→ 竹軒(ちくけん・酒泉、儒者/国史編纂)	C 2 8 9 3
弘(ひろし・土井)	→ 篤敬(とくけい・土井、医者)	K 3 1 6 1

弘(ひろし・東条)	→ 一堂(いっどう・東条とうじょう、儒者)	B 1 1 2 5
弘(ひろし・月形)	→ 漪嵐(いらん・月形つきがた、藩士/儒者)	I 1 1 3 6
弘(ひろし・徳田)	→ 飲龍(いんりゅう・徳田とくだ、漢方医者)	J 1 1 2 7
弘(ひろし・横山/中井)	→ 桜洲(桜州おうしゅう・中井なかい、国事/詩)	C 1 4 4 9
弘(ひろし・斉藤/室田)	→ 霞亭(かてい・室田/脇坂/膝とう、医/詩文)	O 1 5 0 7
弘(ひろし・岡田)	→ 岩苔(がんたい・岡田、商家/俳人)	R 1 5 3 0
弘(ひろし・鈴木)	→ 文台(ぶんたい・鈴木すずき、漢学者/教育)	G 3 8 1 2
弘(ひろし・小川)	→ 心齋(しんさい・小川おがわ、儒者/治水)	E 2 2 2 1
弘(ひろし・矢野)	→ 蕉園(しょうえん・矢野やの、藩士/儒者)	H 2 2 2 9
弘(ひろし・大塚)	→ 昌伯(しょうはく・大塚おおつか、医者/詩人)	L 2 2 3 7
弘(ひろし・酒井)	→ 履信(りしん・酒井さかい、名主)	B 4 9 2 7
弘(ひろし・柴田)	→ 芳州(ほうしゅう・柴田しばた、絵師)	B 3 9 5 7
弘(ひろし・土屋)	→ 鳳洲(ほうしゅう・土屋つちや、藩儒/教育)	B 3 9 5 9
弘(ひろし・雲谷)	→ 任齋(じんさい・雲谷うんや/水野/兵藤、藩士/和漢学)	E 2 2 2 3
弘(ひろし・宇留野)	→ 静庵(せいあん・宇留野うるの、藩士/学者)	H 2 4 2 5
弘(ひろし・小寺)	→ 翠雨(すいう・小寺こでら、藩士/蘭/兵学)	E 2 3 0 6
弘(ひろし・成島)	→ 柳北(りゅうほく・成島なるしま、幕臣/儒者)	F 4 9 6 7
坦(ひろし・伊王野いおうの)	→ 浩齋(こうさい・青木、医者)	I 1 9 9 9
俣(ひろし・前野)	→ 頤庵(いあん・前野まえの/藤塚、藩医)	K 1 1 6 7
寛(ひろし・乙骨おこつ)	→ 耐軒(たいけん・乙骨、学頭/詩)	B 2 6 3 0
寛(ひろし・下郷)	→ 亀洞(きどう・千代倉・下郷しもと、詩/俳人)	B 1 6 5 7
寛(ひろし・三浦)	→ 九折(きゅうせつ・三浦/樋口、医者/詩)	M 1 6 7 4
寛(ひろし・荘司)	→ 健齋(けんさい・荘司/島山、儒者/医者)	I 1 8 9 5
寛(ひろし・池永)	→ 楓村(ふうそん・池永いけなが、儒者/詩人)	3 8 9 2
広(ひろし・白井)	→ 華陽(かよう・白井しらい、儒者/絵師)	P 1 5 5 9
宏(ひろし・山沢/国島)	→ 筈齋(かっさい・国島くにしま、藩士/儒者)	N 1 5 3 0
宏(ひろし・小森)	→ 愚堂(ぐどう・小森こもり、医者/歌)	C 1 7 5 4
宏(ひろし・今藤)	→ 惟宏(これひろ・今藤いまふじ、藩士/教育)	O 1 9 8 0
浩(ひろし・荒井/渡辺)	→ 柳齋(りゅうさい・渡辺/荒井、藩士/儒者)	E 4 9 0 2
浩(ひろし・高橋)	→ 由一(ゆいち・高橋たかはし、藩士/絵師)	4 6 4 3
博(ひろし・柴田)	→ 弘器(ひろき・竜廻屋・柴田、藩医/狂歌)	F 3 7 7 5
溥(ひろし・佐々木)	→ 愚山(ぐざん・佐々木ささき、儒者/書)	D 1 7 6 8
熙(ひろし・加藤)	→ 桜老(おうろう・加藤、儒/国学/尊王派)	C 1 4 7 3
広司(ひろし・小原)	→ 実風(さねかぜ・小原/物部、神職/国学)	K 2 0 8 0

- F3796 **広茂**(ひろしげ・大江おおえ、忠茂男)?-? 鎌倉末期廷臣; 従五下/中将/因幡守、六波羅評定衆、
広房の父、歌人: 勅撰5首; 新後撰(877)続千載(1256/1783)続後拾(1194)新千(2061)、
[おもひねの夜半の衣を返してもなぐさむほどの夢をやは見る](新後撰集; 恋877)
- F3797 **弘重**(ひろしげ・田中) ? - ? 河内春日俳人; 1659梅盛「捨子集」入、
狂歌; 1666行風「古今夷曲集」7首入
[合はせもの離れものとは知りながら猶うら嫌いやな今朝のきぬぎぬ](古今夷曲集; 七別恋)
(本歌「明けぬれば暮るるものと知りながら猶うらめしき朝ぼらけかな」後拾遺; 道信)
- F3798 **広林**(ひろしげ・西永にしなが) ? - 1764 金沢藩士; 算用者として採用/年寄中席の執筆、
1750小頭; 算用場に出勤、和算家: 山本彦四郎門/三池流算法、1725「段数不知明解」編
[広林(;名)の通称] 儀左衛門/与三八よそはち、下村幹方の師
- F3799 **広林**(ひろしげ・小畑おばた、正春男)?-1768 尾張藩士/同心; 父の家領150石を継嗣、1766致仕、
尾張藩内の社寺に参詣しその行事を記録; 「尾張年中行事鈔」(張州年中行事鈔)、
[広林(;名)の通称] 源八郎/元右衛門
- G3700 **広滋**(ひろしげ・衣川きぬがわ/旧姓; 桐林きりばやし)?-1844 30余歳 因幡高草郡生/衣川長秋の養嗣;
因幡鳥取藩士、国学者: 本居大平門/1833本居内遠門、「はるのよ」「広滋問条」著、
[広滋(;名)の通称] 千代樹/三郎

- G3701 **広鎮**(ひろしげ・毛利もうり、就馴男)1777-1865⁸⁹ 母;関政富女の泰(浄願院)、周防徳山城主;1797家督、従五下/大和・日向森、民政を重視/医学館創設/1836城主格の大名(藩主)に昇格/37隠居、詩歌:58「類題玉函集」著、幼名;徳太郎、通称;兵庫、法号;承天院
- G3702 **広重**(初世ひろしげ・歌川うたがわ/安藤あんど/田中、安藤源右衛門男)1797-1858⁶² 父を継嗣;1809幕臣、八代洲河岸定火消屋敷の同心、浮世絵師:歌川豊広門、1818「狂歌紫の巻」挿画、1833錦絵「東海道五拾三次」(;出世作となる)/35「古路裳乃珠」37「俳諧三十六句撰」画、1850-「絵本江戸土産」56「義経一代記」58「養生手引草」、「赤本昔はなし」「花鳥集」外画多数、[初世広重(;号)の幼名/通称/号]幼名;徳太郎、通称;重右衛門/徳兵衛/鉄蔵、号;歌川広重(初世)/一遊斎/一幽斎/一立斎/立斎りゅうさい/歌重うたしげ、法号;顕功院
- G3703 **広繁**(ひろしげ・沢渡さわたり/本姓;紀、別号;繁)1808-85⁷⁸ 京の絵師:紀東暉門/貫名海屋門、1838内蔵寮史生/近江大掾/従六下、詩文、1868頃東京住、1848「松浦八奇勝図」画、[広繁(;名)の字/通称/号]字;公栄/世昌、通称;茂吉/近江大掾、号;精斎/清斎/竹居
- J3731 **広滋**(ひろしげ・桐林きりばやし、通称;三郎)1814-44³¹ 因幡高草郡の国学者
- G3704 **広重**(2世ひろしげ・歌川うたがわ/安藤・森田/初姓;鈴木)1826-69⁴⁴ 絵師:初世歌川広重門、1859初世の養女の婿;2世嗣、1865離縁し喜斎立祥名、1850-67「絵本江戸土産」(初世継承)、1859「富士山十二景」/61「江戸名勝図会」/62「狂歌三都集」/63-67「東海道絵図」、1864「一字題詠集」/65「四季のながめ」末広五十三次/66「江戸方角名所杖」外画多数、[2世広重(;号)の通称/号]通称;鎮平、号;歌川重宣/歌川広重(2世)/一幽斎/一立斎/立斎りゅうさい/喜斎立祥(;晩年)
- G3705 **広重**(3世ひろしげ・歌川うたがわ/安藤/初姓;後藤)1842-94⁵³ 父は船大工、絵師:初世歌川広重門、1857頃浮世小路の会席料理百川の養子/1865二世広重離縁のため初世の養嗣子;3世継嗣、「江戸の花」「東海名所改正五十三駅」画、[3世広重(;号)の幼名/通称/号]幼名;寅吉/寅太郎、通称;徳兵衛、号;歌川重政/歌川広重(3世)/一立斎/立斎/歌重、法号;功隆院
- 広茂(ひろしげ・立花) → 鑑虎(あきとら・立花、藩主/連歌) D 1 0 6 5
- G3706 **広嶋**(ひろしま・出雲臣いづものおみ、果安男)?- 746? 出雲国造いづものくにのみやつこ・724上京し神賀詞奏上、726二度目の神賀詞奏上、外正六位上/外従五下、746息子の弟山おとやまが国造を継嗣、天平五733「出雲国風土記」の監修責任者(調査編纂は神宅臣みやけのおみ全[金]太理まさたり/かなたり);「出雲国風土記」の巻末に[天平五年二月卅日 勘造 秋鹿郡人神宅臣みやけのおみ全[金]太理たり 国造帯意字おう郡大領外正六位上勲十二等出雲臣広嶋]とある、この出雲風土記は和銅六年713の編纂勅命から20年経ており再撰本とする説がある
- G3707 **広島**(ひろしま・安努君あのみ)?- ? 越中射水いみぎ郡大領;751.8.5家持上京時に餞別の宴を催、かつて越中一円を支配した伊弉豆国造いづみのくにのみやつこの子孫、万葉十九4251詞書入
- 3720 **広島**(ひろしま・雀部ささべ) ? - ? 755防人/下総結城郡の出身/万葉廿4393、[大君の命みことにされば父母を斎瓮いはいへと置きて参まる出で来きにしを](万葉;廿4393)、(命にさればは命にしあれば/斎瓮は神事用の土器)
- G3708 **広季**(ひろすえ・中原なかはら、広忠男)?-? 平安後期廷臣;明法博士/従四下/歌人;1172広田社歌合参加(;惟宗広言ひろことらと)、大江広元の養父、[あまくだるそのかみよりや降りくらん雪積もれりと見ゆる玉垣](広田社;十八番35)
- G3709 **弘相**(ひろすけ・杉すげ、重道男/本姓;平)?-? 室町後期の武将/周防大内家家臣、筑前嘉穂郡長尾を領す/応仁乱に大内政弘に従い上京、連歌;宗祇・兼載・実隆と交流、1480宗祇を迎え「何木百韻」催/84和泉堺の海会寺に季弘大叔を訪問/89宗祇を迎え連歌会、[弘相(;名)の通称] 次郎左衛門尉
- G3710 **弘資**(ひろすけ・日野ひ、一字名;弘、光慶男/本姓;藤原)1617-87⁷¹ 母;藤原嘉明女、廷臣;1643参議、従三位/1656権大納言/60正二位/神宮伝奏/武家伝奏、歌:祖父日野資勝・中院通茂門、後水尾天皇より古今伝授を受、「江阪紀聞」「野江問答」「弘資卿口儀」「弘資卿記」、1643「寛永記」、「当代武家歌合」「日野弘資詠草」「野坂問答」「日野大納言弘資集」外著多数、[弘資(;名)の法名/法号]法名;舜雅、法号;瑞巖院、資茂・輝光の父
- G3711 **弘佐**(ひろすけ・中西なかにし、弘斉男/本姓;度会)1722-90⁶⁹ 伊勢山田中世古の神職;外宮権禰宜、正四上、歌人;芝山持豊門/書を嗜む、「人馬一件申口」著、伯圭はくけいの父、

- [弘佐(；名)の通称/号]通称；佐中/主殿とのも/玄蕃/善太夫/高島太夫、号；白鶴園
- K3758 **広助**(広介ひろすけ・野城のしる、本姓福永)1843-1863**早世**21 上総市原村山田橋庄屋の生、文武に長ず、国学；平田鍊胤・権田直助門/勤王を志す；1863(文久3)上京；同志と等持院足利氏木像梟首、讃岐丸亀の同志村岡宗四郎方に潜伏/小橋安蔵一家・日柳燕石と会合；親征の挙に参集、朝議一変して親征中止；丸亀に帰国途中罹病；村岡方の地下室で没、
[広助(；名)の通称/変名]通称；鞏助/信哉、変名；山田総夫/平山次郎
- 広佐(ひろすけ・池田) → 長紀(ながのり・池田いけだ/伊木、家老/歌) L 3 2 1 2
 広甫(ひろすけ・宮沢) → 竹堂(ちくどう・宮沢みやざわ、詩人) D 2 8 6 3
 広助(ひろすけ・伊達) → 宗恭(むねやす・伊達だて、和算家) C 4 2 7 1
 広助(ひろすけ・仲野) → 安雄(やすお・仲野なかの、庄屋/儒・神道) B 4 5 0 1
 広助(ひろすけ・志田) → 義貫(よしかん・志田した/柿崎、藩士/歌人) L 4 7 3 1
 広輔(ひろすけ・渡辺) → 内蔵太(くらた・渡辺わたなべ/長嶺、藩士) B 1 7 0 9
 広輔(ひろすけ・宮崎屋) → 常之(つねゆき・井上/小原、商家/歌人/画) E 2 9 1 5
 博甫(ひろすけ・菊池) → 西臯(せいこう・菊池きくち、藩士/儒者) I 2 4 1 0
 熙輔(ひろすけ・万里小路) → 尚房(なおふさ・万里小路までのこうじ、廷臣/記録) C 3 2 3 2
 広錫(ひろすけ・広田) → 貞秋(さだあき・広田ひろた、問屋/歌人) P 2 0 2 1
 弘濟(ひろすけ・今井) → 魯齋(ろさい・今井いまい、藩儒者；史官) B 5 2 5 0
- M3753 **広澄**(ひろすみ・藤原ふじわら) ? - ? 平安鎌倉期廷臣/歌人；1237刊[檜葉集]3首入、
[このごろやたかまの山のはなざかりありしにまさるみねのしら雪](檜葉；春58)
- L3784 **広澄**(ひろすみ・青木あおき)1778-1808**31** 信濃伊奈郡の歌人；澄月・桃沢夢宅門、江戸住、
[広澄(；名)通称] 源蔵/源吾
- J3734 **寛住**(ひろすみ・久保くぼ、通称；三郎兵衛)1824-1907**84** 信濃更級郡の国学/歌；栗田寛樹・橋冬照門、
- L3740 **広澂**(ひろすみ・宮川みやがわ、) ? - 1892 信濃更級郡の国学者；飯塚久敏(1809-64)門、
更級郡八幡わた村の八幡宮神官、
[広澂(；名)の初名/通称/号]初名；鎮、通称；伊勢太夫、号；水苔園
- 広住(ひろすみ・流霞窓・山家やまが) → 流霞窓広住(りゅうかそうひろすみ、狂歌/読本) D 4 9 2 4
 広澄(広純ひろすみ・住吉) → 具慶(ぐけい；法名・住吉、僧/幕府絵師) 1 7 4 5 [おぼた]
- G3712 **広瀬王**(広湍王ひろせのおおきみ、小治田おほりだ[おぼた]の広瀬王) ?-722 大和期；明日香の小治田に邸宅、681川島皇子らと帝紀及上古諸事の記定に参加、708従四上大蔵卿/718正四下、散位で卒、万葉二期歌人；1468、卷一44左注(691浄広肆じょうこうじ広瀬王；持統天皇伊勢行幸時に留守官)、
[ほととぎす声聞く小野の秋風に萩咲きぬれや声の乏もしき](万葉；八1468)
- 弘蔵(ひろぞう・加藤) → 弘之(ひろゆき・加藤、法学/ドイツ学) D 3 7 5 1
 広蔵(ひろぞう・松野) → 眞維(まこと・松野まつの、国学/神職) J 4 0 8 2
- I3734 **広布**(ひろたえ・服部はつとり、別名；文布/弘敷ひろのぶ) ?-? 伊予大洲藩士、国学；本居大平(1756-1833)門、歌；大平撰「八十浦の玉」下巻入、
[初春のけふの青馬見る人はかぎりなしといふいざ我も見む](八十浦；692青馬)、
[をとめらが植うる早苗の時よしと山ほととぎす鳴きて教ふる](八十浦；781)、
[広布(；名)の通称] 竜平/良平
- G3713 **弘高**(広貴/広高ひろたか・巨瀬こせ、深江男) ?-? 巨勢公望きんもちの孫、平安中期10-11c絵師；大和絵様式を完成、1002(長保4)花山院の勅命で書写山性空上人を画く(；権記)、1053「鳳凰堂扉絵」画
- G3714 **熙貴**(ひろたか・山名やまな、氏家男/本姓；源) ?-1441**斬殺** 武将；石見守護/中務大輔/五位、歌；正徹門、1441赤松満祐邸で將軍義教と共に暗殺、歌人；正徹「草根集」入、新続古1049、
[人めのみ忍ぶの露のおきもせずねもせぬ恋にみだれてぞふる](新続古今；恋1049)
- G3715 **博高**(ひろたか・東久世ひがしぐせ、参議通廉みちいさ男/本姓；源)1659-1724**66** 京の廷臣；従五上勘解由次官、1688従四上右近中将/96従三位/1705正三位、1713出家、歌人；清水谷実業門、「東久世家日記」著、博胤(1689-1713**早世**)・通積(1708-64)の父、
[博高(；名)の初名/通称/号]初名；博意、通称；源三位入道、出家号；善応幽海
- G3716 **宏隆**(ひろたか・大江おおえ)1669-1729**61** 肥前長崎の神道家/国学者、歌/故実；京の風早実種門、神道；卜部貞親門、薩摩に15年間滞在/帰郷；道場[崇元観]を開く；眞武廟を建立、

「てにをは」編、「神全鈔」「神令私鈔」著、

[宏隆(；名)の字/号]字；意敬、号；操軒/多節齋

- G3717 **広雄**(ひろたか・林はやし、広厚[広原]男/本姓；太秦うずまさ)1677-1743⁶⁷ 天王寺方楽人/左兵衛大尉、1718肥前守/32正四下、1702「鳳笙図録」04「十操記図解評註」11「大食調」41「新撰楽府」著、「四天王寺舞之記」「琵琶之譜」「類聚楽録」著、広基の父
- G3718 **広隆**(ひろたか・宇夫方うぶかた、別名；政春、字；寂怡、市郎左衛門男)1688-1768⁸¹ 陸奥陸中遠野の生/南部八戸藩士、詩/歌；江田勘助門/武芸、「八戸家伝記」父と共著、「阿曾沼興廃記」著、1763「遠野古事記」、「神道藪掃」著、
[広隆の通称]平太夫/宗右衛門
- G3719 **広隆**(ひろたか・小野おの) ? - ? 江後期絵師・1851易興「紀伊国名所図絵」画
- G3720 **広高**(ひろたか・春枝はるえだ) ? - ? 江後期阿波徳島の国学者；本居大平門、
「於能碁呂島考」著、歌；大平撰「八十浦の玉」下巻入、
[鶯の音なふ春になりにはけりあしたのどけき岡のへのさと](八十浦；707)、
[広高(；名)の通称/号]通称；直之助、号；桜園/都賀の屋
- G3721 **博高**(ひろたか・久米くめ)1792 - 1854⁶³ 水戸藩士/国学；小山田与清門、1810彰考館員、「尊卑分脈諸氏分音便覧」「尊卑分脈源藤分面便覧」編、「扶桑拾葉集鈔」「戎衣神拝考」著、
[博高(；名)の字/通称]字；子順、通称；巳之太郎/彦助
- L3755 **広運**(ひろたか・久世くげ、綏之男)1799-1830^{32歳} 下総関宿藩主、1813(文化10)父病弱のため祖父5世藩主広誉の嫡男となる/1814従五下/長門守、1817祖父隠居；家督嗣/関宿第6代藩主、1824(文政7)藩校教倫館を創設；学問を奨励、正室；伊達村芳女、養子広周が家督嗣、歌；蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、
[滝の音は氷にたえて岩かどの松のあらしぞひとりはげしき]、
(大江戸倭歌；冬1149/寒樹)、
[広運(；名)の幼名/法号]幼名；吉九郎、法号；泰領院
- G3722 **寛隆**(ひろたか・鷲田わじだ、昌純男)1813-73⁶¹ 越前福井木田の菓種業、国学；歌；福田美楯門、国学；田中大秀門、仮名遣に精通、「つけひも」/歌集「寛隆家集」著、
[寛隆(；名)の通称/号]通称；次郎兵衛、号；省齋、法号；養成院
- G3723 **広隆**(ひろたか・三木みき、通称；量平)?? 甲斐の神道家；吉田家入門/農学に精通、1821「地方春秋」22「井田附言」/25「中臣祓指掌」「中臣祓本義」/66「経国本義」外著多数
- K3777 **寛敬**(ひろたか・平井ひらい) ? - ? 江後期；出雲松江藩士、歌人；歌学；千家尊孫たかひこ(1794-1873)門/二条家入門、
[寛敬(；名)の初名/通称]初名；厚信、通称；伝兵衛/平蔵/平兵衛
- L3732 **寛敬**(ひろたか・三原みはら) ? - ?天保(1830-44)頃没 大坂の国学者、
[寛敬(；名)の通称/号]通称；喜兵衛、号；浦廼屋
- K3701 **広喬**(ひろたか・関せき、旧姓；田代/平)1832-68³⁷ 薩摩鹿児島藩士関広国(勇助ゆうすけ)の養子；藩士、国学；平田鍊胤門、
[広喬(；名)の別名/通称/号]初名；喬彦、通称；太郎、号；樗舎おうちや
- J3746 **弘孝**(ひろたか・熊野くまの、本姓；清原)1840-1908⁶⁹ 飛騨益田郡小坂町湯屋の国学者；山崎弓雄門、高山住、遊芸に通ず/1884金森宗和流の茶道[清風会]入会；
[金森宗和茶道の碑]建立の有志総代、
[さざ波も音さへふさぎゆたかにて氷ながるる春の池水](短冊)、
[弘孝(；名)の通称/号]通称；弥兵衛、号；九圃
- J1799 **弘恭**(ひろたか・鈴木すずき、号；十八公舎)1843-97⁵⁵ 常陸水戸藩士、藩校弘道館に修学、国学；戸村義暢・間宮永好・黒川眞頼門、維新後；東京女子高等師範学・華族女学校校教官、「日本文学史略」著

広隆(ひろたか・岩瀬/小野)→	清春(きよはる・菱川、絵師)	Q 1 6 1 7
広隆(ひろたか・愛甲)→	喜春(きしゅん・愛甲あいこう、医者/儒)	K 1 6 8 5
広隆(ひろたか・石川)→	鳳台(ほうだい・石川いしかわ、藩士/詩人)	C 3 9 2 3
広孝(ひろたか・井上/桜井)→	敬徳(きょうとく；法諱・桜井、天台僧)	O 1 6 3 8
博高(ひろたか・明石)→	博高(ひろあきら・明石あかし、医者)	L 3 7 9 4

- J3759 **広武**(ひろたけ・近藤こんどう、)? - ? 江中期;越前福井藩士、
歌人;烏丸光荣みつひで(1689-1748)門、
[広武(;名)の通称/号]通称;八右衛門、号;花陰
- G3724 **弘武**(ひろたけ・多田ただ/修姓;田)?-? 江中期;讃岐の和算家:遠藤政安門、
1773「勾股捷徑」74「数学松社編」76「評林」著、白井尹久・木村兼長・稲毛義卿の師、
[弘武(;名)の字/号]字;文先、号;松園/太嶽
- I3730 **広武**(ひろたけ・田島/田嶋たじま、号;宗永そうえい)?-? 江中期;幕臣;茶坊主、歌;冷泉家門、
1798刊石野広通「霞関集」入(;北林尼[阿仏尼]の手向に岡田忠篤・藩主内藤頼由よりゆきと)、
[ほととぎすけふ待ちつけて年毎の手向かはらぬ音ねにや鳴くらん](霞関;夏248)
[広武(;名)の法号]宗永
- G3725 **弘武**(ひろたけ・本間ほんま、兄本間弘胤の養子)1835-68**自刃34** 武術家/鉄砲術に長ず、
幕臣渡辺家に出仕;維新に没収された知行の回復を図るが失敗し訴状を遺し自刃、
1864-5「歩操新式」著、
[弘武(;名)の通称/法号]通称;寿助、法号;清心院
- J3789 **広丈**(ひろたけ・調所ちようしょ、調所ずいよ広郷3男)1840-1912**73** 薩摩鹿兒島藩士、父は藩財政立直す、
姓の読みを[ちようしょ]に改める、国学者、戊辰戦争従軍/1869箱館戦争に参加、
1872北海道開拓使に入り七等出仕/開拓幹事/開拓少判官兼札幌学校長/開拓権書記官、
札幌農学校長兼任/開拓大書記官/1882札幌県令/86元老院議官/89高知県知事、
1892第2回衆議院議員総選挙で選挙干渉;死傷者を出す/鳥取県知事に転ず、
1893大水害復旧に尽力/94貴族院勅選議員/錦鶏間祇候
[広丈(;名)の通称]通称;藤内左衛門
弘毅(ひろたけ・久保倉/岩淵)→ 弘毅(こうき・岩淵いづみ、国学者) 1994
弘毅(ひろたけ・岸) → 熊野(ゆうや・岸きし/崖、藩士/儒者) D4689
- G3727 **浩忠**(ひろただ・星野ほしの、通称;善兵衛)1670-1747**78(68説あり)** 肥前佐賀藩士、
歌人;清水谷実業(1648-1709)・富本竹徳たけのり(梅坡/1664-1713)門、「星野浩忠和歌」著
- G3728 **寛忠**(ひろただ・藤波ふじなみ、季忠男/本姓大中臣)1751(or59?)-1824**74(66?)** 母;藤波和忠女、
伊勢の神職;1778神宮祭主/83従三位/86神祇大副、1806祭主職を息光忠に譲渡/18正二位、
1782「草廬集」著
- L3715 **博忠**(ひろただ・池田いけだ、博教男)1803-62**60** 備前岡山藩士;1806(4歳)父急死;叔父方智家督嗣、
1820(文政3/18歳)方智隠居;家督継嗣;岡山藩家老建部池田家(森寺池田)12代当主;1万石、
学問を好み歌人、1844仕置家老;1845刑部に改称、教育振興/児島洲開墾、
1854(安政元)下屋敷普請職人に藩の銀札で支払い翌日銀札切下げ実施(安政札潰れ);
非難を浴びる/1856(安政3)隠居;息子博文が家督嗣、
歌;[類題鮎玉集]入・[類題吉備国歌集]入(3首)、
[博忠(;名)の通称]弁之進/刑部ぎょうぶ
広達(ひろたつ・柿沼) → 広身(ひろみ・柿沼かきぬま/紀、神職/国学) J3700
弘忠(ひろただ・安部) → 石斎(せきさい・黒沢/安部/与村、藩儒) D2448
- G3729 **寛胤**(ひろたね・白井しらい) ? - ? 江前期水戸藩士、徳川光圀・綱条に出仕、
1690君命を奉じ京・和歌山・高松を歴遊;「上京日記」著
- K3732 **寛胤**(ひろたね・轟木とどろき)1718-1873**56** 肥後熊本藩士、国学;林有通(桜園)門/尊攘思想修学、
儒学者、肥後勤王党主導;官部鼎蔵・永鳥三平の同志/河上彦斎の師、
1862(文久2)熊本藩親兵選抜;藩主細川護久の護衛で上京;活発に尊攘活動、
薩摩に赴き島津久光に上洛を建議;のち逆に寺田屋騒動発生/1863政変で脱藩;長州逃亡、
捕縛幽閉;尊皇派主流となり赦免;帰藩、維新後;照幡烈之助と改名;1869弾正大忠、
開国推進の新政府に反対;致仕帰郷、
[寛胤(;名)の通称/号/別名]通称;翁助/武兵衛、
号;慎独軒/友竹斎/汗漫遊蕩生/作斎/游冥、別名;照幡烈之助
- G3730 **広田麻呂**(ひろたまる・桑原くわばら/姓;公→822都宿禰に改姓)?-? **829存** 廷臣;官人/810-29頃少外記、
詩人;文華秀麗入
[広田麻呂(;名)の通称] 桑広田

- 13729 **広民**(ひろたみ・久世くぜ/本姓;源)1732or37?-1799 63-68歳 旗本/幕臣;御使番/小普請支配、浦賀奉行/1775(安永4)長崎奉行;オランダ人の待遇改善/82米価安定策を実施、1784(天明4)勘定奉行;松平定信の寛政改革に貢献、1792(寛政4)関東郡代を兼任、大黒屋光太夫を江戸に住ませロシア情勢を聞く、小姓組番頭/1797(寛政9)致仕、従五下/丹後守、上杉義長の父、歌;石野広通「霞関集」入、
[分けゆかん山路は雲にうづもれて雨降りしきる足柄の関](霞関;旅1117/旅行雨)、
[広民(;名)の通称] 九郎
- G3731 **広足**(ひろたり・多治比/丹比真人たじひのまひと、右大臣の島男)681-760 80 廷臣;716造宮大輔/733上総守、738武蔵守/748参議正四下/749中納言/従三位/757罷免
- 3722 **広足**(ひろたり・若舎人部わかとねりべ)?-? 755防人/常陸茨木郡うばらきのこおり、万葉2首;廿4363-4
[難波津にみ船下おろ据ゑ八十梶やそか貫く今は漕ぎぬと妹に告げこそ](万葉;廿4363)
- G3732 **広足**(ひろたり・物部ものべ)?-? 755防人/武蔵荏原郡えはらのこおり上丁、万葉廿4418
[我が門かどの片山椿かたやまづきまこと汝なれ我が手触れなな地つちに落ちもかも](万葉;4418)
- G3733 **広足**(ひろたり・山本やまもと、別名;広貞)1642-1710 69 越前福井の呉服商(東郷屋)の生、仏門;諸国行脚、土佐で還俗;儒学を修得/神道家;伊勢山田の出口[度会]延佳のぶし門;高弟として師説講義録を集成、帰郷;私塾愛日堂(のち思親堂に改名)を営む、熊沢蕃山と親交、詩人/琵琶・書を嗜む、1672「日本書紀神代講述鈔」編、69「神代詠六首神武紀詠八首句解」、「神代神武歌鈔」著、
[広足(;初名)の通称/号]通称;勘平、号;閑斎/勘斎/簡斎/閑哉/黙翁/簡黙翁/竹窓軒
法諱;外通
- J3702 **広足**(ひろたり・野田のだ/本姓;菅原、大塚源四郎男)1756-1834 79 伊予宇和郡宇和郡蔵貫の庄屋の生、八幡浜の矢野町の里正野田万蔵の養子;家督継嗣、のち大洲平地村に移る、国学;荒木田久老門/のち本居宣長門、「歌稿」あり;万葉風の詠、梶谷守典・野井安定・二宮正禎と共に[宣長四門]と称し南予の国学先駆者となる、
[おもひ立つ家路の末をささくあれとちまたの神に幣たてまつる]
[広足(;名)の通称] 浅吉/太左衛門/万七郎/平七郎
- K3786 **広足**(ひろたり・藤田ひた、)1761-1810 50 土佐高知藩士、儒・国学・歌;谷真潮門、
[広足(;名)の通称] 楠蔵/嘉次兵衛
- 3721 **広足**(ひろたり/ひろたる・中島なかじま/一時;越智おち、中島惟規男)1792-1864 73 熊本藩士;1802家督継嗣、御番方・御小姓役、1815病のため致仕;家督を妹婿に譲渡、
学問に専念/国学・歌;長瀬真幸門、江戸の越智千里門/越智家の養子/のち辞して長崎住;長崎諏訪社歌会主催;崎陽きょう国学の三雄、1857大阪住、画にも長ず、1861熊本藩主に召還され帰藩;藩校時習館の国学師範、中島広定の父、養子;広行、1839「檀園文集」「檀園長歌集」、40「瓊浦けい集」編、42随筆「かしのくち葉」51「檀のしづ枝」、1854「檀園かしの随筆」、「瓊浦文集」「瓊浦勝景詩歌」「中島広足咏草」「倭歌諸説」外著多数、本居大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌入、
[広足(;名)の別名/幼名/通称/号]別名;惟清/春臣/広川/弘足、幼名;嘉太郎、
通称;俊太郎/五郎兵衛/太郎、号;於曾磨/蛭丸/蛭磨えびすまろ/檀園/黄口/田翁、法号;春峰院
弘足(ひろたり・大堀) → 正輔(まさすけ・大堀おおぼり/源、藩士/歌) O 4 0 4 5
広太郎(ひろたろう・依田) → 珍胤(よしたね・依田よだ、宿脇本陣/国学) P 4 7 9 5
- G3734 **熙近**(ひろちか・竜りゅう/竜野、竜熙香男)1616-1693 78 伊勢度会郡山田大世古の代々伊勢外宮祠官、外宮大内人職/学問;神仏道研究;了慧の受戒/隠元に参禅/玄心門(密教修学)、外宮長官の命で1652・76尾張眞福寺の典籍を書写、俳人;芭蕉門;伊勢蕉門・雷枝門俳人、1659如之「伊勢正直しょうじき集」45句入/88芭蕉が訪、1673「神道要訣」「神国決疑」編、1690「神国三徳評」「梅香寺縁起」、「凡下集」「愚吟集」「東遊草」「南山紀行」「竜尚舎随筆」、「三余随筆」「小朝熊社記」「秘願問答」「八雲神詠秘記」「六根清浄祓鈔」外著多数、
[熙近(;名)の通称/号]通称;伝左衛門、号;尚舎しょうしゃ/生白しょうはく/道旦居士
- G3735 **広幾**(ひろちか・藪その、広泰男/本姓;太秦)1740-1802 63 楽人;1768父を相続;土佐守/従五上、1783「鳳音譜」編
- I3765 **寛親**(ひろちか・榎本えのもと、通称;左司馬)?-1833 江戸の幕臣/国学/歌人;新見正路門、

晩年に古今和歌集の精密な模写;[千歳の珍宝]と称される

- G3736 **寛親**(ひろか・池田いけだ、通称;主鈴/号;藍水) **?-?1866前没** 三河新城藩江戸家老、歌文、本居大平・中山美石と交流、1822「船長日記」著
- G3737 **広周**(ひろか・久世くぜ/本姓;源、大草高好男) **1819-6446** 久世広運の養嗣子;1830下総関宿藩主、大和・出雲守/侍従従四下/寺社奉行/1848西丸老中/51本丸老中、58辞職/60再任、公武合体・和宮降嫁主張;1862謹慎/家督を息子広文に譲渡、1829-64「久世広周記録」著、[広周(;名)の通称/法号]通称;謙吉、法号;自讓院
- M3708 **汎近**(ひろか・森本もりもと/本姓;紀、菅彦すがひに[?-1847]男) **?-?** 江後期;紀伊名草郡の歌人;父門、国学;本居内遠(1792-1855)門、[汎近(;名)の通称] 安藝/藏人
- I3787 **寛近**(ひろか・大坪おおつば、通称;益平) **1832-9261** 飛騨高山の地役人、国学;富田礼彦いやひに門、歌;山崎弘泰門
- J3721 **広睦**(ひろか・鬼島きしま、富樫広蔭長男) **1836-191176** 伊勢桑名の神職/国学者;父門、父が1850桑名中臣神社社家鬼島家の嗣;鬼島姓/父は1858富樫姓に復す、妻;伊勢女(1839-1925/国学;広蔭門)、富樫伊豆女(1834-67)の弟、[広睦(;名)の初名/通称]初名;広就、通称;炫(げん・ひかる?)
- 広周(ひろか・土佐) → 広周(ひろかね・土佐、絵師) F 3 7 7 3
広津娘子(ひろつおとめ) → 他田広津娘子(おさだのひろつおとめ、万葉歌人) 1 4 8 2
- G3738 **広嗣**(ひろつぐ・藤原ふじわら朝臣、宇合うまかい男) **?-740処刑** 母;蘇我石川麻呂女の国威大刀自、廷臣、父宇合ら藤原四兄弟が没し橘諸兄政権下で不遇、式家を嗣/738大養徳(大和)守/式部少輔、玄昉・吉備眞備と対立/親族誹謗を理由に太宰少弐に左遷、740玄昉・眞備の罪を上奏、召喚詔勅を無視/740築紫で挙兵;追討の大將軍大野東人に松浦郡で逮捕/唐津にて処刑、万葉四期八1456(娘子への贈歌/1467に娘子の返歌)、のち玄昉の急死等で怨霊説話が生ず、鎮魂のため唐津に鏡神社が創建される(;今昔物語など)、[この花のひとよの内に百種もくさの言こそ隠こまれるおほろかにすな](万葉集;八1456)、(桜花を娘子に贈る歌/百種の言はあなたに語りたいたく多くの言葉)
- 広次(ひろつぐ・生駒) → 秀一(ひでかず・生駒にま、医者/歌人) L 3 7 1 0
- G3739 **広綱**(ひろつな・藤原ふじわら、文章博士正家男) **?-?** 廷臣/漢学;1079対策及第/1087勘解由次官、従五上/詩人;1088長楽寺詩宴の講師、1107藤原在衡の説を自著「後漢書」に合点、中右記部類紙背漢詩集に2首入、続文粹入
- G3740 **広綱**(ひろつな・源みなもと、源成国男) **1048or52-110861or57** 源師房[1008-77]の養子、廷臣;中務少輔、従四下/式部丞//撰津守、歌人;1104「散位さんに源広綱朝臣歌合」主催(2度、国基・雅光ら参加)、
- G3741 **弘繩**(弘綱ひろつな・中西なかにし/本姓;度会、松井清安男) **1822-1916長寿95** 中西弘令の養子、伊勢の神職;外宮別宮風宮玉串内人/宮掌大内人兼任、正六位、国学者;足代弘訓門、国学;荒木田久守・橋村正允門、多気の八柱神社・津田神社の神官、「中西弘繩詠草」「林乃落葉」「音積童諭」「神境紀談頭書抄出」著、「諸事控」編、[弘繩(;名)の幼名/別名/字/通称/号]幼名;千馬、別名;弘泄、字;優大/淵逸、通称;啓次郎/弾正/次郎、号;桑廼舎くわのや
- G3742 **弘綱**(ひろつな・佐々木ささき、初名;時綱、徳綱男) **1828-9164** 母;鳩子、伊勢石薬師の国学者;父門、足代弘訓門/塾頭;師より弘の字を賜り弘綱と改名/師没後江戸の井上文雄門/帰郷;1860津藩主藤堂高猷に国学を講義/1877松阪の鈴屋監督/82東大古典科講師、信綱の父、1844「十七歳千首」48「若紫打聴」51「和名鈔捷見」/57「源氏物語俚言解」「竹取物語俚言解」、1858-65「類題千船集」編、「竹柏園歌集」「歌辞童諭」「てにをは童諭」「ぬるの用格」外著多数、妻;光子(1850-94/国学者;弘綱門)、[弘綱(;名)の幼名/号]幼名;習之輔/習之助/重蔵/十蔵、号;竹柏園なぎぞの/鈴山/鶉居じゅんきよ/小遷
- 広繩(ひろつな・久米) → 広繩(ひろなわ・久米、廷臣/万葉歌人) 3 7 2 4
- G3743 **広経**(ひろつね・大江おおえ、公資きんより男) **?-1089** 母;中原奉平女、平安後期廷臣;従四上、1032頃父に従い遠州に下向、下野守/河内守/伊勢守、歌人、歌学「上科じょうか抄」撰(散佚)、

後拾遺集516、公仲の父、

[東路あづまぢの浜名の橋を来てみれば昔恋しきわたりなりけり](後拾遺;九羈旅516)、
(父に従い遠江に下向し年経て下野守として下向中浜名の橋もとにて詠む)

- K3741 **弘矩**(ひろつね・中山なかやま、)? - 1811 土佐高知藩士;御馬廻組頭、
儒・歌人:馬詰親音もとね門、
[弘矩(;名)の通称]藤之助/団七
- G3744 **寛経**(ひろつね・成沢なるさわ、金兵衛寛満男)1797-1868⁷² 信州小県郡上田原町の呉服問屋/
学問;祖父雲帯うたい門(白雄の門人)/国学;平田篤胤門、「百合の葉」「百合のささめこと」、
「百合叢志」編/「上田の早苗」「洋船彙事」「濟世家言」「尚古図譜」「小県志略」著、
[寛経(;名)の通称/号]通称;七郎左衛門、号;百合舎ゆりのや、寛礼の父
弘恒(ひろつね・広津) → 藍溪(らんけい・広津ひろつ、農業/儒者/教育) B 4 8 8 2
- G3745 **弘貫**(ひろつら・住吉すみよし、別名;広定/弘定、広行男)1793-1863⁷¹ 兄広尚の嗣/幕府絵師:
1844江戸城障壁画を描く、「宮中行事絵巻」/1842-53「住吉家奥御用日記」著
[弘貫(;名)の字/通称/号]字;敬徳、通称;内記、号;藤廼舎ふじのや/等塵/清江、法号;眞弘院、
父 → 広行(ひろゆき・住吉/板谷、幕府絵師) H 3 7 6 3
- G3746 **広貫**(ひろつら・市来いちき、寺師正容男)1828-1903⁷⁶ 薩摩藩士/市来政直の養嗣子、
実父は帆船伊呂波丸の建造者、島津斉彬なりあきらの知遇を得て砲術の研究・反射炉の築造、
兵器製造・貨幣鑄造、維新後箱館征討軍幸領として出征/島津家編輯所編纂委員、
史談会結成の中心、「製革規範」校訂、
[広貫(;名)の通称] 正右衛門/吉十郎/四郎
- G3747 **広照**(ひろてる・皆川みながわ、皆川城主俊宗男)1548-1627⁸⁰ 母;水谷治持女、下野皆川の武将;
1561(14歳)上杉方で初陣;武田信玄・北条氏泰と対戦、兄広勝没後に家督相続、
1580徳川家康臣;戦功により90皆川に本領安堵/92家康男忠輝の傳役/1603信州飯山藩主、
1609忠輝傳役欠点の咎で所領没収;改易/23赦免;常陸府中に移封/致仕、家光のお伽衆、
従四下山城守、「東国闘戦見聞私記」著、
[広照(;名)の幼名/号]幼名;又三郎、号;老甫/老圃、法号;三清院
- G3748 **広輝**(ひろてる・渡辺わたなべ)1778-1838⁶¹ 阿波の生;善福寺入/絵師;1795藩命で住吉広行門、
土佐派絵師として1812帰国/徳島藩抱絵師、再び江戸住/1815「釈尊入滅図」を善福寺に贈、
1838「桜間狂歌集」画/「輿車図考」画、左香寛古・鈴江貫中・守住貫魚らの師、
江戸で没、1周忌追善会「古翁追善の歌」(門人羽前新庄藩主の戸沢正令の主催/編)、
[広輝(;名)の通称/号]通称;八百司、号;士清/如仙、直照(徳島藩絵師)の父
広人(ひろと・藤井) → 末良(すえよし・藤井ふじい、神職/国学) J 2 3 1 7
博人(ひろと・明石) → 博高(ひろあきら・明石あかし、医者/殖産家) L 3 7 9 4
- I3773 **弘任**(ひろとう・小野おの、初名;見寿)1754-1826⁷³ 備中浅口郡の医者、詩文;西山拙斎門、
国学者/歌人;木下幸文や小野務と交流
- G3749 **熙時**(ひろとき・北条ほうじょう、初名;貞泰、為時男/本姓;平)1279-1315³⁷ 武将/鎌倉幕府12代執権、
従四下/武蔵守/相模守/評定衆/引付頭人/1309寄合衆/執権連署/1312執権/15出家、
歌人;勅撰4首;新後撰(848)玉葉(339/1404/1866)、
[恋すとも人はしらじな唐衣袖にあまらぬ涙なりせば](新後撰;恋848)
[熙時(;名)の法名]道常、時仲の兄、茂時・貞熙の父
広言(ひろとき・惟宗) → 広言(ひろこと・ひろとき・惟宗こねむね、歌人) 3 7 1 9
宏時(ひろとき・横井) → 千秋(ちあき・横井、藩士/国学者/歌) 2 8 0 1
- G3750 **広俊**(ひろとし・中原なかはら)1062- ? 奈良期廷臣;肥後・日向守/漢学・詩;紀伝道修学、
1111六波羅尚齒会の作文講師/31宗忠家尚齒会の詩講師、本朝無題詩入
- G3751 **広聡**(ひろとし・栄名井さかない/上野、真壁まか弥四郎男)1733-1814⁸² 甲斐神職;上野弾正好行の養子、
二宮郷美和大明神神主、和漢学;加賀美光章門、歌学修得、連歌;1776里村昌桂門;御連歌衆入、
晩年;家督を息子聡道に譲渡し諸国遊歴;栄名井聡翁と名乗る/自学問を士明派と称;門弟多、
1788「神道指要」1802「中臣祓水口伝」04「日周比徳伝」、「国能玉牆」「花鳥雅談」「蕨縄」外著多、
[広聡(;名)の別名/字/通称/号]別名;広俊/士明、字;士秀、通称;長蔵/中務、
号;東海/聡翁(そうおう)/仏敵先生/十山亭

- I3799 **広敏**(ひろとし・加納かのう、通称;文左衛門)?-1788 美濃岐阜の金物商、歌人;冷泉為村門、同郷の歌人野田正芳と交流
- G3752 **弘早**(ひろとし・足代あじろ/本姓;度会わらい、弘寄男)1759-1800⁴² 伊勢外宮権禰宜/正四下、歌人、「足代弘早見聞私記」著、
[弘早(;名)の通称] 慶二郎/式部/七郎右衛門
熙利(ひろとし・山名) → 熙利(きり・山名やまな、左京亮、連歌) Q 1 6 4 8
弘年(ひろとし・加納) → 東阿(とうあ・加納、医/詩/俳人) 3 1 7 4
広年(ひろとし・松前/蠣崎)→ 波響(はきょう・蠣崎かきざき、藩家老/絵師) C 3 6 4 6
広年(ひろとし・佐藤) → 水石(みせき・佐藤さとう、絵師) E 2 3 7 3
- L3796 **広富**(ひろとみ・秋山あきやま、市郎右衛門男)1733-1805⁷³ 備前和気郡の和気村の豪農、先祖紀伊守光明は武田信勝家臣/その子光信の時和気村に移住;祖父の代で産を築く、広富は父の遺産を継嗣;1765(明和2)銀150貫を藩主に献上/帯刀を許可、国学/歌人/挿花、県吏・郡医官を歴任/1777(安永6)銀200貫を献上;中小姓に就任、
[広富(;名)の字/通称]字;仲千/通称;久三郎
- G3753 **広福**(ひろとみ・隠岐おき/本姓;藤原、字;徳卿、号;五瀬ごらい)1741-85⁴⁵ 隠岐福堯の養子、京の塔之檀御子町住、廷臣;二条家諸大夫/相模守/主税頭、1777大蔵少輔/80従五下、儒者;1779「論語拮解」著
- I3726 **広儔**(ひろとも・石野いしの/本姓;中原)1742-? 1793存 幕臣;小普請/大番/大番組頭、歌;石野広通「霞関集」入、
[光ある露も螢も草の葉にいつれかいづれ玉と乱るる](霞関;夏302/螢)、
[広儔(;名)の通称]千太郎/孫兵衛
- G3754 **広伴**(ひろとも・小栗おぐり、別名;広国/重許しげもと)1778-1851⁷⁴ 遠州浜名郡石原村の出身、1790遠州入野村の竹村尚規家に出仕、国学・歌;1800石塚竜磨門/本居大平・白川資延王門、1858「難蔵山集辨」、「栄樹園家集」「栄木園能集」「さかき園集拾遺」「楨舎家集」「八千種」著、
[広伴(;名)の通称/号]通称;勇吉/雄吉/直輔/直助、号;瑞枝/栄樹園さかきのその、法号;歌学英勝居士
- G3755 **広儔**(ひろとも・佐藤さとう、通称;九郎右衛門)?-? 江末期岩代信夫郡鳥谷野の和算家:「算法狂歌割」著
弘朝(ひろとも・伊藤) → 海嶠(かいきょう・伊藤、儒者/詩) B 1 5 0 2
- G3756 **広豊**(ひろとよ・芝山しばやま/本姓;藤原、四辻秀輔男)1674-1723⁵⁰ 母;久我広通女、芝山定豊の養嗣子、廷臣;1714正三位/19参議/右衛門督/22致仕、歌/書画、重豊の養父、語学;口伝「以呂波声母伝」著(多田義俊記1746刊)
- L3750 **広豊**(ひろとよ・守山もりやま、通称;河内)1740-1802⁶³ 肥後益城郡の守山八幡宮祠官、和学者/歌人、「守山広豊百首詠」
- G3757 **弘魚**(ひろな・足代あじろ/本姓;度会わらい、弘臣男)1787-1817³¹ 伊勢外宮権禰宜/国学;本居春庭門、本居大平門/同族足代弘訓ひろりと友人;養子、歌人、「ちひろかけ集」「辞のちくさ」著、「足代弘魚大人文集」「千尋蔭遺草」、1817「足代家日記」著、大平撰「八十浦の玉」下巻長歌入
[玉敷の都にのぼりゆふだすきかかる祭にあふがうれしさ](八十浦;1077反歌、文化十年[1813]三月十五日石清水臨時祭に参詣)
[弘魚(;名)の通称]連三郎/右京/勝太夫
- J3752 **広名**(ひろな・小浦こうら、)1813- 1865⁵³ 紀伊和歌山藩士;御勘定吟味役兼文武場頭取、国学;伊達千広・本居内遠門、歌;加納諸平門、天保1830-44頃;周参見すさみ代官に赴任する時に師加納諸平の送別歌がある;
[小浦広名が熊野へゆくうまのはなむけに 加納諸平
沖つかぜ天雲はふる わだつみの神の御面に 唯むかう周参見の館は
八重山のをちこちにあれど 年招くいゆきまもれば 海山もむつたまあひて
霧のむた群山なびき 波のむた鯨ぞよらん 海原も山もたひらに まもりたれこそ
安郷代は浪しずかなりすさみの海 稻積島に釣しあそばへ]
[広名(;名)の別名/字/通称/号]別名;正令/孟潮、字;来青、通称;惣内、号;青崖/遠山窓

- G3758 **敬直**(ひろなお・渋川しづか、景佑男)1815-51**37歳** 幕臣;1831天文方見習;父を助け暦学書編纂・撰述、1842書物奉行兼任/水野忠邦に重用され天保改革参画;45忠邦失脚により臼杵藩主お預け、臼杵で没、1840「英文鑑」44「和蘭書簡訳文并老中返翰」、「摘草雑記」「見はてぬ夢」外著多数、[敬直(;)名)の通称/号]通称;六蔵、号;福堂、法号;靈照院、佑賢の兄
- K3747 **広胖**(ひろなお・並河なみかわ/本姓;平、号;松生常樹、並河基広男)1819-33**夭逝15** 京の国学・歌人
- I3746 **広胖**(ひろなお・中坊なかのぼう/本姓;藤原、広風ひろかぜの長男)1823-73**51** 母;林述斎女の緯こと、旗本/幕臣、家督嗣;4千石、駿府昌平坂学問所和学御用取扱(世話心得頭取)/小納戸/1863先手鉄砲頭、妻;鳥居忠耀女の筈せん、歌に長ず;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(父と共に入集)、[蛙かはげなく井手の渡りに駒とめてをらばや岸の山吹の花](大江戸倭歌;333水辺山吹)、[広胖(;)名)の通称]通称;陽之助
- G3759 **広長**(ひろなが・松前まつまえ、松前藩主松前邦広男)1737-1801**65** 母;土橋武則女、家老松前広行の養嗣、蝦夷松前藩家老;1755家督/資広・道広・章広3代藩主に出仕、碩学で修史事業・藩政補佐、琴・箏・書画を嗜み多くの文人と交流、1771「飛鷹録」著、80「福山秘府」81「松前志」編、1784「福山典記」編、「覆甕草」「蝦夷実記」「蝦夷地貨財録」「松前武備志」著、「松前歴捷徑」編、[広長(;)名)の幼名/字/通称/号]幼名;繰五郎、字;子玄、通称;大学/伝蔵/監物、号;豹関/老圃、法号;広長院、蠣崎波響の叔父
- G3760 **弘長**(ひろなが・足代あじろ/本姓;度会たらい・源、初名;弘春/通称;玄蕃)1828-79**52** 伊勢度会の人;檢非違使、国学;足代弘訓門/弘訓入京時に随員、1846「丙午雜纂」編
- G3761 **広長**(ひろなが・増田ますだ) ? - ? 江後期佐賀藩士、鍋島直正[1814-71]藩命により「船考」著、1851「檢地三部地献米之概略」著
- G3762 **広永**(ひろなが・甲斐かい、広盛男)1810-61**52** 江後期常陸笠間藩の和算家;長谷川寛・弘門、藩校時習館で子弟教育、1852「量地図説」、「算梯百問」「算法通解」著、[広永(;)名)の字/通称/号]字;子漢、通称;駒蔵、号;蕃山/蕃嶺/吐雲
- K3705 **広長**(ひろなが・田所たどころ、)1819-1874**56** 紀伊田辺藩士/国学・歌;熊代繁里・宇井可道門、寛長(ひろなが・金子) → 眞頼(まより・黒川/金子、国学者) K 4 0 1 8
弘永(ひろなが・八丈) → 以春(いしゅん・八丈道寸、連歌/俳人) C 1 1 3 0
- G3763 **広成**(ひろなり・丹比/丹墀真人たじひのみと、島男)?-739 奈良期廷臣;708従五下/下野守/712従五上、712副将軍/717正五下/719越前守;能登越中越後3国按察使を兼任/720正五上/731従四上、732遣唐大使;733.4月出航-734.11月種子島帰着;玄昉・真備と同船/735入京帰朝、737参議/正四上/中納言従三位/738式部卿兼任、詩人;懐風藻3首;99/100/101、万葉集;遣唐大使出発時に天平五733.3.3山上憶良の「好去好来歌」(巻五894/95)を受く、[少わかくして蛍雪の志無く 長となりても錦綺の工たぐみ無し
適たまさかに文酒の会に逢ひ 終つひに悪はづ不才の風ふり](懐風藻;101/述懐)
- 3723 **広成**(ひろなり・葛井連ふいのむらじ/白猪しらい)?-? **749存** 奈良期廷臣;719大外記/719遣新羅使、備後守、731外従五下/748散位従五上のとき聖武天皇が広成邸に行幸1泊;夫婦が正五上を受、妻は命婦県犬養宿禰あがたいぬかいのすね八重やえ(光明皇后の生母県犬養橘三千代の親族)、詩文;懐風藻2首(119/120)/経国集文2篇入、万葉三期六1011題;宮廷歌舞役所の人々が広成邸で宴会、[雲飛びて玉柯に低たれ 月上りて金波動く 落照曹王が苑 流光織女が河](懐風藻;120)、(月夜坐河浜/五言一絶、曹王は陳思王曹植[曹子建;192-232])
- G3764 **広成**(ひろなり・平群へぐり朝臣)?- **753** 奈良期官僚/万葉3842の平群朝臣と同一か?
→ 平群朝臣(へぐりのあそみ、穂積朝臣を嗤う歌) 2 7 9 2
- G3765 **広成**(ひろなり・石川朝臣いしかわのあそみ/高円朝臣)?-? 母;石川刀子娘、奈良期廷臣;744内舍人、758従五下/760(天平宝字4)高円たかまど朝臣の賜姓/式部(文部)少輔/761但馬介、万葉四期歌人;3首696/1600-1、高円広世の兄か?;同一説もある、☆一説に文武天皇皇子の首おびと皇子(聖武)を擁する藤原氏策謀で母と共に臣籍に下った、[家人に恋過ぎめやもかはづ鳴く 泉の里に年の経ぬれば](万葉;四696)
- G3766 **広成**(ひろなり・大伴部おともべ)?- ? 755防人/下野国那須郡上丁、万葉廿4382
[布多富我美ふたはがみ 悪あしけ人なり あたゆまひ我がする時に防人に差す](万葉;廿4382)

(布多富我美は下野国守or二心ある人の説あり/阿多由麻比あまゆまひは急病の意か?)

- G3767 **広成**(ひろなり・斎部いへ) ? - ? 808存80余歳 奈良平安期廷臣;中臣と並び古来より祭祀職の家、中臣氏が藤原氏の力を得て斎部家を圧倒;幣帛使職を巡り対立;平城天皇の仲介で収拾、天皇下問により807「古語拾遺」著;朝廷の祭祀職における斎部(忌部)家の役割を主張、808従五下
- G3768 **広業**(ひろなり・藤原ふじわら、有国男)976or977-102853or52 母;藤原義友女、廷臣/漢学;996文章生、997得業生/998対策及第/伊予守/播磨守/文章博士/三事兼帯、1020参議/26従三位、1028勘解由長官、一条・三条・後朱雀天皇の侍読/東宮学士、儒家七家中の西曹の藤原家日野流祖、1018(寛仁2)道長邸で作文題献ず(小右記・袋草紙)、文章・詩人;本朝文粹・続文粹・扶桑略記/本朝麗藻・中右記紙背漢詩集・新撰朗詠集等に入、[広業(;名)の字/通称]字;藤琳、通称;藤相公、資業の兄、家経の父
- G3769 **広成**(ひろなり・和気いけ、益成男)?-1391? 南北期医官:施薬院使/典薬頭/弾正大弼、1301従三位、1301「明德二年記録」著
- G3770 **弘業**(ひろなり・堤つみ/本姓;荒木田)?-? 江末期伊勢の神職;従五下権禰宜/大物忌父、「大物忌父弘業日次記」/1861「日次記」著、[弘業(;名)の通称]駿河
- G3771 **弘業**(ひろなり・紀き/家名;山口、鴨かも秀久男)1689-172941 紀章親の養嗣子、廷臣;1710縫殿大允、1723従五下、1728「奉送御装束御神財之事」編
- J3756 **宏生**(ひろなり・後藤ごとう、通称;運平)1720-9778 豊後杵築の国学者・歌;藩儒綾部綱斎いさい門?
- G3772 **寛柔**(ひろなり・大塚おおつか、知元尼男)?-? 1803存 摂津伊丹の歌人:香川景樹門、桃沢夢宅と交流、紫竹庵梁岳りょうがく・山本重英・法性寺水月・中村民一たみかずらと桂園派伊丹歌壇を形成、1805「和歌仮名字題」編
- G3773 **礼成**(ひろなり・今村いまむら/伴/本姓;源)?-? 江後期1818-30頃加賀の和算家:宮井光同門、「三州問答集」「連幣算法」編
- G3774 **広成**(ひろなり・岩田いわた、通称;権左衛門)?-? 江後期武州中丸の農業、和算家、1831「新論弧背術」
- K3770 **広濟**(ひろなり・原はら、通称;鹿七/貞八)1811-8171 越前敦賀の国学者/歌;足代弘訓門
- G3775 **溥整**(ひろなり・黒田くろだ/加藤、清定男)1818-8568 幼時加藤徳裕の養嗣子/のち実家に復す、福岡藩家老、藩の兵制改革・軍備増強に関与/勤王論で藩論を定め奔走、1865佐幕派藩士に捕縛;幽閉、維新後復職、連歌・1853百韻2度参加(於本丸興行「御何百韻」「初何百韻」)、[溥整(;名)別名/幼名/通称/号]別名;一整/一葦、幼名;元八郎、通称;三左衛門/播磨、号;暁心
- L3721 **弘愛**(ひろなり・石走いしし、号;蓑虫庵)1829-9466 伊賀の歌人;大坂の稲室いなむろ(粕谷)足穂たりほ門、のち大坂大江神社祠官
- J3753 **広業**(ひろなり・小林こばやし、通称;賢二)1837-6933 筑後久留米の歌人;拝郷蓮茵(れんいん)門/国学者
- J3749 **寛濟**(ひろなり・栗田くりた/本姓;源、通称;要)1841-9959 信濃水内郡の神職/国学;平田鉄胤門、戸隠神社神主、野尻神社社司
- 広成(ひろなり・和気) → 円珍(えんちん;法諱、智證大師、天台僧) B 1 3 2 5
広就(ひろなり・鬼島) → 広睦(ひろちか・鬼島きじま/富樫、神職/国学) J 3 7 2 1
広業(ひろなり・三宅) → 樅園(しょうえん・三宅みやげ、儒家/詩歌) H 2 2 3 0
敬成(ひろなり・入間川/渋川) → 春水(しゅんすい・渋川/入間川、藩士/天文曆算家) L 2 1 1 6
熙成(ひろなり・毛利) → 斉熙(なりひろ・毛利、藩主/俗謡作) I 3 2 0 7
- 3724 **広縄**(ひろなわ/ひろのり/ひろつな・久米朝臣くめのあそん)?-? 奈良期廷臣;745左馬少允従七上(正倉院文書)、748越中掾(池主の後任/越中守家持の下僚)/万葉四期歌人、長歌1短8首(4050以下)、拾97、[めづらしき君が来まさば鳴けと言ひし山ほととぎすなにか来鳴かぬ](万葉;4050)
弘縄(ひろなわ・中西) → 弘縄(ひろつな・中西、神職/歌)
- 3725 **広庭**(ひろにわ・安倍/阿部朝臣あべのあそみ、右大臣御主人みよし男)659?-73274? 大和奈良期廷臣;704従五上、伊予守/宮内卿/左大弁/722参議/従三位/727中納言/催造宮長官兼務、詩歌;万葉集4首(302/370/975/1423)、懷風藻2首入、拾遺1008、[児こらが家道いぢやや間遠きをぬばたまの夜渡る月に競ほひあへむかも](万葉;三302)、(児らが家道は妻の家迄の道のり/月が西に沈むまでに着けるだろうか)

- 阿倍大夫は広庭? → 阿倍大夫(あべのまへつきみ、万葉1772歌人) F 1 0 0 2
 広庭(ひろにわ・内藤) → 広前(弘前ひろさき・内藤、幕臣/国学者) F 3 7 8 0
- G3776 広主(ひろぬし・石川いしかわ) ? - ? 平安前期天長824-34頃廷臣;825従五上、
 刑部少輔、詩人;経国集入(刑部少輔)
- G3777 広主(ひろぬし・森もり、別名;眞楯)?-1825 尾張名古屋浅井膏本舗森の本家の生、名古屋藩医、
 国学;本居宣長門/師没後1810本居春庭・大平門、史記・軍学に精通、1822信州飯田・島田住、
 医業の傍ら国学・歌を指導、1818「三家類題抄」編、五十君広当・香山文圭・唐沢平明の師、
 [広主(;名)の通称/法号]通称;禎之進、法号;积貞広円証居士
 広主(ひろぬし・高階) → 貞房(さだふさ・高階たかしな、藩士/国学者) J 2 0 6 0
 広主(ひろぬし・芝) → 国忠(くにただ・芝しば/源、神職/歌人) E 1 7 2 4
 広之進(ひろのしん・大和田) → 正雄(まさお・大和田おおわだ、藩士/歌人) O 4 0 4 8
 広之助(ひろのすけ・長沼) → 安定(やすさだ・長沼ながぬま、和算家) B 4 5 5 0
 広之助(ひろのすけ・河村) → 正和(まさかず・河村かわむら、医者/国学) P 4 0 0 8
 寛之助(ひろのすけ・齋藤) → 多須久(たすく・齋藤さいとう、神職/国学) X 2 6 3 2
- G3778 寛信(広信/博延ひろのぶ・源みなもと、宇多天皇皇子敦実親王男)?-? 972存 母;藤原時平女、源を賜姓、
 正四下/右馬頭/侍従/左京大夫、歌人;966内裏前裁合参加、拾遺集1010、
 公卿への昇進なし(同母の兄弟雅信・重信は左大臣に昇進)、
 [折りて見るかひもあるかな梅の花今日九重のほひまさりて](拾遺集;十六雑春1010)、
 (966[康保3]. 2. 22内裏の梅花宴での詠進歌)
- G3779 広信(ひろのぶ・垂水たるみ) 1260- 1356長寿97歳 伊勢安濃郡垂水の廷臣/後醍醐天皇時代に出仕、
 河内守/建武新政に失意し帰郷;数度の出仕要請にも応じなかった、文筆家;「嘉文乱記」著
- G3780 広宣(ひろのぶ・久世くぜ/本姓;源、長宣男) 1561-162666 母;内藤正広女、武将:
 父長宣が三河一揆に与し討死;家康の勘気で母の再婚先の久保忠吉に養育/1576赦免、
 小田原攻に先手組で従軍/1615大坂陣に戦功;5千石、連歌;「蜂須賀至鎮家賦何人連歌」参、
 [広宣(;名)の通称/法号]通称;三四郎/三左衛門、法号;眞性院、広之の父/重之の祖父
- G3781 弘宣(ひろのぶ・久保倉くぼくら/本姓;大中臣おおなかとみ) 1620-8061 伊勢度会郡山田の御師職/歌人:
 1680「弘宣千首和歌」著、
 [弘宣(;名)の通称/法号]通称;右近、法号;大中臣自伝弘宣居士
- G3782 寛信(ひろのぶ・石原いしはら、通称;権平、忠易男) 1726-7449 越後新発田藩士;藩主溝口直温の近侍、
 儒者;稲葉迂斎門/闇斎学を信奉、1767兄忠寛没;家督を嗣;政事に参与、「学談抄略」著
- G3783 寛綽(ひろのぶ・川村かわむら) 1787-1851 盛岡藩士;算官、和算家;志賀吉倫門、
 江戸で藤田嘉言・定升門、「拾璣交商篇」「実簾相乘法」「神壁算法」「精要算法」著、
 [寛綽(;名)の通称/号]通称;孫助、号;環山、法号;法樹院
- J3758 泷信(ひろのぶ・越こし、) 1804-187572 信濃埴科郡の国学者;武田識正としまさ門
 のち伊勢の荒木田久守(久老男)門、
 [泷信(;名)の通称/号]通称;峯之助、号;千曲園/英文
- G3784 弘敷(ひろのぶ・足代あじろ、弘訓ひろのり男/本姓;度会) 1809-33早世25 神職;代々伊勢外宮権禰宜、
 儒;斎藤拙堂門、「律令図解」著、「足代弘敷雑記帳」編、
 [弘敷(;名)の通称] 友之介/式部/中務
 広信(ひろのぶ・藤原) → 顕盛(あきもり・藤原、漢学/詩) E 1 0 0 3
 広延(ひろのぶ・中島) → 広定(ひろさだ・中島なかじま、藩士/神職) H 3 7 7 9
 弘敷(ひろのぶ・服部) → 広布(ひろたえ・服部はっとり、藩士/国学) I 3 7 3 4
 弘宣(ひろのぶ・小川) → 可進(かしん・小川おがわ、医者/煎茶道) M 1 5 0 0
 寛信(ひろのぶ・尾崎) → 久愷(ひさやす・尾崎、藩士/儒者) C 3 7 1 0
 寛信(ひろのぶ・狩野) → 融川(ゆうせん・狩野;浜町家5世/藤原、絵師) D 4 6 2 1
 熙宣(ひろのぶ・小笠原) → 貞宣(さだのぶ・小笠原おがさわら、国学/歌/神職) O 2 0 0 3
 寛舎(ひろのや) → 弘道(ひろみち・吉川よしかわ、絵師) H 3 7 3 5
- G3785 広範(ひろのり・藤原ふじわら、文章博士茂範男)?-1303 鎌倉後期廷臣;式部大輔/治部卿/1299従三位、
 1300非参議、1302後二条天皇の東宮学士、歌人;玉葉集2613、
 1296早歌「宴曲集;花/年中行事/山」作詞(;藤三品名)、

[心には忘れずしのぶいにしへも語るばかりの思い出ぞなき](玉葉;雑2613)

- G3786 **広典**(ひろのり・吉田よしだ、別名;元正)?-? 室町後期但馬守護山名家の臣、出家;京に住す、「連歌口伝」/1560「射儀指南之歌」著、語学;1566「新撰かなもしつかひ(仮名文字遣)」著; [ぢ][づ]の研究:当時の発音は[di][du]、 [広典(;名)の出家号] 猶夢齋/東現
- G3787 **弘乘**(ひろのり・中西なかし、別名;弘福、弘房男/本姓;度会)1674-1729⁵⁶ 伊勢山田の神職;外宮祠官、 従四上、1706「伊勢太神宮統神異記」著、 [弘乘(;名)の通称] 善三郎/内記/外記/李大夫
- G3788 **広則**(ひろのり・藤とう/本姓;藤原、遠藤定孝男)1748-1807⁶⁰ 陸中仙台の暦算家、藤とう広次の養嗣子、 養父が浪人となり苦学/天文暦学;1764(17歳)戸板保佑門/免許取得、1772伊達重村大番士、 1788土御門右衛門佐より暦術の伝授を受、渾天儀を以て七政行度を測量;「天文測量志」著、 1768「算法適等輯解」編、「関流要法捷解」著、今野信全・遠藤清寅の師、 [広則(;名)の通称/号]通称;彦六郎、号;蒼海/藤岱/宗長/太朝/久覧/五岳齋、法号;徳雲軒
- J3711 **熙載**(ひろのり・萱野かやの、)1759-1808⁵⁰ 肥後熊本藩士;大坂留守居役、大坂住/国学者、 [熙載(;名)の字/通称/号]字;汝庸、通称;尚太郎、号;謙堂/映雪
- 3726 **弘訓**(ひろのり・足代あじろ、弘早ひろとし男/本姓;度会むたらい)1784-1856⁷³ 神職;代々伊勢外宮権禰宜、 1788(5歳)権禰宜/従五下、1801神道;荒木田久老門/歌;芝山持豊門/国学;本居大平門、 国語;本居春庭門、1847正四上、本居学派の中心的人物、古典の類聚編纂に尽力、 天保飢饉に私財で救民活動、神道・国学・史学・歌等著作千余巻で多彩、禁中に自著を奉献、 交流人物も学者・志士等多彩、「万葉集類語」「万葉集名所部類」「源氏類語」「八代集部類」著、 「八衢やちまた大略」「詞の重波しきなみ」「三代実録人名部類」「続日本紀人名部類」「海士の囀」著、 「伊勢の家づと」「寛居雑纂」「雅言訳解」「寛居長歌集」「寛居随筆」「寛居大人歌集雑纂」外多、 大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌入、松平春嶽[古今百人一首]入、 [世の中は八重山吹の花心実なきことのみもてはやしつづ](古今百人一首;94)、 [弘訓(;名)の幼名/通称/号]幼名;慶二郎、通称;式部/権太夫、号;寛居ゆたい、
- G3789 **弘範**(ひろのり・神吉かんき・かき/本姓;源)1784-1857⁷⁴ 播磨佐用平福駅の人;鳥取藩の本陣の主人、 国学;本居大平門、歌に長ず、「雲屋老驥集」「雲屋雑記」「さよあらし」「白禱園見聞録」著、 大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌[紅葉][正述心緒歌]入、 [天づたふ夕日に匂ふもみぢ葉はいよよ色濃く見えわたるかも](八十浦;828紅葉反歌)、 [弘範(;名)の字/通称/号]字;孟園、通称;新右衛門/老鬼、 号;雲屋うんおく/白搏老人はくはくろうじん/白禱老人はくとうろうじん
- G3790 **弘度**(ひろのり・小野おの) ? - ? 備中倉敷の絹商、心学;手島堵庵の説を祖述、 行商の傍ら各地の道歌を収集、1837「教訓古今道しるべ」著、 [弘度(;名)の通称/号]通称;治右衛門、号;蝙蝠齋へんぶくさい/蝠翔齋ふくしょうさい
- G3791 **寛得**(ひろのり・谷たに、子遷男)1791-1865⁷⁵ 伊予松山の儒者;杉山熊台門/徂徠学を修得、 朱子学に転向、1828松山藩校明教館の諸用長/用掛兼教授講義官、 1856「文鈔」編、「続国史略大便」著、 [寛得(;名)の字/通称/号]字;子衆、通称;左平太、号;春水
- G3792 **広範**(ひろのり・林はやし、広猶男/本姓;太秦うずまさ)1792-? 1856^存 林広好の継嗣、天王寺方楽人、 豊前介/左兵衛府序頭/1833石見守/55正四下、「豊家伝授四代曲譜」著
- K3715 **大準**(ひろのり・滝山たきやま、号;西谷)1799-1867⁶⁹ 下野都賀郡の国学者
- G3793 **弘令**(ひろのり・中西なかし、弘為男/本姓;度会)1801-45⁴⁵ 伊勢山田の神職;外宮権禰宜/従四上、 国学;足代弘訓門、1821「松の落葉」著、弘紀の弟、弘繩ひろつなの養父、 [弘令(;名)の通称] 主鈴/山城/伊織/外記
- J3775 **広記**(ひろのり・桜井さくらい、号;花満)1830-1902⁷³ 下野那須郡の国学者;山口安良やすし・湯沢真竜門 歌人/1890「春園歌集」著
- M3715 **弘教**(ひろのり・山口やまぐち、旧姓;山本)1834-78⁴⁵ 豊前京都郡の里正、国学者、宇佐郡二崎村住 [弘教(;名)の通称] 雄三郎
- 広典(ひろのり・大橋) → 広能(ひろよし・大橋/高井、神道家) H 3 7 7 0
広徳(ひろのり・中島) → 広定(ひろさだ・中島なかじま、藩士/神職) H 3 7 7 9

- 広縄(ひろのり・久米) → 広縄(ひろなわ・久米朝臣、廷臣/万葉歌人) 3 7 2 4
 寛紀(ひろのり・佐羽内) → 勇右衛門(ゆうえもん・佐羽内さわうち、馬術) 4 6 7 5
 広橋大納言(ひろはしのだいなごん) → 守光(もりみつ・広橋/藤原、廷臣) G 4 4 6 1
 広幡左大臣(ひろはたのさだいじん) → 顕光(あきみつ・藤原、左大臣/歌) C 1 0 5 9
 広幡大納言(ひろはたのだいなごん) → 弘(ひろむ・ひろし・源みなもと、廷臣/詩人) H 3 7 4 4
 広幡中納言(ひろはたのちゆうなごん) → 庶明(もろあきら・源、廷臣/歌人) G 4 4 9 9
 広幡御息所(ひろはたのみやすどころ) → 計子(けいし・源庶明女、歌人) F 1 8 8 2
 L3711 **太逸**(ひろはや・伊東いとう/本姓;藤原) 1744-1811 68 陸奥(岩代)安達郡の医者、
 [太逸(;)名]の通称/号]通称;太乙、号;鉄崖山人/諸葛/明月楼/万象
 M3705 **広治**(ひろはり・栗田あわた、) 1834-1907 74 尾張名古屋の神職、熱田神宮祠官、
 国学・歌;植松茂岳しげおか門、熊谷直好「浦の志保貝」の校訂、
 [広治(;)名]の通称/号]通称;伊勢守/貢、号;桐乃院
 K3733 **広治**(ひろはる・鳥居とりい/本姓;源、) 1630-74 45 紀伊和歌山藩士、国学者、
 [広治(;)名]の通称] 源兵衛
 J3730 **恕春**(ひろはる・清瀬きよせ、) 1704-1752 49 近江彦根藩医、歌人;[彦根歌人伝・鶴]入、
 [恕春(;)名]の字/通称]字;松山、通称;恕庵
 G3794 **広温**(ひろはる・石野いしの、石野広通男/本姓;中原) 1746-? 1825 存 石野広近の養嗣子/妻;広近女、
 江戸の幕臣;1778養父の家督;千石/徳川家治に出仕;書院番/1825致仕、歌;冷泉家の門、
 1806「丙寅失火記」著、1598実父広通編「霞関集」入、
 [暁の名残も知らでかへるにははしかじとや啼く山ほととぎす](霞関;夏238/朝郭公)、
 [広温(;)名]の通称]清五郎/喜蔵/新左衛門
 G3795 **広治**(ひろはる・安田やすだ/本姓;秦・藤本、初名;正起/豊秋) 1768-1832 65 伊勢度会郡山田の人、
 1784安田義長の養嗣子、伊勢山田の外宮神職;宮掌大内人、国学者;本居宣長・春庭門、
 荒木田久老門、宣長女の能登と1795結婚(宣長の娘婿)、養嗣子;藤本吉苗よしなえ、
 1815「滝乃真清水」、「神名帳部類」著、
 歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;長歌3首反歌3首入、
 [妹もあらばひりひてゆかな灯火のあかしの浦に寄する白玉](八十浦;647明石浦)
 [広治(;)名]の字/通称]字;休甫、通称;長四郎/伝太夫
 G3796 **広治**(ひろはる・林はやし、広胖ひろやす男/本姓;太秦うずまさ) 1808-? 1852 存 母;林広猶ひろざね女、
 天王寺方楽人、1830(天保元)肥前守/52従四下、「四天王寺年中行事舞楽次第」編
 弘春(ひろはる・足代) → 弘長(ひろなが・足代/度会/源、国学) G 3 7 6 0
 広治(ひろはる・大橋) → 広能(ひろよし・大橋/高井、神道家) H 3 7 7 0
 G3797 **広彦**(ひろひこ・岩田いわた/本姓;大江)?-? 1827 存 紀州の医者;吉益南涯門、大阪で開業;内・外科、
 産科・眼科も治療、儒学;服部星溪門、国学;本居大平門、
 1825「西説医事辨」「医道二千年眼目篇評」、26「麻薬考」著、27星溪「人事原」序、
 「陰陽与神経同辨」「神方経験」「大同類聚方附言」著、
 [広彦(;)名]の通称/号]通称;一二三、号;三谷/木種舎
 M3732 **博久**(ひろひさ・横前よこまえ、初名;博古ひろひさ) 1838-1924 87 信濃伊那郡の国学者;平田鉄胤門、
 [博久(;)名]の通称]伴造/梶之輔かじのすけ
 広久(ひろひさ・山内) → 広通(ひろみち・山内やまのうち/藤原、家老) H 3 7 2 6
 G3798 **広秀**(ひろひで・大江おおえ/長井、法号;道昇、大江貞秀男)?-? 1364 存 廷臣;従五下/大膳大夫、
 貞懐さだもとの兄、歌人;1336住吉法楽歌/「尊氏以下五首和歌」44「金剛三昧院奉納歌」出詠、
 藤葉集入集、勅撰5首;風雅(658/1818)新拾遺(1111/1391)新続古(1598)、
 [うちわたす浜名の橋のあけぼのに一むらくもる松のうす霧](風雅集;秋658)、
 [みかりするかたのの雪の夕ぐれに袖ふきかへす天の川かぜ](藤葉;冬373)
 G3799 **広秀**(ひろひで・菌その/本姓;太秦、若狭守菌広頼の孫) 1632-1703 72 楽人;右近将監、1677若狭守、
 1703正四上、1688「舞楽指南」「陵王舞譜」/79「菌広秀右方舞譜」著
 広秀(ひろひで・大坪) → 道禅(どうぜん・大坪おおつぼ、馬術家) G 3 1 2 3
 広人(ひろひと・藤井) → 末良(すえよし・藤井ふじい、神職/国学) J 2 3 1 7
 熙仁(ひろひと) → 永助親王(えいじよしのう、門跡/歌人) 1 3 3 6

熙仁親王(ひろひとしんのう) → 伏見天皇(ふしみてんのう、歌人) 3808

- K3751 **弘平**(ひろひら・成宮なるみや、通称;弥惣兵衛/弥次右衛門)1811-8575 近江愛知郡の里正/酒造業、歌人;[鴉のうみ]入
- K3771 **宏平**(ひろひら/こうへい・原はら、)1838-192487 越後新発田の国学者;井上智信門、歌;八田知紀門/国学;本居豊穎門/書;千蔭流/俳句も嗜む、維新後;初代新発田町長、のち東京住、大倉喜八郎鶴彦(1837-1928/新発田出身の実業家)と親交、[山ありてやまおもしろく滝ありてたちおもしろく見ゆる庭かな](石和泉荘にて)、[宏平(;)名]の通称/号]通称;富次郎、号;松堂翁
- H3700 **広平親王**(ひろひらしんのう、村上天皇皇子)950-971早世22 母;藤原元方女の祐姫、三品兵部卿宮、異母弟憲平親王(冷泉天皇)と確執;冷泉立太子により皇位を断たれる;元方怨霊の因、歌人;中将御息所周子との贈答、勅撰2首;拾遺838/新統古196、[秋萩のしたばを見ずはわすらるる人の心をいかでしらまし](拾遺;恋838)(詞書;中将御息所のもとに萩につけて遣はしける)
- H3701 **広房**(ひろふさ・橘たちばな/大江、橘以綱男)?-? 1126存 大江匡房の養子/橘に復姓、廷臣;信濃守、詩人;中右記部類詩集入、歌人;新勅撰1370、[この里といはねどしるき谷水のしづくもひほふ菊の下枝](新勅撰;二十1370)
- H3702 **広房**(ひろふさ・大江おおえ、広茂男)?-? 南北期廷臣;五位/左近将監/刑部少輔、「伊賀史」、在京の武家歌人;頓阿と親交、1324二条為藤の回忌歌詠、続現葉集入集、勅撰9首;続千載(841/1435/1724)続後拾(495)新千(641/901/1600)新拾(886)新後拾(623)、[行末も跡もさながらうづもれて雲をぞ分くるあしがらの山](続千載;羈旅841)
- H3703 **熙房**(ひろふさ・清閑寺せいかんじ、初名;保房/一字名;賢、共綱男/本姓;藤原)1633-8654 母;中院通村女、廷臣;1655参議/76権大納言/86従一位、故実家、法号;真空院、熙定の父、共房の孫、1654-65「熙房卿記」、55「明暦度改元定執筆之事」62「点取」、「男装束抄」「舞踏故実事」著
- H3704 **弘房**(ひろふさ・中西なかにし、初名;弘昌、弘家男/本姓;度会)1638-9861 伊勢山田の神職;外宮祠官、従四上/大物忌父二藁、「寛文外宮遷宮記」1669「豊受皇太神宮正遷宮御装束御神宝送文」編、[弘房(;)名]の通称] 善三郎/善兵衛
- H3705 **広房**(ひろふさ・林はやし、広為男/本姓;太秦うずまさ)1669-174779 天王寺方楽人/右兵衛大尉、1706大隅守、1721正四下、1725「琵琶弾法口伝秘譜」著
- L3787 **裕房**(ひろふさ・横山よこやま、通称;掃部かもん)1800-? 備前上道郡藤井村総社の神主、歌人;平賀元義門、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入;長歌入集
- H3706 **博房**(ひろふさ・万里小路までのこうじ、正房男/本姓;藤原)1824-8461 母;藤波寛忠女、廷臣;尊攘派の中心、1863政変で失脚/廢官差替/67赦免;参議/68権中納言、1844-68「博房卿記」、「講師備忘」/1879「御祈申沙汰記」、「万里小路侍従博房詠草之留」著、「賀茂臨時祭舞人雑記」外記録多数
- 博房(ひろふさ・吉田) → 竹嶺(ちくけい・吉田よしだ、医者/儒/詩歌)D 2 8 9 6
- K3700 **寛藤**(ひろふじ・鈴木すずき、)1656-173176 江戸の幕臣;二条御門番頭、国学者、[寛藤(;)名]の別号/通称/号]初名;重良、通称;芳丸/市郎右衛門/市兵衛、号;良久
- H3707 **博文**(ひろふみ・藤原ふじわら、貞幹男)?-929 平安期廷臣/漢学;902対策、904書紀購読の講書、906醍醐天皇「史記」読書に都講、908渤海大使入朝の時の存問客使;伯耆に派遣される、従五下式部少輔/922大江朝綱の対策の問者/925東宮学士/926文章博士/従四下民部大輔、927円珍への贈位諡号勅書作成/928紀在昌の対策問頭博士、詩;扶桑集・類聚句題・文粹入、娘は高階良臣の妻/成忠母
- H3709 **広文**(ひろぶみ・城戸きど、別名;桓、広主男)1717-5741 代々豊前小倉藩士の家、病により蒲生村に隠棲、書家として一家を成す/京の天竜寺に寓居、改名;桓/改字;亭一、藩主招聘で帰郷途中客死、「無名塗本」「国風書話」、1756「書譚」著、[広文(;)初名]の字/通称/号]字;仲華/亭一、通称;仲記、号;南華/典古堂
- I3798 **礼文**(ひろふみ・加藤かとう、)1790-185768 大坂の国学者、[礼文(;)名]の通称/号]通称;文太郎/喜太郎/和輔、号;桑樹
- H3708 **弘文**(ひろふみ・三矢田、通称;玉田玉枝斎ぎよくしさい)?-? 幕末明治期神道家;神道講釈師玉田派、玉秀斎ぎよくしゅうさい・玉芳斎ぎよくほうさいの兄、この3兄弟が明治の大坂講釈界で活躍、

- さらに2代目玉秀齋によって書き講談[立川文庫]が誕生する、1875「軍談業名面帳」入
- K3744 **広文**(ひろぶみ・長坂ながさか、秋名[1794-1861]男)1817-1899⁸³ 遠江白須賀の商家(旧家)、
国学者/歌人;父門、国学;石川依平・渡辺登門、維新後;戸長をつとめる
[広文(;名)の通称]久治郎(父の称)
- J3762 **弘記**(ひろぶみ・近藤こんどう、)1828-1891⁶⁴ 豊後国東郡草地村の春日神社社司、
神道・国学;定村直孝・鈴木高鞆門、
[弘記(;名)の初名/字/通称/号]初名;直香、字;春堤、通称;主税ちから、号;清廼舎主人
- I3756 **博文**(ひろぶみ・印南いんなみ、)1836-1912⁷⁷ 下野那須郡大田原の温泉神社祠官、
国学者;大田原藩校教授、
[博文(;名)の別名/号]別名;嵐、号;翠嵐
- 弘文(ひろぶみ・小島) → 麦二(ばくに・小島こじま、鑄物師/俳人) D 3 6 7 8
弘文(ひろぶみ・壬生) → 水石(すいせき・壬生みぶ、与力/篆刻家) 2 3 7 6
博文(ひろぶみ・大江) → 春塘(しゅんとう・大江おおえ、藩士/蘭医) L 2 1 5 6
博文(ひろぶみ・松岡) → 操(みさお・松岡まつおか、医/漢学者) K 4 1 5 4
- H3710 **広弁**(ひろべ・角朝臣つものあそみ)?- ? 万葉三期歌人;八1641(:雪梅の歌)、奈良期廷臣、
730大和国正税帳の巻末の大和少掾都濃朝臣光弁の署名;この人物と同一か?
[沫雪あわゆきに降らえて咲ける梅の花君がり遣らばよそへてむかも](万葉集;八1641)
- 博古(ひろふる・藤原) → 博古(はくこ・藤原、歌人) D 3 6 0 3
- K3752 **広矛**(ひろぼこ・南部なんぶ、彦助男)1823-1912^{長寿90} 越前福井藩士、1850(嘉永3)父病身;家督嗣、
主計吏/1856御勝手役見習/新番格/1859(安政6)江戸詰、国学・歌;橘曙覧・河津直入なおり門、
大坂・京へ出張、1864第一次長州征討に従軍、68戊辰戦争;新政府の北陸道鎮撫使・会計方、
奥羽征討越後口進撃軍の会計方として従軍/維新後;越後府権判事/民部官庶務司判事、
関八州迎察/民部大録/1869柏崎県大参事/1872静岡県参事/1874大蔵省大録;検査助、
南部球吾・寺島小五郎・横山彦六の父、
[広矛(;名)の初名/通称]初名;真彦、通称;房五郎/退蔵/彦助(:父の称)
- 広矛(ひろぼこ・大石礙) → 眞素美(ますみ・大石礙おおいしごり/望月/大伴、国学) O 4 0 2 6
- 3727 **博雅**(ひろまさ・源みなもと、醍醐天皇皇子克明親王男)918-980⁶³ 母;藤原時平女、
廷臣;974従三位・皇后宮権大夫、楽人;和琴・横笛・箏・琵琶・大箏篳の名手;
966「新撰楽譜」、「長竹譜」著、通称;博雅三位はくがのさんみ、
歌人;960天徳内裏歌合右講師(左は延光)/966八月十五夜内裏前裁合参加、
続後拾遺集278、
[いつも咲く花とは見れど白露のおきてかひあるけふにもあるかな]、
(続後拾;278/八月十五夜前裁合[・今日とこそ見れ])
- H3711 **弘正**(ひろまさ・与村むら/本姓;源、弘宣男)?-1659 伊勢山田の神職;豊受大神宮祠官、神典に精通、
1648豊宮崎文庫を創設(出口延佳・岩出末清らと)、1649「神道辨疑集」53「神宮雜記」編、
1653「弘正集録」/54「与村弘正参洛日記」/「中臣祓集鈔」著、58「勢州古今名所集」編、外多数、
[弘正(;名)の通称] 三之丞
- H3712 **弘政**(ひろまさ・久保倉くぼくら/本姓;橘)?-? 江中期伊勢山田の神職/外宮禰宜/正六上、
歌人、1785「こゝろの百首」89「世中心和合百首」著
- K3796 **広政**(ひろまさ・堀家ほりけ、善政男)1764-1831⁶⁸ 母;加茲かじ(旧姓藤井)、備中賀陽郡の生、
吉備津神社社家を継嗣、国学者、養嗣子;中田徳政のまさ(妻;幾知子/緒方洪庵姉)、
[広政(;名)の通称]式部/右兵衛(父の称)
- H3713 **広正**(ひろまさ・加藤かとう、別名;広当)1770-1840⁷¹ 三河宝飯郡前芝村の富豪廻船問屋の生;継嗣、
詩歌;吉田悟眞寺の因静いんじょう上人門/国学;内山真竜・本居宣長・大平門、漢学に精通、
1840「観魚楼詩集」5巻著、多くの詩稿があり、別荘観魚楼には多くの文人が訪問、
[広正(;名)の通称/号]通称;長左衛門/六蔵、号;観魚楼、養子;加藤正柔まさなり
- L3707 **広当**(ひろまさ・五十君いそぎみ、禎介の長男)?-1841 信濃伊那郡の歌人、国学・歌;医者;森広主門、
[広当(;名)の通称/号]通称;禎助、屋号;中形、法号;賢誉猛遊居士
- H3714 **広当**(ひろまさ・高木たかぎ/岩越)?- ? 江後期越中富山の和算家;中田高寛門、
高木流算学の祖/允胤(;高木流算学継承)の父、1809「菅笠問題改術」12「用達頼母子定法」

- 「点竄抜書」「冪式演段起源」「無有奇術諺解」著、「再益算梯」「関流算法草術」編、
[広当(；名)の通称] 高木屋吉兵衛/岩越吉兵衛、
- L3716 **寛正**(ひろまさ・石井い、通称;源蔵)1826-8661 出羽(羽後)秋田郡の国学者;
1864(元治元/36歳)平田鉄胤の気吹舎入門(篤胤没後門)
- K3782 **博正**(ひろまさ・福山ふくやま、)1831-189464 伊勢度会郡の神職;松坂田丸会所支配人、
国学;江川家入門、神前仙宮神社社司、
[博正(；名)の通称/号]通称;藤松/謙二郎、号;謙斎
- J3732 **博昌**(ひろまさ・金野きんの、旧姓;横前)1842-190968 信濃伊那郡の国学者;平田鉄胤門
[博昌(；名)の別名/通称/号]別名;年穂、通称;弁之助/惣左衛門、号;豊洲
広正(ひろまさ・森) → 玄黄斎(げんこうさい・森もり/山中、画工/詩歌) I 1 8 0 0
広正(ひろまさ・坂東/井坂) → 松石(しょうせき・井坂いさか/井、商家/詩人) K 2 2 3 0
寛正(ひろまさ・川島) → 栗斎(りつさい・川島かわしま、儒者) B 4 9 9 0
弘昌(ひろまさ・中西) → 弘房(ひろふさ・中西/度会、神職/記録) H 3 7 0
広丸(ひろまる・天あめの) → 天広丸(あめのひろまる、磯田広吉、狂歌) F 1 0 1 2
- H3715 **広満**(ひろまる・羽倉はくら/本姓;荷田)?-? 江前期;京の伏見稻荷社祠官、
1734「稻荷社記秘訣」著
- L3779 **広麿**(ひろまる・) ? - ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[ふきとふく峰の嵐に大み川みせきの水も紅葉しにけり](大江戸倭歌;冬1103)
- L3702 **熙麿**(ひろまる・町原まちはら/本姓;甲斐)1815-189076 越前丸岡藩士町原貞忠の養子;丸岡藩士、
儒者/漢学;岡田眞澄・郡山藩儒荻生桜水門、藩主侍読/右筆/儒官、
維新後;小浜伝習学校教諭
[熙麿(；名)の初名/号]初名;貞熙、号;緑蔭
- K3721 **広丸**(ひろまる・土屋つちや、)1842-191776 美濃土岐郡の神職;御岳教権大教正、
国学;中島長秋門、「神易要義」「占術伝抄(神易単卦法要義)」著、
[広丸(；名)の通称/号]通称;為三郎、号;櫓の舎
- J3772 **広麿**(ひろまる・坂倉さくら、)1848-192174 伊勢白子の国学・歌人
[広麿(；名)の号]楽声舎ささのや(先祖坂倉茂樹の称)
熙麿(ひろまる・湯谷) → 維熙(これひろ・湯谷ゆや、国学者) R 1 9 4 9
- H3716 **広相**(ひろみ・橋たちばな/家名;薄、初名;博覧、峰範みねのり男)837-89054 母;藤原末永女、廷臣、
漢学;菅原是善門、860文章生/864対策及第/文章博士/東宮学士/蔵人頭/左大弁、884参議、
888正四上/貞明親王・貞保親王・光孝天皇・宇多天皇の侍読、887佐世すけよと阿衡の紛議、
没後従三位中納言を追贈、「橋広相意見十四条」、詩文:「橋氏文集」、「擬潜夫論」「蔵人式」著、
「侍中群要」「諸司唐名」「朝官当唐官略称」「文選少帖」「踏歌記」著、本朝文粹/和漢朗詠集入、
[広相(；名)の字] 朝綾/朝慈/朝凌、公材・公統・公頼・宇多天皇女御義子らの父
- H3717 **弘省**(ひろみ・馬場はば、幼名;才丸、弘篤男)1719-46早世28歳 廷臣;官吏;従五位上、
「上賀茂社本宮社祭神略記」著
- H3718 **広海**(ひろみ・林はやし、旧姓;越智おち)?-1792 尾張名古屋の国学者・歌人;本居宣長門、
古学の研究/鈴木眞実まごねと交流、磯村道彦「春風はるかぜ集」入、
[広海(；名)の通称/号]通称;杏介/久次郎、号;杏庵/戸屋
- H3719 **広視**(ひろみ・鈴木すずき/高橋朝臣/本姓;藤原)1765-182662 陸奥(岩代)安達郡本宮の神職;
安達太良神社祠官、神道・国学;生駒熊文くまぶん門・国学・歌;本居大平門、「広視集」著、
歌;小沼真幸(幸彦男)編「花かたみ」入、養子;広精ひろきよ、
「菅山や神の銚杉高々にしらゆう桂し雪の曙」(安達太良神社の広視歌碑)
[広視(；名)の通称]治部太夫/雅楽亮うたのすけ/豊前介/伊織
- H3720 **広海**(ひろみ・大江おおえ/別姓;早川)1769-183466 越後五泉の国学者/歌人;村田春海門、江戸住、
京塚町四条住;子弟教育、1810歌「ふるのやまぶみ」/49「酒百首」、毛呂(宮本)池臣の師、
[晴雪;降り積みし高嶺の雪に色映えてけふのみそらの濃きみどりなる](短冊)
[広海(；名)の字/通称/号]字;師竜そうりゅう/景迹、通称;復蔵/靱負、
号;櫻園いん/健斎/県斎/謙斎/鷗居

- I3740 **広海**(ひろみ・鎌田かまた/本姓;藤原)1773-1841⁶⁹ 羽後秋田郡寺内村の田村堂神主、
 国学;本居大平門/大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌[久延毘古の神]入、
 [山田もる曾富騰を見れば大穴牟遲おほむち少名毘古那すくなひなの神世し思ほゆ]、
 (八十浦;1094反歌)、
 [広海(;名)の別名/通称]別名;正家/正屋/正宅/**正舎**まさのや、通称;直記
- H3721 **広海**(ひろみ・早川はやかわ/安田、多膳[石牙]男)1775-1830⁵⁶ 甲斐山梨郡小原村の医者、
 1798上京;賀川蘭齋門、産科を修得;師に従い宮中に出入/長崎で蘭方を修得、
 1805帰郷;外科・産科医開業、バジリ膏・相応丸・薫葉など創製、甲州葡萄の育成に尽力、
 俳人;甲斐の可都里・蘭更門、国学・歌;伊勢の荒木田久老門、峽東俳壇の指導者、
 1797「霜夜ほとけ」/1800「あやはとり」校訂/03「左々栗」編、1803「歌文要語補」著、
 1808「歌文要語」編/09「ふるしも」編/15「和歌唱和集」校/18「ひはりふへ」著、
 1820「新撰はしがきぶり」、「漫々俳句集」「憶説論」「仮名遣大意」「八重垣補註」著、
 [広海(;名)の字/通称/号]字;光甫、通称;多善/多膳、
 号;漫々/梅夜/円橋/円橋庵/黄楊門/黄楊園/六勝園、法号;黄楊院、雷石の父
- J3768 **広海**(ひろみ・本田ほんだ、通称;広介)1799-1878⁸⁰ 陸奥二本松藩士;御金役、国学者/齋藤春連の師
- K3791 **弘見**(ひろみ・古内ふるうち、初名;広賢)1805-75⁷¹ 陸奥(陸前))名取郡岩沼邑主、国学者、
 [弘見(;名)の号]三楽/三遊
- K3799 **広海**(ひろみ・益岡ますおか、)1810-1893⁸⁴ 武蔵入間郡の国学者;川林綾繁門、権中講義、
 [広海(;名)の初名/通称/号]初名;保教、通称;富次郎/正右衛門、
 号;木綿園千緑/民年庵/竜吟社
- H3722 **広博**(ひろみ・清水しみず) ? - ? 幕末期越後高田藩士、歌、「榊原政令公御事蹟」
- K3787 **広見**(ひろみ・藤田ふじた、初名;春史)1822-1901⁸⁰ 長門萩藩士、国学者・歌人;近藤芳樹・中島広足門、
 [あまたゝびとへども亀の占にだにならぬ浮木の身こそつらけれ](難逢恋、萩の歌人入)、
 [広見(;名)の通称/号]通称;作右衛門、号;榎の舎/榎の屋
- J3700 **広身**(広躬ひろみ・柿沼かきぬま/本姓;紀、広運ひろゆきの孫)1827-93⁶⁷ 下野都賀郡鹿沼神社神官、
 国学者;平田鉄胤門、有志と江戸城紅葉山に集結;新政府軍有栖川宮熾仁親王を警護、
 維新後;栃木県中属/二荒山神社宮司/中学講師、雅雄の養父、
 [広身(;名)の別名/通称/号]別名;広達/広躬、通称;河内、号;幸濃亭/幸亭、
 変名;多田忠三郎
- | | | | |
|--------------|---|------------------------|-----------|
| 弘海(ひろみ・長崎) | → | 奇山(きざん・長崎、藩士/詩歌/俳) | K 1 6 6 4 |
| 弘見(ひろみ・茂木) | → | 義明(よしあき・茂木もてき、藩士/歌) | B 4 7 9 1 |
| 広覧(ひろみ・数原) | → | 広覧(こうらん・数原かずはら、医:法眼/歌) | Q 1 9 0 3 |
| 博右(ひろみぎ?・藤原) | → | 博古(はくこ・藤原、歌人) | D 3 6 0 3 |
- H3723 **広通**(ひろみち・久我こが/本姓;源、通前男)1626-74⁴⁹ 母;堀秀治/兄堯通の嗣、廷臣;42従三位、
 1654正二位/61内大臣/65右大臣、「一字題の時は」「寛文三年御讓位次第」著、通誠の父
- H3724 **広達**(ひろみち・皆川みながわ、広隆男)1665-1718⁵⁴ 幕臣;1701家督/04常火消/08御小姓組番頭、
 馬術;大坪本流齋藤定易門/皆川流馬術の祖/従五下山城守/志摩守、「作鞍判形」著、
 [広達(;名)の幼名/通称/法号]幼名;又五郎、通称;宮内、法号;良義
- H3725 **広通**(ひろみち・梅沢うめざわ、通称;忠兵衛)?-? 江前中期1688-1711頃羽前米沢の武芸者;剣術、
 阿字一刀流;味岡光綱門、伊勢参宮の途次で門人梅沢綱俊と共に強盗を斬殺、
 1710「阿字一刀流伝書」「阿字一刀流居合伝書」著
- H3726 **広通**(ひろみち・山内やまのうち、広直男/本姓;藤原)1688-1747⁶⁰ 長門厚狭郡吉田殖生の生/萩藩士;
 1710家督嗣;4千7百石、1713江戸家老に抜擢;儉約令を出し財政改革/38国家老;開拓造林、
 1744致仕/萩上野に別荘薬荔館に隠棲、「山内縫殿役中勤功付」、
 [広通(;名)の別名/通称/号]初名;通久/広久/千槌、通称;伊織/縫殿ぬい、号;梁溪りょうけい
- I3797 **弘通**(ひろみち・加藤かとう、)1703-1769⁶⁷ 摂津西宮の医者、歌人、1769(明和6)没、
 [弘通(;名)の字/号]字;循、号;古庵
- H3727 **広通**(ひろみち・石野いしの、喜蔵広包男/本姓;中原)1718-1800⁸³ 幕臣;旗本;大番/御納戸番/同組頭、
 御膳奉行/佐渡奉行/御普請奉行/西丸御留守居、遠江守/備後守、実務に謹厳実直、
 歌人;冷泉為村門、幕臣三歌人の1/明和六歌仙の1、家集「五百四十首」、

1768撰集「霞関かん集」、家集「沢蘆集」/歌学「沢水」「大沢随筆」「蹄溪随筆」、「閑斎随筆」著、
「中原広通歌集」「うき草」「源語演説鈔」「和歌感応鈔」「佐渡日記」「大沢文稿」「憲法部類」、
「玉川上水之記」「広通百首和歌」外著多数、広道「霞関集」(1768初撰/1798再刊)入、
妻;屋代友昌女の男子(歌人)、広温ひろはる・佐々木万彦まひ・一陽かずあきの父、
[妹が住む宿の鶏にはとり垣越えてかよふを中の契りともがな](霞関集/中は二人の仲)、
[広通(;名)の初名/通称/号]初名;広明、通称;平蔵、号;大沢だいたく/蹄溪/通翁/花月堂、
法号;如是縁斎

- H3728 **寛道**(ひろみち・石井いひ、通称;伝左衛門)1763-1843⁸¹ 和歌山藩士;国学者:1821平田篤胤門、
1813「周髀算経正解図」著
- I3792 **弘通**(ひろみち・太田おた、通称;治右衛門)?-?天保1830-44頃没^{80歳} 佐渡相川の国学者/歌人
- M3723 **弘道**(ひろみち・山中まなか、通称;安兵衛/号;海棠)1769-1849⁸¹ 駿河府中の地役人、
国学者;平田篤胤門
- H3729 **広道**(ひろみち・吉田よしだ) ? - ? 心学者:大島有隣門、信濃高遠などで社会教化に尽力、
1830「三教一致忠孝手引艸」著
- H3730 **弘通**(ひろみち・秋山あきやま、与三兵衛男)1776-1848⁷³ 備前岡山藩儒/1835閑谷学校教授、
1831「慕賢録」著、
[弘通(;名)の字/通称/号]字;子皓、通称;太郎左衛門/能甫、号;春潮
- H3731 **寛道**(ひろみち・松岡まつおか)1785-1867⁸³ 武州萩(現武蔵村山市)の日吉神社神官、従五下、
神道;高橋小膳門、1801江戸小石川白山の神職宮川弾正に出仕/1808帰郷;子女教育、
儒・易・国学・算術・書画・武術・礼法・茶華道・料理など万般に通ず、
「故実躰方」「上京大秘録」、「上京要用秘中録」「神道臺日鳴弦大事」「水嶋流礼式口伝集」著、
[寛道(;名)の幼名/通称]幼名;右近、通称;上総/河内
- L3748 **弘道**(ひろみち・村松むらまつ、通称;孫兵衛)1795-1862⁶⁸ 遠江掛川の絵師;村松以弘・谷文晁門、
国学者;内山真竜・石川依平門、大庭峰翠の画の師
- H3732 **広道**(ひろみち・田中たなか/本姓;藤原、通称;貢)1796-? 1836^存 石見美濃郡の波田八幡神社祠官、
神光山天満宮祠官、国学者;本居大平・平田篤胤門、1816「宗意断刀辨破」著
- L3791 **広路**(ひろみち・遠藤えんどう、通称;万介)1798-? 美作英多郡川会郷福本村の歌人、
歌;1850(嘉永3/53歳)平賀元義の楯之舎塾入門、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入
- H3733 **弘通**(ひろみち・中西なかし/本姓;度会むらゐ、初名;昌光、春木房光男)1803-52⁵⁰ 中西伯圭はくけいの養子、
伊勢山田の神職;外宮権禰宜/正四下、国学者;足代弘訓門、歌学に通ず、「中西弘通随筆」著、
[弘通(;名)の通称/号]通称;全之助/玄蕃、号;瞿麦園くばくえん
- L3757 **弘通**(ひろみち・竹島たけしま) ? - ? 江後期歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[白雪の積もるたかねに影さえて木がくれもなく出づる月かな]、
(大江戸倭歌;冬1177/月出冠寒山)、
[摂津の国のなにはのこともよしあしのさはり多かる世にこそ有りけれ](同;雑1873)
- 3728 **広道**(ひろみち・萩原はぎはら、別名;浜雄、藤原栄三郎男)1815-63⁴⁹ 備前岡山藩士/歌;平賀元義門、
国学者;大国(野之口)隆正門/宣長の学に傾倒、1845致仕浪人;萩原姓を名乗る;大阪で教授、
歌を嗜む、随筆/読本/翻訳物を著す、貧窮で晩年は病苦、「随筆初集」、1843随筆「玉篠」著、
1845戯文「あしの葉わけ」46「弓邇遠波係辞辨」48「古言訳解」「小夜しぐれ」48「心の種」著、
54-61「源氏物語評釈」、「柿の落葉」「菖沼詞集」「菖沼文稿」「蒜園文集」「出石居家集」外多数、
[広道(;名)の幼名/通称/号]幼名;就蔵/斧太郎、通称;小平太/鹿蔵/鹿左衛門、
号;菖沼かしょう、鹿沼、蒜園にらその、菖園、有菖園ゆうきゅうえん、柿園、鹿鳴草舎、出石居いずきよ
- H3734 **弘道**(ひろみち・橋本はしもと)1834-1895⁶² 三河吉田藩士/のち宝飯郡の砥鹿髪社権禰宜、
歌人:「梅の舎歌集」著、児玉たね(種子)の師
[弘道(;名)の通称/号]通称;俊蔵、号;梅廼舎
- M3730 **博道**(ひろみち・六角ろっかく、能通男)1835-1900⁶⁶ 京の廷臣;六角家9代、母;能登登乗光寺豊寿女、
代々書道・神楽で出仕、大蔵大輔、有職家;御所建築の故実書を著、本草学に通ず、
維新後;宮内省の殿掌、妻;交野時雍女、玄通の父
- H3735 **弘道**(ひろみち・吉川よしかわ、弘信[君溪]男)1837-1918⁸² 尾張名古屋上園町の絵師:代々画業、
狩野派画法;父門、撒金鉞画の技法を究明/有職故実・考古学に精通/陶漆・歌・俳諧を嗜む、

1861「をほり八景」画、

[弘道(；名)の幼名/通称/号]幼名；又市、通称；角太郎/寛太郎、号；君山/有蓬斎/寛舎、
諡号；大教弘道

H3736 弘道(ひろみち・菌その/本姓；太秦、広名男)1838-9760 楽人；1856従五下和泉守、
「元南都方天王寺方京都方伝来書」著

H3737 弘道(ひろみち・腹巻はらまき/本姓；荒木田、別名；直彦)？-？ 江末期伊勢宇治の神職；内宮酒造内人、
文久1861-64頃正六上、国学；八羽光穂門、「当織年中行事記」「御造宮見込丈尺表」著、
[弘道(；名)の通称]蔵人

L3745 大進(ひろみち・宮沢みやざわ、)1845-191571 越後の生/神道家・国学；権田直助(1809-87)門、
伊豆三島神社主典/伊豆山神社祠官

広通(ひろみち・土佐/住吉)→ 如慶(じょけい・住吉すみよし/土佐、絵師) C 2 2 3 5

広通(ひろみち・大橋) → 広能(ひろよし・大橋/高井、神道家) H 3 7 7 0

広道(ひろみち・高橋) → 種彦(2世たねひこ・柳亭、初世笠亭仙果、戯作) 2 6 4 4

広道(広路ひろみち・小寺/木村)→ 玉晁(ぎよくちやう・小寺こでら、随筆家) H 1 6 3 1

広道(ひろみち・若菜) → 基輔(もとすけ・若菜わかたけ/平/野城、国学) L 4 4 9 2

弘道(ひろみち・藤重) → 槌太郎(つちたろう・藤重ふじしげ、砲術家) 2 9 9 2

弘道(ひろみち・磯野) → 希声(きせい・磯野いその、医者) L 1 6 0 6

弘道(ひろみち・足代) → 立溪(りつげい・足代あじろ/度会、儒者/講説) B 4 9 6 7

弘道(ひろみち・宮本) → 愚翁(ぐおう・宮本みやもと、藩士/心学者) C 1 7 3 2

弘道(ひろみち・斎藤/富田)→ 高慶(たかよし・富田とみた、藩家老/農政) E 2 6 0 8

弘道(ひろみち・橋本) → 左内(さない・橋本、藩士/蘭医/勤王家) K 2 0 6 1

弘道(ひろみち・岡) → 紫陰(しいん・岡おか、儒者) P 2 1 6 0

弘道(ひろみち・速水) → 宗寛(そうけん・速水はやみ、守三軒、茶人) H 2 5 1 0

弘通(ひろみち・島) → 弘通(こうつう・島しま/中島、浄土僧/歌) Q 1 9 9 2

弘亨(ひろみち・伊藤) → 竹坡(ちくは・伊藤いとう、藩士/儒者) D 2 8 6 8

寛通(ひろみち・大岡) → 栗斎(りつさい・大岡おおおか、儒者) B 4 9 9 5

M3742 広通妻(ひろみちのつま・石野いしの、名；勇子ゆうこ、屋代友昌女)？-？ 江中期宝暦1751-64頃；歌人、
歌；冷泉家入門、石野広通(1718-1800/幕臣/旗本)の妻、1798夫広通編「霞関集」入、
中原広温ひろはる・佐々木万彦まひこ・一陽かずあきの母、
[余波おもふ雲の果はたてに夕暮のつばさかすめるあまつ雁がね]、
(霞関；春98/帰雁連雲)

夫 → 広通(ひろみち・石野いしの、幕臣/旗本/歌) H 3 7 2 7

H3738 広光(ひろみつ・町まち/柳原、町資広男/本姓；藤原)1444-150461 母；源満直女、廷臣；1469参議、
1491正二位/1504権大納言、装束の故実精通、歌人；1473按察使親長卿家歌合参加、
1484「室町殿十番歌合」参加、1475「春除日記」、「広光卿御教書案」「広光卿記」外著多数、
[立ちこむる霞の末をかぎりにて春ははてある武蔵野の原](親長卿家歌合；七番左)、
[広光(；名)の通称/法号]通称；日野町、法号；忍寂

H3739 広満(ひろみつ・山本やまもと、別名；幸在)？-？ 江中期羽後由利郡赤尾津の国学者；黒田正足門、
1729「日本書紀中古伝和歌註」46「日本書紀小汀鈔」著、
「日本書紀歌註」「紀神代六首和歌古伝」著、
[広満(；名)の通称/号]通称；平太夫、号；竹柢之舎ちくたいのや/竹柢軒

I3732 広満(ひろみつ・萩原はぎわら、通称；弥作)？-？ 大和長谷の国学者/歌人、
歌；本居大平「八十浦の玉」中巻；長歌を含む5首入、
[百ちどりさへづる春の初声とまづわが園に鶯の鳴く](八十浦；558/鶯)

H3740 寛光(ひろみつ・高橋たかはし、別名；寛元？、通称；荘四郎)？-？ 江後期蝦夷松前藩士、
1797「蝦夷巡覧筆記」著

K3797 寛光(ひろみつ・本田ほんだ、通称；甚蔵、旧姓；森光)1745-71早世27 陸奥仙台の国学者

H3741 寛光(ひろみつ・片岡かたおか、所ところ尊光男)1778-183861 片岡家の養嗣子；江戸神田佐久間町の名主、
国学・歌；清原雄風・村田春海・春門門、1803「熱海日記」、「古今集集成」「参考狭衣草子」著、
「かはづ考」「今はむかし」「草木和歌」、「年中古事記」尾形随庸と共著、「万葉長歌類林」編、

1958蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[哀はれにも花を忘れぬつばめかな見捨てて帰る雁かも有る世に]、
(大江戸倭歌;春320/燕)、

[寛光(;)名)の字/通称/号] 字;桂満かつらまろ、通称;権太郎/仁左衛門/周輔/周助、
号;郁子園むべぞの/蔦垣内つたのかきつ、法号;高演院

- L3741 弘充(ひろみつ・宮川みやがわ、通称;泰順)?-1847 飛騨高山の医者、国学・歌;田中大秀門
- I3794 弘光(ひろみつ・奥埜おくの、)1805-1871 67 近江大津の円満院侍臣;近習/御家政役、
1870致仕/隠居、歌人;[鴉のうみ]入、
[弘光(;)名)の通称] 恒三郎/隼人
- H3742 弘光(ひろみつ・三橋みつはし、弘道男)1844-65 斬首 22歳 水戸藩士/1863新徴組入;江戸警衛、
1864尊攘派田丸稻之衛門挙兵に応じ武田耕雲斎の天狗党参加/耕雲斎に従軍;加賀で降伏、
敦賀で斬首、「陣中日記」著、
弘充(ひろみつ・伊藤) → 東岸(とうがん・伊藤、儒者) C 3 1 3 2
- H3743 広耳(ひろみみ・小治田朝臣おはりだのおそみ/をはりだのおそみ)?-? 万葉三期歌人;八1476/1501夏の歌、
万葉代匠記では続日本紀の小治田広千ひろちと同一説[千平は;733外従五下/尾張・讃岐守]、
[ひとり居ゐて物思ふ夕よひにほととぎす従此間こゆ鳴き渡る心しあるらし](万葉集;1476)
- H3744 弘(ひろむ・ひろし・源みなもと、通称;広幡大納言、嵯峨天皇皇子)812-863 52 母;上毛野氏、814源賜姓、
廷臣;840淳和上皇葬送の装束司/842参議/851正三位/859大納言、詩人;早くより作詩、
826(15歳)良岑安世に唱和/827父嵯峨天皇に唱和/848上表文、経国集2首入
- H3745 熙(ひろむ・松浦まつら、清[静山]3男/本姓;源)1791-1867 77 平戸藩主10代;1806襲封/従五下肥前守、
農地改革/殖産振興/砲術訓練/女子銃隊創設に尽力、心法舎を開く/兵学;山鹿素行門、
儒;佐藤一斎・朝川善庵門/詩歌を嗜む、「松浦家世続伝」編、「亀岡隨筆」1825「犬追物考証」問、
川柳作者;[沢庵も煮豆も喰ぬ堅法花](新編柳多留;11)、
妻;松平定信女、1841長男曜に家督譲渡;平戸に隠居
[熙(;)名)の幼名/字/号]幼名;三穂松、字;叔緝、
号;観中/乾斎/乾々斎/廊軒/亀岡山人/まつら(狂名)、法号;竜瑞院
家系については → 静山(せいざん・松浦まつら) B 2 4 7 6 の平戸の松浦家参照
- H3746 弘(ひろむ・長谷川はせがわ、初名;篤信、佐藤卯蔵男)1810-87 78 陸前栗原郡佐沼大畑の農家の生、
幼小より数理の学を好む;一ノ関藩千葉胤秀門/和算;1828江戸の長谷川寛門/師の養嗣子、
1838養父没後数学道場を継承;長谷川派の統率者、養父同様に優れた啓蒙書/門弟多数、
「難題解義」「諸題私解」「神壁算法解」「整数題解草」「磻溪叢書」「長谷川子道解草」外著多数、
[弘(;)名)の幼名/字/通称/号]幼名;菊三郎、字;子道、
通称;秋三郎/卯三郎/十左衛門/善左衛門2世、号;磻溪はんけい/北川、法号;磻溪院
- F3794 熙(ひろむ・河田かわだ、迪斎てきさい男)1835-1900 66 母;佐藤一斎女の續、幕臣;1859家督/従五下、
相模守、儒者・外国奉行支配組頭、1863目付;横浜鎖港談判使節に同行し渡欧、
開国の必要を痛感、帰国後開国の要を提言し免職;閉門、赦免、1867開成所頭取/大目付、
維新後徳川家の家扶、「腹曆」「行状」、1859「先考恵迪府君行状」著、
[熙(;)名)の字/通称/号]字;伯緝、通称;貫之助、号;貫堂/古香荘、法号;文肅院
- H3747 洪宗(ひろむね・木造こうり、木造長能の養嗣子)1714-83 70 狩野派の絵師、
「内宮之図」画、墓;伊勢度会、
[洪宗(;)名)の通称] 要人/伝右衛門
- H3748 広目(ひろめ・玉造部たまつくりべ)?- ? 755防人/駿河国、万葉集廿4343、
[我ろ旅は旅と思おもほど家いひにして子持こめち瘦すらむ我が妻みかなしも](万葉集;4343)
- I3728 広持(ひろもち・石野いしの、広通男/本姓;中原、通称;余七)1761-88 早世 28 幕臣、
歌;1798父広通編「霞関集」入、
[星やまた逢ふ瀬をたどる文月ふみづきのたちかへりにし天あめの河原]、
(霞関;秋374/閏月七夕)
- I3738 広持(ひろもち・岩橋いわはし/本姓;大江、時倚ときより男)1793-1841 49歳 紀伊有田郡神職;須佐神社神主、
時夏の兄、国学;本居大平門、歌;大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌入、
[広持(;)名)の別名/通称]初名;直恭、通称;主馬/大膳/出羽守/安藝守

- 寛持(ひろもち・百樹園) → 百樹園寛持(ひやくじゅえんひろもち、狂歌) E 3 7 5 7
- 3729 広元(ひろもと・大江おおえ/中原、大江維光男) 1148-1225 78 明法博士中原広季の養子、武将/鎌倉幕臣、初め廷臣;1214正四下/権少外記、1184源頼朝に招聘され幕府公文所別当/91初代政所別当、1194明法博士/頼朝没後頼家の側近、北条氏に接近;頼家幽閉・実朝暗殺の事後処理に当る、1159-96「大江広元日記」、「扶桑見聞私記」「東大寺へ遺す文」著、[広元(;)名]の号]号;大官令、法号;覚阿
- H3749 広基(ひろもと・林はやし、初名;広運、広雄男/本姓;太秦うずまさ) 1705-74 70 天王寺方楽人/1738紀伊守、1766正四下;広基と改名、「四天王寺舞楽之記」著、広猶ひろさねの父
- H3750 寛台(ひろもと・佐久間さくま) 1761-1818 58 加賀金沢藩士;1801書物奉行兼書写奉行、歌人、謡曲の注釈;1809-12「謡曲粗志」、「謡曲粗志拾遺」「猫鼠軍談」著、[寛台(;)名]の通称/号]通称;五郎八、号;東岳、法号;寛昌院
- H3751 礼初(禮初ひろもと・伊林いばやし/本姓;橋、別名;清治)?-? 江後期1830-54頃富山藩士/歌人、1853「網廻綱手あみのつなで」共編(前田利保著/浅野光武・山寄茂樹・小林佐倍けいすけと共編)[礼初(;)名]の通称] 嘉左衛門
- J3761 弘素(ひろもと・山本まよと、久保田、近藤茂左衛門弘美2男) 1803-58 自殺 56 母;堀尾直賢3女の雪、信濃松本の名主(醸造・薬舗業)の生、近藤茂左衛門弘方の弟、国学;中村守臣門、伊那郡山本村の旗本近藤石見守の家老久保田弘忠の養子;養父没後江戸に出る;山本姓、尊攘論を主唱;生家が御用達の関係で水戸藩邸に出入り;藩主徳川斉昭と面会、1858(安政5)斉昭の密書を受け兄弘方と上洛;幕政改革の水戸藩へ密勅降下に成功、幕府の追及に逃亡;自殺、[弘素(;)名]の通称/変名]通称;芳次郎/要人/貞一郎ていぢろう/信右衛門、変名;砂村六次
- 兄 → 弘方(ひろかた・近藤こんどう、商家/歌) J 3 7 6 0
- 弘祖(ひろもと・菅野) → 眞斎(しんさい・菅野すげの、儒者) O 2 2 4 6
- H3752 広盛(ひろもり・平たいら、経盛男)?-? 平清盛の甥/経正(勅撰集歌人)の弟/敦盛の兄、武将;刑部大輔、歌;1170住吉社歌合/72広田社歌合参加(兄経正と)、[草枕時雨も袖をぬらしけり都を恋ふるなみだならねど](住吉社歌合;十番左69)
- H3754 容盛(ひろもり/かたもり・猿渡さわり、盛章男) 1794-1830 37 武蔵府中の大国魂神社祠官、国学;小山田与清門、1869大学中助教、歌人;家集「椈の下枝」、1845「賀大城造宮歌」著、「万葉提要」(焼失)、1848・51「大祓詞便蒙附余論」著、盛愛もりえの父、「鈴屋翁霊祭歌集」共著(7人;三輪義方・根本真苗らと)、蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、[野にかくれ山にのがれし人もみな出でてぞ遊ぶふみのはやしに]、(大江戸倭歌;雑1949/世治文事興)、[容盛(;)名]の通称/号]通称;豊後、号;無住
- K3768 広守(ひろもり・林はやし、広倫3男) 1831-96 66 摂津東成郡の生(父は大坂天王寺の楽人)、同族の楽人林広就(舞の達人林広濟男)の養子、雅楽;広濟・広就門、1841(天保12/11歳)京の朝廷に出仕;正六下左兵衛権少尉、伶人(楽人)の中芸試験合格、1855(安政2)従五下;広守に改名/65(慶応元)正五下/伶人の上芸試験満点合格、維新後;1869天皇に随従し東京移住;宮内省雅楽局(のち雅楽部)入、1875政府命令で西洋音楽修学;西洋楽理論と雅楽の融合に尽力;80国歌制定委員、1880(明治13)10月「君が代」を作曲/11月3日天長節で演奏、88雅楽部副長/93致仕、後進の教育/廃絶寸前の笙の復興、長男広季が家督嗣、[広守(;)名]の初名/通称]初名;広金、通称;栄之助/筑前守
- 弘守(ひろもり・葛目) → 朝風(あさかぜ・葛目くずめ、藩士/国学者) C 1 0 6 7
- 弘弥(ひろや・服部) → 正樹(昌樹まさき・服部、藩士/国学/歌) C 4 0 2 7
- 弘屋(ひろや・檜垣) → 常典(つねのり・檜垣/度会わたらい、神職) D 2 9 1 4
- 広弥(ひろや・丁野) → 遠影(とのかげ・丁野ちよりの、藩士/官吏/歌) V 3 1 7 5
- F3703 広誉(ひろやす・久世くぜ/本姓;源、広明男) 1751-1821 71 母;岡部長著女、下総関宿藩主;1785襲封、隠岐・大和守/従四下、1817病のため致仕、1789「田左久隠御差扣伺之留」著

- [広誉(；名)の初名/通称/法号]初名；広敦、通称；勝之助、法号；隆光院
- H3755 **寛泰**(ひろやす・吉村よしむら、別名；豹、伴寛男)1769-1851⁸³ 母；嶋岡ひさ、岩代会津藩士/儒者、1784軍事方平役/91江戸詰/徂徠学；95古屋昔陽門、97江戸屋敷内の学館助教/99開版方、1800帰郷；北学館講師、1804-23「日新館志」編、1830-44藩領越後蒲原郡津川の代官、詩歌を嗜む、「津川記聞」編/「日新館蔵書目録」著、
[寛泰(；名)の幼名/字/通称/号]幼名；八十之助、字；文蔚ふんうつ、
通称；嘉右衛門/新兵衛/吉右衛門、号；千年/南山、法号；青雲院
- H3756 **広胖**(ひろやす・林はやし、広勤男/本姓；太秦うずまさ)1784-? 1857^存 天王寺方楽人/雅楽大允、1814紀伊守、1857(安政4)正四上、1836(天保7)「笙之譜八十八曲」著、
広治ひろはる・広賢ひろかたの父
- H3757 **弘泰**(ひろやす・山崎よまさき、初名；君泰)1797-1862⁶⁶ 飛騨高山の地役人頭取、国学；田中大秀門/古学、1847師を継嗣；荏門の学頭、歌文、「螢園集」、1835足立稲直いなお「紫式部日記解」改訂(師と)、1841「山分衣」/42「高原日記」/53「荏野翁えなおい越路日記」著、三保子(大池敏国妻/歌人)の父、
[弘泰(；名)の通称/号]通称；十郎右衛門/泰太郎、号；螢園/花里翁/鯉斎、諡号；花畑桜愛彦
- H3758 **広居**(ひろやす・清水しみず、通称；河村屋嘉兵衛)?-? 江後期京の国学者；1793本居宣長門、「人訓伝」「神代巻」「自家祭喪記」著
- K3712 **弘泰**(ひろやす・高橋たかはし、通称；渡)1820-68⁴⁹ 近江甲賀郡信楽代官多羅尾家の家臣、国学；本居内遠・佐々木弘綱門
広保(ひろやす・桂) → 南野(なんや・桂かつら、藩士/儒者) 3 2 4 1
広居(ひろやす・幸山) → 長遠(ながとお・幸山こうやま、医者/歌人) K 3 2 8 7
弘保(ひろやす；名) → 教仁法親王(きょうにんほつしんのう、天台座主) O 1 6 4 4
- H3759 **宏行**(ひろゆき・河内/本姓；源、法名；頼行/号；偃月庵)1431-98?^{68?} 戦国期室町幕臣、足利義尚側近、歌人；1471足利義尚催「三十番歌合」参加/82義尚打聞の開闔、出家、「室町殿十番歌合」参加、1484義尚「將軍家歌合」参加(10首)/87義尚陣中歌会参加、古典研究；宗祇門、
[久方のあまの戸あけてよもにけさ春べしらする霞立つみゆ](義尚歌合；十番左19)
- H3760 **広之**(ひろゆき・久世くげ/本姓；源、広宣男)1609-79⁷¹ 母；今川家臣奥原経重女、徳川秀忠・家光家臣、家綱家臣、書院番/御徒頭/小姓組番頭、1663老中/69初代下総関宿藩主；大和守/従四下侍従、「武家諸法度之奥書」「胡飲酒舞案譜」「鑑秘書」「広之公様御物語」著
[広之(；名)の通称/法号]通称；三之丞、法号；自証院
- I3718 **広之**(ひろゆき、吉井よい) ? - ? 江前期；上州吉井?の俳人、1673西鶴「生玉万句」第三桜百韻脇句/第四卯花発句等入、
[生玉の卯の花くたし湯立て哉](生玉万句；卯花発句/卯花くたし；四月頃の霖雨、湯立てで；神事にたぎった湯を笹で四方にふりまき清める；ここは夕立に見立る)
- H3761 **祐之**(ひろゆき・村上むらかみ、号；貢免庵)?-? 江中期長岡郡土佐御免の文筆家、1762「見憎草」
- H3762 **祐之**(ひろゆき・安井やすい、字；兆受?/号；有隣庵?)?-? 江中期近江日野の和算家；田中由眞門、のち田中子瓊(大観)門・中根彦楯門、1728「青木氏算法」編、「算法私考」、「大観先生算法」校訂
- H3763 **広行**(ひろゆき・住吉すみよし、板谷慶舟男)1755-1811⁵⁷ 住吉広守の養嗣子、幕府絵師；広守門、1792幕命で京・奈良の寺社宝物を柴野栗山と調査；「寺社宝物展覧目録」編、内裏造営に際し紫宸殿の聖賢障子等を描く、「源氏物語絵巻」を藤原隆能筆の説を立てた、
[広行(；名)の通称/号]通称；新之丞/内記、号；景金園、法号；隆善院、広尚・弘貫ひろらの父
- H3764 **恕行**(ひろゆき・松原まつばら、藩医周次男)1760-1841⁸² 母；中村長興女、阿波徳島藩医/1785御用見習、1791藩医師10石/95加増；150石、1813事に連座；医師罷免/26医師学問所肝煎に復職/33致仕、歌人；「松原恕行歌集」、1811梁田氏女「をたまき集」筆録、
[恕行(；名)の幼名/字/号]幼名；秀丸、字；共輔、隠居号；恕心
- J3701 **広運**(ひろゆき・柿沼かきぬま、通称；仰古軒)1760-1840⁸¹ 下野都賀郡の神職/国学；小沢蘆庵門、広身ひろみ(神職/国学)の祖父
- H3765 **祐之**(ひろゆき・大野おの) ? - ? 江後期播磨下野村の和算家；京の有松正信門、「周易象筮」著、
[祐之(；名)の字/通称/号]字；子佑、通称；祐左衛門、号；安斎
- K3765 **寛至**(ひろゆき・浜中まなな)1788?-1868?⁸⁰ 筑前の商家/国学者・歌人；伊藤常足門、

- [寛至(；名)の通称/号]通称；勘右衛門/勘一郎、号；白日園花濤、屋号；米屋
- D3751 **弘之**(ひろゆき・加藤かとう、正照男) 1836-1916 81 母；山田錫子、但馬出石城下谷山町の学者、藩校弘道館出身/江戸で甲州流兵学修得/蘭学；佐久間象山・大木仲益門/法学・哲学に傾倒、ドイツ学の先駆者、1864幕臣/明治政府の政体律令取調御用掛/大学大丞、1861「鄰草」67「各国盛衰強弱一覧表附図」訳、「立憲政体略」著、
[弘之(；名)の別名/幼名/通称]幼名；土代士、初名；成之/誠之、通称；弘蔵
- M3703 **広運**(ひろゆき・新井あらい、通称；淳一郎/小八郎、茂十郎2男) 1847-90 44 播磨姫路藩士/国学者、歌人、維新後；銀行員/1883(明治16)国風研究会を創設、「響洋拾玉」編刊
- 弘之(ひろゆき・山本) → 山の八(やまのやつ、書肆/浮世草子作者) E 4 5 2 2
弘之(ひろゆき・富士谷) → 成基(なりもと・富士谷ふじたに、医者) I 3 2 3 4
弘之(ひろゆき・森もり) → 枳園(きえん・森、医者/国学) F 1 6 0 3
弘之(ひろゆき・賀来) → 飛霞(ひか・賀来かく、医者/本草家) 3 7 4 0
弘之(ひろゆき・神谷) → 潤亭(じゅんてい・神谷かみや、医/音曲家) L 2 1 5 2
広行(ひろゆき・中島) → 貴恒(たかつね・中島/植木、国学/歌人) M 2 6 3 1
広之(ひろゆき・平沢) → 隨庵(ずいあん・平沢ひらさわ、卜占家) F 2 3 1 5
広之(ひろゆき・村上) → 代三郎(たいざぶろう・村上、蘭医) K 2 6 0 1
祐之(ひろゆき・松崎) → 蘭谷(らんこく・松崎まつさき、藩士/儒者) C 4 8 0 8
- H3767 **広世**(ひろよ・高円たかまど、初姓；石川朝臣、文武天皇皇子?)?-? 母；石川刀自娘?、石川広成の弟?、広成は760高円朝臣賜姓、奈良後期廷臣；770正五位；尾張・山背・播磨・周防・伊予守等歴任、歌；玉葉515(高円広世名；この歌は広成の万葉歌/広成は万葉に3首696/1600-1入)、広成と同一説あり→広成(ひろなり・石川/高円朝臣、万葉歌人) G 3 7 6 5
- H3768 **広世**(ひろよ・和気わけ、清麻呂男)?-? 備前の漢学者；大学寮入；文章生、官人、眞綱・仲世の兄、785事に連座し免官/802恩赦で復官；上表文提出/806正五下、阿波守・大学頭・美作守、式部大輔/左中弁、父の志を継承し大学南辺の私邸に弘文院創設；後学者の便宜、弟たちと神護寺を創建；最澄・空海を招聘、803「延暦交替式」、「菓經太素」著、詩；経国集入、
- G3726 **弘代**(ひろよ) ? - ? 連歌；1445大山祇神社法楽連歌；百韻・千句連中
- H3769 **広世**(ひろよ・細川ほそかわ、文成[文安]男) 1839-87 49 土佐高岡郡佐川の医者；父門/野町養満門、維新後新政府に出仕；医学校・大学校助教/元老院少書記、1850頃「細川広世雑記」、1867-68「細川広世跨関日記」、「明治政覧」、「日本帝国形勢総覧」著、
[広世(；名)の通称/号]通称；養磧、号；清洲、風谷(源太郎、講釈師)の父
- H3770 **広能**(ひろよし・大橋おほし/旧姓；高井たかい)?-? 江中期宝暦-天明1751-89頃京の神道家；大橋広道門、1785「愚吟集」、「大橋家神祇極秘条々」「大橋家神祇道秘式」「古語拾遺」「神階記」外著多数、
[広能(；名)の別名/通称/号]別名；可行/方嘉/広治/広典/広通、通称；内記、号；言々齋
- K3781 **寛美**(ひろよし・深谷ふかたに、通称；一九郎)?-1814 京の官吏；三条屋敷西組の与力、歌人、妻；寛子(飛呂子ひろこ/恵吟/小沢蘆庵門歌人)
- H3771 **広好**(ひろよし・浅裏庵あさうらあん、名；宣固)?-? 武蔵忍藩士/江戸下谷藩邸に住、狂歌；壺側の判者、1854「俳諧歌五十人一首初編」編、
[浅裏庵広好(；号)の通称/別号]通称；川佐運平かわさうんべい、別号；袂広好/水穂の屋
- H3772 **広休**(ひろよし・西村にしむら、広寧男) 1816-89 74 伊勢相可村の呉服・両替商(富商)の生、1830上京；本草学；山本亡羊門、小野蘭山「本草記聞」を基本に研究、国学；荒木田久守門、「西村寒泉採薬記」「和泉書上」「歴木園草木記」、1859「小品考」著、
[広休(；名)の幼名/通称/号]幼名；秀三郎、通称；三郎右衛門、号；寒泉/謙斎/歴木園/双松園、屋号；大和屋、法号；理智法性院
- M3710 **弘佳**(ひろよし・矢田部やたべ、弘岡男) 1825-1909 85 紀伊海部郡の国学者；本居内遠・加納諸平門、国学；本居豊穎門、紀州藩国学助教、のち矢宮のみや神社祠官、弘典(1852-1943)の父、
[弘佳(；名)の通称/号]通称；彦次郎/彦光/内匠、号；後賢木屋のちのさかきや
- 広喜(ひろよし・目々沢) → 樗軒(ちよけん・目々沢めめざわ、漢学者) K 2 8 3 5
広義(ひろよし・佐藤) → 周軒(しゅうけん・佐藤、藩家老/学事振興) H 2 1 2 5
広義(ひろよし・室) → 直夫(すけお・室むろ、藩士/国学者) J 2 3 3 0
広敬(ひろよし・津田/長沼) → 宗敬(むねよし・長沼/津田、兵学者) C 4 2 8 5

- 広善(ひろよし・坂倉) → 茂樹(しげき・坂倉さかくら、神職/国学) Q 2 1 8 7
 寛義親王(ひろよしんのう) → 公啓親王(こうけいしんのう、天台僧) I 1 9 4 6
- H3773 広頼(ひろより・菌その/本姓;太秦、若狭守菌広遠男)1584-1672⁸⁹ 江戸の楽人;若狭守/1664正四上、
 「十操記拝註」著
- H3774 熙頼(ひろより・毛利もうり、親頼男)1803-71⁶⁹ 萩藩士;1835家督;1843羽賀台大習練惣奉行、
 1855相模御請場総奉行/64上関及大嶋郡防禦総奉行、「幸姫様御紐落一件記録」著、
 [熙頼(;名)の幼名/通称/号]幼名;熊太郎、通称;隠岐、号;鶴翁
- 枇杷庵(びわあん) → 良隠(りょういん;法諱、曹洞僧/篆刻) G 4 9 2 5
 比隈満(ひわいまん・松平/杉浦) → 比隈満(ひくまろ・杉浦、神職/国学) 3 7 4 9
 枇杷園(びわえん) → 士朗(しろう・井上、医/国学/俳人) 2 2 1 6
 琵琶園(びわえん) → 邦直(くになお・枝窪えだくぼ、神職/国学) D 1 7 9 9
 琵琶翁(びわおう) → 湖静(こせい・便々館べんべんかん、狂歌) D 1 9 2 7
 枇杷壺(びわこ・伴) → 仙路(せんろ・伴、藩士/俳人) N 2 4 3 9
- 3730 枇杷皇太后宮(びわこうたいごうぐう・藤原妍子けんし、藤原道長女)994-1027³⁴ 三条天皇皇后、
 母;源雅信女倫子、彰子の妹、入内;1004尚侍/1010東宮居貞親王(三条天皇)の妃、
 1011女御/12中宮/18皇太后、陽明門院禎子の母、頼通・頼宗・能信・教通・長家・彰子の姉妹、
 通称;枇杷殿皇后宮(藤原仲平邸[枇杷殿]を道長が継承)、
 歌人;続詞花(新古今868と同歌)・万代・秋風集入、
 勅撰8首;新古(868/1714)続後撰(428)続古今(146/561)新千載(2279/2320)新後拾(203)、
 [すゞしさはいきの松原まさるともそふる扇あぶぎの風な忘れそ](新古今;離別868)、
 (詞書;大宰帥隆家下りけるに扇賜ふとて/生きと行き松と待つを連想)
 女房歌人に五節・少将・少将など
- 枇杷皇太后宮五節(びわこうたいごうぐうのごせち) → 五節(ごせち・枇杷皇太后宮) D 1 9 0 9
 枇杷皇太后宮少将(びわこうたいごうぐうのしょうしょう) → 少将(しょうしょう・枇杷皇太后宮) N 2 1 6 7
 枇杷皇太后宮御匣(びわこうたいごうぐうのみくしげ) → 御匣(みくしげ・土御門つちみかど) 4 1 7 5
 枇杷山人(びわさんじん) → 杷山(はざん・口羽くちば/大江、藩士/儒) E 3 6 3 4
 琵琶洞(びわどう) → 業智(なりさと・中山なかやま、幕臣/平曲) H 3 2 3 5
 枇杷殿皇后宮(びわどのこうたいごうぐう) → 枇杷皇太后宮(びわこうたいごうぐう、藤原妍子けんし) 3 7 3 0
 枇杷殿皇太后宮五節(びわどのこうたいごうぐうのごせち) → 五節(ごせち・枇杷殿皇太后宮) D 1 9 0 9
 枇杷左大臣(びわのさだいじん) → 仲平(なかひら・藤原、廷臣/歌人) F 3 2 5 0
 枇杷大納言(びわのだいなごん) → 師氏(もろうじ・藤原、廷臣/歌人) 4 4 3 1
 枇杷中大納言(びわのちゅうなごん) → 敦忠(あつただ・藤原、廷臣/歌人) 1 0 2 1
- 3731 琵琶彦(びわひこ・便々館べんべんかん、姓;加藤/)1815-54⁴⁰ 尾張名古屋古渡町小間物行商;升屋、
 国学;尾張藩士の市岡和雄にぎお門、歌;千種有功ありこと門、
 狂歌;滝廼屋弘器門/便々館琵琶磨門;便々館を嗣ぐ、1850「狂歌初学抄」編、
 1850「新続六々狂謔仙」編/53「裂帛一声」撰(森高雅画)/64「狂歌忠臣蔵」編、「錦の簾」著、
 [便々館琵琶彦(;号)の名/字/通称/別号]名;保右やすすけ、字;申甫、
 通称;升屋理吉(利吉)、別号;滝廼屋/便雲居/石榴園
- 3732 枇杷磨(枇杷丸びわまる・青山堂せいざんどう、2世雁金屋儀助男)1773-1838⁶⁶ 江戸小石川伝通院前書肆、
 青山文庫を設置;所蔵の珍書類を展示、狂歌;五側に属す、大田南畝と親交、
 「枇杷丸一夜ねす百首」「風流水揚帳」著、
 [青山堂枇杷磨(;号)の字/通称/別号]字;吉備、通称;青山清吉(初世)/三郎治、
 別号;関東平々山人、屋号;雁金屋かりがねや(3世)、法号;青山平々居士
- 3733 琵琶磨(びわまる・便々館べんべんかん、姓;阿久沢)?-1844 幕臣;広敷番/与力?/狂歌;便々館湖鯉鮎門、
 判者/便々館継嗣、1821「狂歌新撰東西集」27「狂歌豊竹集」28「狂歌四季訓蒙図彙」編、
 1830「狂歌新杓子栗」31「狂歌詞廼玉水」36「狂歌よそひ集」編、「狂歌花翼集」「千鑑画像集」編、
 [便々館琵琶磨(;号)の通称/別号]通称;弥市、別号;八景園/榎樹園/濤園、法号;便寿院
- 彬(ひん・後藤) → 松蔭(しょうか・後藤どう、儒者/詩人) H 2 2 5 0
 斌(ひん・斎藤) → 彝斎(いさい・斎藤さいとう、藩士/儒者) F 1 1 4 5
 斌(ひん・祇園) → 南海(なんかい・祇園/祇/阮、儒/詩/画) 3 2 3 0

斌(彬ひん・宮原) → 竜山(りゅうざん・宮原みやはら、藩儒) E 4 9 1 9
 牝(ひん・谷田部) → 東壑(とうがく・谷田部やたべ、儒者) C 3 1 1 8
 蕨(ひん・齋藤) → 蕨(しげる・齋藤さいとう、国学者) O 2 1 6 0
 賓(ひん・菱川) → 秦嶺(しんれい・菱川/菱、儒者/藩儒) 2 2 9 4

H3775 敏(びん・松平まつだいら、長沢惟政男) 1744-90 47 丹波亀山藩士松平格房の養嗣子; 亀山藩士、
 1760(17歳)で藩政参加; 家老に昇格/定信の助言を得て財政改革の途次病没、
 詩人:「東谿詩集」著

[敏(;名)の字/通称/号]字; 子求、通称; 新祐しんすけ/新助、号; 東溪/東谿

敏(びん・田淵/小篠) → 敏(御野みね・小篠/小篠/篠/田淵、藩士/儒・国学) F 4 1 4 2
 敏(びん・小田切) → 藤軒(とうけん・小田切おだぎり、藩士/儒者) D 3 1 3 4
 敏(びん・高橋/近藤) → 篤山(とくざん・近藤、儒者) K 3 1 7 7
 敏(びん・田中) → 訥言(とつげん・田中、絵師/狂歌) O 3 1 4 6
 敏(びん・江間/宮田) → 円陵(えんりょう・宮田、儒者) F 1 3 5 0
 敏(びん・津田) → 桜崖(おうがい・津田つた、国学者) C 1 4 3 4
 敏(びん・円山/丸山) → 学古(がくこ・円山/丸山まるやま、医/儒者) J 1 5 7 7
 敏(びん・後藤) → 慕庵(ぼあん・後藤ごとう、医者) 3 9 0 6
 敏(びん・田村) → 看山(かんざん・田村たむら、藩士/儒者) Q 1 5 8 3
 敏(びん・田でん/佐藤) → 毅山(こくざん・小田、漢学/歌謡) F 1 9 5 5
 敏(びん・松岡) → 毅軒(きけん・松岡まつおか、藩士/儒者) I 1 6 6 1
 敏(びん・木村) → 愚山(ぐざん・木村きむら、藩士/儒者) C 1 7 0 5
 敏(びん・松田) → 秋池(しゅうち・松田まつた、儒者/詩) Y 2 1 0 0
 敏(びん・勝屋) → 積(せき・勝屋しょうや/静間、国学者) O 2 4 1 9
 敏(びん・高橋) → 敏(さとし・高橋たかはし、村長/教育者) Q 2 0 8 7
 敏(びん・塚村) → 敏(さとし・塚村つかむら/暘谷/加藤、絵師) Q 2 0 9 7
 恣(びん・林) → 確軒(かくけん・林はやし、幕臣/儒者) E 1 5 6 6
 恣(びん・八谷/内藤) → 万里助(まりのすけ・内藤/八谷、藩士/日記) K 4 0 2 0
 恣(びん・大庭) → 雪斎(せつさい・大庭おおば、蘭学者/翻訳) L 2 4 0 1
 豸庵(ひんあん; 号、臨濟僧) → 龍派(りゅうは; 法諱・江西こうせい/こうぜい) 4 9 1 2
 敏尹(びんいん/としこれ・木地屋) → 風律(ふうりつ・木地屋きぢや、商家/俳人) B 3 8 0 9
 賓宇(ひんう・前田) → 玄通(げんつう・前田まえだ、医者) L 1 8 4 6
 珉恵(びんえ) → 珉恵(みんえ、曹洞僧) G 4 1 7 6
 賓王(ひんおう・上条) → 柳廬(りゅうろ・上条かみじょう/横井、官吏/儒者) F 4 9 0 8
 敏屋(びんおく・武藤) → 致和(むねかず・武藤/藤原、商家/国学) B 4 2 1 8
 敏屋(びんおく・武藤) → 平道(ひらみち・武藤、致和男/国学) F 3 7 4 1
 岷岳(びんがく・橋本) → 慎三(しんぞう・大橋おおはし/橋本、土佐勤王党) P 2 2 2 8
 敏貫(びんかん・河村) → 敏貫(としつら・河村かわむら、歌人) U 3 1 8 9
 牝牛(ひんぎゅう・加倉井) → 松山(しょうざん・加倉井かくらい、医/儒者) S 2 2 5 2
 敏久(びんきゅう・興原) → 敏久(みにく・興原おきはら/物部、廷臣) H 4 1 3 6
 浜頬(ひんきょう・寺町) → 百庵(ひやくあん・寺町/越智、幕臣/茶/歌) E 3 7 4 3
 敏堯(びんぎょう・矢島) → 敏堯(としたか・矢島やじま、和算/国学) W 3 1 7 6
 斌卿(ひんけい; 字・藤田) → 東湖(とうこ・藤田、儒者/藩士/尊攘論) 3 1 0 8
 斌卿(ひんけい・莊/大河内) → 恬逸(てんいつ・莊しょう/大河内/藤原、幕臣儒官) D 3 0 1 3
 彬卿(ひんけい・上村) → 鷺洲(ろしゅう・上村うえむら、儒者/詩文) B 5 2 7 3
 敏卿(びんけい・今井) → 松庵(しょうあん・今井/井、医者/漢学) G 2 2 6 2
 敏卿(びんけい・大塚) → 嘉樹(よしき・大塚おおつか/蒼梧、故実家) D 4 7 0 3
 品彦(ひんげん・檜垣/松木) → 品彦(ただひこ・松木/度会、神職) Q 2 6 5 5
 斌彦(ひんげん・佐藤) → 斌彦(あきひこ・佐藤まさとう/飯塚、里正/国学) H 1 0 6 5
 敏言(びんげん・小島) → 敏言(としこ・小島こじま/村松、藩士/国学;) V 3 1 1 5
 備後(びんご・児島) → 長年(ながとし・児島こじま、篆刻/日記) 3 2 1 3
 備後(びんご・榎/竹内) → 享寿(きょうじゅ・竹内たけうち、法眼/歌人) C 1 6 5 7

- 備後(びんご・甘粕) → 継成(つぐしげ・甘粕/甘糟、藩士/史家) 2 9 7 1
 備後(びんご・浦) → 元襄(もとまさ・浦うら/国司、家老/日記) E 4 4 3 2
 備後(びんご・小原) → 実風(さねかぜ・小原/物部、神職/国学) K 2 0 8 0
 備後(びんご・広田) → 正方(まさかた・広田ひろた/度会/有江、神職/国学) S 4 0 1 9
 備後(びんご・賀茂) → 水穂(みずほ・賀茂かも、勤皇/軍人/神職) I 4 1 6 7
 岷江(びんこう・橘) → 岷江(みんこう・橘、浮世絵師) G 4 1 8 0
 敏行(びんこう) すべて → 敏行(としゆき)
 備後守(びんごのかみ・佐々木) → 長秀(ながひで・佐々木/吉田、天文) F 3 2 4 9
 備後守(びんごのかみ・千々和) → 直賢(なおかた・千々和ちぢわ、神職/国学) N 3 2 8 4
 備後守(びんごのかみ・夏目) → 信明(のぶあき・夏目なつめ、幕府/歌) G 3 5 6 6
 備後守(びんごのかみ・中山) → 信守(のぶもり・中山なかやま/松平、家老) G 3 5 6 9
 備後守(びんごのかみ・山本) → 兼尚(かねひさ・山本やまと/賀茂、諸大夫/和学) W 1 5 1 2
 備後守(びんごのかみ・稲葉) → 正善(まさよし・稲葉いなば/大岡、藩主) N 4 0 7 4
 備後介(びんごのすけ・内藤) → 高教(たかのり・内藤ないとう/藤原、神職/国学) Y 2 6 4 5
 備後助(びんごのすけ・安田/山県) → 璣(たまき・山県、儒者) S 2 6 2 3
 備後僧都(びんごのそうず) → 公賢(こうけん・こうげん; 法諱、真言僧) I 1 9 5 1
 備後法印(びんごのほういん) → 源暹(げんせん; 法諱、真言僧) K 1 8 5 7
 3735 彬齋(ひんさい・市川いちかわ、名; 水保) ?-? 自殺 幕末期土佐の儒者; 藩校致道館教授補導、
 和漢学に通じ詩・書を嗜む、晩年は鬱病になり自殺、「彬齋日記」「壬戌季夏以後彬齋日記」著、
 [彬齋(;)号)の字/通称]字; 子文、通称; 庫次
 彬齋(斌齋ひんさい・樋口) → 武(たけし・樋口、藩士/儒者/砲術) O 2 6 3 9
 贖齋(ひんさい・木村) → 弦雄(つるお・木村きむら、藩士/国学者) F 2 9 6 0
 H3782 敏齋(びんさい: 号・鄭てい、名; 昌延、通称; 大助/来助/幹輔かんほ、邦宗男) 1811-6050 長崎唐通事;
 漢籍唐話; 周竹溪門/昌平覺4年修学/1845-54(嘉永)頃唐通事への満州語教育尽力、
 1857大通事、58英語必要性の建白、「翻訳満語纂論」「御製増訂清文鑑和解」著
 閑齋(びんさい; 号) → 大巖(だいごん; 法諱・僧具; 字、真宗僧) J 2 6 9 9
 敏齋(びんさい・市川) → 松筠(しょういん・市川、兵学者) G 2 2 8 4
 敏齋(びんさい・宮野) → 尹賢(いんけん・宮野みやの、農業/儒/教育) I 1 1 5 0
 L3778 浜山(ひんざん) ? - ? 江後期; 歌人、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [笈士の棹さす袖も匂ふまで梅咲きつづくはるの河づら](大江戸倭歌; 春132)
 品山(ひんざん・岩井) → 雅重(まさしげ・岩井いわい、和算家/教育) C 4 0 7 9
 3734 岷山(びんざん/みんざん・中江なかえ、名; 一貫、景次男) 1655-172672 伊賀柘植の豪族の生/儒: 伊藤仁斎門、
 宝永1704-11頃大阪で開塾/講説業、古学を主唱、1709「理気弁論」、「四書弁論」「疑叢弁」著、
 [岷山(;)号)の字/別号]字; 平八、別号; 快安
 彬之(ひんし・海野) → 紫瀾(しらん・海野うんの、藩士/儒者) M 2 2 9 5
 浜子(ひんし・加藤) → 浜子(はまこ・加藤かとう、歌人/甲次郎一周の母) J 3 6 5 3
 3736 備四軒(びんしけん、浪花外山翁男: 仮託) ?-? 大阪の洒落本作者; 備後町四丁目住か;
 [残念関子齋びんしけん]を振った洒落、1773「浪花今八卦なにわいまはつけ」著(合中堂刊)
 昌質(ひんしつ・上村) → 鷺洲(ろしゅう・上村うえむら、儒者/詩文) B 5 2 7 3
 敏樹(びんじゅ・荒尾) → 敏樹(としき・荒尾あらお、幕臣; 鉄砲奉行) U 3 1 0 0
 敏樹(びんじゅ・安宅) → 敏樹(としき・安宅あたか、歌人) T 3 1 8 6
 敏樹(びんじゅ・水野) → 敏樹(としき・水野みずの、藩士/歌人) W 3 1 5 8
 蘋洲(ひんしゅう・西山) → 西山(せいざん・西山/西/阿比留、儒者) B 2 4 7 4
 敏昌(びんしょう・永田/森島) → 敏昌(としまさ・永田/森島、和算家) N 3 1 7 2
 閑慎(敏慎びんしん・高橋) → 華陽(かよう・高橋たかはし/修姓高、儒者) H 1 5 5 3
 敏親(びんしん・伊達) → 敏親(としちか・伊達だて、領主/詩歌人) M 3 1 8 2
 敏慎齋(びんしんさい) → 順庵(じゅんあん・木下/平、幕府儒官/教育) 2 1 5 4
 品嵩(ひんすう・大谷) → 品嵩(かずたか・大谷おおたに、国学・歌人) T 1 5 9 1
 敏成(びんせい・吉田) → 敏成(年成としなり・吉田、国学者/歌) N 3 1 2 6

- 敏政(びんせい・上代) → 敏政(としまさ・上代かみしろ、歌人) U 3 1 8 1
 岷雪(びんせつ・河村) → 岷雪(みんせつ・河村、絵師) G 4 1 8 3
 敏足(びんそく・松田) → 敏足(としたる/としたり・松田、藩士/国学) M 3 1 8 1
 敏則(びんそく・川喜田) → 敏則(としのり・川喜田かわきた/大森、商家/国学) U 3 1 8 3
 敏知(びんち・坂野) → 敏知(としとも・坂野さかの、商家/歌人) V 3 1 3 3
 牝冲巢(ひんちゅうそう) → 米仲(べいちゅう・岡田、俳人) G 4 1 8 3
 浜釣散人(ひんちようさんじん) → 釣浜(ちようひん・舟生ふなう/ふにゅう、儒者) J 2 8 7 2
 浜町亭(ひんちやうてい) → 振鷺亭(しんろてい・猪狩いかり、戯作者) 2 2 3 2
 敏通(びんつう・久我) → 敏通(俊通としみち・久我こが、大納言/国学) V 3 1 1 4
 3738 蘋亭(ひんてい・宇佐美うさみ、名; 充) 1781-1826 46 常陸水戸藩士/儒者; 彰考館に修学、
 「蓬蒿園詩集」「宇佐美蘋亭詩集」、1824頃刊「蘋亭先生詩稿」著、
 [蘋亭(;号)の字/通称/別号]字; 公実、通称; 久五郎、別号; 蓬蒿園ほうこうえん
 貧道(ひんどう) → 教長(のりなが・藤原、歌人) 3 5 2 1
 H3784 品動堂馬乗(ひんどうどうばじよう) ?- ? 洒落本; 1756? 「肉道秘鍵」著
 瀕伴鷗(ひんぼんおう) → 伴鷗(ぼんおう・橋本、商家/詩歌/俳) H 3 6 3 1
 品美(ひんび・林) → 品美(ただよし・林はやし、藩士/儒者) R 2 6 3 6
 彬々斎(ひんひんさい) → 応文(おうぶん・国井くに、絵師) B 1 4 7 6
 珉文(びんぶん・萩野/孔平) → 復堂(ふくどう・萩野はぎの、藩士/医/儒) B 3 8 5 9
 敏平(びんべい・矢島) → 敏平(としひら・矢島やじま、和算/国学者) W 3 1 7 7
 敏包(びんほう/としかね・多田) → 園村竹(そののむらたけ、尾張屋千次郎、狂歌) E 2 5 1 7
 敏祐(びんゆう・黒山) → 敏祐(としすけ・黒山くろやま/物部、神職) V 3 1 1 2
 岷峽(びんらい・山崎、岷峽山) → 如山(じよざん・山崎やまさき、藩士/詩人) M 2 2 3 9
 貧楽(ひんらく・備中) → 備中貧楽(びちちゅうのひんらく・狂詩) C 3 7 7 2
 貧楽斎(ひんらくさい) → 賢江(けんこう; 道号・祥啓、絵師/臨濟僧) I 1 8 6 3
 斌楽斎(ひんらくさい) → 眞守(まもり・後藤/枚岡、国学者/神職) K 4 0 1 3
 H3790 貧楽亭(ひんらくてい) ?- ? 江戸の狂歌作者; 1787「才蔵集」入;
 [山伏が護摩ならなくに黒烟そこたちされと扇ぐ蚊遣火]
 H3785 珉里(びんり、伊勢屋宗三郎) ?- ? 1772-89頃江戸札差、三升屋二三治[1784-1856]の父、
 二三治「十八大通」入
 敏鎌(びんれん・北原) → 敏鎌(とがま・北原、国学者) I 3 1 8 4
 敏鎌(びんれん・梅本) → 敏鎌(とがま・梅本うめもと/岡田、売薬/歌) U 3 1 3 6
 珉和(びんわ・合川陳) → 珉和(みんわ・合川あいかわ、絵師) H 4 1 2 6